

茨城県常陸大宮市

たかのくら  
高ノ倉遺跡  
発掘調査報告書

平成17年3月  
社会福祉法人 若葉会  
常陸大宮市教育委員会

茨城県常陸大宮市

たか の くら  
**高ノ倉遺跡**  
**発掘調査報告書**

平成17年3月  
社会福祉法人 若葉会  
常陸大宮市教育委員会

## ごあいさつ

常陸大宮市大宮地域は茨城県の北部に位置し、久慈川と那珂川に挟まれ、全体的に北部が高く、南部が低い傾斜をした丘陵地を形成しております。この二大河川の沿岸には、肥沃な土地が開け、豊かな自然に恵まれ古くから人々の生活の場となり、多くの歴史を重ねております。そのためこの地域には、古墳・塚・集落跡など数多くの遺跡が存在しております。これらの遺跡は当時の様子を知る手がかりとなることはもちろんのこと、現代の私たちが豊かに生活をすることができる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化遺産を後世に伝えることは、私たちの大切な任務であり、郷土の発展のためにも貴重なことと考えております。

このたびの調査は養護老人ホーム晏如荘建て替え工事に伴い、周知の遺跡である高ノ倉遺跡の発掘調査による記録保存を行ったものであります。遺跡内からは縄文時代中期の土坑、柱穴状構造、土器、石器等が多数検出されました。この調査報告によって、地域の祖先の遺業をしのぶことができるとともに、文化財に対する認識がいっそう深まり、遺跡愛護の精神や郷土の文化を培う上で貴重な資料として役立てていただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査にあたり格別のご指導を賜りました茨城県埋蔵文化財指導員川崎純徳先生、そしてご協力いただきました地元の関係者、また、調査経費についてご協力いただいた社会福祉法人若葉会理事長茂垣裕様各位に心から厚く感謝を申し上げます。

平成17年3月

茨城県常陸大宮市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、老人ホーム建設に伴い、有限会社日考研茨城により行われた発掘調査報告書である。
2. 本書は、下記の遺跡を収録したものである。  
　　本調査 高ノ倉遺跡（たかのくら） 常陸大宮市小野字南高倉2167他に所在する。
3. (有) 日考研茨城が社会福祉法人若葉会からの委託を受けて、茨城県教育委員会および常陸大宮市教育委員会の指導のもとに発掘調査を下記の期間に実施した。  
　　発掘調査 第1次調査 平成16年3月17日～平成16年4月15日  
　　　　　　　第2次調査 平成16年6月28日～平成16年8月7日
4. 発掘調査組織は下記の通りである。  
　　調査担当者 大沢淳志 日本考古学協会員 (有) 日考研茨城  
　　調査員 遠藤啓子 (有) 日考研茨城  
　　調査員 大沢由紀子 (有) 日考研茨城  
　　事務局 常陸大宮市教育委員会生涯学習課  
整理作業は、常陸大宮市教育委員会の指導のもとに、小川和博・大沢淳志・遠藤啓子・大沢由紀子・大久保敦子・中野富美子・大野美佳（以上(有) 日考研茨城）が行った。
5. 本書の編集は、小川和博（日本考古学協会員 (有) 日考研茨城）が行った。
6. 本書の執筆は、小川和博・大沢淳志のほか、執筆はそれぞれ文末に記載した。
7. 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
8. 本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修2000年版）に従った。
9. 遺構および遺物の写真撮影は大沢淳志・小川和博が行った。
10. 記録および出土遺物は、常陸大宮市教育委員会が保管している。
11. 発掘調査および報告書の作成に当たり、以下の方々のご教示・ご高配を賜った。記して、深く謝意を表す次第です。（敬称略・順不同）  
　　茨城県教育委員会、(財) 茨城県教育財団、常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館、ひたちなか市埋蔵文化財センター、土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場、日本窯業史研究所、川崎純徳、阿久津久、佐藤政則、瓦吹堅、市毛美津子、川井正一、齊藤弘道、鶴田篤二、片平雅俊、鈴木素行、石川功、黒澤春彦、関口満、比毛君男、齋田義弘、川村満博、戸村勝司朗、荒井世志紀、鬼沢昭夫
12. 各調査には以下の者が参加した。  
　　井澤良忠、井澤しつい、宇留野まつえ、海老原龍生、大堀隆昭、小野豊、川崎東功、川澄守、菊池等、五町文雄、佐藤富夫、佐藤實、佐藤豊、永山うめ子
13. 遺構の略称に使用した記号は以下の通りである。  
　　縦穴住居跡：S I　土坑：SK　擾乱：K

## 本文目次

序文	
例言	
第Ⅰ章　序章	1
第1節　調査に至る経緯	1
第2節　調査の概要	1
第3節　調査日誌	2
第4節　遺跡の位置と環境	3
第Ⅱ章　検出された造構と遺物	7
第1節　概要	7
第2節　造構	7
1)　縄文時代の土坑	7
2)　平安時代の住居跡	68
第3節　遺物	68
1)　縄文時代の遺物	68
2)　平安時代の遺物	162
第Ⅲ章　まとめ	167

## 挿図目次

- Fig.1 高ノ倉遺跡と周辺の遺跡  
Fig.2 高ノ倉遺跡と周辺の地形  
Fig.3 高ノ倉遺跡発掘区  
Fig.4 高ノ倉跡遺構配置図  
Fig.5 土坑SK01,02,03,04,05,06,07  
Fig.6 土坑SK01,02,05,06,07,08,09,10,35,87  
Fig.7 上坑SK11,16,17,18,19,20,79  
Fig.8 土坑SK12,13,14,15,22,34  
Fig.9 土坑SK21,23,24,25A,25B,26,28,32,33  
Fig.10 土坑SK24,25A,25B,27,28,29,30,31  
Fig.11 土坑SK36,37,40,41,220  
Fig.12 土坑SK38,39,42,43,216  
Fig.13 土坑SK44,45,46,50  
Fig.14 土坑SK47,48,49,51,52  
Fig.15 土坑SK53,54,55,57,58  
Fig.16 上坑SK56,59,60,61,62,63  
Fig.17 土坑SK64,65,66,67,68  
Fig.18 土坑SK69,70,71,72,73,74  
Fig.19 土坑SK75,76,77,78,80,81,83  
Fig.20 土坑SK82,84,85,86,88,126,137,139,  
140,142,143,151  
Fig.21 土坑SK88,90,126,137,139,140,142,  
143,151  
Fig.22 土坑SK91,92,93,94,95,96  
Fig.23 土坑SK97,98,99,100,108,109  
Fig.24 土坑SK101,102,103,104,105,106,107,  
116  
Fig.25 土坑SK101,102,103,104,105,106,110,  
111,116  
Fig.26 土坑SK112,113,114,115,117,118  
Fig.27 土坑SK119,121,122,147,148,149  
Fig.28 土坑SK120,123,124,125,129,133,135  
Fig.29 土坑SK125,127,128,130,131,133,135  
Fig.30 土坑SK132,134,136,138,141,144  
Fig.31 土坑SK145,146,150,152  
Fig.32 土坑SK153,154,155,156,157  
Fig.33 土坑SK158,159,160,161,162,165,170  
Fig.34 土坑SK163,164,166,168,169  
Fig.35 土坑SK167,171,172,176,177,178,179,  
182,185,215  
Fig.36 土坑SK173,175,176,177,178,179,182,  
185,190  
Fig.37 七坑SK180,181,183,184  
Fig.38 土坑SK186,187,188,192,193,197  
Fig.39 土坑SK189,191,194,207,208  
Fig.40 土坑SK195,202,203,204,205,209  
Fig.41 土坑SK196,198,199,200  
Fig.42 土坑SK201,202,206,211,212,213,222  
Fig.43 土坑SK210,214,217,218,219,223  
Fig.44 土坑SK221,住居跡S01  
Fig.45 十坑SK01,02出土遺物  
Fig.46 上坑SK03,04,08,09,10,11出土遺物  
Fig.47 土坑SK12出土遺物(1)  
Fig.48 土坑SK12(2),13出土遺物  
Fig.49 土坑SK14,15出土遺物  
Fig.50 土坑SK16,17(1)出土遺物  
Fig.51 土坑SK17(2),18,19,20出土遺物  
Fig.52 土坑SK21,22,23,24出土遺物  
Fig.53 土坑SK25,26出土遺物  
Fig.54 土坑SK27,29,30,35,36出土遺物  
Fig.55 土坑SK39,40,41,42,43出土遺物  
Fig.56 土坑SK44,45,46,47,48(1)出土遺物  
Fig.57 土坑SK48(2),49出土遺物  
Fig.58 土坑SK50出土遺物(1)  
Fig.59 土坑SK50出土遺物(2)  
Fig.60 土坑SK51出土遺物  
Fig.61 土坑SK52出土遺物(1)  
Fig.62 上坑SK52出土遺物(2)  
Fig.63 土坑SK53,54,55出土遺物  
Fig.64 土坑SK56出土遺物  
Fig.65 土坑SK57,58(1)出土遺物  
Fig.66 土坑SK58出土遺物(2)  
Fig.67 土坑SK59,60(1)出土遺物  
Fig.68 土坑SK60(2),61(1)出土遺物  
Fig.69 土坑SK61(2),62,63(1)出土遺物  
Fig.70 上坑SK63(2),64(1)出土遺物  
Fig.71 土坑SK64(2),65,66,67,69(1)出土遺物  
Fig.72 土坑SK69(2),70出土遺物  
Fig.73 土坑SK71,72,73,74出土遺物  
Fig.74 土坑SK75,77,78,79,81出土遺物  
Fig.75 土坑SK80,82,83,85出土遺物  
Fig.76 土坑SK84,87,88,89,90,92,94(1)出土遺物  
Fig.77 土坑SK94(2),95,97,98,100(1)出土遺物  
Fig.78 土坑SK100(2),101,102,103出土遺物  
Fig.79 土坑SK104,105,106出土遺物  
Fig.80 土坑SK107,108出土遺物  
Fig.81 土坑SK110,111,112,113,114,115  
出土遺物  
Fig.82 土坑SK116,117,118,119(1)出土遺物  
Fig.83 土坑SK119(2),120,121出土遺物  
Fig.84 土坑SK122,123,124,125,126,127,128  
出土遺物  
Fig.85 土坑SK130,131出土遺物  
Fig.86 土坑SK132(1)出土遺物  
Fig.87 土坑SK132(2),133(1)出土遺物  
Fig.88 土坑SK133(2),134,135,136(1)出土遺物  
Fig.89 土坑SK136(2),137,138,139出土遺物  
Fig.90 土坑SK140,142,143,144出土遺物  
Fig.91 土坑SK145,147,148,149(1)出土遺物  
Fig.92 土坑SK149(1),150,151出土遺物  
Fig.93 土坑SK152,153,154(1)出土遺物  
Fig.94 土坑SK154(2),155,156出土遺物  
Fig.95 土坑SK158,159,160,162,163,164,  
165(1)出土遺物  
Fig.96 土坑SK165(2),166,167,168出土遺物  
Fig.97 土坑SK169,170,171,172,173出土遺物  
Fig.98 土坑SK174(1)出土遺物  
Fig.99 土坑SK174(2)出土遺物  
Fig.100 土坑SK175,176,177,178,179(1)出土遺物  
Fig.101 土坑SK179(2)出土遺物

Fig.102 土坑SK179(3),180(1)出土遺物  
Fig.103 土坑SK180(2),181,183,184出土遺物  
Fig.104 土坑SK185,186,187出土遺物  
Fig.105 土坑SK188,189,190(1)出土遺物  
Fig.106 土坑SK190(2)出土遺物  
Fig.107 土坑SK191,192出土遺物  
Fig.108 土坑SK193,194,195出土遺物  
Fig.109 土坑SK196,197,198出土遺物  
Fig.110 土坑SK199,200出土遺物  
Fig.111 土坑SK201,202,203,204出土遺物  
Fig.112 土坑SK205出土遺物  
Fig.113 土坑SK206出土遺物

Fig.114 土坑SK208,209,210,211出土遺物  
Fig.115 土坑SK212,213,214出土遺物  
Fig.116 土坑SK215,216出土遺物  
Fig.117 土坑SK217,218,219(1)出土遺物  
Fig.118 土坑SK219(2),220,221(1)出土遺物  
Fig.119 土坑SK221(2)出土遺物  
Fig.120 土坑SK222,223,住居跡S101出土遺物  
Fig.121 土坑土器出土状況図(1)  
Fig.122 土坑土器出土状況図(2)

## 別 表

Tab.1 土坑一覧表

Tab.2 出土石器帳察表

## 写真図版目次

- PL.1 遠景、近景（第1次調査）、近景（第2次調査）  
PL.2 A区全景（第1次調査）、B区全景（第1次調査）、C区全景（第1次調査）、C区全景（第1次調査）、  
全景（第2次調査）、全景（第2次調査）、全景（第2次調査）、全景（第2次調査）  
PL.3 土坑SK01・07、土坑SK02・06、土坑SK02・03・04・06、土坑SK03、土坑SK08・09、土坑  
SK10、土坑SK10・87、土坑SK11・16  
PL.4 土坑SK12、土坑SK12、土坑SK13・14・22、土坑SK15・34、土坑SK16・17、土坑SK17・79、  
土坑SK8、土坑SK19・20  
PL.5 土坑SK20、土坑SK21、土坑SK23、土坑SK24・28、土坑SK25・26・32・33、土坑SK27・  
30・31、土坑SK31、土坑SK27  
PL.6 土坑SK29、土坑SK29、土坑SK36・37、住居跡S101、土坑SK36・42・218・219・220、土坑  
SK38・39、土坑SK44、土坑SK47・48、土坑SK48  
PL.7 土坑SK49、土坑SK50、土坑SK51、土坑SK51、土坑SK52、土坑SK52、土坑SK53,57、土坑  
SK53  
PL.8 土坑SK54・55、土坑SK56、土坑SK58、土坑SK59、土坑SK60、土坑SK60、土坑SK61・63、  
土坑SK59・62  
PL.9 土坑SK64・66、土坑SK65、土坑SK67・68、土坑SK69、土坑SK69・70、土坑SK71、土坑  
SK73・74、土坑SK75,76  
PL.10 土坑SK77、土坑SK78、土坑SK80、土坑SK81、土坑SK82・83、土坑SK83、土坑SK3、土坑  
SK84  
PL.11 土坑SK84、土坑SK85、土坑SK86、土坑SK9、土坑SK90・91、土坑SK93、土坑SK94、土坑  
SK94  
PL.12 土坑SK94・114・115・117、土坑SK95・96、土坑SK97・98・99・100、土坑SK101・102・  
103・104・105、土坑SK106・116、土坑SK107、土坑SK107、土坑SK108  
PL.13 土坑SK109・110・111・112・120、土坑SK113、土坑SK114、土坑SK119、土坑SK121・122、  
土坑SK127、土坑SK130、土坑SK130

- PL.14 土坑SK131、土坑SK131、土坑SK132、土坑SK132、土坑SK133、土坑SK133、土坑SK135、  
土坑SK135
- PL.15 土坑SK136、土坑SK136、土坑SK137、土坑SK142、土坑SK149、土坑SK149、土坑SK154、  
土坑SK154
- PL.16 土坑SK155、土坑SK156·173·174·175、土坑SK159、土坑SK165、土坑SK165、土坑  
SK196、土坑SK196、土坑SK173
- PL.17 土坑SK173、土坑SK174、土坑SK174、土坑SK175·180·181·190·191、土坑SK178、土  
坑SK178、土坑SK179、土坑SK179
- PL.18 上坑SK180、上坑SK180、土坑SK189、土坑SK189、上坑SK191、土坑SK191、土坑SK195、  
土坑SK202
- PL.19 土坑SK205、土坑SK205、土坑SK206、土坑SK206、土坑SK216、土坑SKK216、土坑SK221、  
土坑SK221
- PL.20 土坑SK88·129·137·139·140·142·143·146·150·151·153、土坑SK118·147·  
148·149·154·155·157·158、土坑SK123·124·125·128·129·130·131·132·  
133·134·135、土坑SK141·142·144·152、土坑SK160·161·163·164·165·166·  
168·169·170·171·172·176·178·179·182·185·189·207·208、土坑SK167·  
183·184·186·187·188·194·195·202·203·204·205·209·215、住居跡SI01、住  
居跡SI01
- PL.21 SK12、SK48、SK50（出土土器）
- PL.22 SK50、SK51、SK52（出土土器）
- PL.23 SK52、SK53、SK56、SK57、SK58（出土土器）
- PL.24 SK58、SK60、SK63（出土土器）
- PL.25 SK69、SK106、SK114、SK130、SK131（出土土器）
- PL.26 SK132（出土土器）
- PL.27 SK133、SK136、SK139、SK150、SK165、SK173、SK174（出土土器）
- PL.28 SK174（出土土器）
- PL.29 SK180、SK191、SK179、SK205、SK196、SK205（出土土器）
- PL.30 SK205、SK206、SK216（出土土器）
- PL.31 a 火焰系土器、b 赤彩土器（1）、c 赤彩土器（2）
- PL.32 a 石皿、b 多孔石（1）、c 多孔石（2）
- PL.33 a 磨石類（1）、b 磨石類（2）、c 磨石類（3）
- PL.34 a 磨石類（4）、b 石鐵類、c 鋸石
- PL.35 a 石棒、b 磨製石斧、c 打製石斧

## 第Ⅰ章 序章

### 第1節 調査に至る経緯

この地域は「大宮町史」「大宮の考古遺物」等の報告で紹介されている小野天神前遺跡が近隣に存在し、縄文時代の遺物が多く出土する大宮地域の埋蔵文化財の重要な地域の一つになっている。

今回の発掘調査は老朽化に伴い新たな老人ホームの建て替えが計画され、そのため平成15年12月、主体者である社会福祉法人若葉会から常陸大宮市教育委員会に埋蔵文化財の有無の紹介があり、これに基づき教育委員会は平成16年2月に試掘調査を実施。川崎純徳先生に依頼し、建設予定地となっている駐車場を中心に試掘トレンチを設定し実施したところ、各トレンチから縄文時代の遺構と遺物が多数確認され、埋蔵文化財であることが判明した。その後茨城県教育委員会との協議により、建物建設部分について本調査することとなり、(有)日考研茨城に調査依頼を行う。承諾後教育委員会、社会福祉法人若葉会及び(有)日考研茨城との三者協議を行い、建物建設予定地のうち現在駐車場や道路部分について第1次調査として平成16年3月17日から同年4月15日まで、さらに旧建物解体後に第2次調査として平成16年6月26日から同年8月7日まで2回に分けて計画予定地の全面調査を実施した。

(常陸大宮市教育委員会)

### 第2節 調査の概要

本遺跡の発掘調査は、平成15年度に実施された試掘調査の結果に基づき、調査範囲が確定したもの、結果的に建物建設予定地全域が対象となるほど、遺構がほぼ全面に分布していた。したがって、部分的な発掘調査は不可能となり、計画予定地全面が対象となつたため旧建物の解体計画に沿って1・2次の2回に分けて実施することとなった。まず第1次調査は建物建設予定地のうち、現状で駐車場や道路部分で建物敷地以外の区域を対象とする491m<sup>2</sup>を平成16年3月17日から同年4月15日まで記録保存の措置がとられることとなった。ここでは検出された遺構は縄文中期の土坑72基に、多量の縄文土器や石器が発見された。次の2次調査は建物敷地部分で、1,048m<sup>2</sup>を建物解体終了後の平成16年6月26日から同年8月7日まで実施し、やはり多量の遺構と遺物が検出されており、平安時代の堅穴住居跡1軒と縄文時代中期の土坑151基、やはり多量の縄文土器と石器が検出された。したがって1・2次調査分合わせて約2ヶ月半の調査期間となり、総数で縄文時代中期の土坑数は224基となった。

なお、調査範囲は建物の解体計画に合わせたため不規則で、産業地区割りは設定できず、部分調査から開始し、最終的には対象地全域を完了することとなったものの、1次調査で部分的な確認であったものが、2次調査で完掘できた土坑もいくつかある。これらは報文中の記載では明記していないが、遺物の取り上げで同一土坑の出土遺物の日付が異なるのはそのためである。なお、建物部分、駐車場部分など表土が踏み固められ堅硬なため、表土層除去から遺構確認面まではバックホーによる機械作業を優先して実施し、遺構確認後人手によるジョレン精査を行い遺構の掘り下げをすすめた。出土遺物の大半は遺構である土坑に帰属し、それ以外は地区名を付して一括して取り上げた。またフラスコ状土坑で出土する大半の遺物は復元可能な完存品が多く、可能な限り微細出土状況図を作成して記録として取り上げた。遺構番号は、1・2次調査にかかわらず調査時点において検出された遺構に対して精査を行った順に一連番号を付した。

(小川和博・大沢淳志)

## 第3節 調査日誌

第1次調査2004(平成16)年3月17日～4月15日

- 3.17 高ノ倉遺跡第1次調査を開始する。西側調査区A区より重機による表土除去作業を開始する。
- 3.18 A区の重機による表土除去終了。中央調査区B区の重機による表土除去。
- 3.19 A区・B区の人力による遺構確認作業。
- 3.22 A区での遺構検出作業を開始する（土坑SK1～6）。
- 3.23 A区での遺構検出作業を継続する（土坑SK1～10の検出作業）。
- 3.24 A区の遺構検出継続（土坑SK9～20）。
- 3.25 A区土坑調査（土坑SK18～35）。セクション写真撮影・実測作業。
- 3.26 A区写真撮影。実測作業を行い、遺構検出作業終了。B区での遺構検出作業開始。
- 3.29 B区での遺構検出作業継続（土坑SK36～45）。
- 3.30 B区での遺構検出作業（土坑SK42～52）。
- 3.31 B区での遺構検出作業を継続する（土坑SK50～63を検出する）。
- 4.01 B区での土坑セクション写真撮影・実測作業。除去作業。
- 4.02 B区平面実測作業を行う。
- 4.03 B区土坑の平面図測量作業。A区の写真撮影および遺物取り上げ作業。
- 4.04 B区写真撮影作業。同じく、B区の遺物取り上げ作業を行う。
- 4.06 B区平面図・等高線測量図を実測する。A区平面図・エレベーション図実測作業。
- 4.07 A区の平面図・エレベーション図・全測図・等高線測量図作成。
- 4.08 A区の重機による埋め戻し作業。C区の重機による表土除去作業を開始する。
- 4.09 B区の重機による埋め戻し作業。C区の遺構検出作業を行う。
- 4.12 C区の遺構検出作業の継続。
- 4.13 C区のセクション写真撮影・平面図作業を実施する。
- 4.14 C区のセクションベルト除去作業。C区の平面図・全測図・等高線測量図を実測。
- 4.15 C区の埋め戻し作業。発掘機材撤出。本日で高ノ倉遺跡第1次調査を終了する。
- 第2次調査2004(平成16)年6月26日～8月7日
- 6.26 発掘機材を現場へ搬入する。
- 6.28 木日より高ノ倉遺跡第2次調査を開始。重機による表土除去作業を始める。
- 6.29 重機による表土除去作業を継続する。
- 6.30 重機の表土除去作業。人力による遺構精査。確認作業を開始する。
- 7.01 表土除去作業の継続。遺構検出作業を開始する（土坑SK1・10・11・17・27・29・73～89）。
- 7.02 重機による表土除去作業終了。土坑調査（土坑SK80～99）の継続。
- 7.05 土坑調査（土坑SK93～106）の継続。
- 7.06 土坑調査（I.坑SK100～117）の継続。土坑セクション実測。断面除去。
- 7.07 土坑調査（土坑SK110～123）の継続。土坑セクション実測。断面除去。
- 7.08 土坑調査（土坑SK119～130）の継続。土坑セクション実測。断面除去。
- 7.09 土坑調査（土坑SK120～135）の継続。
- 7.10 土坑調査（土坑SK130～140）の継続。
- 7.12 土坑調査（土坑SK133～145）の継続。土坑セクション実測。
- 7.13 土坑調査（土坑SK143～160）の継続。土坑セクション実測。
- 7.14 土坑調査（土坑SK150～170）の継続。土坑セクション実測。
- 7.15 土坑調査（土坑SK160～175）の継続。土坑セクション実測。
- 7.16 土坑調査（土坑SK170～180）の継続。土坑セクション実測。
- 7.17 土坑調査（土坑SK167～180）の継続。土坑セクション実測。
- 7.20 土坑調査（土坑SK173～185）の継続。土坑セクション実測。
- 7.21 土坑調査（土坑SK183～191）の継続。土坑セクション実測。
- 7.22 土坑調査（土坑SK188～192）を行う。土坑セクション実測。
- 7.23 土坑調査（SK190～197）の継続。土坑セクション実測。
- 7.24 七坑調査（土坑SK194～200）の継続。土坑平面図・全景写真撮影。
- 7.26 土坑平面図・エレベーション図実測。土坑調査（SK195～204）を継続。
- 7.27 土坑平面図・エレベーション図実測。土坑調査（SK202～210）を継続。
- 7.28 遺構調査（SK208～217、風倒木1）の継続。土坑セクション実測。
- 7.29 土坑調査（SK214～222）の継続。土坑の発掘調査を終了する。
- 7.30 遺構写真撮影作業を開始する。
- 7.31 遺構平面図・エレベーション実測作業。遺構写真撮影作業。
- 8.02 エレベーション図実測。セクション図・全測図測量作業。
- 8.03 遺構平面図を実測し、終了する。エレベーション図測量作業を行う。
- 8.04 エレベーション図実測、遺物取り上げ作業を実施し、終了する。
- 8.05 犬糞撤出作業を行い、午前中で終了する。
- 8.06 重機による調査区の埋め戻し作業を開始する。
- 8.07 重機による埋め戻し作業を終了し、高ノ倉遺跡第2次調査の現地作業を完了する。

(大庭淳志)

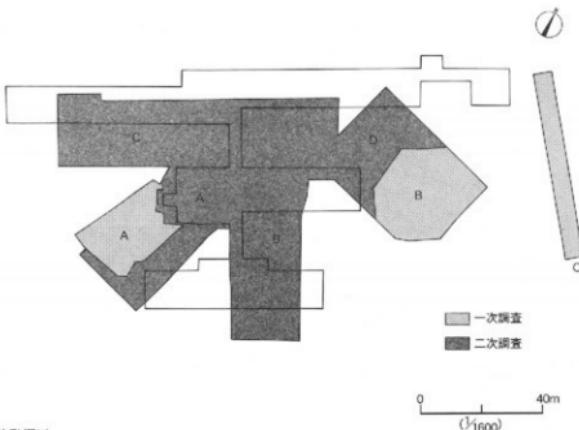


Fig.1 高ノ倉遺跡発掘区

#### 第4節 遺跡の位置と環境

高ノ倉遺跡は常陸大宮市小野字南高倉2167番地外の現義護老人ホーム晏如荘敷地内に所在する。常陸大宮市は茨城県の北部で、八溝山系から延びた丘陵の先端部にあたり、東に久慈川、西に那珂川といった県内を代表する二河川に挟まれ、さらにそのほぼ中央に玉川が流れ、大宮支台を大きく二分している。

本遺跡はJR水郡線常陸大宮駅の南西約4kmのところにあたり、西端で南流する那珂川の左岸台地上に立地する。ここは南北幅200mの幅狭な舌状台地を形成し、那珂川に向かって突出しているが、台地は那珂川の浸食を激しく受けたためか単調な地形を呈し、しかも河川に面する南西端や南東端は急崖する。標高52mでは平坦であり、現那珂川との比高差は34.5mである。

周辺の台地には、縄文時代から奈良・平安時代の遺跡が多いことで知られている。とくに当市だけではなく、茨城県を代表する小野天神前遺跡は本遺跡と同じ那珂川水系にあたり、ここから直線距離にして北へ1.7kmに位置する。縄文時代早期・中期から晩期を経て、弥生時代までの期間、拠点的な集落を形成する。なかでも弥生時代中期の再葬墓の存在については特筆される。さて、縄文時代については40ヶ所を超える遺跡が存在する。なかでも当遺跡と同時期の拠点的集落が多く、玉川左岸の坪井上遺跡は平成5年に発掘調査が実施され、竪穴住居跡8軒、土坑43基が検出された。またそれ以前の昭和59年に調査された梶巾遺跡でも土坑16基、平成2年の諏訪台遺跡では竪穴住居跡1軒に土坑13基が検出されている。これら3遺跡における土坑はいずれもフラスコ状もしくは袋状を呈している。そのほか当遺跡の南側2kmで同じ那珂川水系に接する小場八幡山遺跡や玉川水系に接する若林A遺跡が知られており、この那珂川、久慈川両河川に挟まれた大宮支台は縄文時代中期中葉から後葉にかけて広範囲の拠点的集落を形成しており、これらの遺跡群の関わりが注目される。

(小川和博・大瀬淳志)



1.高ノ倉遺跡 2.八幡山遺跡 3.若林A遺跡 4.高ノ倉城跡

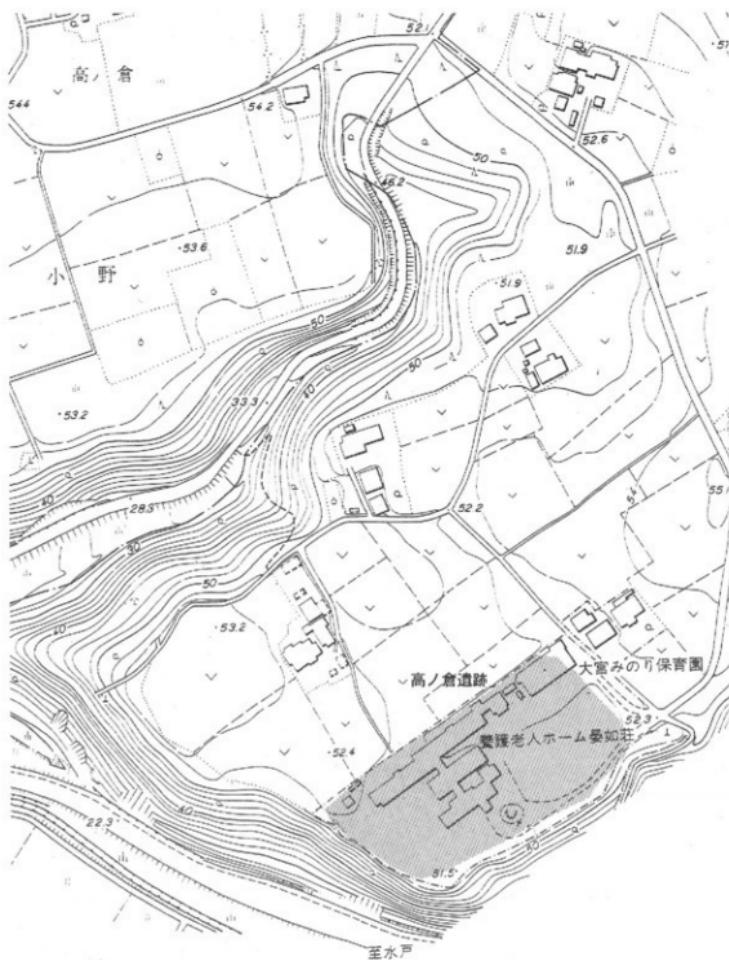


Fig.3 高ノ倉遺跡と周辺の地形 (1/2500)

0 100m

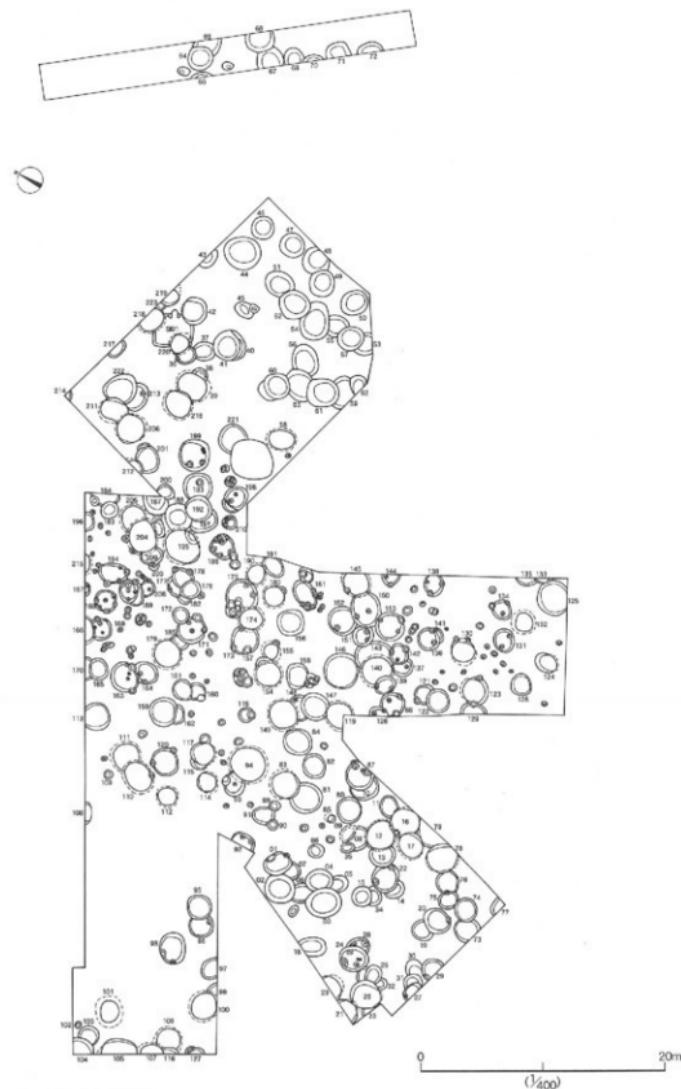


Fig.4 商ノ倉遺跡遺構配図

## 第Ⅱ章 検出された遺構と遺物

### 第1節 概要

高ノ倉遺跡は縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良・平安時代の複合遺跡として知られているが、今回の第1次、2次調査ともに、主体は縄文時代中期中葉から後葉の時期にはば想定されている。わずかに平安時代の遺構として堅穴住居跡を1軒調査したものの、集落跡としての構成は確認できなかった。あくまでも主体は縄文時代で、検出された遺構はすべて土坑である。その数は223基にのぼり、形態的にみると大半が円形系で、断面形の種類としてフラスコ状、袋状、円筒状のほかに、方形や長方形の箱型も數基確認された。これらは今回の調査区のすべてに分布し、空間部がまったく見られないことから、群集土坑群のほぼ中心部に当たったと考えられる。またこれら土坑群からは縄文土器をはじめ多量の遺物が出土している。縄文土器のほかに、石器類(石鏃、石錐、石匙、石皿、磨石類)がある。時期は阿玉台I式から加曾利E3式までで、大木7b式、8a式、8b式のほか、勝坂III式や火焔土器、七朗内II群等その種類は豊富である。これらは絶対的に資料が不足している茨城県北部における中期中葉から後葉にかけて形成された大集落の一端を垣間見ることができた意義は大きい。

### 第2節 遺構

#### 1) 縄文時代の土坑

##### 土坑SK01 (Fig.5・6)

調査区1次A区に位置する。SK02とSK07を切っている。径269×332cm、長軸方向をN-82°-Eにとる梢円形、深さ99cmを測り、壁面は外傾する円筒形。底面はほぼ平坦で東壁際にサイドピット1本(P1)、径20×28cm、深さ19cmの円形。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期・大木8b式の土器と磨石が出土。

##### 土坑SK02 (Fig.5・6)

調査区1次A区に位置する。上面径229×260cm、長軸方向をN-83°-Eにとり梢円形を呈する。深さ41cmを測り、壁面は外傾する円筒形。底面は平坦で内部施設としてサイドポケットとサイドピット2本検出された。P1は、北東壁際径90×125cm、深さ23cmの梢円形。P2は、北西壁際径31×35cm、深さ34cmの円形。P3は、南壁際径15×15cm、深さ20cmの円形。覆土は2層からなる自然堆積である。本跡は北東側でSK01、南東側でSK07、南側でSK06を切っている。遺物は縄文中期・大木8b式。

##### 土坑SK03 (Fig.5)

調査区1次A区に位置する。上面径240×246cmの円形を呈する。深さ43cmを測り、壁面は外傾する円筒形。底面は平坦で内部施設としてサイドピット2本検出された。P1は、北壁際径16×16cm、深さ22cmの円形。P2は、北東壁際径18×20cm、深さ28cmの円形。覆土は2層からなる自然堆積である。本跡は北側でSK06、東側でSK04・05を切っている。遺物は縄文中期・大木8b式の土器と打製石斧が覆土から出土した。

##### 土坑SK04 (Fig.5)

調査区1次A区に位置する。上面径210×228cmの円形を呈する。深さ19.5cmを測り、壁面は外傾する円筒形。底面は平坦である。覆土は2層からなる自然堆積である。本跡は西側でSK03によって切られ、北西側でSK06、南側でSK05を切っている。遺物は縄文中期・大木8b式の土器片が覆土から出土した。

##### 土坑SK05 (Fig.5・6)

調査区1次A区に位置する。確認面上面径122×195cm、長軸方向をN-34°-Wにとる梢円形。深さ13cmを測り、壁面は外傾する円筒形。覆土は1層からなる自然堆積。北側でSK03・04によって切られている。図示できる遺物は出土していない。

##### 土坑SK08 (Fig.6)

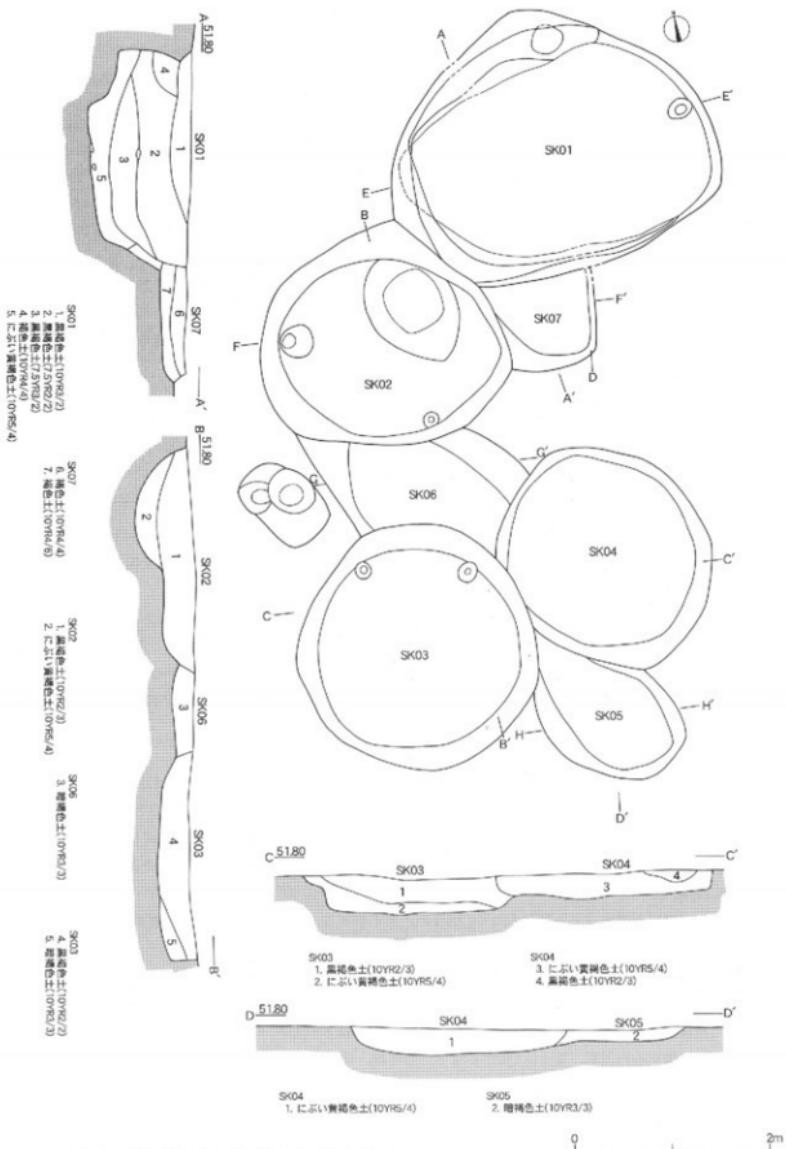


Fig.5 土坑SK01、02、03、04、05、06、07

調査区1次A区に位置する。北側を土坑SK09、35によって大半を切られ、南側の一部が搅乱を受けている。上面径(254)×(212)cm、底面径(235)×(180)cm、長軸方向をN-58°-Eにとる橢円形。深さ15cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。本跡は北側がSK09・35によって切られている。遺物は縄文中期・大木8b式の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK09 (Fig. 6)

調査区1次A区に位置する。北側をSK87により切られている。上面径213×170cmの不正円形。深さ27cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期・大木8b式の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK10 (Fig. 6)

調査区1次A区に位置する。北側をSK87により切られている。上面径213×170cmの不正円形。深さ27cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期・大木8b式の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK11 (Fig. 7)

調査区1次A区に位置する。上面径181×214cmの円形。深さ24cmを測り、壁面は垂直気味に立ち上がる袋状。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが西壁際1ヶ所検出された。径48×57cm、深さ46cmの円形である。覆土は自然堆積である。本跡は南側がSK16によって切られている。遺物は縄文中期・大木8a式の土器片が出土。

#### 土坑SK12 (Fig. 8)

調査区1次A区に位置する。上面径230×231cmの円形。底面が全周外側に張り出したフラスコ状で、深さ81cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は4層からなる自然堆積である。本跡は南側でSK13に切られている。遺物は縄文中期・大木8a式を中心には多量の土器と石皿が出土した。

#### 土坑SK13 (Fig. 8)

調査区1次A区に位置する。上面径204×225cmの円形。底面が南側に張り出した袋状で、深さ58.5cmを測り、壁面は垂直して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は5層からなる自然堆積である。本跡は北側がSK12によって切られ、西側でSK22を切っている。遺物は縄文中期・加曾利E1式の土器片と石器が出土した。

#### 土坑SK14 (Fig. 8)

調査区1次A区に位置する。北側でSK22に切られている。上面径250cmの円形。深さ19cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期・加曾利E1式の土器片と石器が覆土から出土した。

#### 土坑SK15 (Fig. 8)

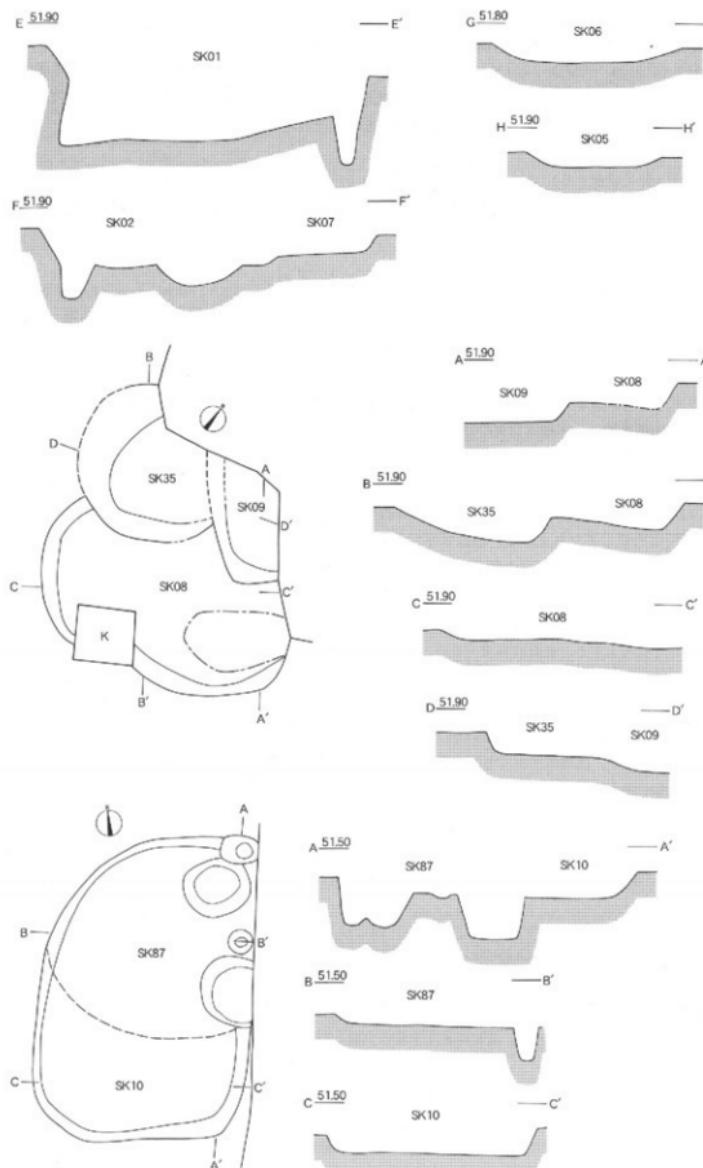
調査区1次A区に位置する。西側でSK34を切って構築している。確認面上面径147×170cmの円形。深さ24cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる袋状。底面は平坦で、覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### 土坑SK16 (Fig. 7)

調査区1次A区に位置する。上面径139×248cmの円形。底面が外側に張り出した袋状で、深さ40cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設としてサイドピット2本検出された。西壁際が径63×70cm、深さ35cmの円形。北東壁際が径25×31cm、深さ17.5cmの円形。覆土は自然堆積である。本跡は北側がSK11切り、南側がSK17によって切られている。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### 土坑SK17 (Fig. 7)

調査区1次A区に位置する。上面径214×222cmの円形。底面が西側に張り出した袋状で、深さ45cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。P1が径20×21cm、深さ22.5cmの円形。P2が径30×34cm、深さ40.5cmの円形。覆土は自然堆積である。本跡は北側でSK16、西側で



SK79を切っている。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK18 (Fig. 7)

調査区に位置する。北側が未調査区域に広がっている。上面径146×214cm、長軸方向をN-21°-Wにとる楕円形。壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所。P 1は径30×30cmの円形で、深さ24cm。覆土は2層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK19 (Fig.7)

調査区1次A区に位置する。南東側でSK20に切られている。上面径152cmの円形。深さ47cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器が覆土から出土した。

#### 土坑SK20 (Fig.7)

調査区1次A区に位置する。北西側でSK19を切って構築している。上面径212×250cmの楕円形。深さ64cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設としてサイドピットが1本所検出された。P 1は径27×38cmの円形で、深さ25cmである。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

#### 土坑SK21 (Fig.9)

調査区1次A区に位置する。西側は未調査区域に広がる。確認面径235cmの円形。底面が東側に張り出した袋状で、深さ74cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は6層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期・大木8 b式の土器片と磨石が覆土から出土した。

#### 土坑SK22 (Fig.8)

調査区1次A区に位置する。東側でSK13に切られ、南西側でSK14を切って構築している。上面径250×255cmの円形。深さ58cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる袋状。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所所検出された。センターピット P 1は径21×27cmの円形で、深さ27cmである。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK23 (Fig.9)

調査区1次A区に位置する。西側は未調査区域に広がる。確認面径210cmの円形。底面が東側に張り出したフラスコ状で、深さ65cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は7層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期・大木8 b式の土器が覆土から出土した。

#### 土坑SK24 (Fig.9)

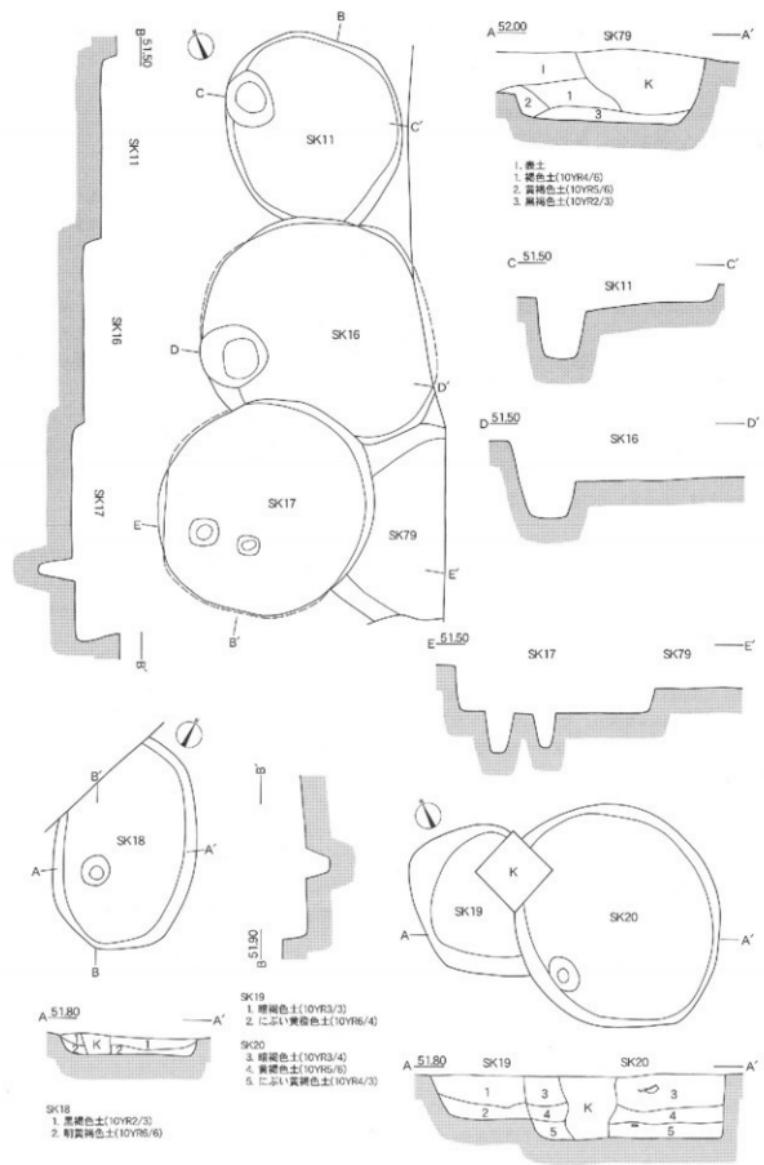
調査区1次A区に位置する。東側でSK28を切って構築している。上面径216×223cmの円形。深さ76cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる袋状。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが6ヶ所所検出された。南側P 1は径44×55cmの円形で、深さ35cm。北側P 2は径55×62cmの円形で、深さ41cm。西側P 3は径4958cmの円形で、深さ34cm。サイドポケット P 4は径32×95cmの楕円形で、深さ13cm。小ピット P 5は径13×14cmの円形で、深さ20cmとP 6は径12×14cmの円形で、深さ14cmである。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期・大木8 b式の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK25 A (Fig.9)

調査区1次A区に位置する。南東側でSK26に切られ、SK25 B、32を切っている。上面径155cmの円形。深さ68cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる袋状。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の上器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK25 B (Fig.9)

調査区1次A区に位置する。南側でSK20、26に切られている。上面径120cmの円形。深さ68cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。



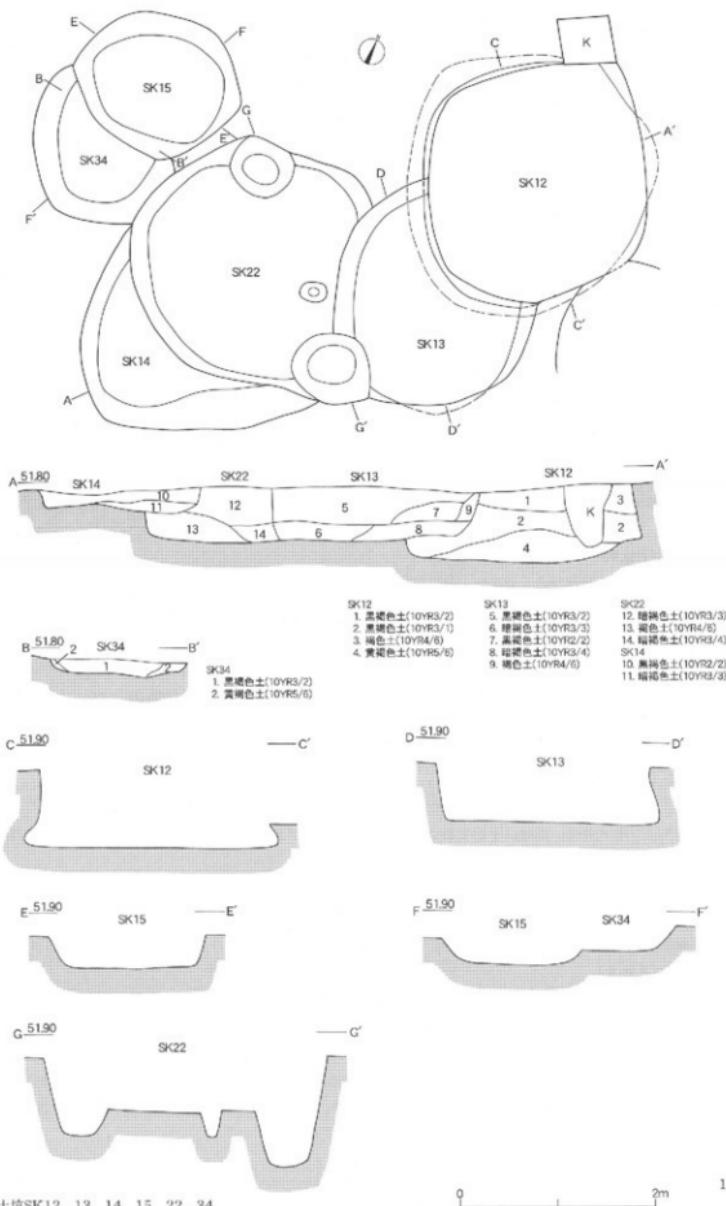


Fig.8 土坑SK12、13、14、15、22、34

**土坑SK26 (Fig.9)**

調査区に位置する。東側でSK25・32、西側でSK33を切って構築している。上面径243×265cmの円形。底面が南側に張り出した袋状で、深さ88cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦。覆土は6層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と磨製石斧が覆土から出土した。

**土坑SK27 (Fig.10)**

調査区1次A区に位置する。北東側でSK31を切っている。上面径173×175cmの長軸方向をN-14°-Eにとる楕円形。深さ55cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが3本検出された。南壁際P1は径18×36cmの円形で、深さ32cm。西壁際P2は径30×44cmの楕円形で、深さ34cm。北西壁際P3は径21×29cmの円形で、深さ20cm。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

**土坑SK28 (Fig.9)**

調査区1次A区に位置する。南東側でSK24に切られている。上面径181cmの円形。深さ52cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

**土坑SK29 (Fig.10)**

調査区1次A区に位置する。北西側でSK30を切って構築している。上面径183×230cmで長軸方向をN-54°-Eにとり楕円形。深さ56cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設としてサイドポケットが2本検出された。南壁際P1は径48×59cmの楕円形で、深さ24cmである。北壁際P2は径50×54cmの円形で、深さ43cmである。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

**土坑SK30 (Fig.10)**

調査区1次A区に位置する。SK29・31に切られている。上面径300cmの円形。深さ30cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる袋状。底面は平坦である。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期・大木8b式の小破片が覆土から出土した。

**土坑SK31 (Fig.10)**

調査区1次A区に位置する。南西側でSK27に切られ、東側でSK31を切って構築している。上面径178cmの円形。底面が側に張り出したフ拉斯コ状で、深さ64cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

**土坑SK32 (Fig.9)**

調査区1次A区に位置する。北側でSK25Aに切られている。上面径136cmの円形。深さ34cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

**土坑SK33 (Fig.9)**

調査区1次A区に位置する。東側でSK26に切られ、大半が未調査区域に広がっている。上面径66cmの円形。深さ41cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる袋状。底面は平坦である。覆土は2層からなる自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

**土坑SK34 (Fig.8)**

調査区1次A区に位置する。本跡は側でSK09に切られ、南側でSK08を切っている。上面径150×160cmの円形。深さ39cmを測り、壁面は外傾する円筒形。覆土は2層からなる自然堆積。図示できる遺物は出土しなかった。

**土坑SK35 (Fig.6)**

調査区1次A区に位置する。東側でSK09に切られ、南側でSK08を切って構築している。上面径150×160cmの円形。深さ39cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。

**土坑SK36 (Fig.11)**

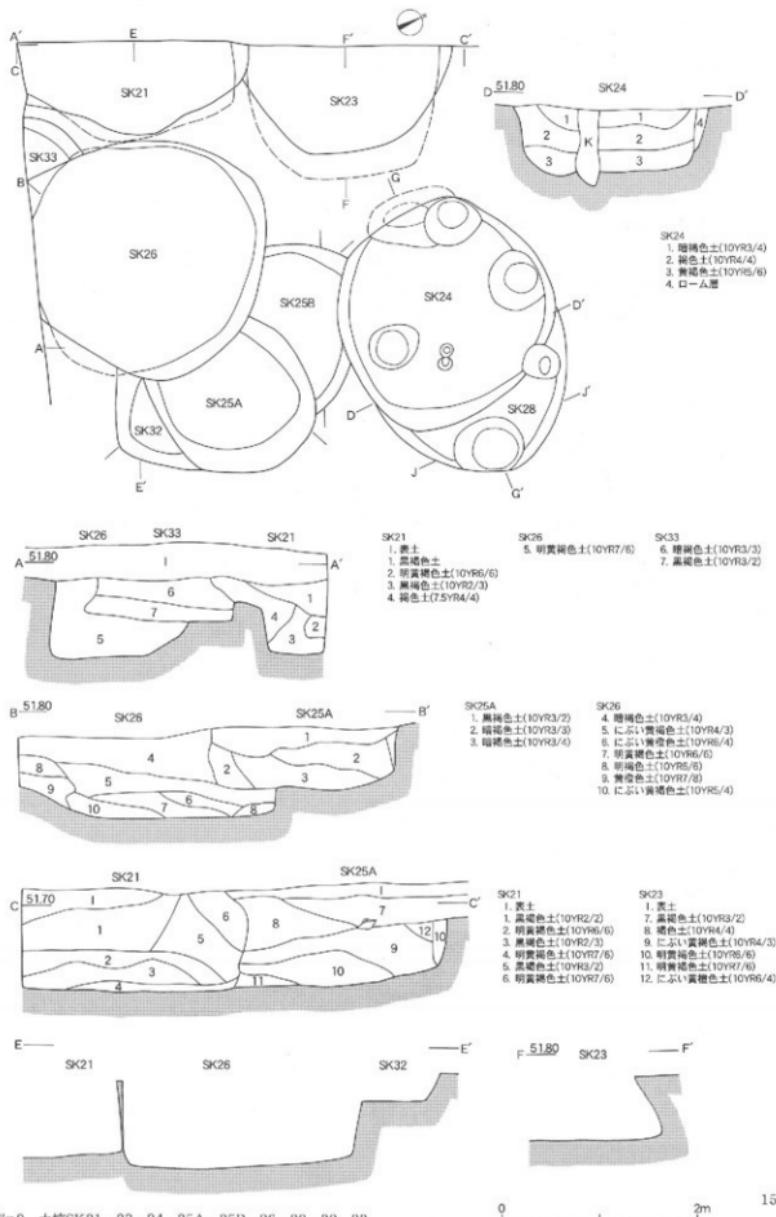
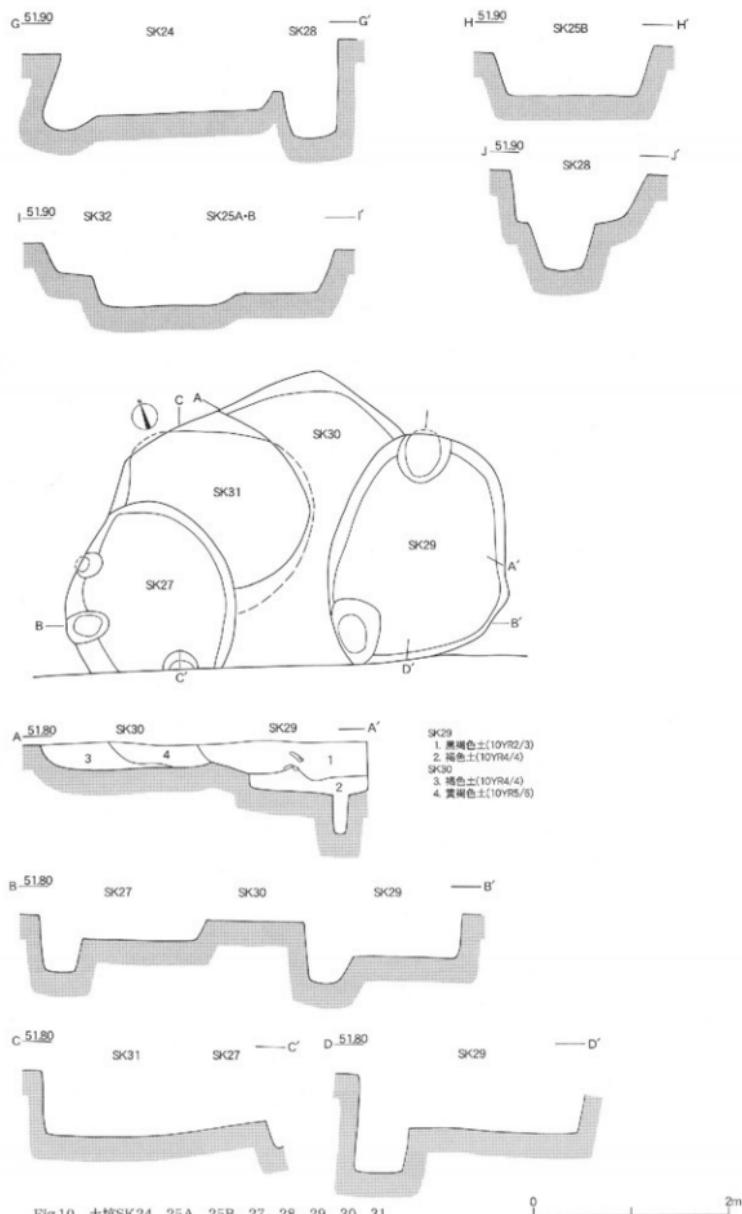


Fig.9 土坑SK21、23、24、25A、26、28、32、33



調査区1次B区に位置する。SK37、220に切られている。上面径130×192cmの円形。深さ45cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦。覆土は4層からの自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK37 (Fig.11)**

調査区1次B区に位置する。南側でSK41に切られている。上面径144×156cmの円形。深さ29cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は2層からなる自然堆積。図示できる遺物は出土しなかった。

#### **土坑SK39 (Fig.12)**

調査区1次B区に位置する。東側でSK38を切って構築している。上面径206×235cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ74cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は2層からの自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK40 (Fig.11)**

調査区1次B区に位置する。北側の大半をSK41に切られている。上面径300cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ12cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK41 (Fig. 11)**

調査区1次B区に位置する。南側でSK40を切って構築している。上面径236×290cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ127cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK42 (Fig.12)**

調査区1次B区に位置する。上面径227×232cmの円形を呈する。底面が南側に張り出したフラスコ状で、深さ73cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK43 (Fig.12)**

調査区1次B区に位置する。北側大半が未調査区域に広がっている。上面径189cmの円形。底面が全周して張り出した袋状で、深さ73cmを測り、壁面はわずかに内傾して立ち上がる。底面は平坦で、覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK44 (Fig.13)**

調査区1次B区に位置する。上面径242×323cmの円形。底面が北側に張り出した袋状で、深さ77cmを測り、壁面は北側が内傾し、南側は外傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが東側半分に集中し5ヶ所検出された。北側から時計回りにP1からP5までの番号を付した。P1は径22×22cmの円形、深さ18cm。P2は径30×35cmの楕円形、深さ26cm。P3は径24×38cmの楕円形、深さ20cm。P4は径25×25cmの円形、深さ11cm。P5は径25×25cmの円形、深さ33cm。いずれもサイドピットである。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK45 (Fig.13)**

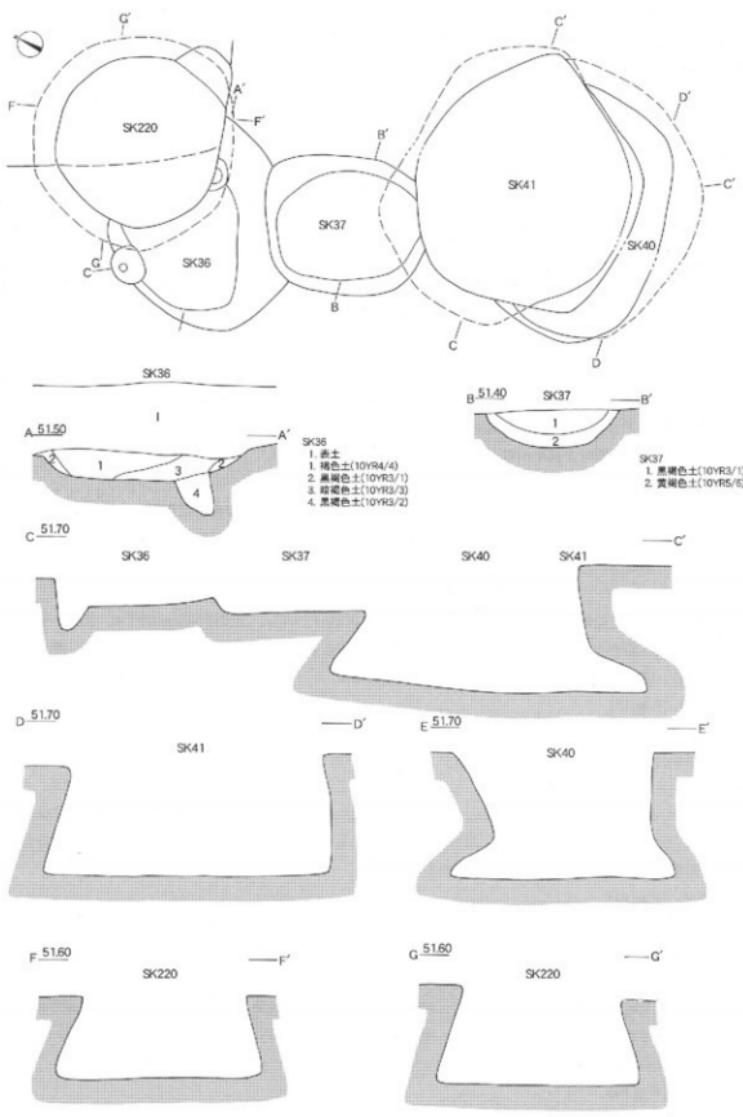
調査区1次B区に位置する。SK29・31に切られている。上面径300cmの円形。深さ30cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は2層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の小破片が2点出土している。

#### **土坑SK46 (Fig.13)**

調査区1次B区に位置する。上面径180×184cmの円形。底面が全周して張り出した袋状で、深さ57cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で、内部施設はない。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が4点覆土から出土した。

#### **土坑SK47 (Fig.14)**

調査区1次B区に位置する。上面径206×224cmの円形。底面が北側に張り出した袋状で、深さ66cmを測り、壁



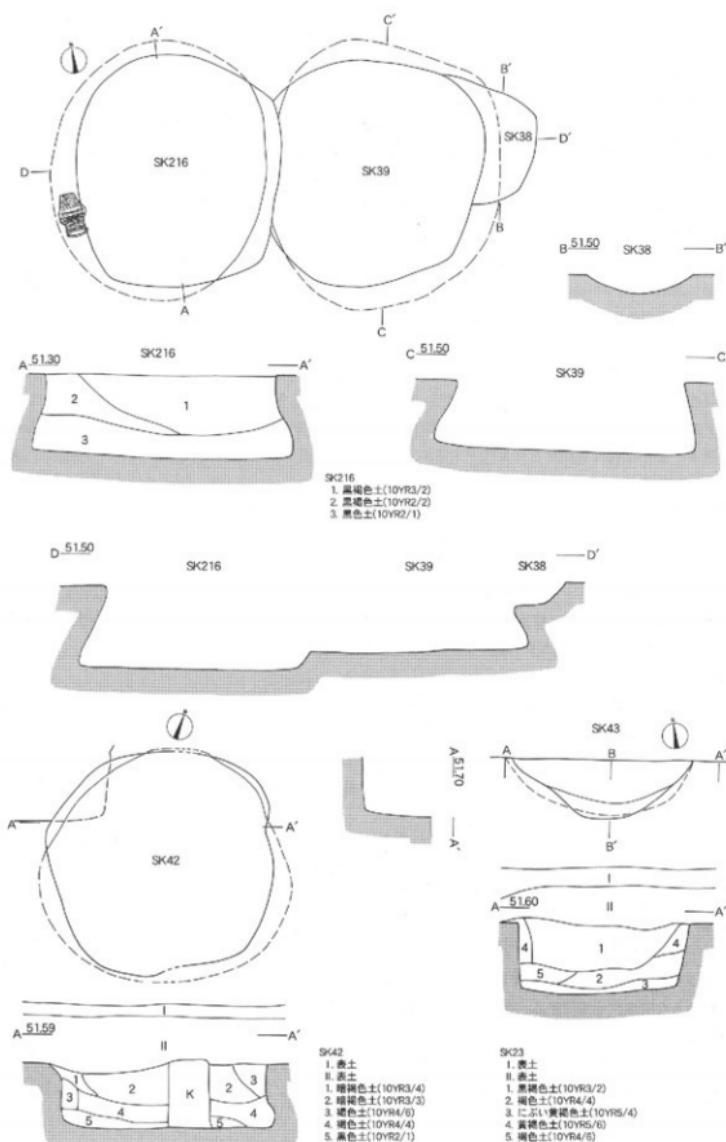


Fig.12 土坑SK38、39、42、43、216

面は北側が外傾し、南側は内傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設はない。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器小片が覆土から出土した。

#### **土坑SK48 (Fig.14)**

調査区1次B区に位置する。東側の一部が未調査区域に広がっている。また南側でSK49によって切られている。上面径200×205cm、底面径214×214cmの円形。底面が全周して張り出した袋状で、深さ63cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設はない。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期・大木8a式の土器が底面から10cmほど浮いた状態で南壁際に集中して出土していた。

#### **土坑SK49 (Fig.14)**

調査区1次B区に位置する。北東隅でSK48を切って構築されている。上面径216×244cmの円形。底面が東側に張り出した袋状で、深さ82.5cmを測り、壁面は東側が内傾し、北・南側は外傾して立ち上がる。底面は平坦で、覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の上器片と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK50 (Fig.13)**

調査区1次B区に位置する。東側の一部が未調査区域に広がっている。上面径215×238cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ55cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設としてサイドピット1本検出された。西壁際に位置し、径33×44cmの楕円形で、深さ20cmである。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期阿玉台Ⅲ式・大木8a式の土器が底面から10~15cmほど浮いているものの、東側に寄って完形もしくは完形に近い8個体が集中して出土していた。

#### **土坑SK51 (Fig.14)**

調査区1次B区に位置する。南側でSK52によって切られている。上面径218×265cm、底面径235×265cm、長軸方向をN-22°-Eにとる楕円形。底面がわずかに全周して張り出した袋状で、深さ82cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。東側のP1は径45×50cmの円形で、深さ38cm。西側のP2は径34×38cmの円形で、深さ21cmである。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の大木8b式土器がP1脇から集中して出土している。

#### **土坑SK52 (Fig.14)**

調査区1次B区に位置する。本跡は北側でSK51および南側でSK54を切っている。上面径220×235cm、底面径222×249cmの円形。底面ほぼ全周外側に突出したフラスコ状で、深度さ81cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期阿玉台Ⅲ式・大木8a式の土器1~3の3個体が北から東壁際に沿って底面から20cmほど浮いた覆土から、また石器として石皿と磨石も覆土から出土している。

#### **土坑SK53 (Fig.15)**

調査区1次B区に位置する。北側でSK57によって切られ、南側は未調査区域に広がっている。上面径223cmの円形。底面が東側に張り出した袋状で、深さ42cmを測り、壁面は東壁が内傾し、西側は外傾して立ち上がる。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期大木8a式の完形土器が西壁際で33cm浮いた覆土から出土した。

#### **土坑SK54 (Fig.15)**

調査区1次B区に位置する。北側でSK52に切られ、南側でSK55を切っている。上面径265×298cmの円形。底面がわずかに西側に張り出した袋状で、深さ59cmを測り、壁面は西側が内傾し、東側は外傾して立ち上がる。覆土は6層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK55 (Fig.15)**

調査区1次B区に位置する。北側でSK54、南側でSK57に切られている。上面径189×(200)cmの円形を呈する。深さ34cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒状である。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK56 (Fig.16)**

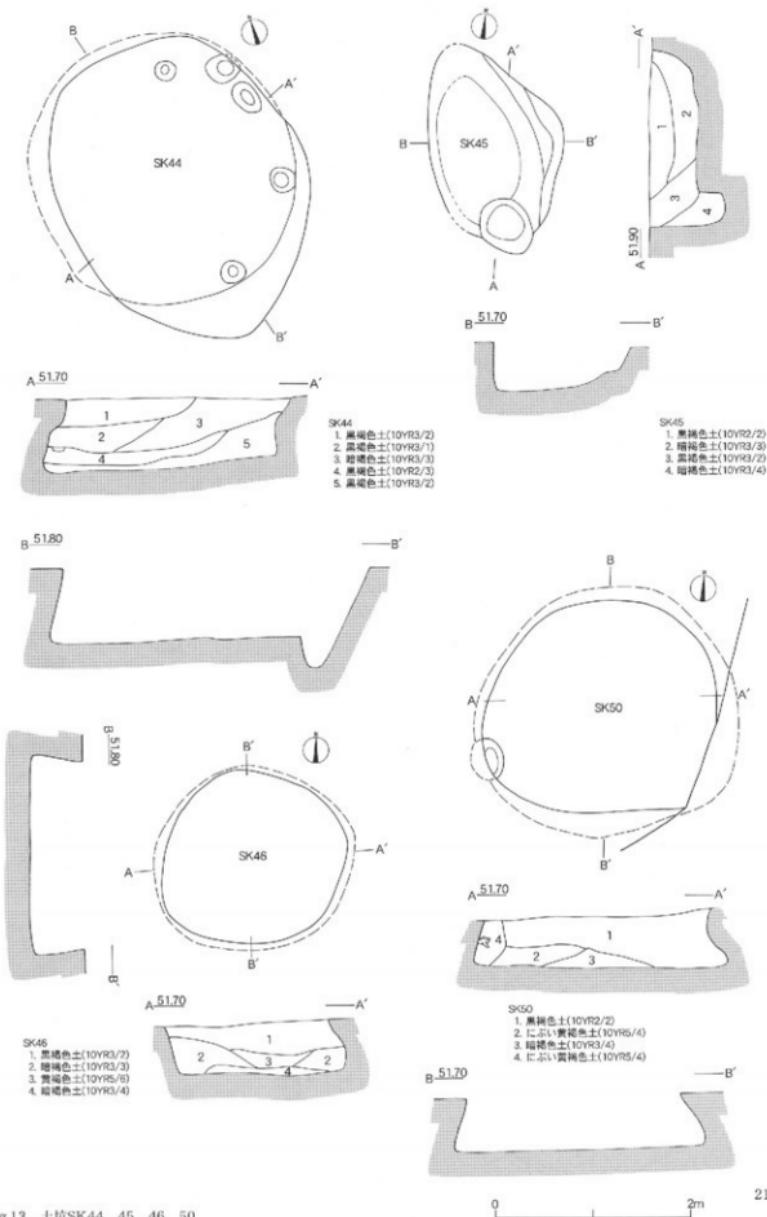
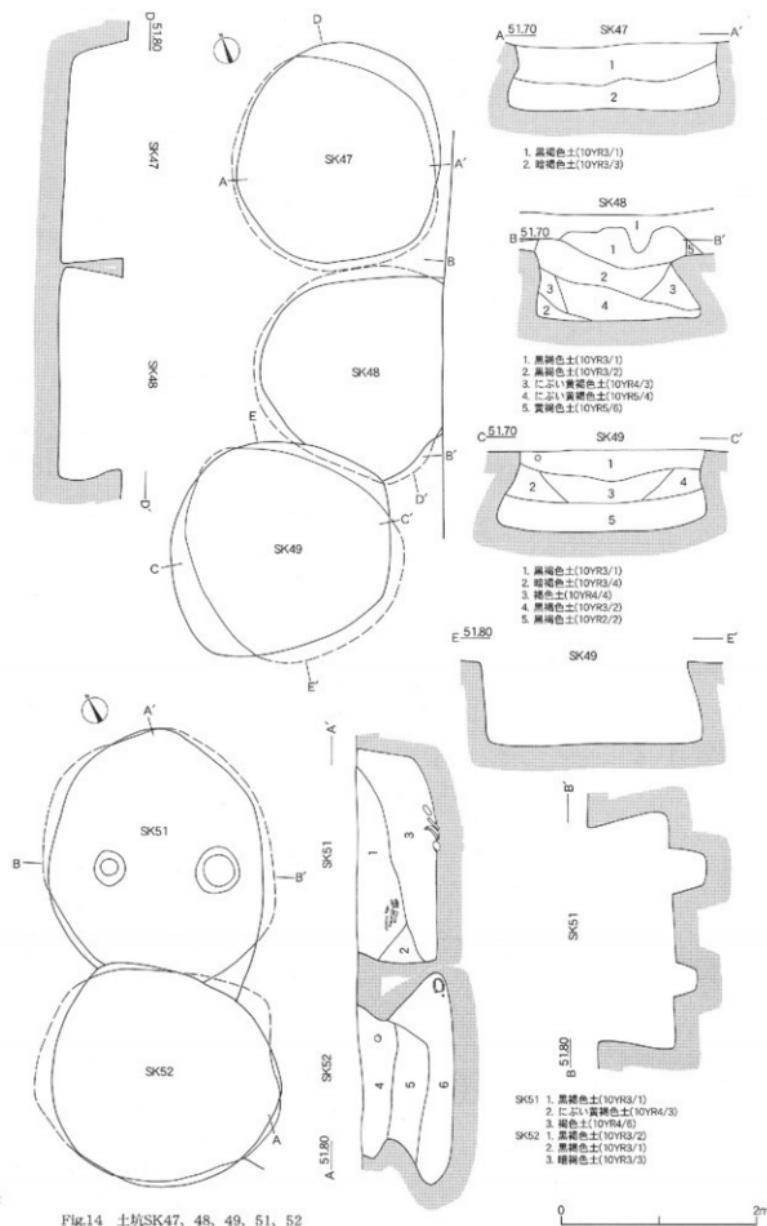


Fig.13 土坑SK44、45、46、50



調査区1次B区に位置する。南西側にSK63を切られている。上面径234cmの円形。底面が北側に張り出した袋状で、深さ95cmを測り、壁面は北側が内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK57 (Fig.15)**

調査区1次B区に位置する。北側でSK55、南側でSK53を切っている。上面径215×237cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ111cmを測り、壁面は大きく内傾して立ち上がる。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK58 (Fig.15)**

調査区1次B区に位置する。西側で風割木痕に切られている。上面径228×285cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ85cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK59 (Fig.16)**

調査区1次C区に位置する。SK61に切られ、SK62を切っている。上面径300cmの円形。深さ52cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は2層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の土器が覆土から出土した。

#### **土坑SK60 (Fig.16)**

調査区1次C区に位置する。南側でSK63に切られている。上面径220×272cmの円形。底面が南側に張り出したフラスコ状で、深さ109cmを測り、南壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は9層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期・阿玉台IV式・大木8b式の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK61 (Fig.16)**

調査区1次C区に位置する。北側でSK63に切られ、南側でSK59を切って構築している。上面径233×235cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ119cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期・大木8b式・火焔系の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK62 (Fig.16)**

調査区1次C区に位置する。SK59に切られ、南側は半分が未調査区域に広がっている。上面径300cmの円形。深さ72cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK63 (Fig.16)**

調査区1次A区に位置する。SK56、60、61を切っている。上面径265×335cm、長軸方向をN-87°-Wにとする楕円形。深さ60cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期大木8b式の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK64 (Fig.17)**

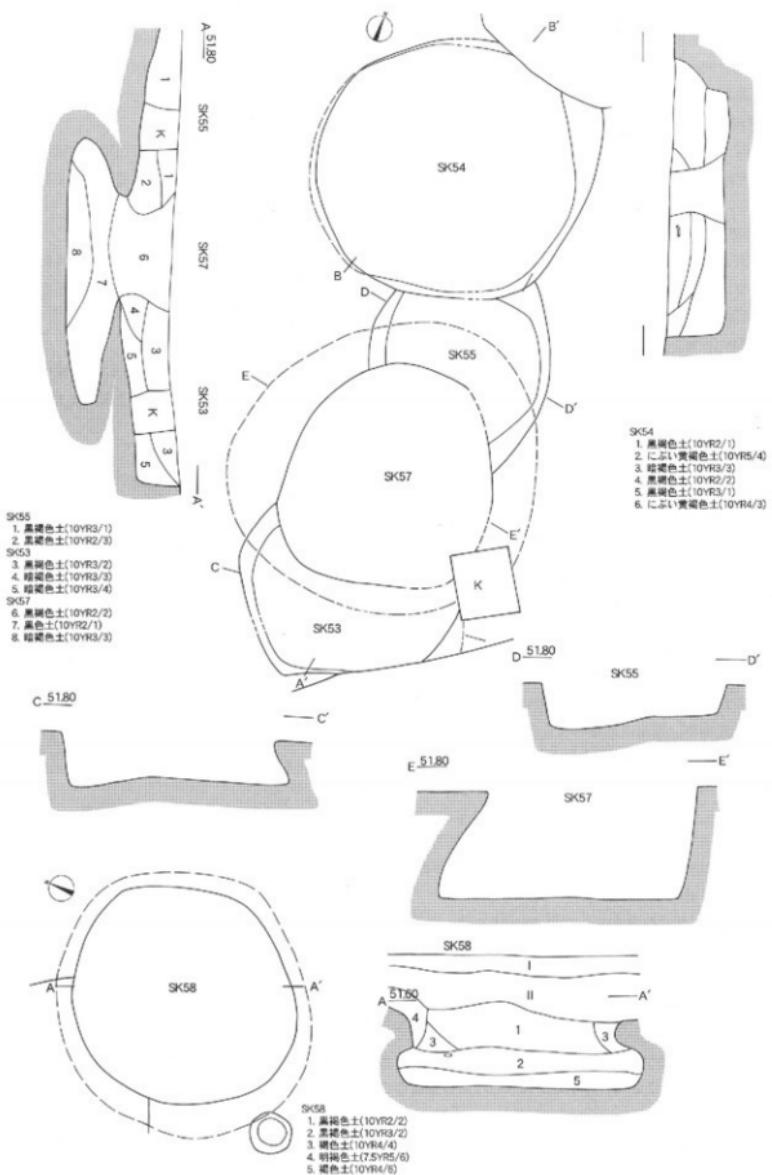
調査区1次C区に位置する。東側でSK66を切っている。上面径192×199cmの円形。深さ80.5cmを測り、壁面はほぼ垂直気味に立ち上がる。底面は平坦で内部施設としてセンターピットが1本検出された。中央やや西寄りに位置し、径16×22cmの楕円形で、深さ16cm。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK65 (Fig.16)**

調査区1次C区に位置する。南側の大半は未調査区域に広がっている。上面径217cmの円形。深さ56cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。覆土は7層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK66 (Fig.16)**

調査区1次C区に位置する。西側でSK64に切られ、東側は未調査区域に広がっている。上面径184cmの略方形



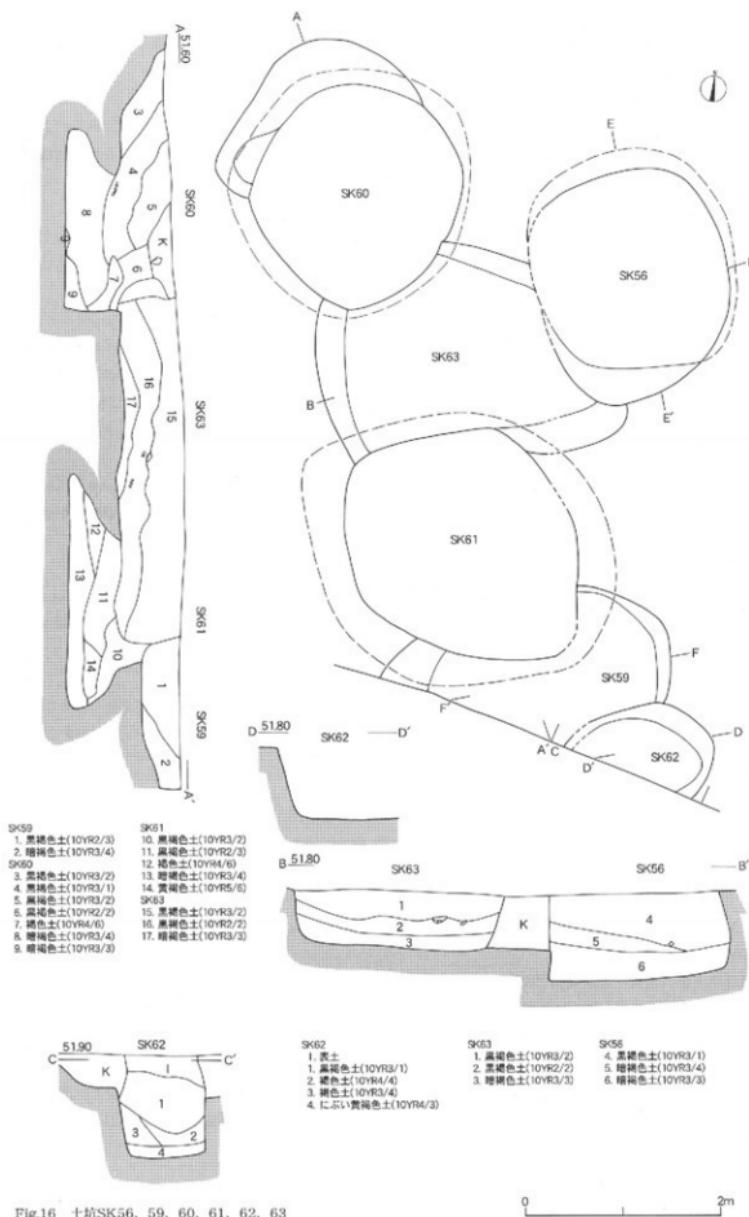


Fig.16 土坑SK56, 59, 60, 61, 62, 63

を呈する。深さ57cmを測り、壁面は垂直気味に立ち上がる袋状。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK67 (Fig.16)**

調査区1次C区に位置する。北東側でSK68を切って構築され、南西側は未調査区域に広がっている。上面径239cmの円形。円筒状底面で、深さ46cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK68 (Fig.17)**

調査区1次C区に位置する。北東側でSK67に切られ、東側1/3は未調査区域に広がっている。上面径230cmの円形。底面が南側に大きく張り出した袋状で、深さ79.5cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で、南北側は内傾して柱穴状掘り込みが2ヶ所。南側P1は径38cmの円形で、深さ21cm。北側P2は径20cmの円形で、深さ15cm。覆土は7層からなる自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

#### **土坑SK69 (Fig.18)**

調査区1次C区に位置する。東側でSK70に切られ、南側が未調査区域に広がっている。上面径164cm、底面径202cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ114cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所。南側P1は径38cmの円形で、深さ21cm。北側P2は径20cmの円形で、深さ15cm。覆土は7層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期大木B式の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK70 (Fig.18)**

調査区1次C区に位置する。西側でSK69を切り、南側が未調査区域に広がっている。上面径140cmの円形を呈する。深さ13cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は黒褐色土の單一層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK71 (Fig.18)**

調査区1次C区に位置する。南側が未調査区域に広がっている。上面径213cmの方形を呈する。深さ125cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は7層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK72 (Fig.18)**

調査区1次C区に位置する。南側が未調査区域に広がっている。上面径220cmの円形。底面が北側に張り出した袋状で、深さ69cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は9層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK73 (Fig.18)**

調査区2次A区に位置する。北東側でSK74に切られている。上面径186×197cmの円形。深35cmを測り、壁面は垂直気味に立ち上がる袋状。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK74 (Fig.18)**

調査区2次A区に位置する。西側でSK73を切っている。上面径190×205cmの円形。深さ35cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK75 (Fig.19)**

調査区2次A区に位置する。東側でSK76を切っている。上面径159×173cmの円形。深さ20cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK76 (Fig.19)**

調査区2次A区位置する。SK75、78に切られている。上面径196×232cm、N-67°-Eをとる椭円形。深さ12cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。P1は径27×28cmの円形で、深さ26cm。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土していない。

#### **土坑SK77 (Fig.19)**

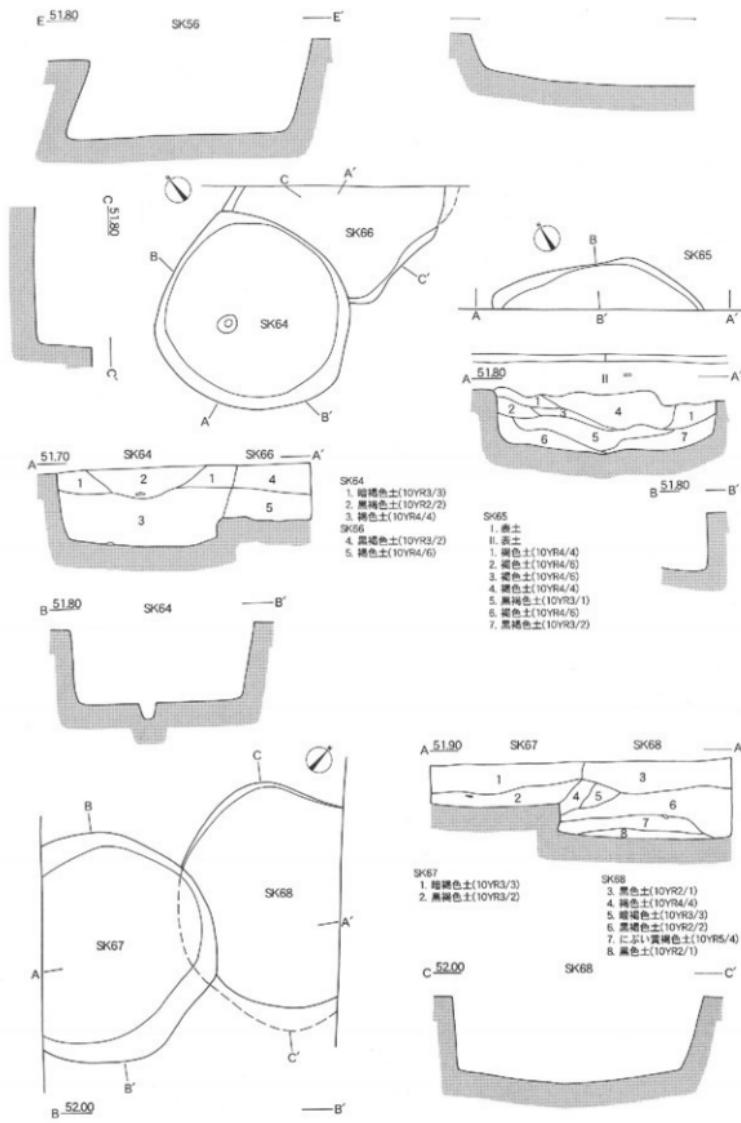
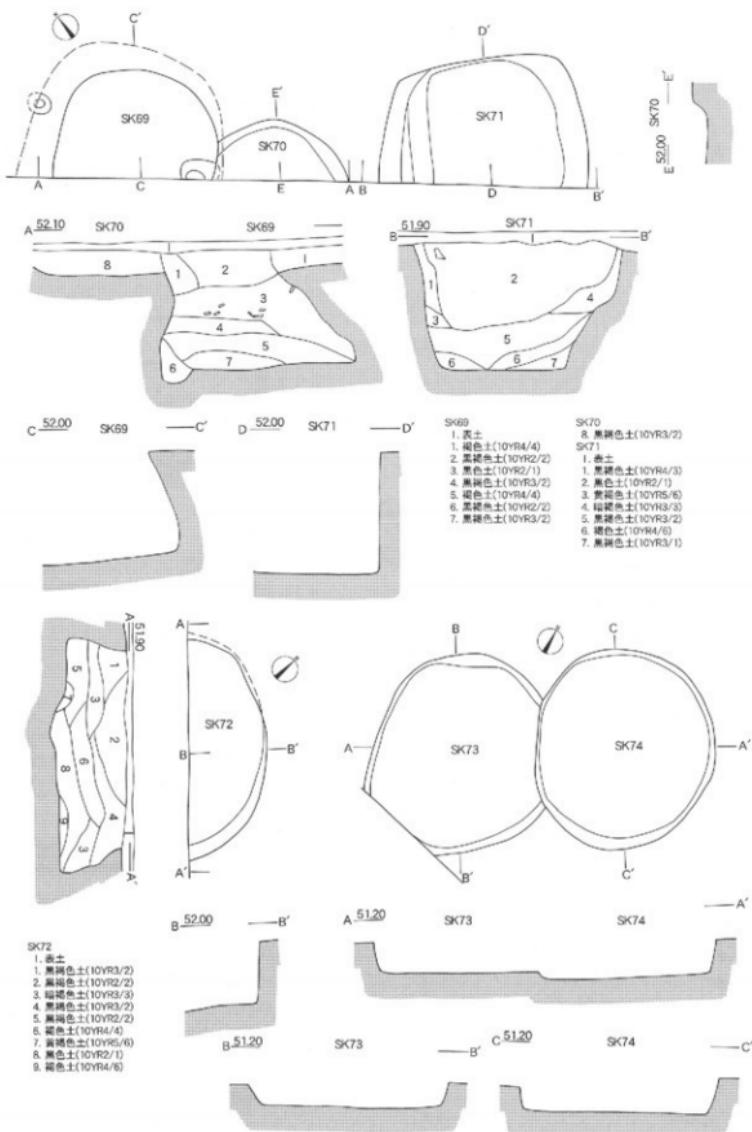


Fig.17 土坑SK64、65、66、67、68



調査区2次A区に位置する。本跡は3/4を保存区域に広がっている。深さ35cmを測り、壁面は内傾して立ち上がるフ拉斯コ状。底面は平坦。覆土は2層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK78 (Fig.19)

調査区2次A区に位置する。西側でSK76を切り、一部保存区域に広がっている。上面径267cmの円形。底面が全面に張り出した袋状で、深さ51cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器が覆土から出土した。

#### 土坑SK79 (Fig.7)

調査区2次A区に位置する。西側でSK17に切られ、東側が未調査区域に広がっている。上面径267cmの円形。底面が全面に張り出した袋状で、深さ51cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK80 (Fig.19)

調査区2次A区に位置する。上面径211×216cmの円形。深さ17cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる袋状。底面は平坦で、覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK81 (Fig.19)

調査区2次A区に位置する。南側でSK83を切っている。上面径240×250cmの円形。深さ24cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

#### 土坑SK82 (Fig.20)

調査区2次A区に位置する。上面径196×222cmの円形。深さ36cmを測り、壁面は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK83 (Fig.19)

調査区2次A区に位置する。南側でSK81に切られている。上面径236×250cmの円形。底面が北東側に張り出したフ拉斯コ状で、深さ56cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期阿玉台I b式・大木7b式の土器と石器が覆土から出土した。

#### 土坑SK84 (Fig.20)

調査区2次A区に位置する。上面径217×220cmの円形。底面が南東側にわずかに張り出した袋状で、深さ22cmを測り、南東壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

#### 土坑SK85 (Fig.20)

調査区2次A区に位置する。上面径60×75cmの円形。深さ52cmを測り、壁面は内傾して立ち上がり、底面は平坦な袋状である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK86 (Fig.20)

調査区2次A区に位置する。上面径121×130cmの円形。深さ23cmを測る円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

#### 土坑SK87 (Fig.6)

調査区1次A区に位置する。東側を未調査区域に一部広がる。上面径210×205cmの円形。深さ26cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが4ヶ所検出された。P1は、北壁際径27×41cm、深さ31cmの楕円形。P2は、北壁際径59×66cm、深さ33cm。P3は、西側径26×26cm、深さ35cmの円形。P4は、南壁際径75×(53)cm、深さ44cmの円形。覆土は自然堆積である。本跡は南側でSK10を切っている。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK88 (Fig.20・21)

調査区2次A区に位置する。北西側でSK126に切られている。上面径175cmの円形。深42cmを測り、壁面は外

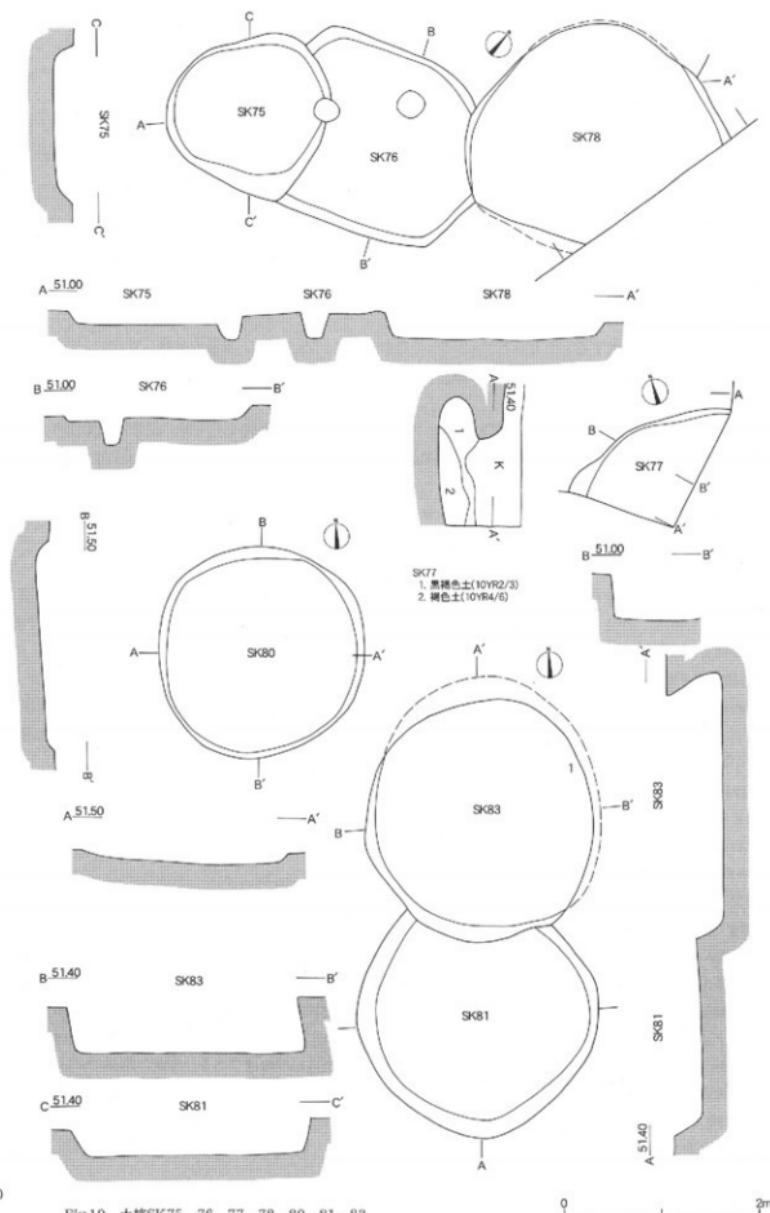


Fig.19 土坑SK75, 76, 77, 78, 80, 81, 83

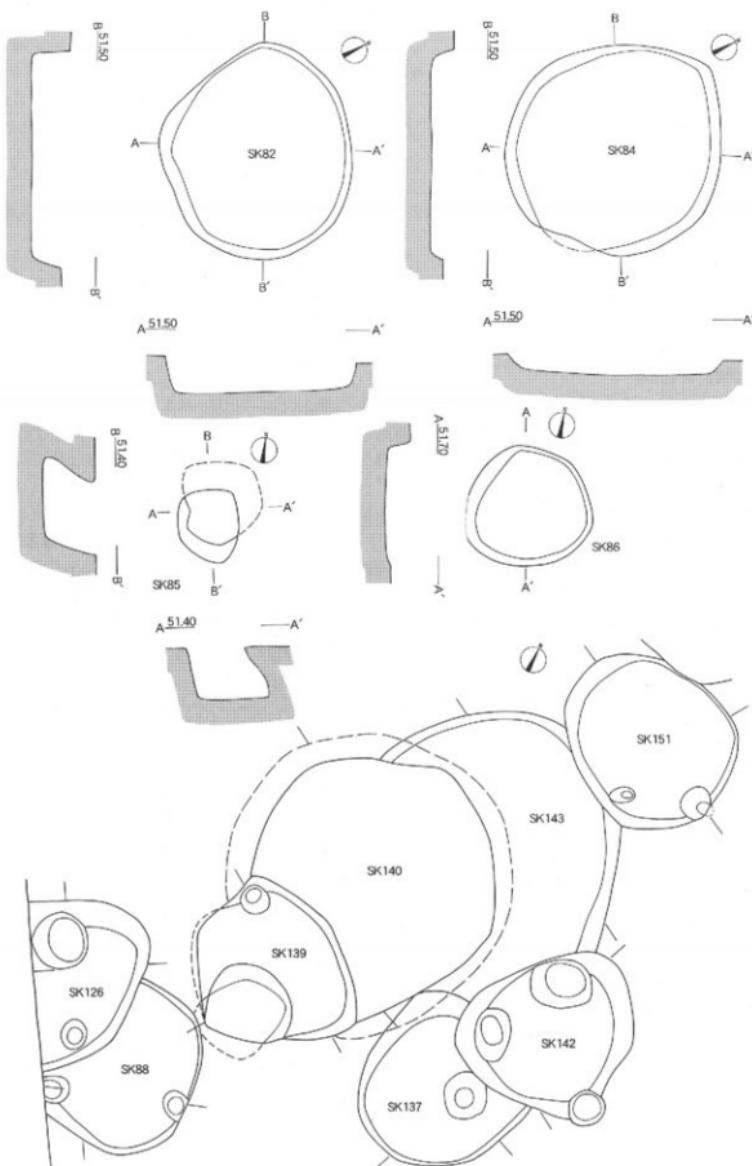


Fig.20 土坑SK82, 84, 85, 86, 88, 126, 137, 139, 140, 142, 143, 151

傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。P1は径24cmの円形で、深さ13cm。P2は径30cmの円形で、深さ14cm。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK89 (Fig.21)**

調査区2次A区に位置する。上面径95×112cmの円形。深さ63cmを測る。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK90 (Fig.21)**

調査区2次A区に位置する。上面径100×102cmの円形。深さ78cmを測る。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK91 (Fig.22)**

調査区2次A区に位置する。上面径124×175cm、長軸方向をN-59°-Eにとる楕円形。深さ10cmを測り、底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。P1は径24×28cmの円形で、深さ32cmである。図示できる遺物は出土しなかった。

#### **土坑SK92 (Fig.22)**

調査区2次A区に位置する。西側を見調査区域に広がる。上面径190cmの円形。深さ13cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる袋状。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所。P1は径28×33cmの円形で、深さ24cm。P2は径35×44cmの円形で、深さ34cm。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK93 (Fig.22)**

調査区2次A区に位置する。東側でSK94を切って構築している。上面径189cmの円形。深さ12cmを測り、底面は平坦で内部施設としてセンターピットとサイドポケットの2ヶ所。P1は径60×77cmの楕円形で、深さ3cm。P2は径19×31cmの楕円形で、深さ46cm。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

#### **土坑SK94 (Fig.22)**

調査区2次A区に位置する。西側でSK93に切られている。上面径256×264cm、底面径271×274cmの円形。底面が全面外側に突出したフラスコ状で、深さ52cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石棒が覆土から出土した。

#### **土坑SK95 (Fig.22)**

調査区2次C区に位置する。南西側でSK96に切られている。上面径207×224cmの円形。深さ23cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土はにぶい黄褐色土の單一層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK96 (Fig.22)**

調査区2次C区に位置する。北東側でSK95を切っている。上面径205×226cmの円形。深さ33cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦で、内部施設として東壁際に柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。P1は径84×88cmの円形で、深さ52cmである。覆土は3層からなる自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

#### **土坑SK97 (Fig.23)**

調査区2次C区に位置する。南側が未調査区域に広がる。上面径197cmの円形。深さ19cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期・大木8b式の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK98 (Fig.23)**

調査区2次C区に位置する。上面径237×256cmの円形。深さ35cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。P1は径48×61cmの楕円形で、深さ39cmである。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK99 (Fig.23)**

調査区2次C区に位置する。西側でSK100を切り、大半は南側未調査区域に広がっている。上面径163cmの内

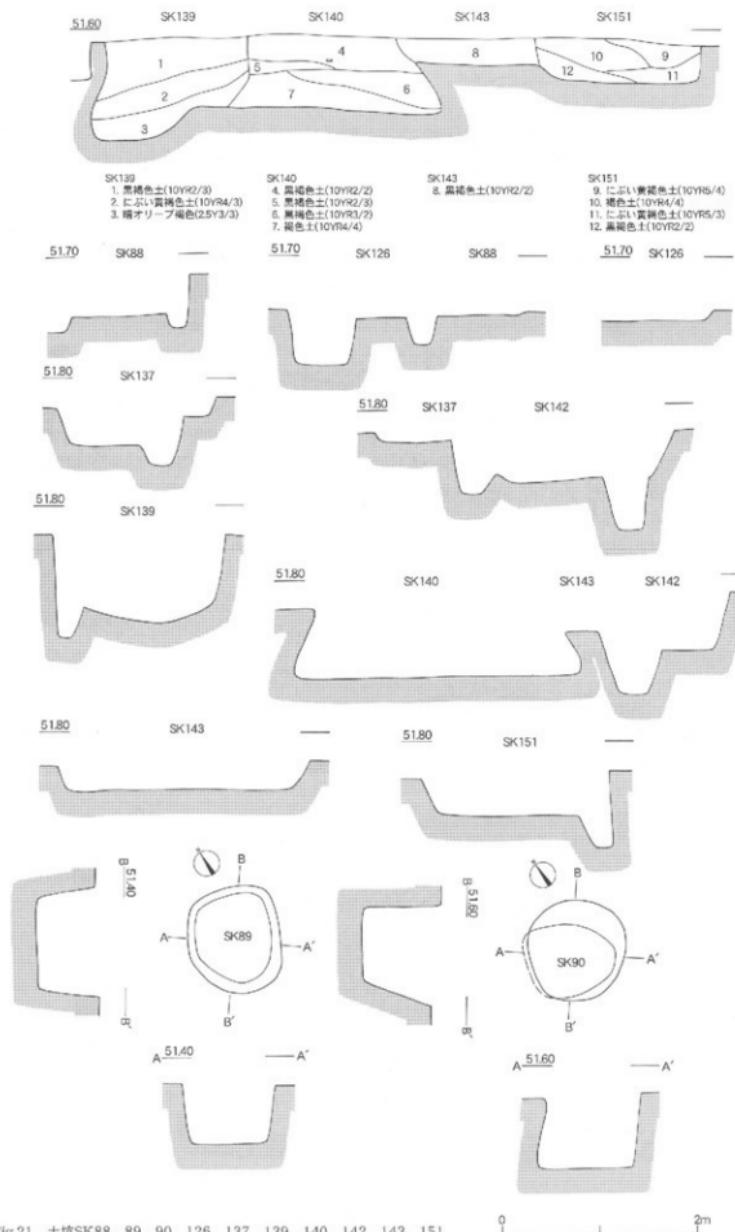
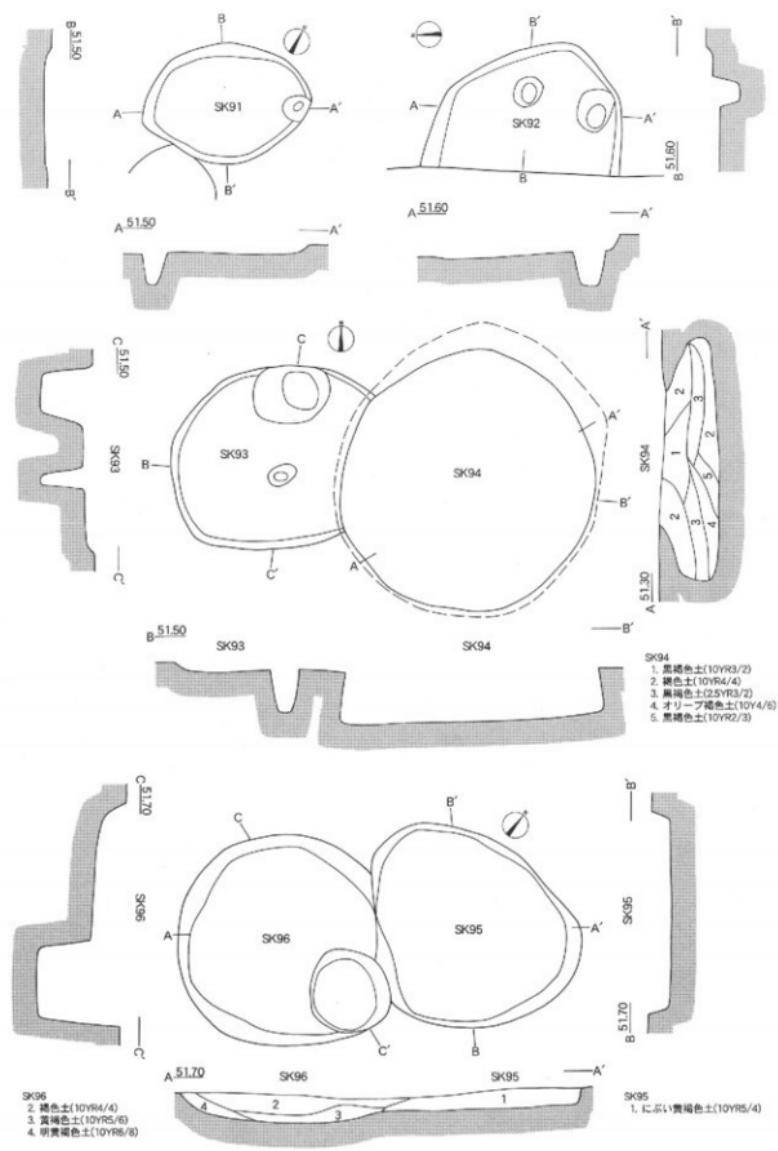


Fig.21 土坑SK88、89、90、126、137、139、140、142、143、151



形。深さ23cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

#### **土坑SK100 (Fig.23)**

調査区2次C区に位置する。西側でSK100に切られ、東側の一部が未調査区域に広がっている。上面径190×210cm、底面径255×256cmの円形。底面が全周外側に突出したフ拉斯コ状で、深さ84cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦。覆土は4層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK101 (Fig.24・25)**

調査区2次C区に位置する。上面径170×213cm、底面径317×318cmの円形。底面が外側に突出したフ拉斯コ状で、深さ104cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が出土した。

#### **土坑SK102 (Fig.24・25)**

調査区2次C区に位置する。上面径80×95cmの円形。深さ22cmを測る。遺物は縄文中期・浅鉢の胴部破片が覆土から出土した。

#### **土坑SK103 (Fig.24・25)**

調査区2次C区に位置する。西側でSK104に切られている。上面径166cmの円形。深さ20cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期・大木8a式の小破片が出土した。

#### **土坑SK104 (Fig.24・25)**

調査区2次C区に位置する。東側でSK103を切り、西側の大半が未調査区域に広がっている。上面径193cm、底径194cmの円形。深さ26cmを測り、底面がわずかに外側に張り出す袋状で、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が出土した。

#### **土坑SK105 (Fig.24・25)**

調査区2次C区に位置する。南側でSK107を切っている。また西側半分が未調査区域に広がっている。上面径285cm、底径300cmの円形。底面が全周外側に張り出した袋状で、深さ32cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は6層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の土器片と石器が出土した。

#### **土坑SK106 (Fig.24・25)**

調査区2次C区に位置する。西側でSK116に切られている。上面径214cmの円形。底面が南側に張り出したフ拉斯コ状で、深さ68cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。P1は径44cmの円形で、深さ59cm。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期大木8b式の土器が出土した。

#### **土坑SK107 (Fig.24)**

調査区2次C区に位置する。北側でSK105と南側でSK116に切られ、西側半分が未調査区域に広がっている。上面径202cm、底面径272cmの円形。底面が全面外側に突出したフ拉斯コ状で、深さ112cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は7層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の土器が出土した。

#### **土坑SK108 (Fig.23)**

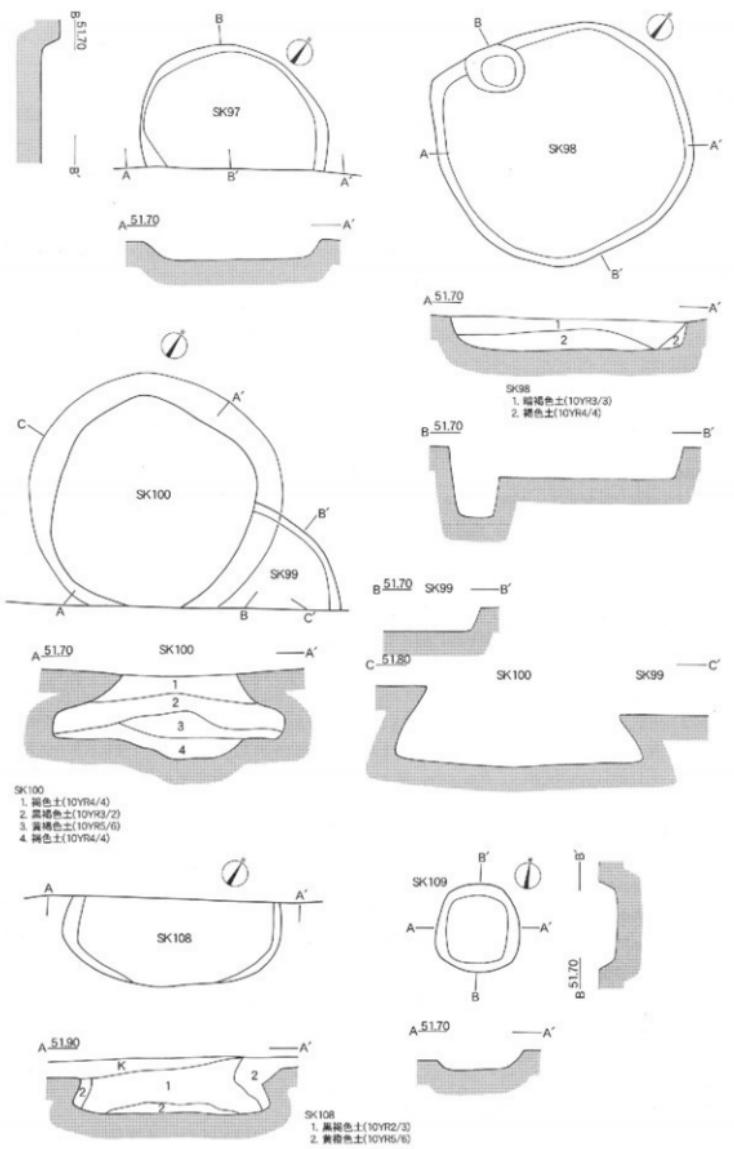
調査区2次C区に位置する。北側の半分が未調査区域に広がっている。上面径210cmの円形。深さ2cmを測り、底面は平坦で袋状である。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が出土した。

#### **土坑SK109 (Fig.23)**

調査区2次C区に位置する。上面径86×90cmの円形。深さ19cmを測り、底面は平坦である。図示できる遺物の出土はなかった。

#### **土坑SK110 (Fig.25)**

調査区に2次C区位置する。北側でSK111に切られている。上面径217×250cm、底面径259×268cmの円形。



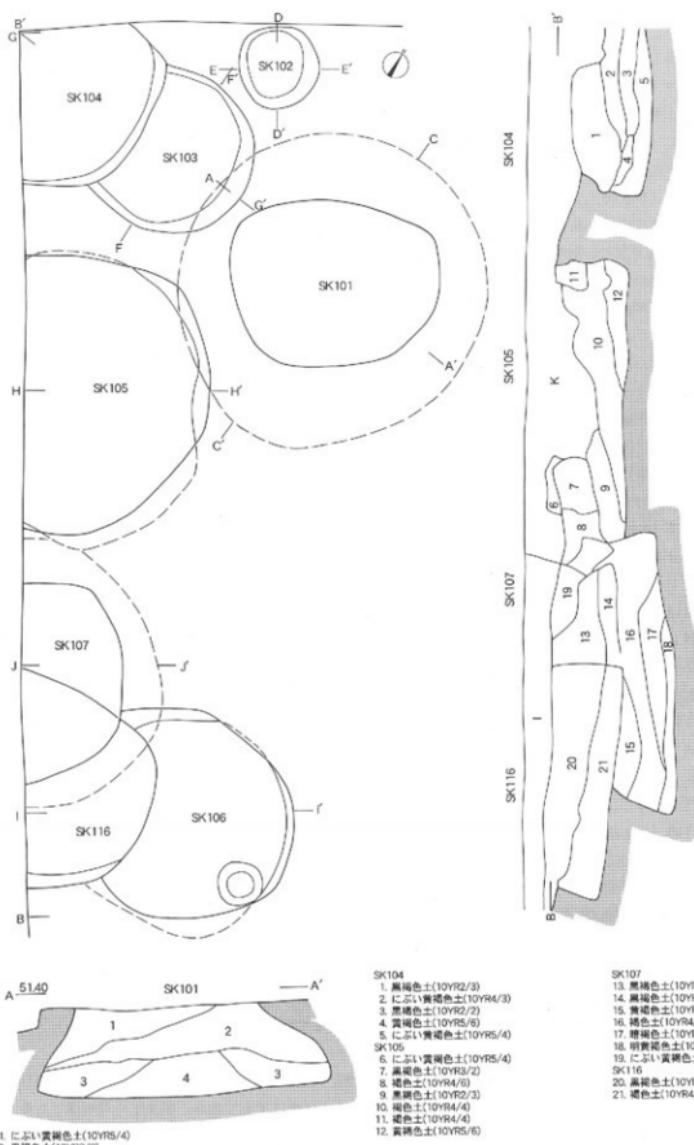


Fig.24 土坑SK101、102、103、104、105、106、107、116

底面が全面に張り出したフラスコ状で、深さ66cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK111 (Fig.25)**

調査区2次C区に位置する。南側でSK110を切って構築している。上面径244cmの円形。底面が東側に張り出した袋状で、深さ40cmを測り、壁面は一部内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK112 (Fig.26)**

調査区2次C区に位置する。上面径184×206cm、底面径184×230cmの円形。底面が全面外側に突出した袋状で、深さ57cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK113 (Fig.26)**

調査区2次C区に位置する。北側の一部が未調査区域に広がっている。上面径230cmの円形。底面が西側に張り出した袋状で、深さ39cmを測り、壁面は垂直気味に立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK114 (Fig.26)**

調査区2次C区に位置する。上面径195×210cmの円形。底面が北側と南側に張り出した袋状で、深さ51cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK115 (Fig.26)**

調査区2次C区に位置する。西側でSK117に大半が切られている。上面径104cmの円形。深さ12cmを測り、底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK116 (Fig.24・25)**

調査区2次C区に位置する。SK106、107を切り、西側の半分は未調査区域に広がっている。上面径222cmの円形。深さ62cmを測り、壁面は垂直気味に立ち上がる袋状。底面は平坦である。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK117 (Fig.26)**

調査区2次C区に位置する。西側でSK115を切っている。上面径178×201cmの円形。底面がほぼ全面に張り出した袋状で、深さ71cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK118 (Fig.26)**

調査区2次B区に位置する。上面径151×157cmの円形を呈する。深さ31cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として南側に掘り込みが1ヶ所検出された。径80cmの円形で、深さ33cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK119 (Fig.27)**

調査区2次B区に位置する。南側約1/4は未調査区域に広がっている。上面径204cm、底面径231cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ63cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK120 (Fig.28)**

調査区2次B区に位置する。上面径200×219cm、底面径196×219cmの円形。底面が全面外側に張り出したフラスコ状で、深さ57cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

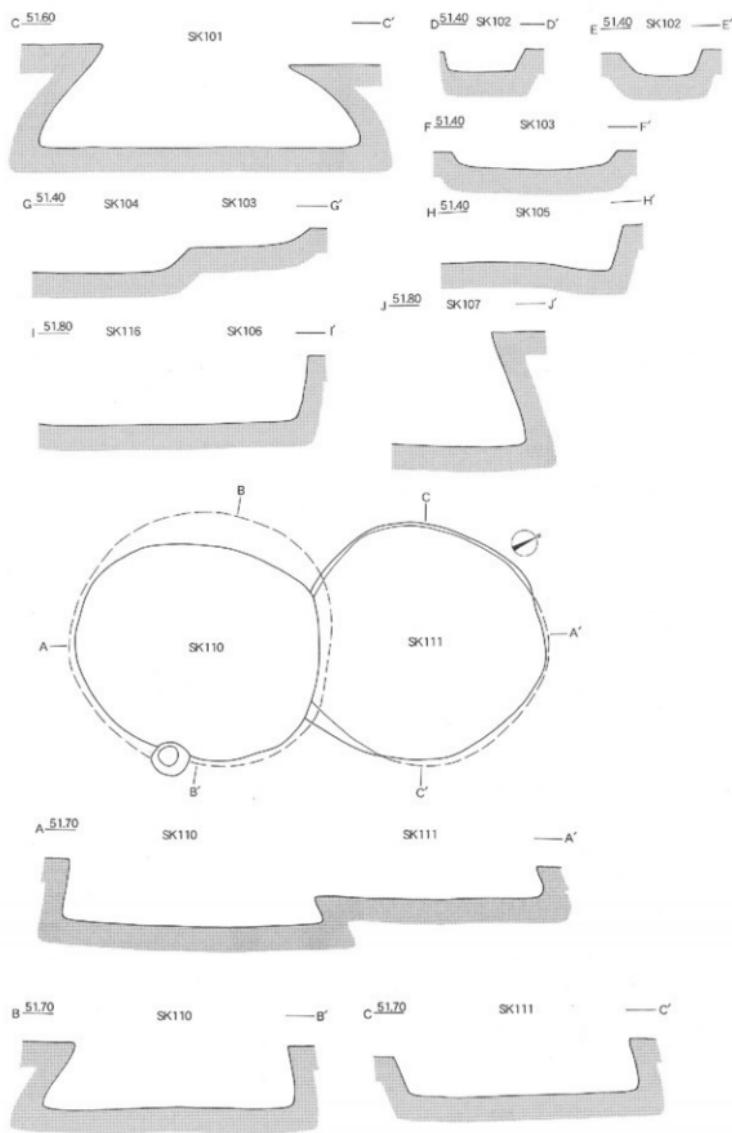


Fig.25 土坑SK101, 102, 103, 104, 105, 106, 110, 111, 116

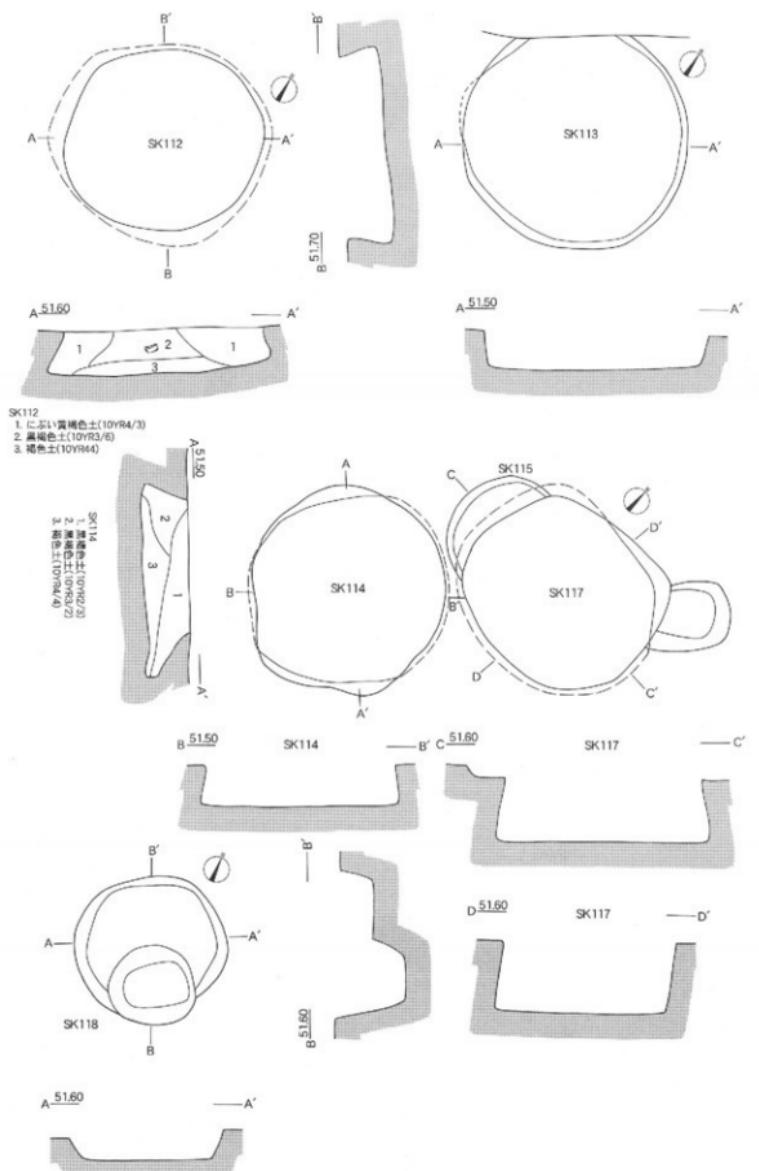


Fig.26 土坑SK112, 113, 114, 115, 117, 118

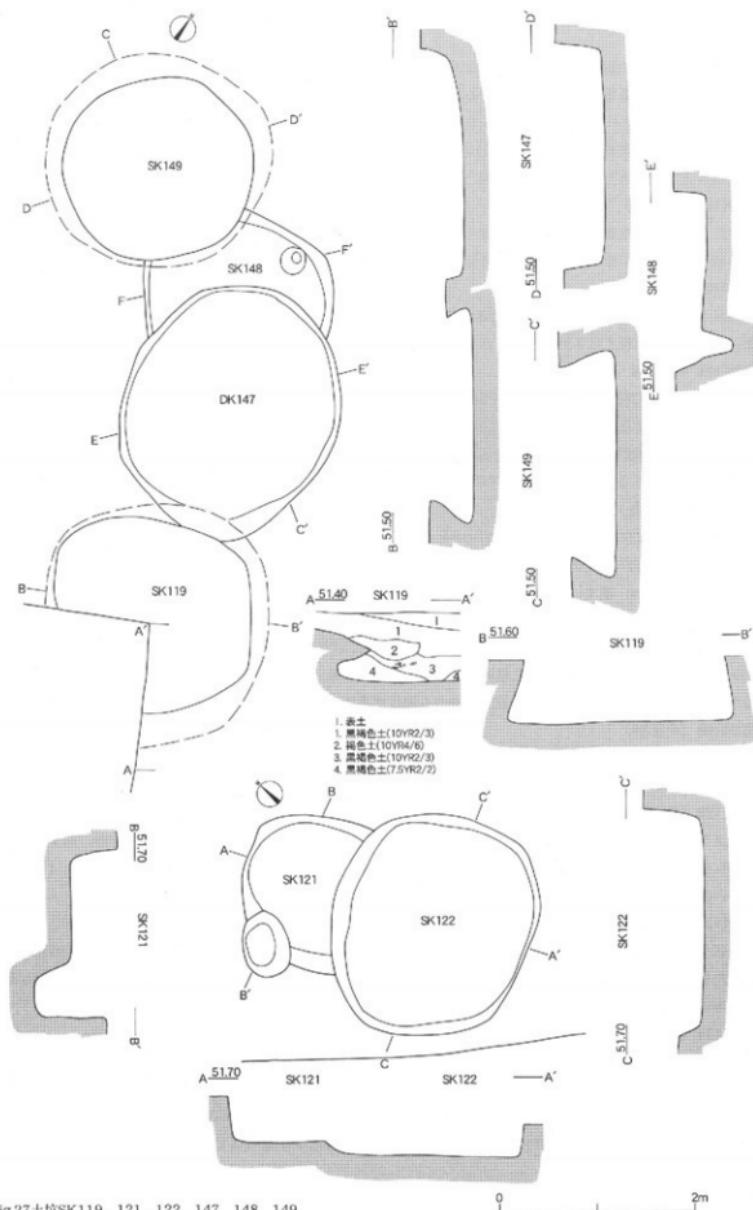


Fig.27土坑SK119、121、122、147、148、149

**土坑SK121 (Fig.27)**

調査区2次B区に位置する。南側でSK122に切られている。上面径156cmの円形。深さ35cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK122 (Fig.27)**

調査区2次B区に位置する。北側でSK121を切っている。上面径205×233cmの円形。深さ61cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK123 (Fig.28)**

調査区2次B区に位置する。上面径209×220cmの円形。底面が北側に張り出した袋状で、深さ35cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK124 (Fig.28)**

調査区2次B区に位置する。上面径193×211cmの円形。深さ43cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK125 (Fig.28・29)**

調査区2次B区に位置する。北東側でSK133に切られている。また南側の一部が未調査区域に広がっている。上面径297cm、長軸方向をN-25°-Wにとり圓丸方形を呈する。深さ53cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが中央に1ヶ所検出された。センターピットP1は径44×50cmの円形で、深さ47cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK126 (Fig.20・21)**

調査区2次B区に位置する。南東側でSK88を切っている。上面径173cmの円形。深さ10cmを測り、底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。P1は径57×59cmの円形で、深さ49cm。P2は径26×30cmの円形で、深さ28cm。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK127 (Fig.29)**

調査区2次B区に位置する。大半が未調査区域に広がっている。上面径163cmの円形。深さ42cmを測り、底面は北壁が外側に張り出した袋状で、北壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土はにぶい黄褐色土の單一層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK128 (Fig.29)**

調査区2次B区に位置する。上面径175×222cm、長軸方向をN-3°-Eにとる精円形。深さ31cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK129 (Fig.28)**

調査区2次B区に位置する。西側の大半は未調査区域に広がっている。上面径195cmの圓丸方形。底面がわずかに外側に張り出した袋状で、深さ32cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。図示できる遺物出土しなかった。

**土坑SK130 (Fig.29)**

調査区2次B区に位置する。上面径217×230cm、底面径225×239cmを測り、円形。底面が西側から南側に張り出した袋状で、深さ35cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期大木8b式土器と石器が覆土から出土した。

**土坑SK131 (Fig.29)**

調査区2次B区に位置する。上面径200×213cmの円形。底面が北側と南側に張り出した袋状で、深さ51cmを測り、壁面は北側と南側に内傾し、東側と西側が外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。サイドピット西側P1は径32×34cmの円形で、深さ38cmである。サイドピット東側P2は径32×45cmの円形で、深さ27cmである。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期大木8b式

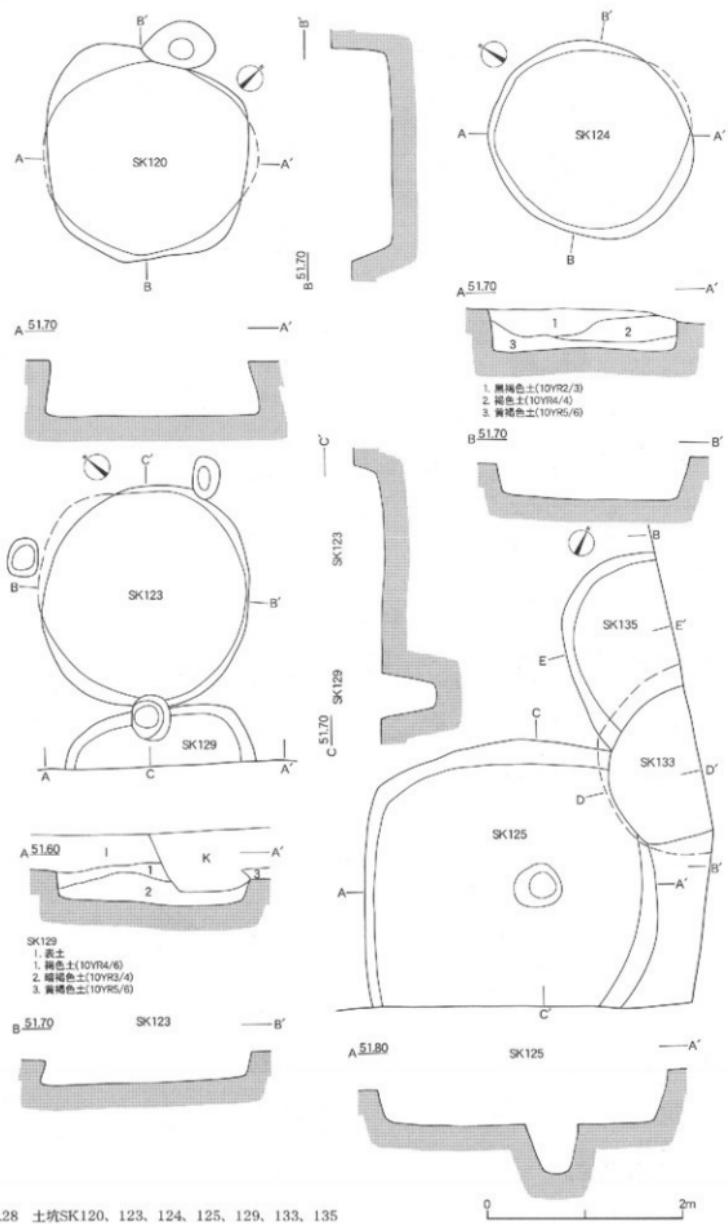
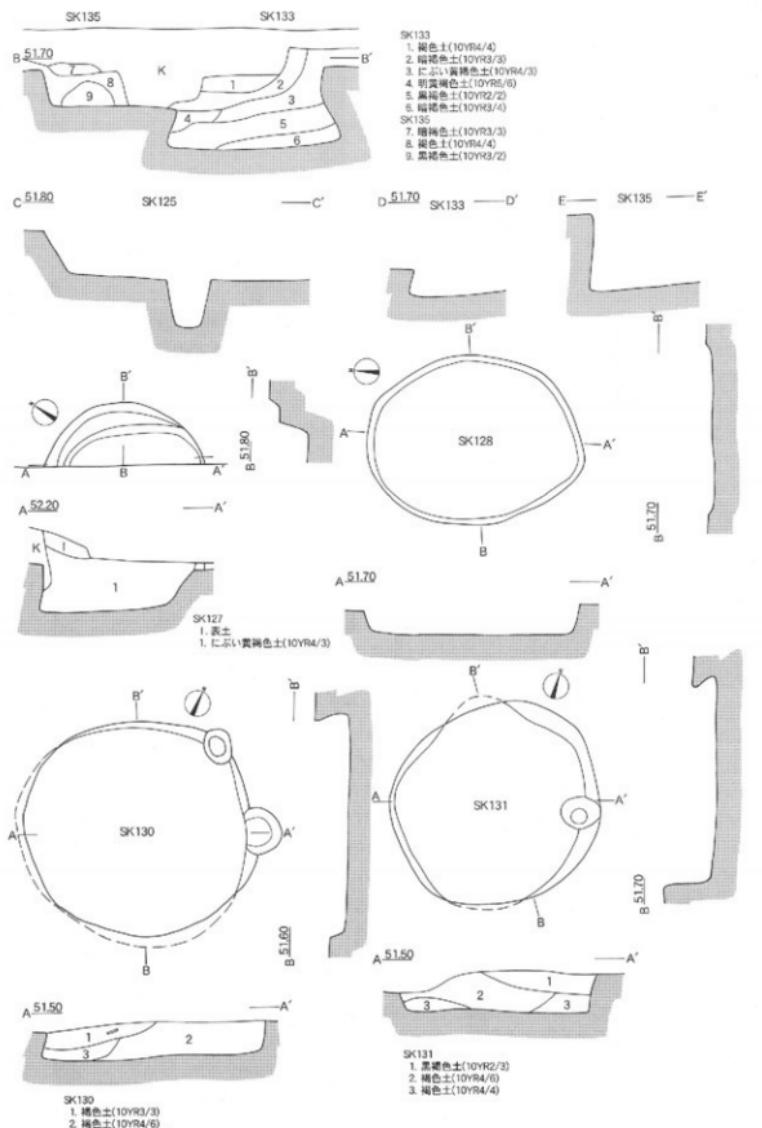


Fig.28 土坑SK120、123、124、125、129、133、135



の土器が南壁際から底面から7cm浮いて出土した。

#### **土坑SK132 (Fig.30)**

調査区2次B区に位置する。上面径192×228cm、底面径232×264cmの略円形。底面が全周外側に突出したプラスコ状で、深さ108cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期阿玉台Ⅱ・Ⅲ式・大木8b式の土器が東壁際に集中して出土している。完形の深鉢・浅鉢土器が纏まっていた。

#### **土坑SK133 (Fig.28)**

調査区2次B区に位置する。北側でSK135、南西側でSK125を切っている。また東側約半分は未調査区域に広がる。さらに中央付近は大きな擾乱を受けている。上面径152cm、底面径195cmの円形。底面が全周外側に突出したプラスコ状で、深さ52cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦。覆土は6層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の土器が覆土から出土した。

#### **土坑SK134 (Fig.30・88)**

調査区2次B区に位置する。上面径172×180cmの楕円形でN-5-Eを指す。深さ49cmを測り、底面がわずかに外側に突出する袋状で、壁面は垂直気味に立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。サイドピット南側P1は径28×29cmの円形で、深さ43cmである。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK135 (Fig.28)**

調査区2次B区に位置する。南側でSK133に切れられ、東側半分は未調査区域に広がっている。また上面から南側にかけて大きな擾乱を受けている。上面径204cmの円形。深さ30cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器が中央底面から8cm浮いて出土した。

#### **土坑SK136 (Fig.30)**

調査区2次B区に位置する。北東側でSK141を切っている。上面径215×221cmの略円形。深さ39cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。南壁際のサイドピットP1は径29×55cmの楕円形で、深さ29cmである。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期大木8a式の土器が南壁際で3個体纏まっていた。

#### **土坑SK137 (Fig.20・21)**

調査区2次B区に位置する。北側でSK142に切られている。上面径163cmの円形。深さ49cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。P1は径42×49cmの円形で、深さ19cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK138 (Fig.30)**

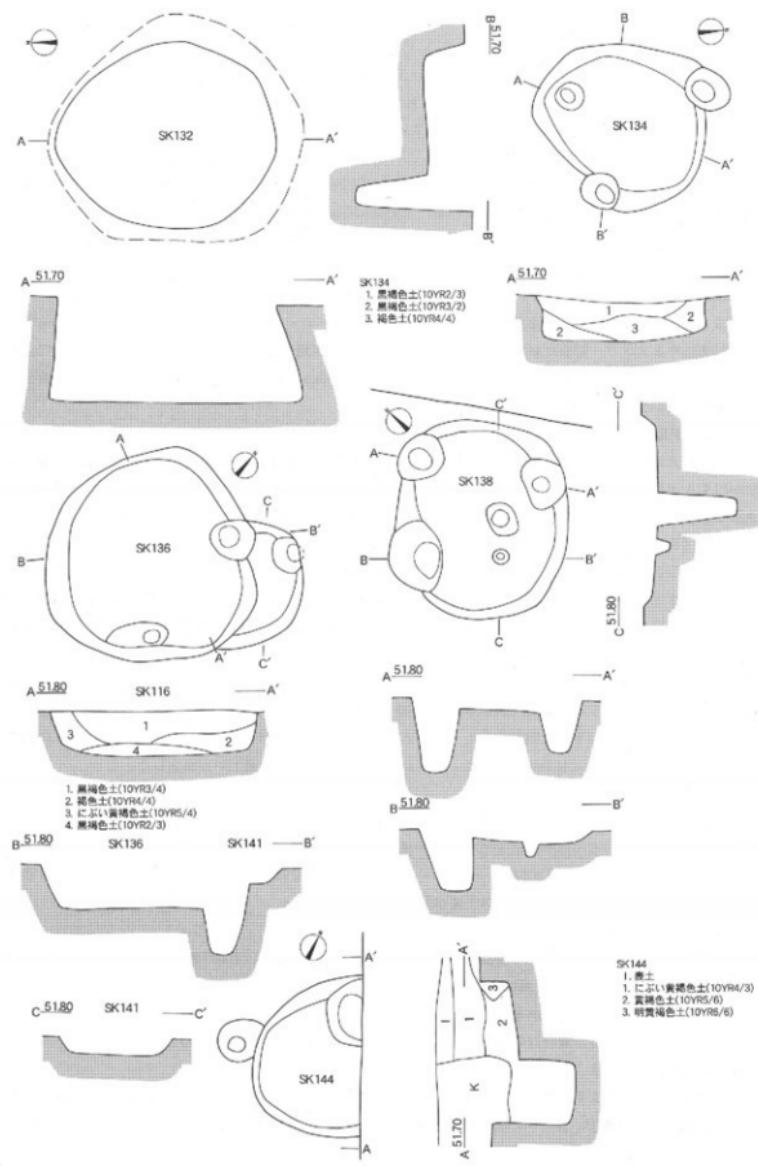
調査区2次B区に位置する。上面径180×204cm、長軸方向をN-50°-Eにとる楕円形。深さ14cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが中央付近に2ヶ所検出された。P1は径14×17cmの円形で、深さ15cm。センターピットであるP2は径30×36cmの円形で、深さ81cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器が覆土から出土した。

#### **土坑SK139 (Fig.20・21)**

調査区2次B区に位置する。北側でSK140を切っている。上面径154×176cmの略円形。底面が西側に張り出した袋状で、深さ90cmを測り、西壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として南側に柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。P1は径76×87cmの円形で、深さ27cm。P2は径28×29cmの円形で、深さ31cm。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期有孔鉢付土器や土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK140 (Fig.20・21)**

調査区2次B区に位置する。南側でSK139に切られている。上面径259cm、底面径295cmの円形。底面が全面外側に突出したプラスコ状で、深さ68cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は4層から



なる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK141 (Fig.30)**

調査区2次B区に位置する。南西側でSK136に切られている。上面径128cmの円形。深さ18cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

#### **土坑SK142 (Fig.20・21)**

調査区2次B区に位置する。SK137、143を切って構築している。上面径150×184cmの円形。深さ57cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。P1は径50×65cmの円形で、深さ54cm。P2は径36×56cmの楕円形で、深さ44cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK143 (Fig.20・21)**

調査区2次B区に位置する。南側でSK140、142に切られている。上面径280cmの円形。深さ25cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は黒褐色土の單一層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK144 (Fig.30)**

調査区2次B区に位置する。北東約半分は未調査区域に広がっている。上面径116cmの円形。深さ40cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。P1は径60cmの円形で、深さ59cmである。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK145 (Fig.31)**

調査区2次B区に位置する。南側でSK150を切っている。上面径235cm、底面径232cmの円形。底面が南側に張り出した袋状で、深さ50cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK146 (Fig.31)**

調査区2次B区に位置する。上面径280×302cmの円形。深さ50cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

#### **土坑SK147 (Fig.27)**

調査区2次B区に位置する。北西側でSK148を切っている。上面径222×260cmの円形。深さ46cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK148 (Fig.27)**

調査区2次B区に位置する。SK147、149に切られている。上面径190cmの円形。深さ32cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK149 (Fig.27)**

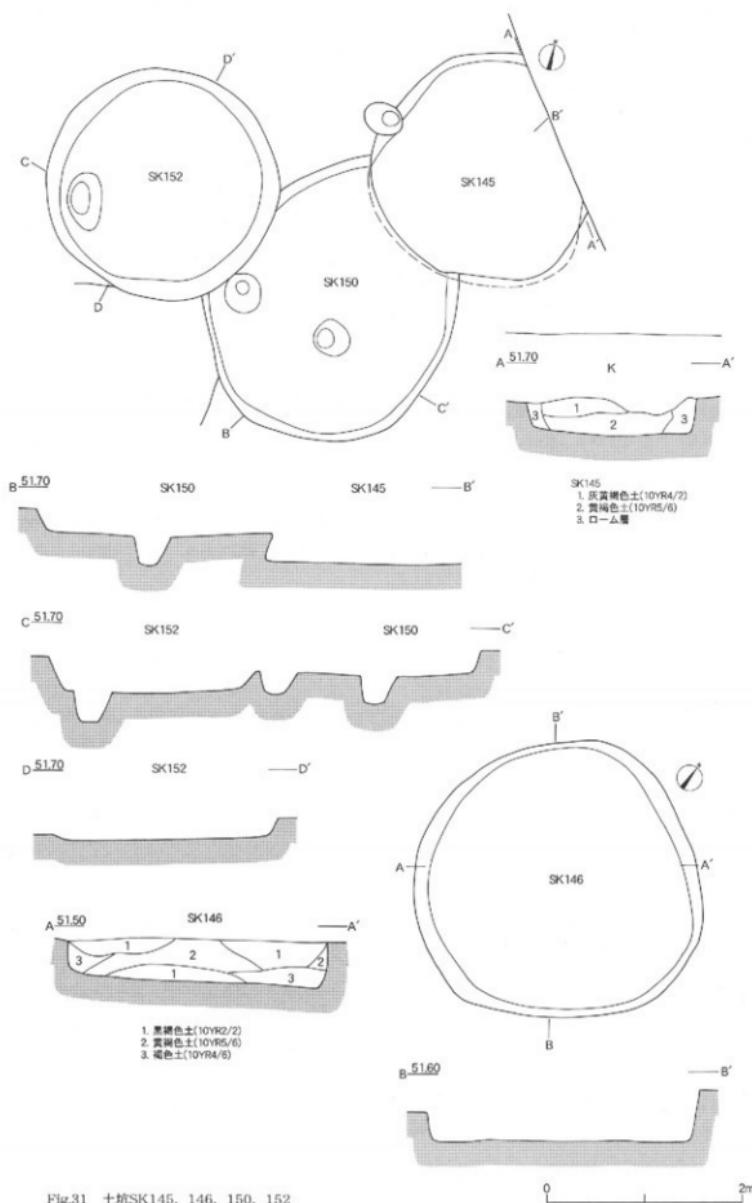
調査区2次B区に位置する。南東側でSK148を切って構築している。上面径186×196cm、底面径224×233cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ42cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK150 (Fig.31)**

調査区2次B区に位置する。SK146、152を切っている。上面径252×255cmの円形。深さ29cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。サイドピットP1は径39×41cmの円形で、深さ24cm。センター・ピットP2は径34×36cmの円形で、深さ28cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器が覆土から出土した。

#### **土坑SK151 (Fig.20・21)**

調査区2次B区に位置する。南側でSK143を切っている。上面径159×192cmの円形。深さ47cmを測り、壁面



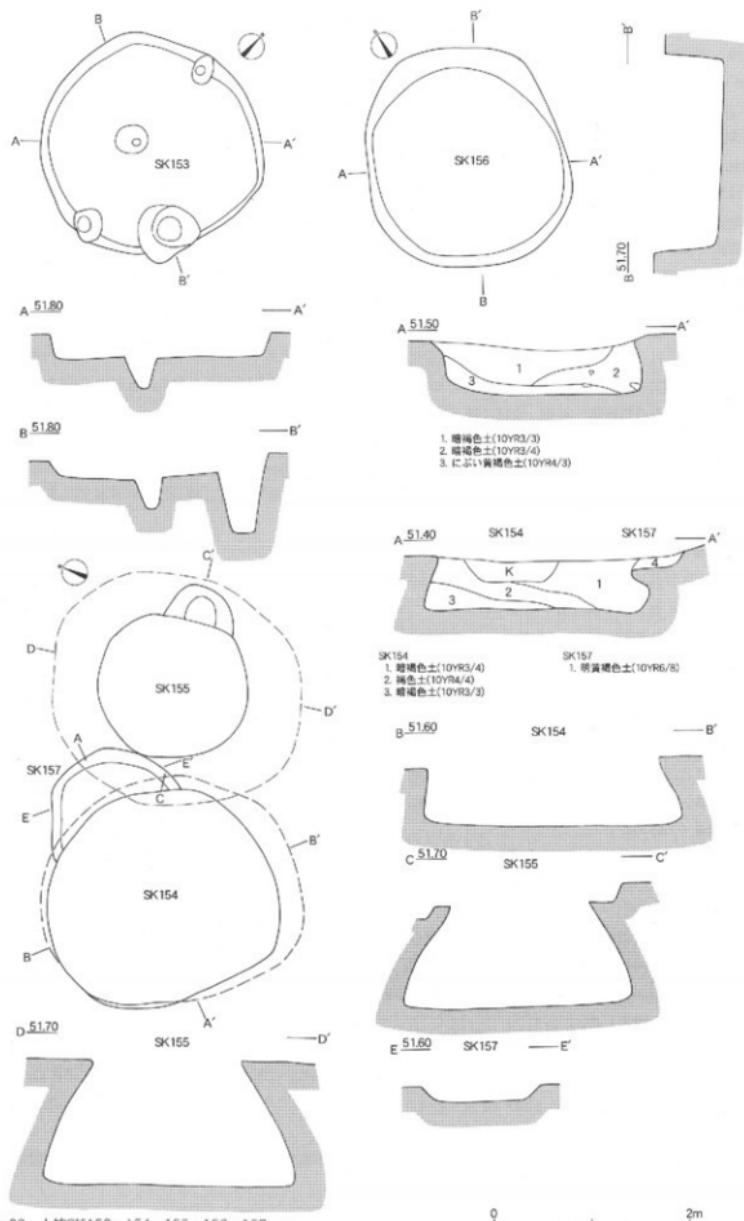


Fig.32 土坑SK153, 154, 155, 156, 157

は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。P1は径29×34cmの円形で、深さ32cm。P2は径17×27cmの楕円形で、深さ26cmである。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK152 (Fig.31)

調査区2次B区に位置する。SK150、151を切って構築している。上面径233×234cmの円形。深さ21cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK153 (Fig.32)

調査区2次B区に位置する。上面径221×234cmの円形。深さ24cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。センタービットP1は径30×32cmの円形で、深さ33cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK154 (Fig.32)

調査区2次B区に位置する。北東側でSK157を切っている。上面径214×236cm、底面径233×266cmの円形。底面が全周外側に突出したフ拉斯コ状で、深さ68cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### 土坑SK155 (Fig.32)

調査区2次B区に位置する。上面径142×157cm、底面径236×257cmの円形。底面が全周外側に張り出したフ拉斯コ状で、深さ125cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK156 (Fig.32)

調査区2次B区に位置する。上面径205×226cmの円形。深さ66cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期大木8b式土器の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK157 (Fig.32)

調査区2次B区に位置する。南西側でSK154に切られている。上面径148cmの円形。深さ13cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

#### 土坑SK158 (Fig.33)

調査区2次B区に位置する。上面径185×225cm、長軸方向をN-68°-Eにとる楕円形。深さ37cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK159 (Fig.33)

調査区2次C区に位置する。南側でSK162を切っている。上面径234×257cmの円形。深さ34cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK160 (Fig.33)

調査区2次C区に位置する。北側でSK161に切られている。上面径180cmの円形。深さ19cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。P1は径26×32cmの円形で、深さ29cm。P2は径28×32cmの円形で、深さ40cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK161 (Fig.33)

調査区2次C区に位置する。南側でSK160を切って構築している。上面径195×202cmの円形。深さ12cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

#### 土坑SK162 (Fig.33)

調査区2次C区に位置する。北側でSK159に切られている。上面径190cmの円形。深さ33cmを測り、壁面は外

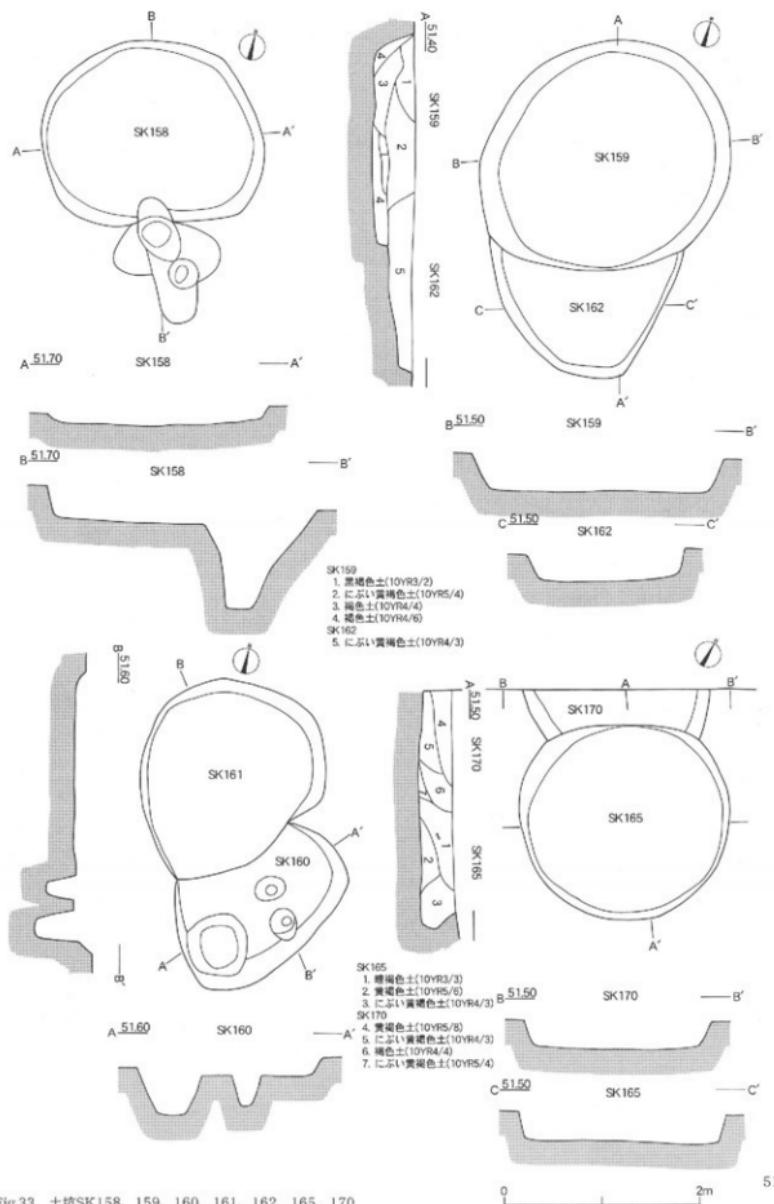


Fig.33 土坑SK158、159、160、161、162、165、170

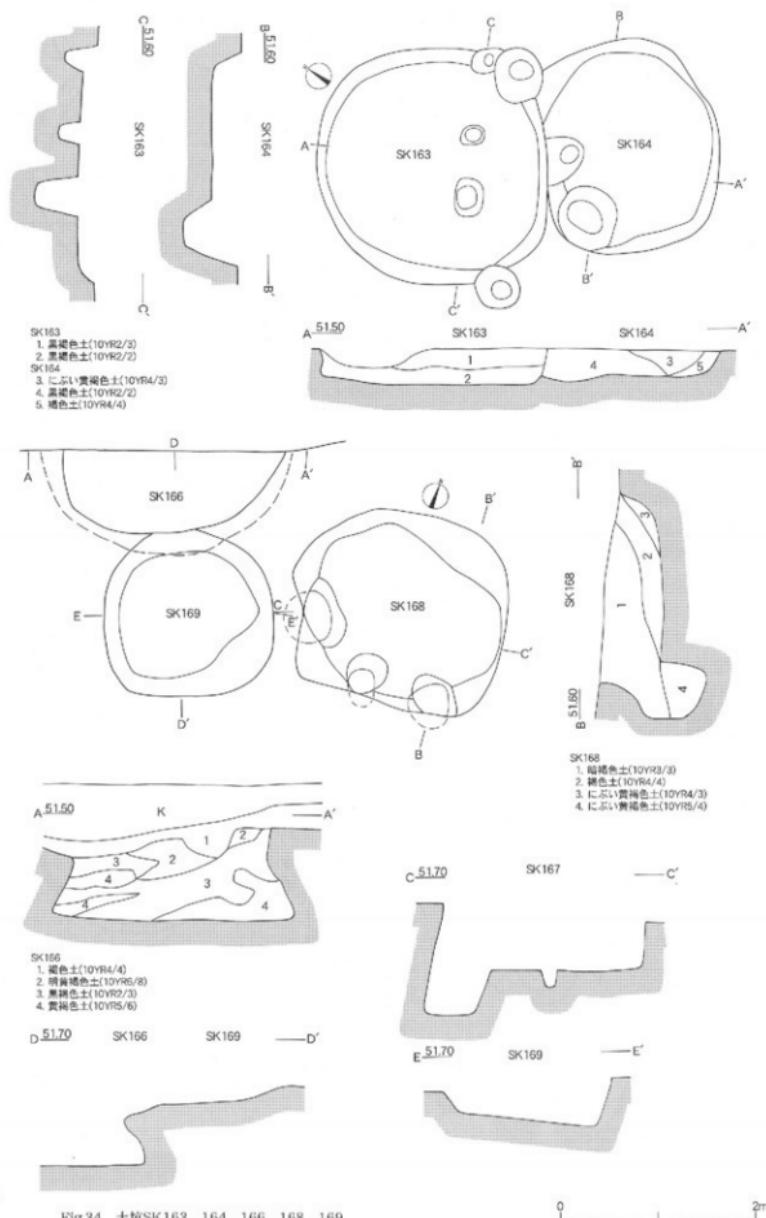


Fig.34 土坑SK163、164、166、168、169

傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK163 (Fig.34)**

調査区2次C区に位置する。南側でSK164を切って構築している。上面径241×261cmの円形。底面は北側がわずかに張り出した袋状で、深さ22cmを測り、壁面は北側が一部内傾するものの、大半は外傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。中央東側P1は径20×25cmの楕円形で、深さ20cmである。中央西側P2は径29×41cmの楕円形で、深さ44cmである。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK164 (Fig.34)**

調査区2次C区に位置する。北側でSK163に切られている。上面径195×223cmの略円形。深さ31cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。北西壁際に位置するP1は径45×47cmの円形で、深さ20cm。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK165 (Fig.33)**

調査区2次C区に位置する。北西側でSK170に切られている。上面径200×215の円形。深さ31cmを測り、底面は外側に張り出す袋状。壁面はわずかに内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK166 (Fig.34)**

調査区2次C区に位置する。南東側の上面をSK169に切られている。また北西側約半分が未調査区域に広がる。上面径230cm、底面径261cmを測り、円形を呈する。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ65cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。覆土は4層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK167 (Fig.35)**

調査区2次C区に位置する。SK215を切っている。北西側約半分が未調査区域に広がっている。上面径159cmの円形。深さ50cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。東壁際に位置するP1は径34×34cmの円形で、深さ34cmのサイドピットである。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK168 (Fig.34)**

調査区2次C区に位置する。上面径230×241cmの円形を呈する。深さ56cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが4ヶ所検出された。南壁際にP1～P3はいずれも壁面に張り出したいわゆる「子ピット」である。南西側P1は径61×71cmの円形で、深さ44cmである。南壁際のP2は径42×57cmの楕円形で、深さ40cmである。南東壁際のP3は径56×60cmの円形で、深さ62cmである。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK169 (Fig.34)**

調査区2次C区に位置する。北西側でSK166を切っている。上面径182×186cmの円形。深さ38cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK170 (Fig.33)**

調査区2次C区に位置する。南東側でSK165の上面を切っている。また北側約半分が未調査区域に広がっている。上面径203cmの円形。深さ31cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK171 (Fig.35)**

調査区2次C区に位置する。北側でSK172に切られている。上面径225cmの円形。深さ26cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。センターピットでP

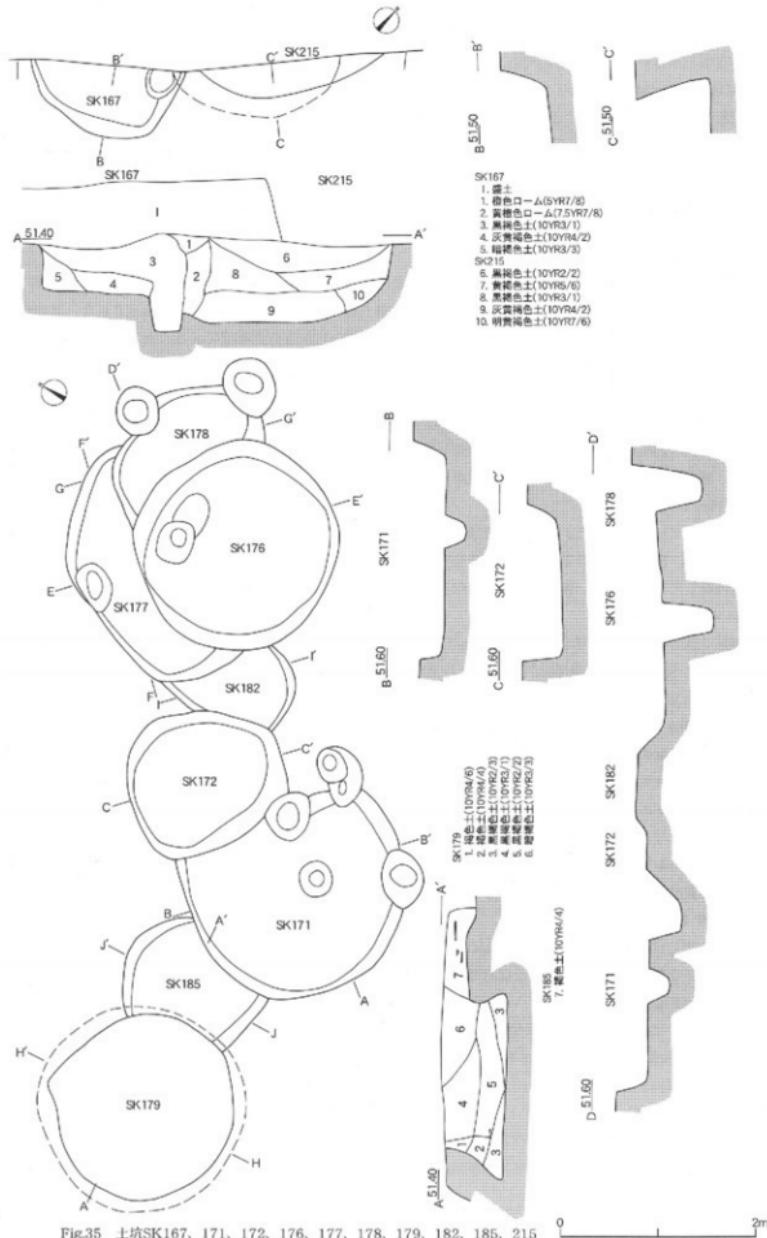


Fig.35 土坑SK167、171、172、176、177、178、179、182、185、215

1は径33×37cmの円形で、深さ21cm。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK172 (Fig.35)

調査区2次C区に位置する。南側でSK171を切っている。上面径146×162cm、長軸方向をN-55°-Wにとする楕円形。深さ40cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK173 (Fig.36)

調査区2次B区に位置する。東側でSK174に切られている。上面径233cmの円形。深さ37cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。北壁際のP1は径54×62cmの円形で、深さ91cm。西壁際のP2は径69×89cmの楕円形で、深さ59cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK174 (Fig.36)

調査区2次B区に位置する。北東側でSK175、西側でSK173を切っている。上面径195×204cm、底面径221×250cmを測り、円形を呈する。底面が全周外側に張り出したフラスコ状で、深さ93cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK175 (Fig.36)

調査区2次B区に位置する。東側でSK190と南西側でSK174に切られている。また北西側は柱穴状遺構によって破壊されている。上面径240×265cmの円形。深さ29cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが3ヶ所検出された。東壁際のP1は径33×36cmの円形で、深さ25cm。南壁際のP2は径50×66cmの楕円形で、深さ35cm。北壁寄りのP3は径68×88cmの楕円形で、深さ74cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### 土坑SK176 (Fig.35・36)

調査区2次C区に位置する。北側でSK177、179、南西側でSK182を切っている。上面径205×223cmの円形。深さ40cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として北壁際には柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。サイドピットP1は径35×45cmの楕円形で、深さ51cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

#### 土坑SK177 (Fig.35・36)

調査区2次C区に位置する。東側でSK176、178に切られている。上面径247cmの円形。深さ15cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として西壁際には柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。サイドピットP1は径29×48cmの楕円形で、深さ27cm。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土。

#### 土坑SK178 (Fig.35・36)

調査区2次C区に位置する。南側でSK176に切られ、西側でSK177を切っている。残存は約1/3程で、上面径161cmの円形。深さ35cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が出土した。

#### 土坑SK179 (Fig.35・36)

調査区2次C区に位置する。東側でSK185を切っている。上面径180×191cm、底面径205×208cmを測り、円形を呈する。底面が全周外側に張り出したフラスコ状で、深さ66cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。覆土は6層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の完形に近い土器が南壁際に接して底面から6cm程浮いて出土した。

#### 土坑SK180 (Fig.37)

調査区2次B区に位置する。東側で擾乱を受けている。上面径172×183cm、底面径190×209cmを測り、円形を呈する。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ84cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。覆土は6層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の大型土器がほぼ中央の覆土中、底面から10cm浮いて出土している。

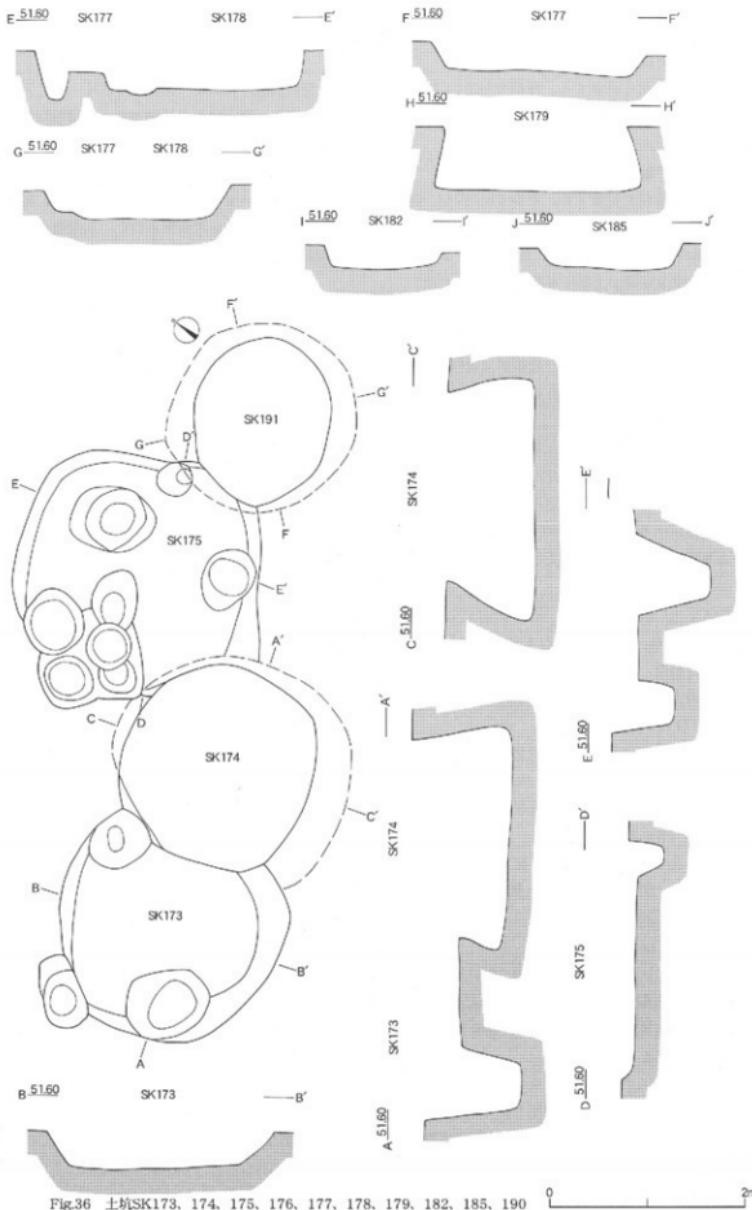


Fig.36 土坑SK173、174、175、176、177、178、179、182、185、190

**土坑SK181 (Fig.37)**

調査区2次C区に位置する。南側で柱穴状遺構に切られている。上面径189×197cmの円形。深さ49cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。覆土は4層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK182 (Fig.35・36)**

調査区2次C区に位置する。本跡は北側でSK177、北東側でSK176、南西側でSK172に切られている。上面径125cm、長軸方向をN-1°-Wにとる梢円形。深さ11cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。覆土は自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

**土坑SK183 (Fig.37・38)**

調査区2次C区に位置する。上面径168×197cm、長軸方向をN-78°-Eにとる梢円形を呈する。深さ44cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

**土坑SK184 (Fig.37)**

調査区2次C区に位置する。南側でSK183に切られ、北東側は未調査区域に広がっている。上面径246cmの円形。深さ34cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

**土坑SK185 (Fig.35・36)**

調査区2次C区に位置する。西側でSK179に、東側でSK171に切られている。上面径141cmの円形。深さ25cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は褐色土の單一層の自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK186 (Fig.38)**

調査区2次C区に位置する。上面径183×220cmの円形。深さ66cmを測り、西壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが4ヶ所検出された。P1は径42×50cmの円形で、深さ33cm。P2は径48×66cmの梢円形で、深さ60cm。P3は径53×63cmの円形で、深さ27cm。P4は径45×47cmの円形で、深さ79cmである。覆土は層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

**土坑SK187 (Fig.38)**

調査区2次C区に位置する。西側半分は未調査区域に広がっている。上面径300cm、底面径220cm、長軸方向をN-52°-Eにとる梢円形を呈する。底面が外側に張り出したフラスコ状で、深さ83cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器が覆土から出土した。

**土坑SK188 (Fig.38)**

調査区2次C区に位置する。南西側でSK192に切られている。上面径204×235cmの円形。深さ119cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は6層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK189 (Fig.39)**

調査区2次C区に位置する。SK207に切られ、側でSK208を切っている。上面径198×245cm、長軸方向をN-13°-Eにとる梢円形。深さ41cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

**土坑SK190 (Fig.36)**

調査区2次B区に位置する。東側でSK191と西側でSK175を切っている。上面径145×171cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ120cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の完形土器が南東壁際の底面から出土した。

**土坑SK191 (Fig.38)**

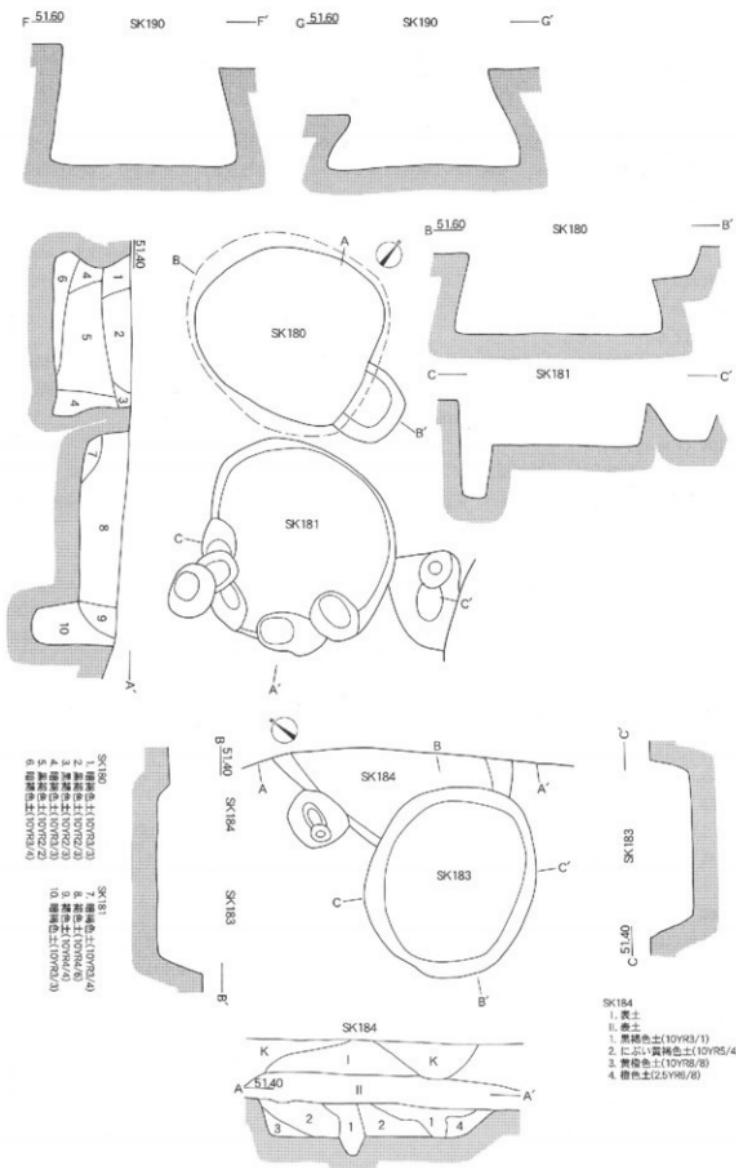


Fig.37 土坑SK180, 181, 183, 184

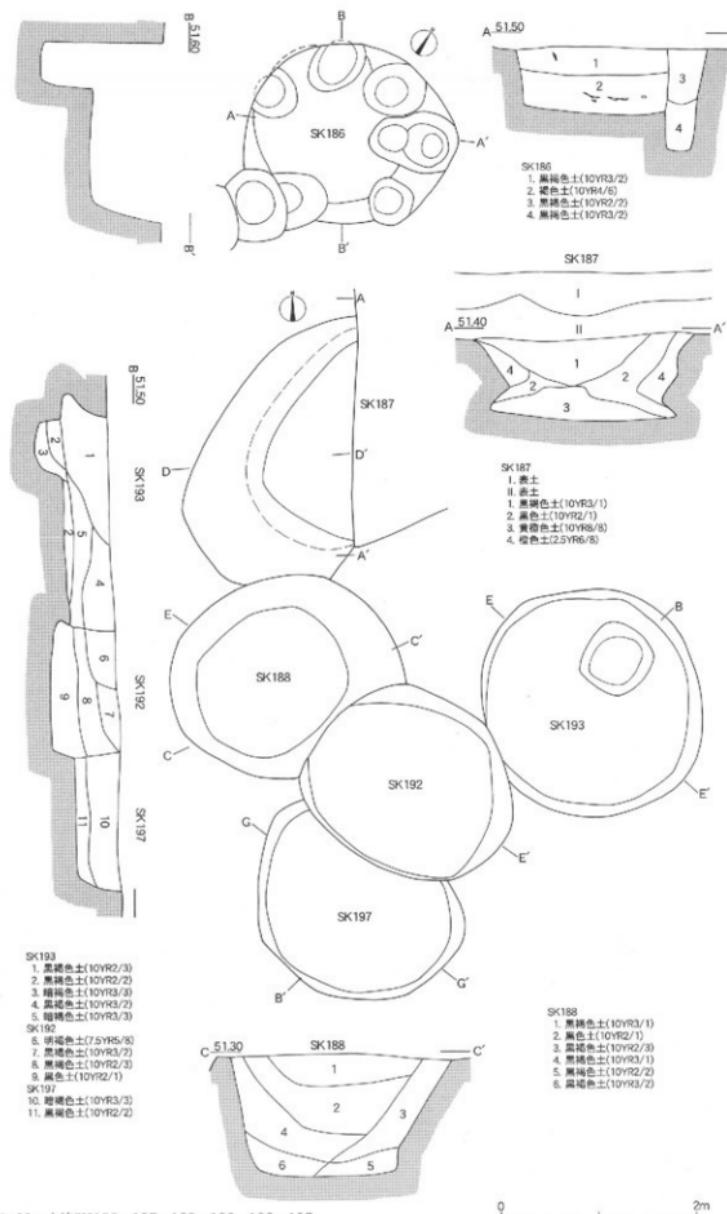


Fig.38 土坑SK186、187、188、192、193、197

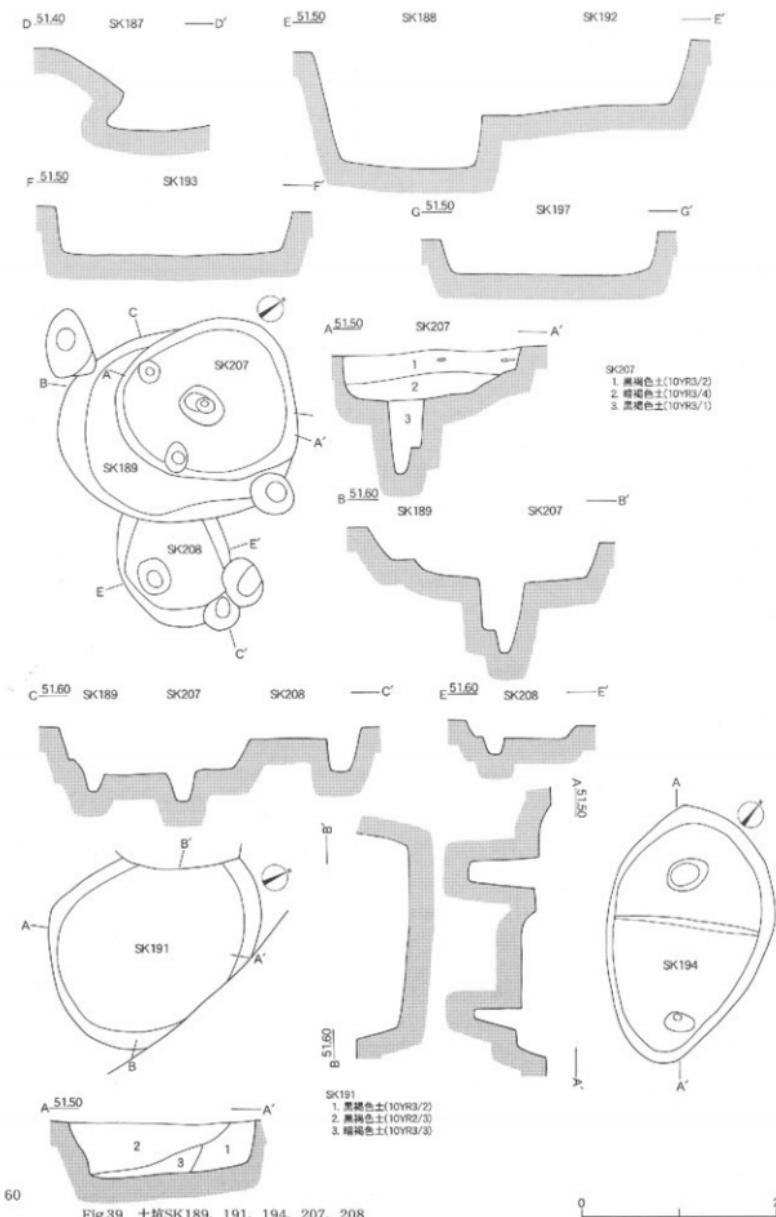


Fig.39 土坑SK189、191、194、207、208

調査区2次B区に位置する。北西側でSK190に切られ、東側の一部が未調査区域に広がる。上面径181×234cm、長軸方向をN-28°-Wにとる楕円形。深さ28cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。覆土は3層からなる自然堆積。遺物は縄文中期の完形土器1点が北壁に寄って覆土中、底面から24cm浮いて出土している。

#### **土坑SK192 (Fig.107)**

調査区2次C区に位置する。SK188、197を切って構築している。上面径184×215cmの円形。深さ67cmを測り、壁面は垂直気味に立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK193 (Fig.38)**

調査区2次C区に位置する。上面径232×245cmの円形。深さ48cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK194 (Fig.39)**

調査区2次C区に位置する。上面径166×266cm、長軸方向をN-37°-Wにとる楕円形。深さ26cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所。P1は径32×43cmの円形で、深さ69cm。P2は径20×30cmの円形で、深さ50cm。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK195 (Fig.40)**

調査区2次C区に位置する。北側でSK209を切っている。上面径276×295cm、底面径238×305cmの円形を呈する。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ111cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK196 (Fig.41)**

調査区2次C区に位置する。約半分の北西側は未調査区域に広がる。上面径204cmの円形。深さ23cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK197 (Fig.38)**

調査区2次C区に位置する。北側でSK192に切られている。確認上面径230cmの円形。深さ19cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK198 (Fig.41)**

調査区2次C区に位置する。上面径200×254cmの円形。深さ20cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが2ヶ所検出された。P1は径32×44cmの円形で、深さ47cm。P2は径39×58cmの楕円形で、深さ68cm。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK199 (Fig.41)**

調査区2次D区に位置する。上面径263×270cmの円形。深さ41cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦で内部施設としてサイドピットと3本検出された。東側P1は径15×16cmの円形で、深さ35cm。南側P2は径20×23cmの円形で、深さ43cm。西側P3は径35×38cmの円形で、深さ37cmである。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK200 (Fig.41)**

調査区に2次D区位置する。西側の一部が未調査区域に広がる。上面径125cmの円形。深さ31cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK201 (Fig.42)**

調査区2次D区に位置する。北西側でSK212を切っている。上面径269cmの円形。深さ54cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

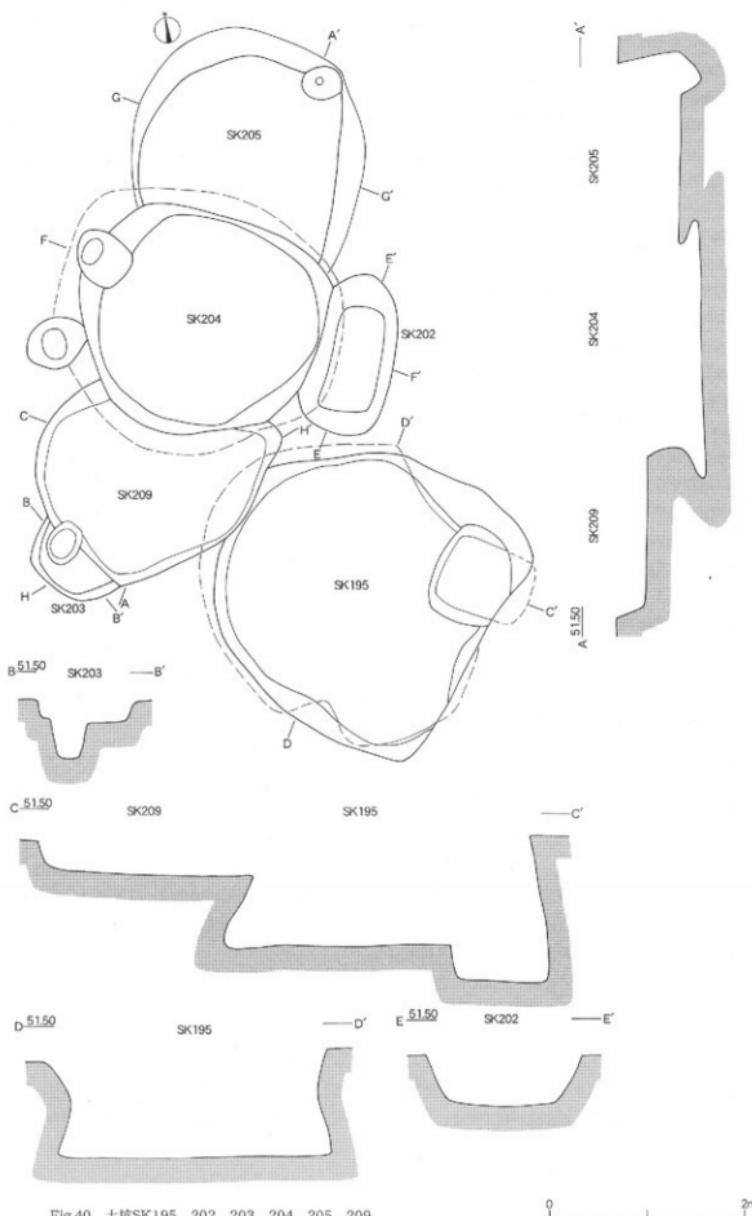


Fig.40 土坑SK195、202、203、204、205、209

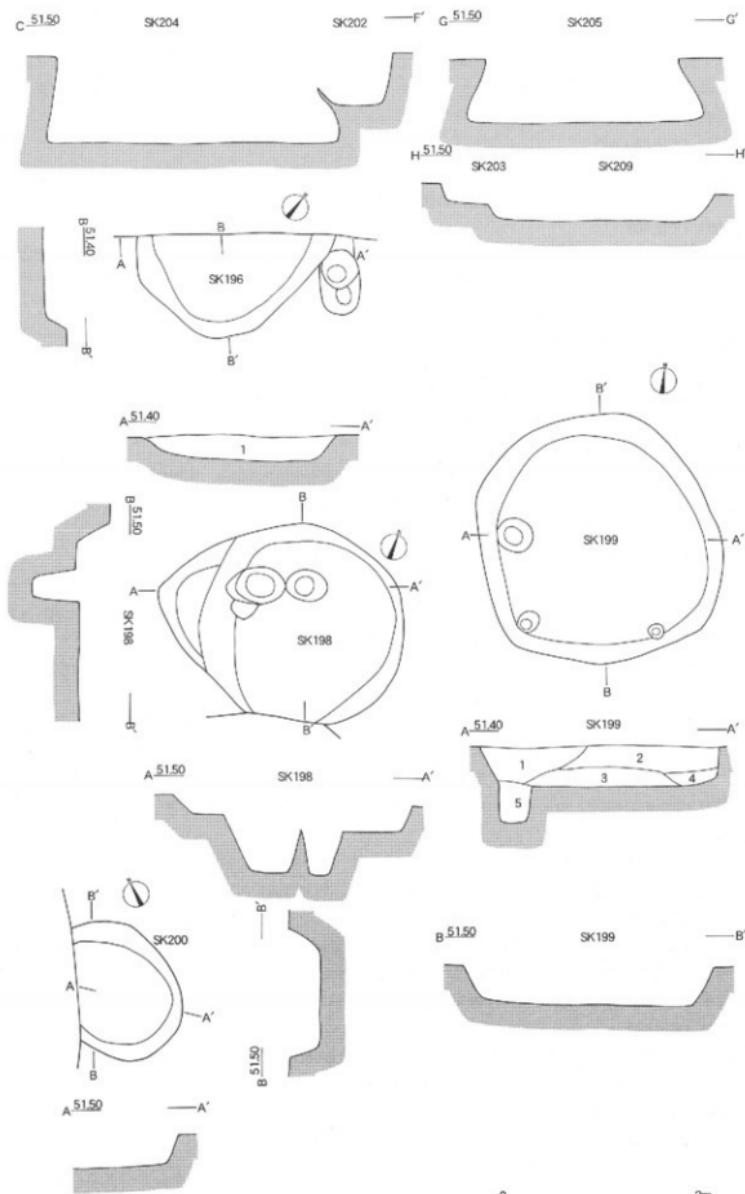


Fig.41 土坑SK196、198、199、200

**土坑SK202 (Fig.40)**

調査区2次D区に位置する。西側でSK204を切っている。上面径80×165cm、長軸方向をN-24°-Eにとる長方形、深さ53cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

**土坑SK203 (Fig.40・42)**

調査区2次D区に位置する。北側でSK209に切られている。上面径100cmの円形。深さ22cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK204 (Fig.40)**

調査区2次D区に位置する。SK205、209を切って構築している。上面径230×253cm、底面径275×297cmの円形、底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ91cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

**土坑SK205 (Fig.40)**

調査区2次D区に位置する。南側でSK204に切られている。上面径205cm、底面径243cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ65cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器が覆土から出土した。

**土坑SK206 (Fig.42)**

調査区2次D区に位置する。北側でSK211を切っている。上面径226×240cm、底面径259×263cmの円形。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ80cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

**土坑SK207 (Fig.39)**

調査区2次D区に位置する。南側でSK189を切っている。上面径165×181cm、長軸方向をN-31°-Eにとる楕円形。深さ41cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが3ヶ所検出された。センターピットであるP1は径34×4cmの円形で、深さ73cm。南壁際のP2は径22×32cmの円形で、深さ26cm。西壁際のP3は径21×21cmの円形で、深さ17cmである。覆土は4層からなる自然堆積である。図示できる遺物は出土しなかった。

**土坑SK208 (Fig.39)**

調査区2次D区に位置する。北西側でSK189に切られている。上面径115cmの円形。深さ19cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。南壁際に位置するP1は径31×35cmの円形で、深さ15cm。覆土は自然堆積。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK209 (Fig.40)**

調査区2次D区に位置する。北側でSK204に切られている。上面径235cmの円形。深さ35cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK210 (Fig.43)**

調査区2次D区に位置する。上面径110×120cmの円形。深さ36cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。P1は径28cmの円形で、深さ6cmである。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

**土坑SK211 (Fig.42)**

調査区2次D区に位置する。南側SK206に切られている。上面径190×224cm、底面径202×204cmの円形を呈する。底面が全周外側に突出したフラスコ状で、深さ72cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片と石器が覆土から出土した。

**土坑SK212 (Fig.42)**

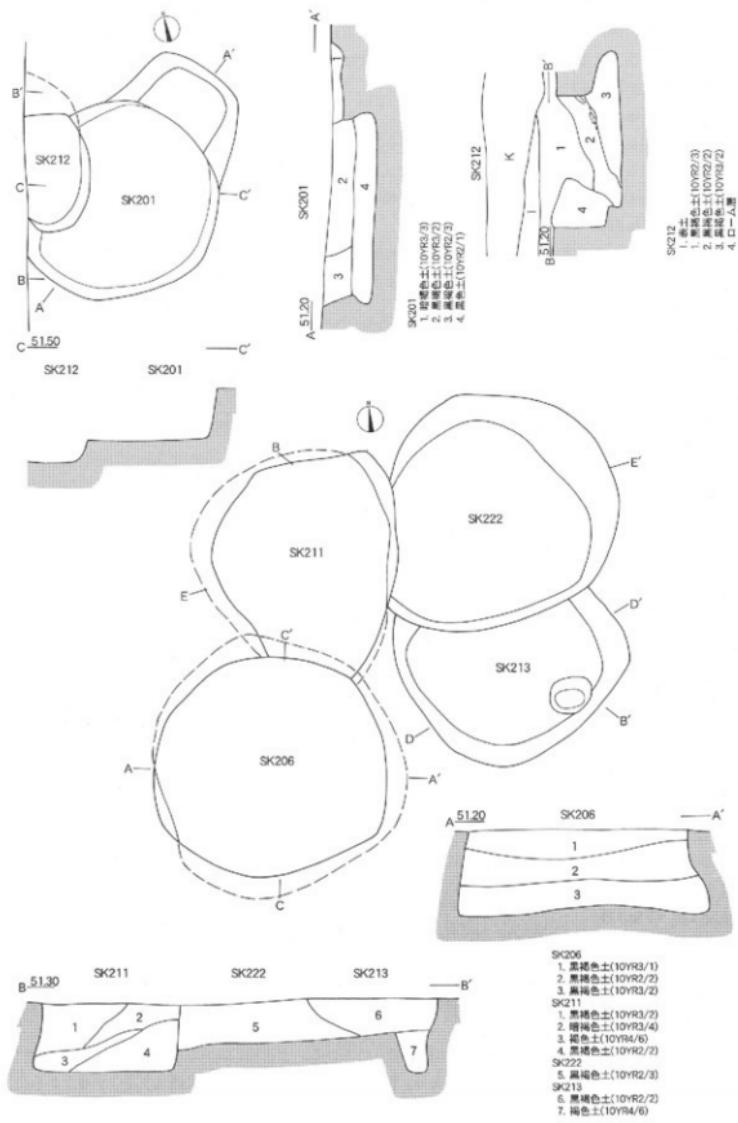


Fig.42 土坑SK201、206、211、212、213、222

調査区2次D区に位置する。東側でSK201を切り、西側の大半は未調査区域に広がっている。上面径122cm、底面径168cmの円形。底面が北側に突出したフラスコ状で、深さ77cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。1～7は隆蒂に沿って角押文が施される。

#### **土坑SK213 (Fig.42)**

調査区2次D区に位置する。北側でSK222に切られている。上面径214cmの円形。深さ41cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦で内部施設として柱穴状掘り込みが1ヶ所検出された。P1は径37×42cmの円形で、深さ41cm。覆土は2層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK214 (Fig.43)**

調査区2次D区に位置する。北・西側の1/4が未調査区域に広がっている。上面径81cmの円形を呈するものと推定する。深さ60cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。覆土は4層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK215 (Fig.35)**

調査区2次D区に位置する。SK167に切られている。また北側の大半が未調査区域に広がっている。上面径191cm、底面径175cmを測り、円形を呈するものと推定する。底面が東側から南側に大きく張り出したフラスコ状で、深さ75cmを測り、壁面は東側から南側は内傾し、北東側は大きく外傾して立ち上がる円筒形。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK216 (Fig.12)**

調査区2次D区に位置する。東側でSK39を切っている。上面径207×239cmの円形。底面が全面に張り出したフラスコ状で、深さ84cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は3層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK217 (Fig.43)**

調査区2次D区に位置する。北側が未調査区域に広がっている。上面径172cm、底面径141cmの円形。底面が西側に張り出した袋状で、深さ47cmを測り、西壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は5層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK218 (Fig.43)**

調査区2次D区に位置する。北側半分が未調査区域に広がっている。上面径188cmの円形。底面が全面に張り出したフラスコ状で、深さ89cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器と石器が覆土から出土した。

#### **土坑SK219 (Fig.43)**

調査区2次D区に位置する。北側半分が未調査区域に広がっている。上面径142cmの円形。底面が南側に張り出した袋状で、深さ73cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK220 (Fig.11)**

調査区2次D区に位置する。南側でSK36を切って構築している。上面径168×176cmの円形を呈する。底面が全面に張り出したフラスコ状で、深さ97cmを測り、壁面は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK221 (Fig.44)**

調査区2次D区に位置する。北側で風倒木痕に切られている。上面径233cmの円形。深度さ31cmを測り、壁面は垂直気味に立ち上がる袋状。底面は平坦である。覆土は自然堆積である。遺物は縄文中期のが覆土から出土した。

#### **土坑SK222 (Fig.42)**

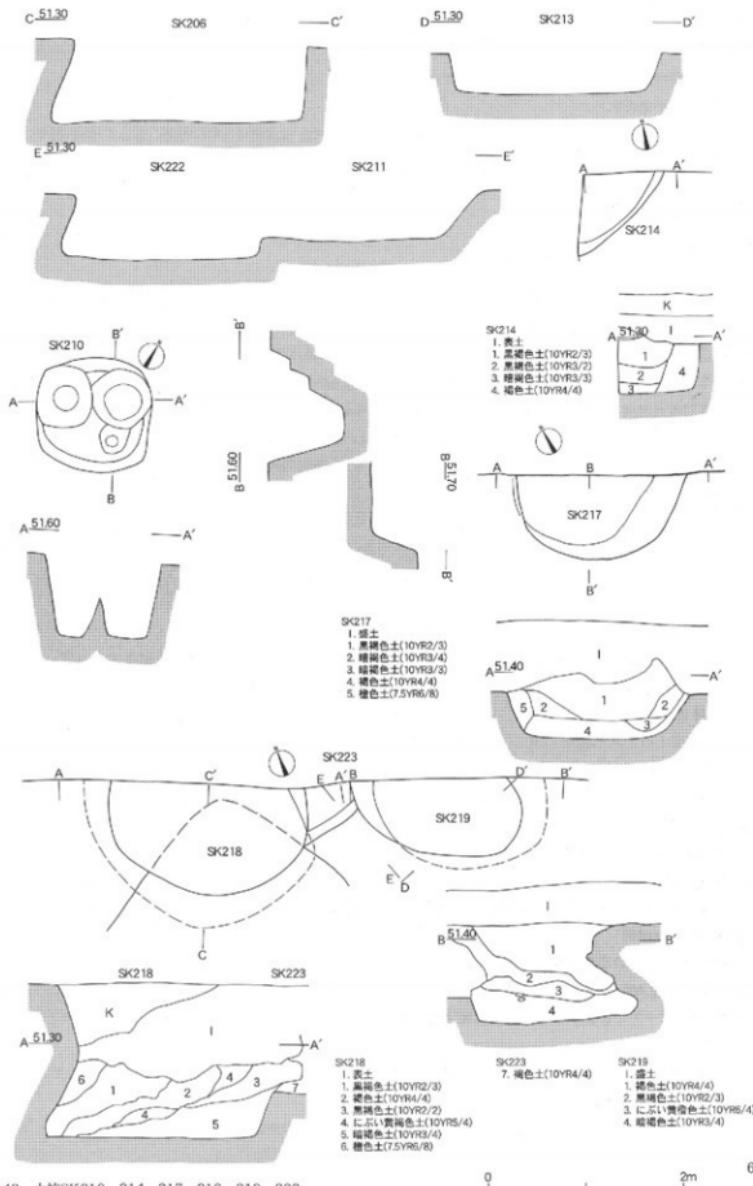


Fig.43 土坑SK210、214、217、218、219、223

調査区2次D区に位置する。西側でSK211に切られ、南側でSK213を切っている。上面径240cmの円形。深さ51cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は黒褐色土の單一層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

#### **土坑SK223 (Fig.43)**

調査区2次D区に位置する。SK218、219に大半が切られている。上面径45cmの円形。深さ44cmを測り、壁面は外傾して立ち上がる円筒形。底面は平坦である。覆土は褐色土の單一層からなる自然堆積である。遺物は縄文中期の土器片が覆土から出土した。

### 2) 平安時代の住居跡

#### **住居跡SI01 (Fig.43)**

調査区2次D区に位置する。少なくとも縄文土坑3基と重複している。規模は南北2.7m、東西3.1mの東西に長い形を呈している。主軸方位は北壁に設置されているカマドの位置からN-55°-Eを指す。壁高は北壁のカマド付近で10cmを測り、緩やかに外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、踏み固めは軟弱である。柱穴は確認できない。カマドは北壁ほぼ中央に設置され、壁外に50cmほど掘り込んで煙道部としている。カマド構築材は沙質粘土を主体に袖部を構成している。規模は長さ45cm、幅101cmで遺存状況は不良である。火床部は円形に掘り窪め、深さ10cmを測る。わずかに焼土粒が残存しているのみである。

遺物は床面上から土器師・壺と甕の破片が出土している。平安時代の遺物であり、住居跡の時期も平安時代と推定され。

(小川 和博)

### 第3節 遺物

#### 1) 縄文時代の遺物

#### **土坑SK01 (Fig.45)**

1は3山の波状口縁で背割り隆帯による波状文の大木8b式。底部は網代痕。2~5は大木8a式。6~8は大木8b式。14は凹孔の磨石。

#### **土坑SK02 (Fig.45)**

1~3のキャリバー形深鉢の頸部は無文帶を有する。大木8b式。

#### **土坑SK03 (Fig.46)**

1は背割り隆帯による満巻文。3は満巻隆帯。大木8b式。9は撥形の打製石斧。

#### **土坑SK04 (Fig.46)**

1は口縁部破片。縄文地文。2は隆帯が横走する。

#### **土坑SK08 (Fig.46)**

1~3はキャリバー形の深鉢。口縁部区画文内は継ぎの沈線を充填する。

#### **土坑SK09 (Fig.46)**

1はキャリバー形の小型深鉢。背割隆帯による単位文を施す。2は口縁部破片。微隆帯区画文。

#### **土坑SK10 (Fig.46)**

1はキャリバー形の深鉢剥片。縄文地文に3本単位の懸垂文を垂下させる。

#### **土坑SK11 (Fig.46)**

1は楕円区画文に2列の角押文を施す阿玉台II式。2も角押文を施す。いずれもの覆土から出土した。

#### **土坑SK12 (Fig.47・48)**

1・2は大型の中空把手を有する深鉢。1の中空把手は正面觀8の字状となり、上部は貫通孔があり、下部は構

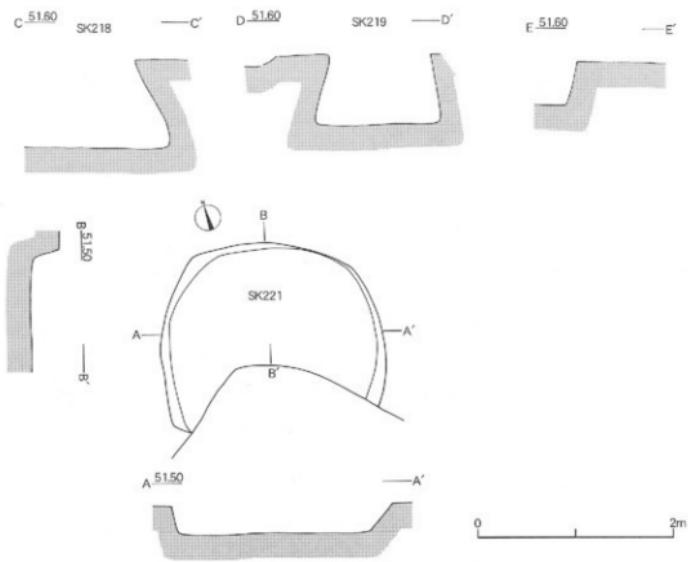


Fig.44 土坑SK221、住居跡SI01



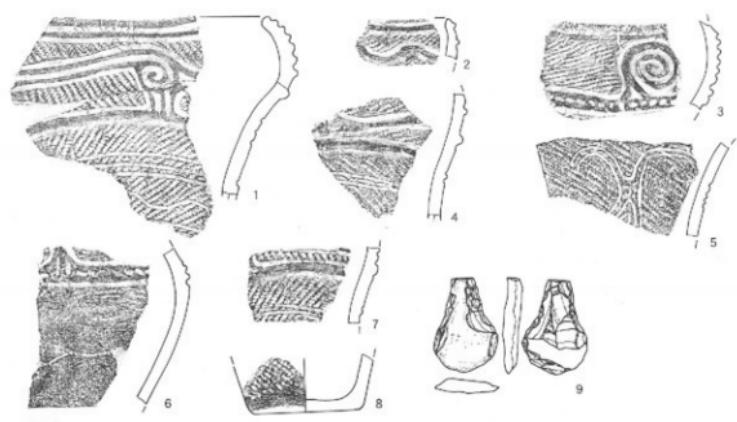
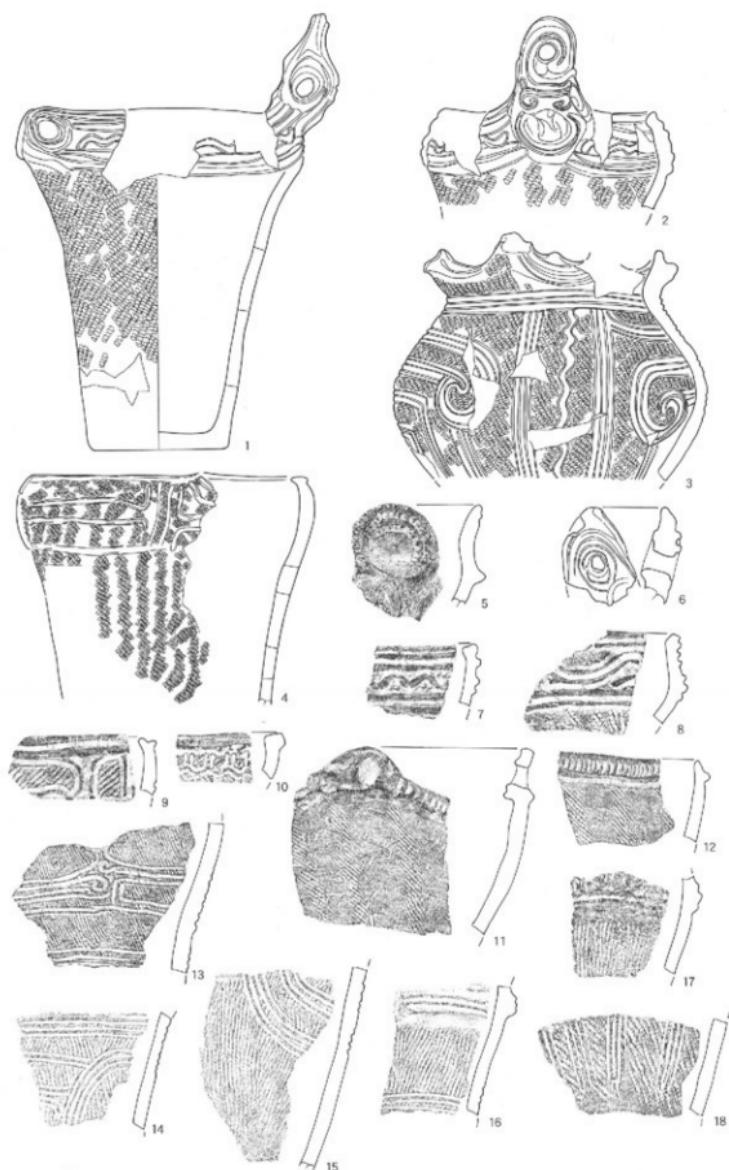


Fig.46 土坑SK03、04、08、09、10、11出土遺物



状把手となる。孔周縁は満巻文。口縁部は貼付隆帯による波状文。なお、斜め反対側には眼鏡状把手が付す。3は胴部が大きく張り、口縁部はくの字状に外反する。4単位の波状口縁。11縁部は隆帯と沈線の組み合わせによる文様。頭部に沈線による区画文。胴部は3本単位の沈線による懸垂文と満巻文を配する。大木8b式。4の口縁部は縄文地文に貼付隆帯によるクランク文。5は円盤状把手。6は貫通孔を有する把手。7・8は隆帯による波状文。9は隆帯による楕円形区画文。11も貫通孔を有する深鉢。11縁部上端は縦位の爪形文を充填する。大木8a式。19は波状口縁を有する浅鉢。21・23～26の底部は網代板。27は石皿。凹孔を伴う。

#### 土坑SK13 (Fig.48)

1～4・6～8は背割隆帯によるクランク文、満巻文。5は口縁区画内に縦位の沈線文を充填する。大木8b式。12は敲打と磨痕を併せもつ磨石。

#### 土坑SK14 (Fig.49)

1～3は加曾利E 1式新期の口縁部破片。6は分銅形の打製石斧。7は安山岩製の磨石である。

#### 土坑SK15 (Fig.49)

1は対峙する2山の波状口縁の深鉢。口唇部は背割隆帯が全周し、波頂部内面に満巻文を配する。地文は反燃の縄LIL縄文。2～5はキャリバー形の深鉢。満巻文を施文する。8・9は磨石。10は円窓の周縁に調整剥離を施す。

#### 土坑SK16 (Fig.50)

1は満巻文を有する深鉢。3は口縁に多条化沈線を施す。4は浮線文による大木8a式。5は貫通孔のある山形把手である。14・15は磨石で、14は磨痕と凹孔を伴い、15は中央部に敲打孔と磨痕を伴う。

#### 土坑SK17 (Fig.50・51)

1は口縁区画内に有節線文によるモチーフを描出する阿玉台I b式。2は蛇行状隆帯を枠状に区画する口縁部。3は口縁部に沈線による蛇行文や満巻文を配する。5は隆帯による区画文と満巻文を施す。6は楕円形区画文。7～9は背割隆帯による満巻文。10は隆帯に押圧を加えている。14は無文の深鉢。15・16は浅鉢。いずれも赤彩が施されている。17の底部は崩れ痕。

#### 土坑SK18 (Fig.51)

1は押圧を加えた隆帯を区画文とする。

#### 土坑SK19 (Fig.51)

1は大型の眼鏡状中空把手を有する深鉢。口唇部は把手から連結する背割り状隆帯が巡り、さらに横S字状隆帯による稜状突起を有する。また隆帯間に半截竹管状工具による波状文を施す。頭部に平行沈線による区画文間に波状文を横走させる。大木8b式。2～4はキャリバー形の深鉢。2・3は加曾利E 1式新期。満巻区画文に3本単位の懸垂文を垂下させる。

#### 土坑SK20 (Fig.51)

1は口縁区画文に多条沈線を施す。2・3は長方隆帯区画文に満巻文が付される。5は胴部破片。縄文地文に2条単位の沈線による満巻文等のモチーフが施されている。

#### 土坑SK21 (Fig.52)

1は押圧を加えた隆帯区画文。大木8a式。4は軟質砂岩製の磨石。磨痕と凹孔を伴う。

#### 土坑SK22 (Fig.52)

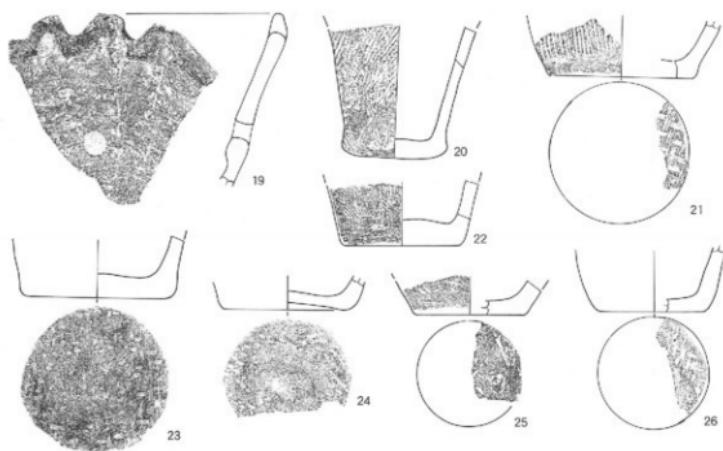
1～3は隆帯による区画文に満巻文が付し、1は4本単位の沈線による懸垂文が垂下する。

#### 土坑SK23 (Fig.52)

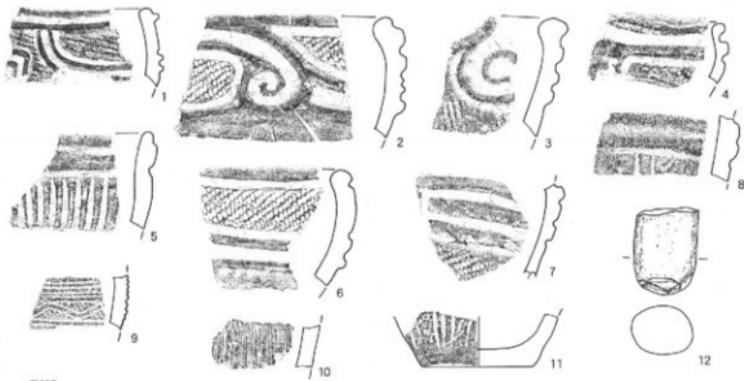
1は把手である。双頭状の波頂部は半円形を連結させ、楕円形の貫通孔を開け、背割隆帯を巡らす。2は隆帯による満巻文。3は波状文を配する。8～10は2本単位の沈線による満巻文・波状文を施す。

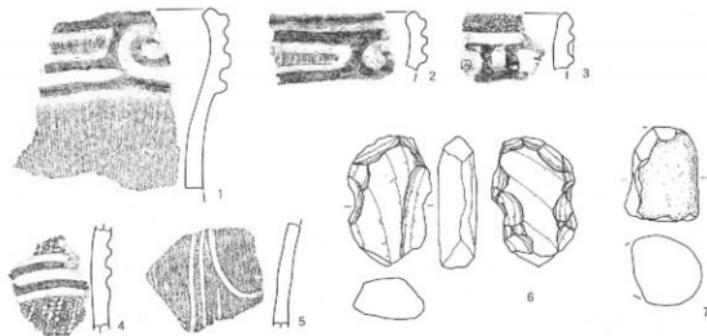
#### 土坑SK24 (Fig.52)

1の11縁区画文は貼付隆帯による。2～4は隆帯に沿って沈線が伴う満巻文・区画文。5は口縁端部から沈線文

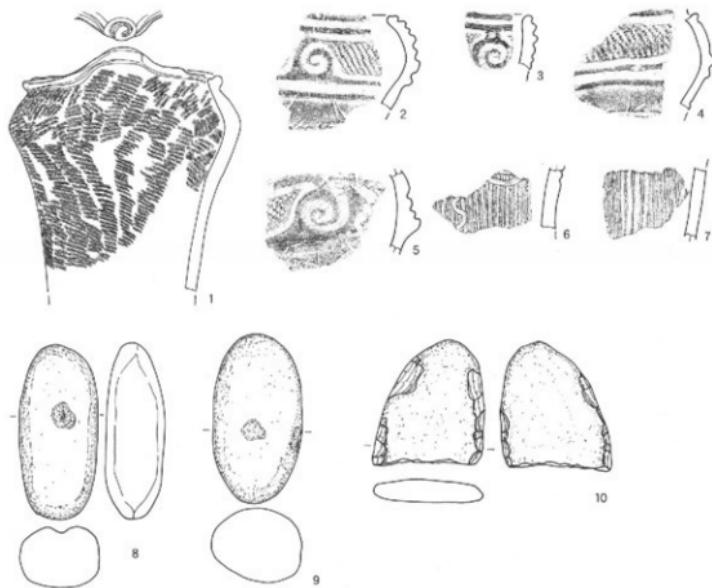


SK12 (2)



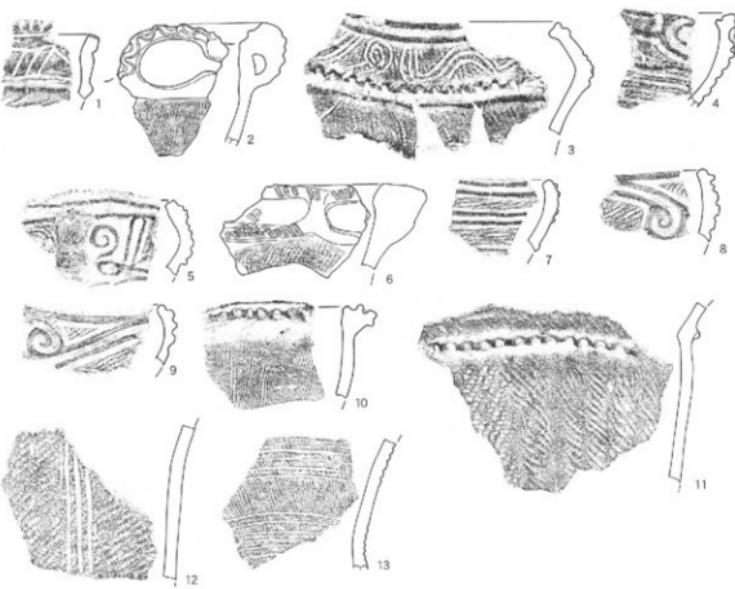
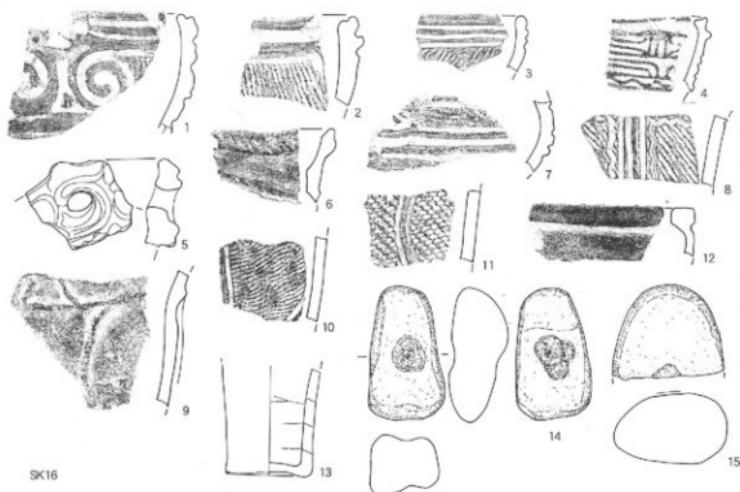


SK14



SK15

Fig.49 土坑SK14, 15出土遺物



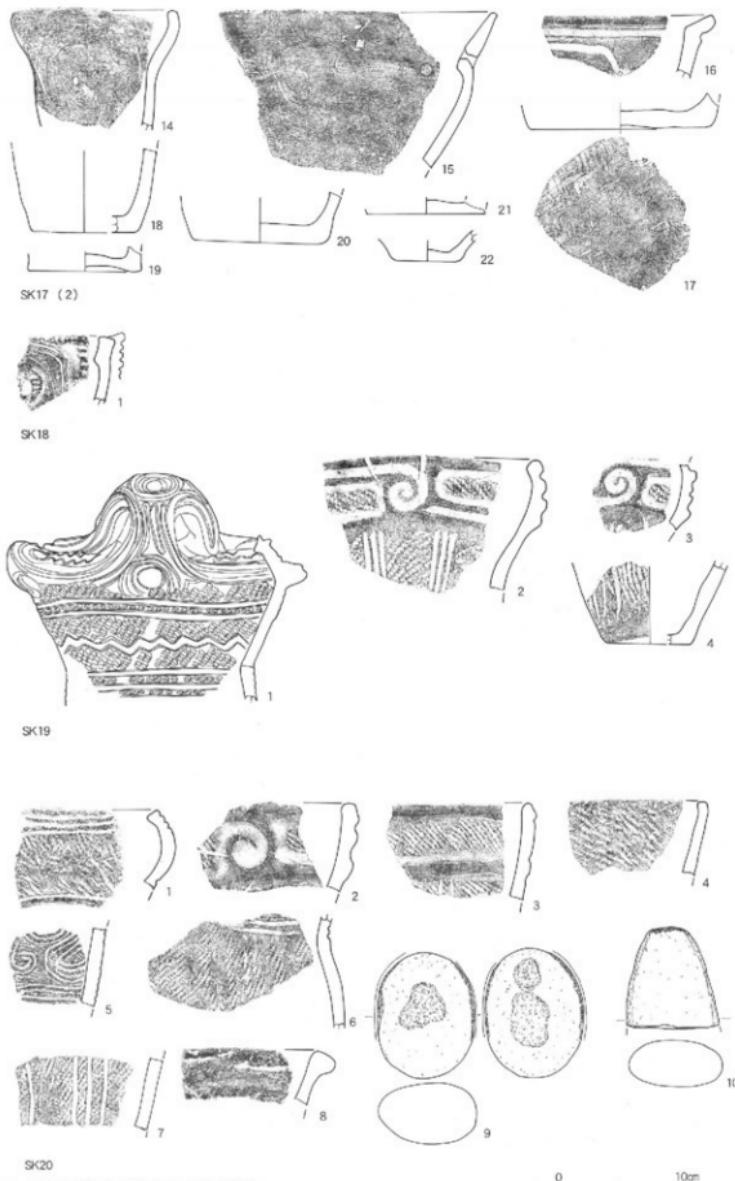
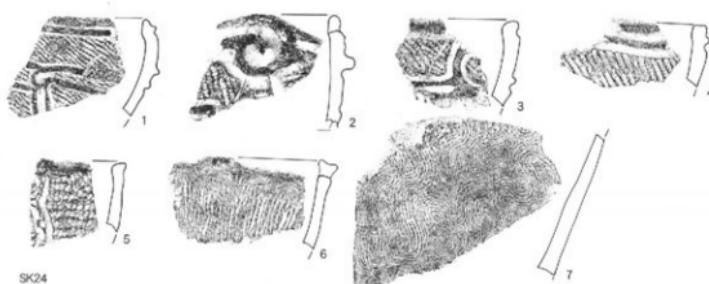
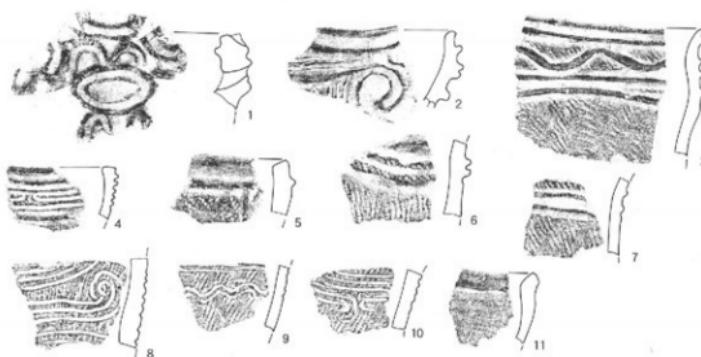
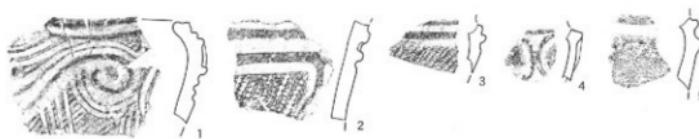
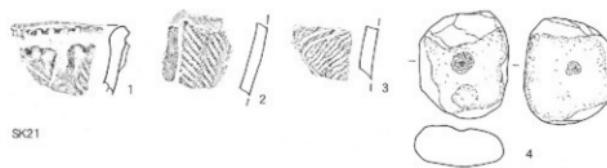


Fig.51 土坑SK17(2), 18, 19, 20出土遺物



が垂下する。7は胸部破片。櫛歯状による波状条線を垂下させる。

#### 土坑SK25A (Fig.53)

1は口縁部が短く外反し、縦位に結節沈線文を充填する。4は大型のキャリバー形の深鉢。沈線の沿う隆帯による溝巻文を配する。5は口縁部上端部に押圧の加えた隆帯を巡らす。7は隆帯による溝巻文。8は胸部破片で、波状沈線文と隆帯による区画文を施す。11～13は繩文地文に2本単位の沈線による懸垂文。16の底部は網代痕。

#### 土坑SK26 (Fig.53)

1・2は隆帯に沿って角押文を巡らし区画文とし、区画内に波状沈線を施す。阿玉台Ⅲ式に比定される。3は波状口縁で、沈線区画内は無文とする。8は石英斑岩製の小型磨製石斧。裏面の一部が欠損している。

#### 土坑SK27 (Fig.54)

1・2は深鉢の胸部破片。繩文地文に2本単位の沈線モチーフ。大木8b式。5は小型の石皿。凹孔を伴う。6は磨痕の伴う磨石。

#### 土坑SK29 (Fig.54)

1は大型のキャリバー形深鉢。沈線の沿う隆帯による区画文。2は口縁部を無文帶とし、くの字状に外反する。9は安山岩製の磨石。

#### 土坑SK30 (Fig.54)

1・2は小型のキャリバー形の深鉢。隆帯による区画文を施す。3は爪形文。

#### 土坑SK35 (Fig.54)

1・2は沈鉢の沿う隆帯による区画文を施す。3は爪形文。

#### 土坑SK36 (Fig.54)

1・2は沈鉢の沿う隆帯による区画文を施す。5～9は胸部破片。繩文地文に沈線によるモチーフと磨消懸垂文を垂下させる。大木8b式。

#### 土坑SK39 (Fig.55)

1は波状口縁の深鉢。沈線による溝巻文。2・3は浅鉢で、楕円形区画に爪形文と三角形刺突文が沿う。5は口唇下部に沈線を巡らす。9は大型の波状口縁をもつ浅鉢。阿玉台Ⅲ式に比定される。

#### 土坑SK40 (Fig.55)

1は浅鉢の口縁部破片。区画内に結節沈線文を縦位に充填する。3・4も無文の浅鉢。

#### 土坑SK41 (Fig.55)

1はキャリバー形の深鉢。沈線による溝巻文。加曾利E1式。

#### 土坑SK42 (Fig.55)

1は口縁部破片。隆帯に沿って爪形文を巡らし、区画内は条線を充填する。阿玉台Ⅲ式。2は胸部破片。縦位の隆帯区画内に沈線文が施される。3は口縁部破片。隆帯区画内に縦位の沈線を充填する。加曾利E1式。6の底部は網代痕。

#### 土坑SK43 (Fig.55)

1は口縁部破片で、有節沈線文を区画文とする。阿玉台Ib式。3は指頭によるヒダ状压痕が残される。5は繩文施文された隆帯が区画文とする。6は軟質砂岩製の磨石。磨痕のみが観察される。

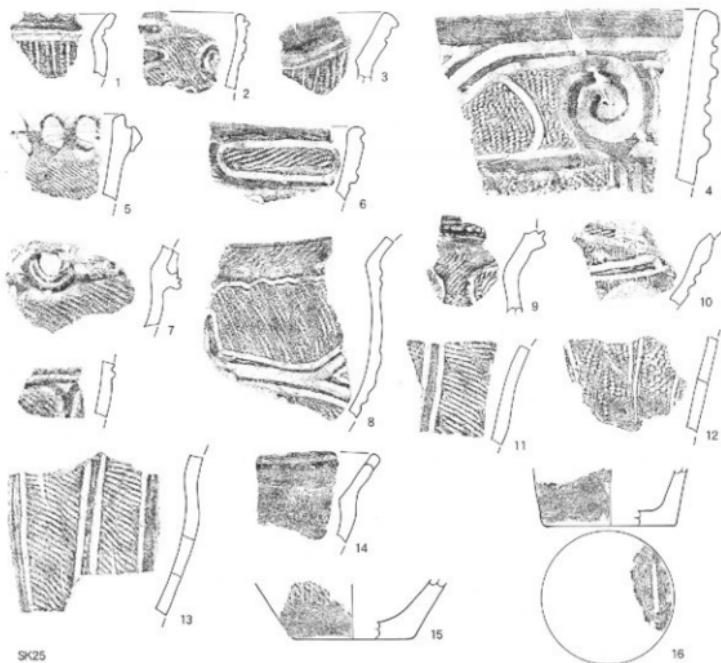
#### 土坑SK44 (Fig.56)

1は口縁部破片。縄の側面压痕を施す大木7b式。2は押圧を加えた隆帯を巡らす。4は繩文地文に隆帯による蛇行、直行懸垂文を垂下させる。6は口縁部が内湾する鉢形で、赤彩が施されている。補修孔がみられる。

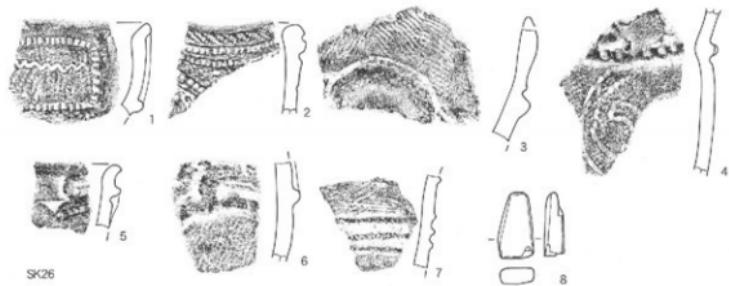
#### 土坑SK45 (Fig.56)

1は小型の波状口縁を有するキャリバー形の深鉢。

#### 土坑SK46 (Fig.56)



SK25



SK26

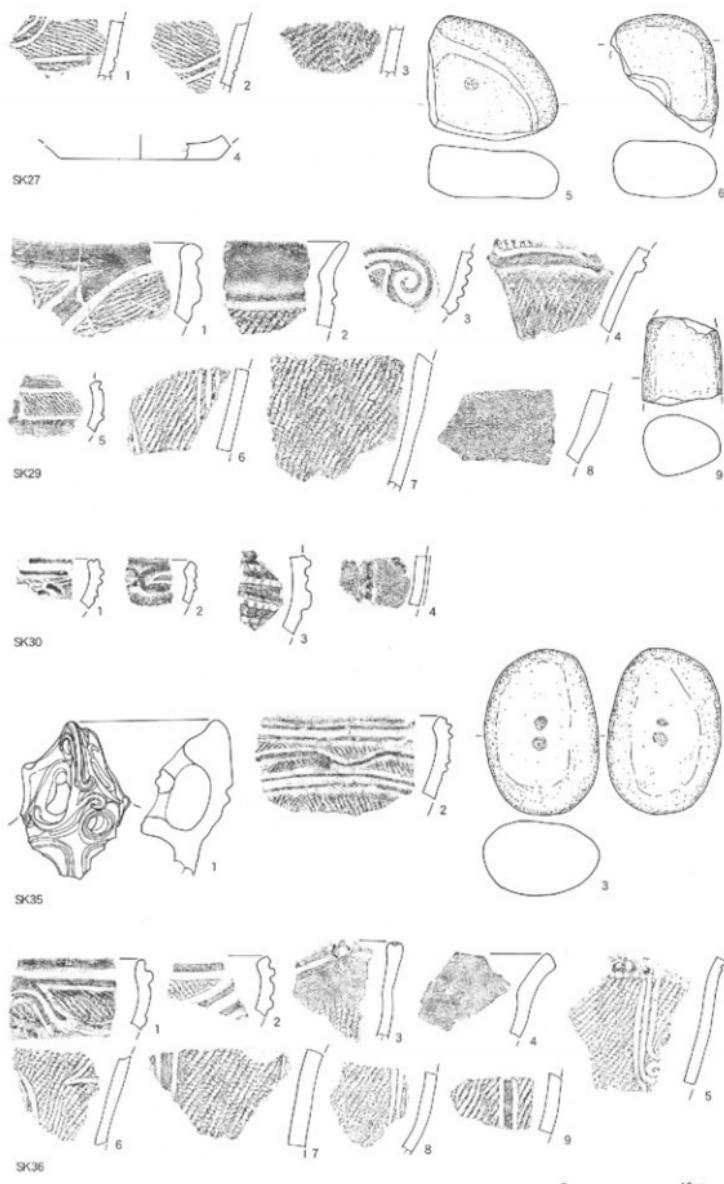
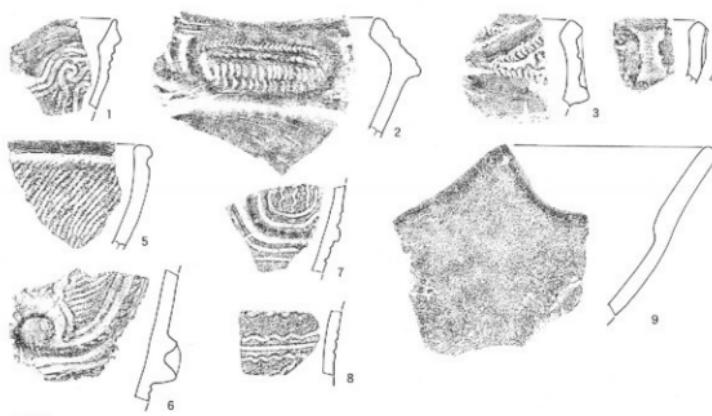


Fig.54 土坑SK27、29、30、35、36出土遺物



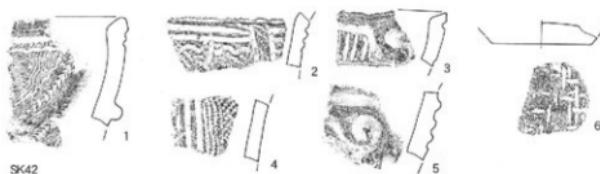
SK39



SK40



SK41



SK42



SK43

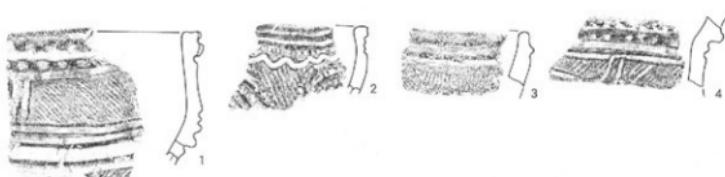
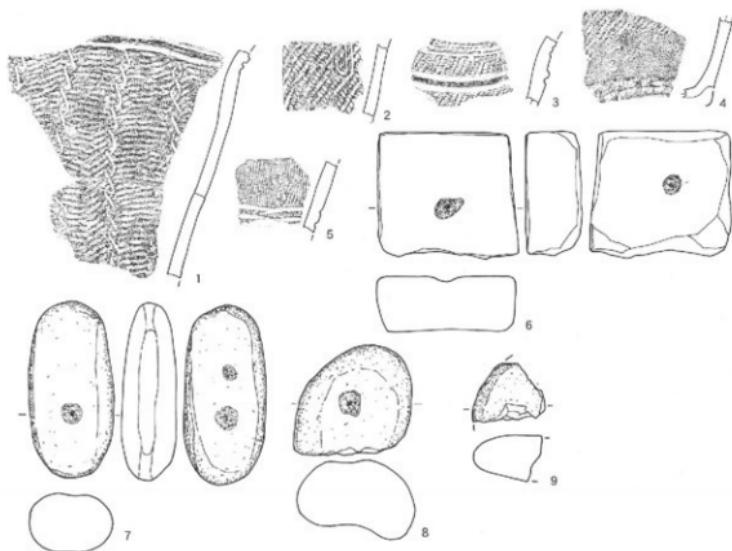


Fig.56 土坑SK44、45、46、47、48(1)出土遺物

1は深鉢の胴部破片。頭部は隆帯区画で、RL単節縄文と縦縁文を縦方向に垂下させる。6は凝灰質砂岩製で方形を呈した台石。表裏面に凹孔がある。7～9は磨石。7・8に凹孔を有している。

#### 土坑SK47 (Fig.56)

1は断面三角形の隆帯による蛇行文。3は浅鉢。

#### 土坑SK48 (Fig.56・57)

1・4は口唇部端部が押圧を加えて波打状となり、隆帯に沿って1列の爪形文による区画文。2も隆帯に沿って爪形文が施文される。3は背割り状隆帯が口唇部に巡る。5は大型の深鉢。口唇部に隆帯による満巻文2ヶ所が連結し、梢円形区画文による突起を作出する。口縁部は背割り状隆帯が巡り、隆帶上に刻みをもつ。頭部は無文帯とし、直状沈線と波状沈線による多条沈線の区画文間に鋸歯状沈線文を施文する。大木8a式。6は橋状把手を有し、三角状の隆帯区画内には縦位の角押文を充填する。胴部は沈線による弧線文。地文は撚糸文I。7は隆帯に沿って沈線が施される。8・9・10は直状沈線と波状沈線による区画文。11は2列の角押文施文。12は隆帯区画文に連結して懸垂する。隆帯に沿って沈線文が施文される。13・14は火焙土器である。13は隆帯区画文に沿って半截竹管状工具による満巻文を施文する。14も半截竹管による平行沈線文を縦位方向に懸垂する。16は底部破片。17は粘板岩製の打製石器。両側縁部に調整加工を施す。18は砂岩製の磨石。石皿状の四面を伴う。

#### 土坑SK49 (Fig.57)

1～3はキャリバー形の深鉢。沈線の沿う隆帯による区画文。加曾利E1式。4は隆帯に沿って角押文が施されている。阿玉台III式。5は条線を地文に多条沈線を施す。7・8は磨石。8は表面中央に敲打痕をもつ。

#### 土坑SK50 (Fig.58・59)

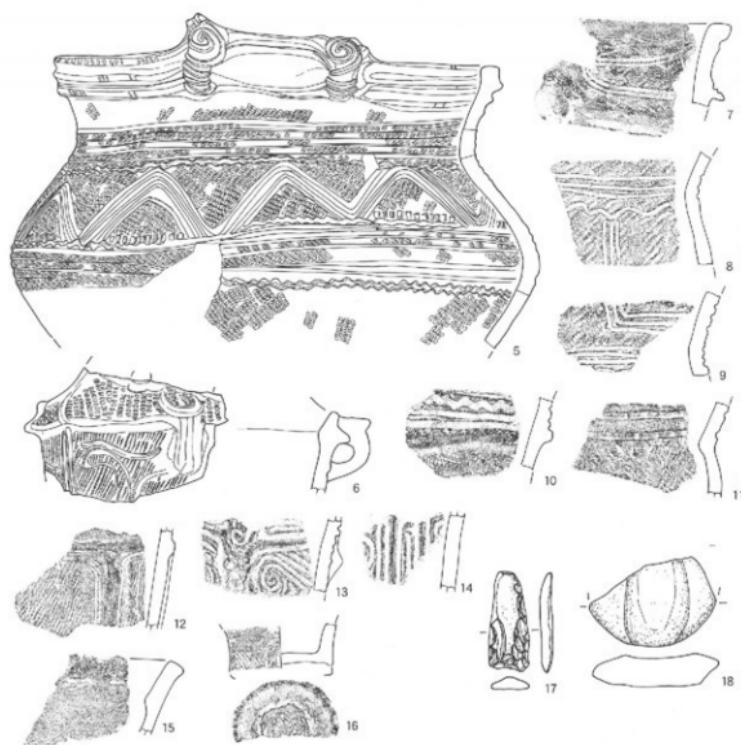
1は平縫の深鉢。口縁部にM字状の隆帯が貼付られ、口脣下部と隆帯に沿って2列の爪形文が巡り区画文とし、区画内には2条の波状沈線文が横走する。胴部も隆帯に沿って2列の爪形文が施され、連結した隆帯が弧線状に貼り付けられ、やはり隆帯に沿って角押文が施文される。2は大型の山形把手を4山有する。波頂部は縄文施文の隆帯によって三角状区画文を配し、隆帯に沿って沈線を施す。口縁部下端は肥厚する塑状をもち、頭部は沈線による波状文。胴部は隆帯区画文に連結して懸垂文が垂下する。阿玉台III式。3も同様に4山の山形把手。三角状区画文は波頂部から押圧の加えた隆帯が垂下する。4は口唇部が肥厚し、隆帯による満巻文が4単位貼付られている。口縁部下端は押圧を加え、波状を呈している。大木8a式。5も波状口縁。波頂部に満巻文が施文される。6は単節LR縄文施文の深鉢。7は底部。隆帯に沿って角押文が施文される。8は波状口縁の深鉢。口唇部が隆帯による満巻文を配する。大木8a式。9は把手を有する鉢。無文で把手部には三角状の抉りが施されている。全面に赤彩が施されている。10は口縁部に沿って角押文が巡る。11は山形把手の破片。縄文施文の隆帯による三角状区画文。隆帯に沿って沈線が施文される。12・21は結筋文が垂下する。13は縄文施文の隆帯。14は連続コの字文。15は平行沈線による区画文と懸垂文。17は隆帶上に刻みを施し、隆帯に沿って平行沈線を施す。18は有節沈線文。19は隆帯に沿って角押文が施文される。22は隆帯。23は安山岩製の石皿破片。

#### 土坑SK51 (Fig.60)

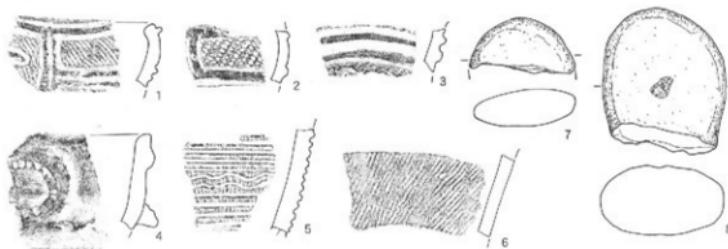
1は眼鏡状の大形空中把手を有する。口縁部に貼付隆帯による波状文を施す。2は貫通孔のある把手。3・4・7～14は背割隆帯によるクランク文・満巻文を施す。3は波状口縁で、波頂部に隆帯による満巻文を施文する。15は赤彩が施された浅鉢。16・17の底部は網代痕。21・22は磨石。いずれも磨痕とともに凹孔を伴う。

#### 土坑SK52 (Fig.61・62)

1は大型の深鉢で、4単位の把手は窓状孔が開く眼鏡状、橋状の組み合わせで、さらに横S字状の隆帯が施され、口唇部は背割り状隆帯の下端部は押圧の加えた波打状。口縁部下端は2列の交互刺突文がによる区画文で、口縁部は背割り状の隆帯の間に交互刺突文があり、連結する満巻文を形成する。部分的に隆帯に沿って角押文が施文される。地文は単節LR縄文。2は隆帯に沿って角押文が施されている。3は満状の貼付隆帯による突起をもち、胴部は沈線による枠状文や弧線文を施文する。4は口唇部に刻みが施され、口縁部はS字状隆帯が角押文の施文によつ

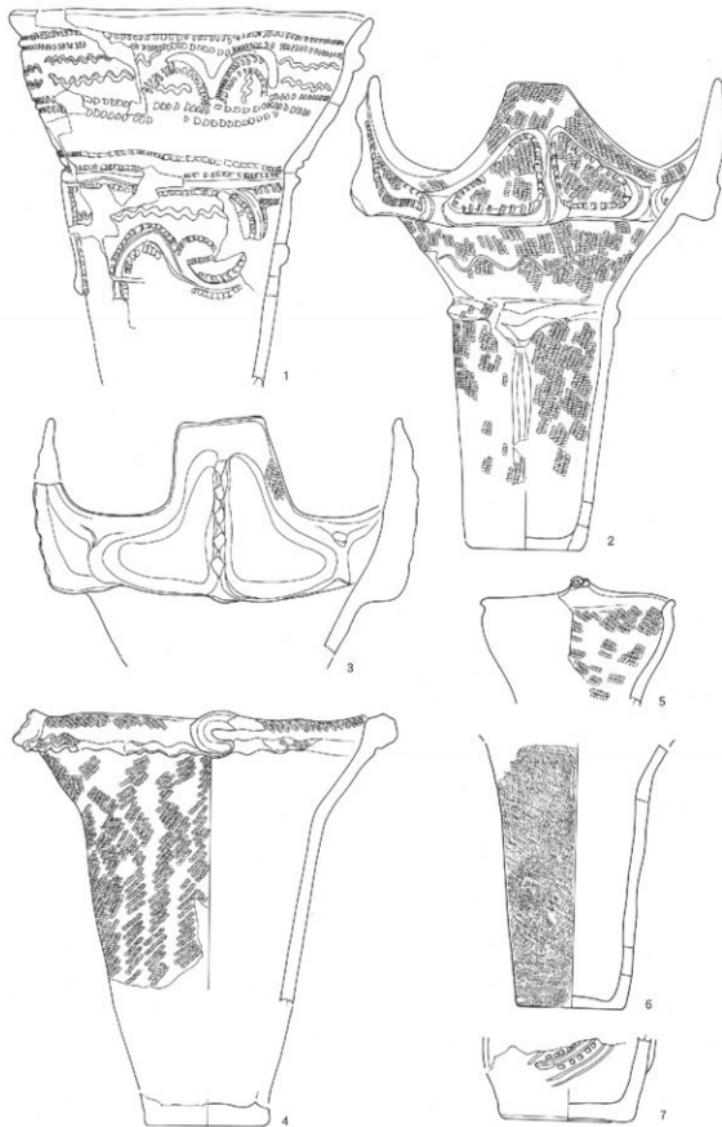


SK48 (2)



SK49

Fig.57 土坑SK48(2), 49出土遺物



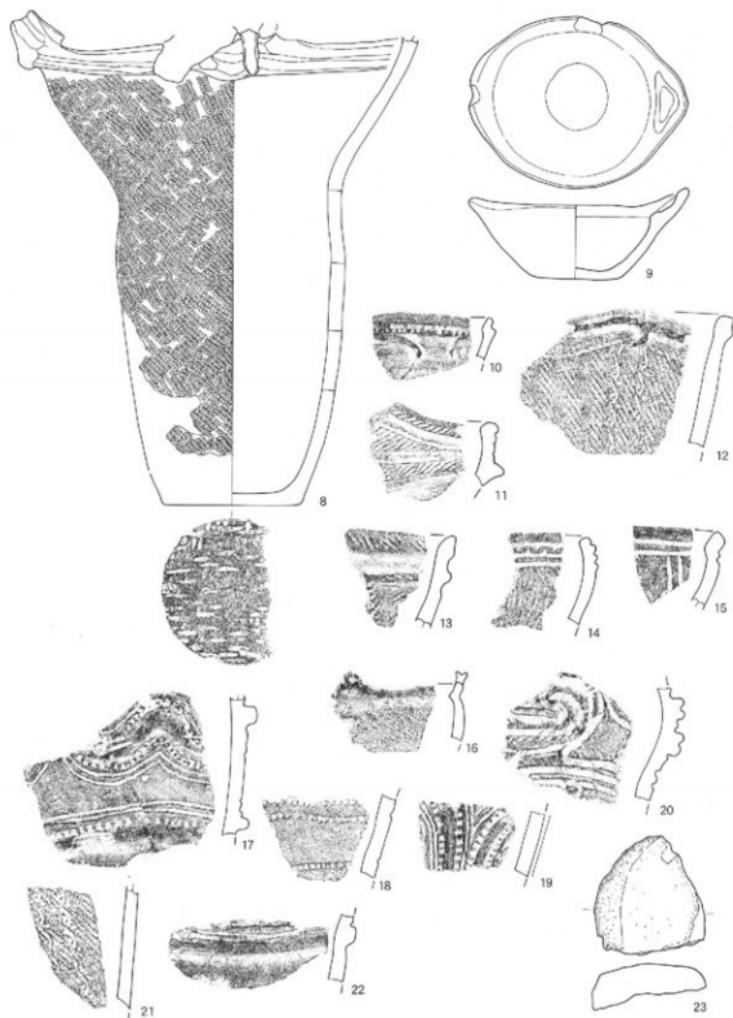
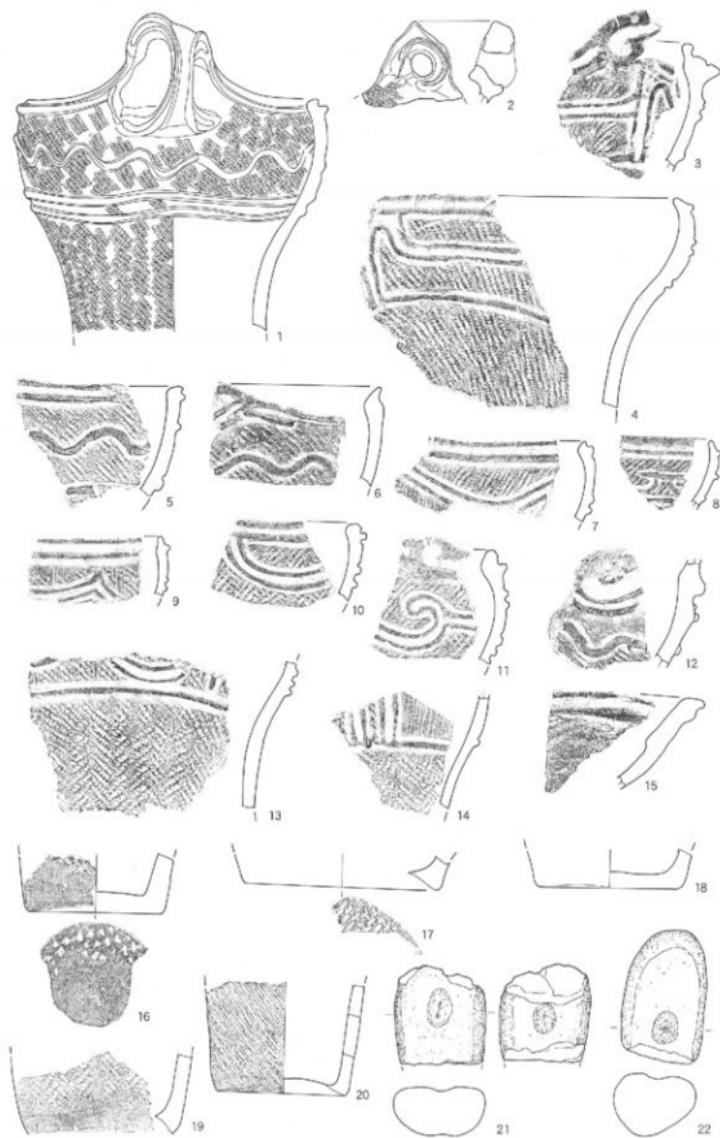


Fig.59 土坑SK50(2)出土遺物



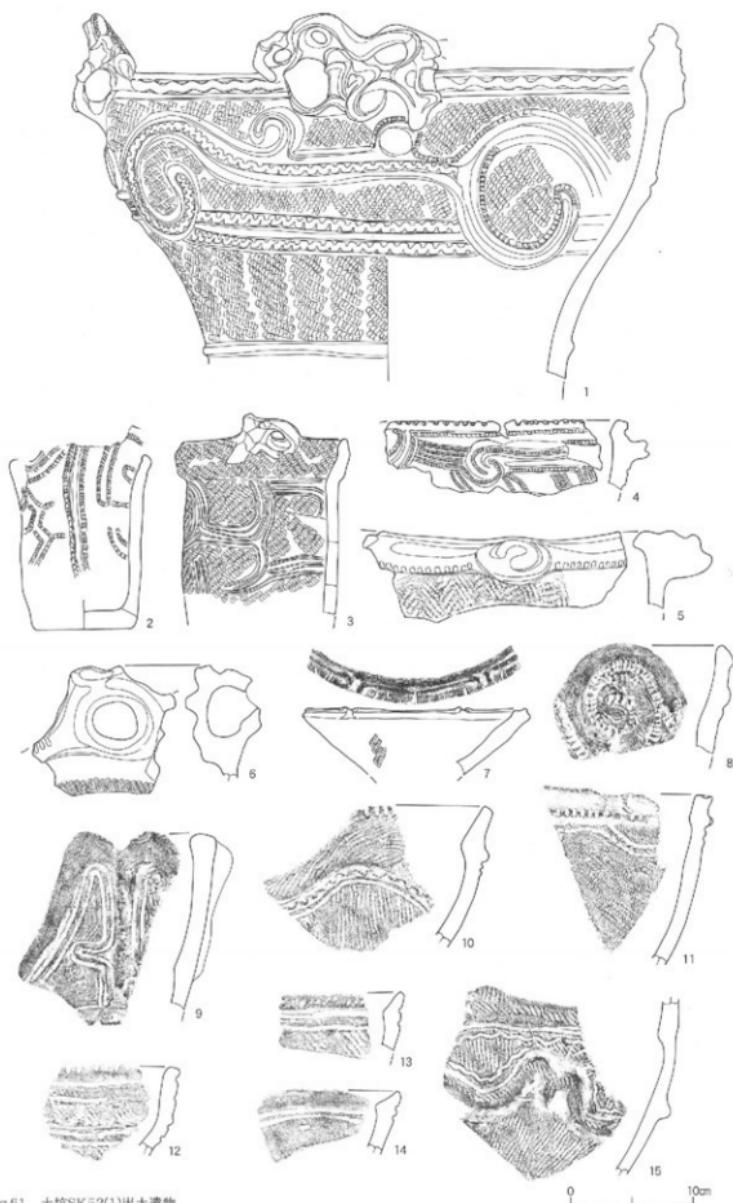
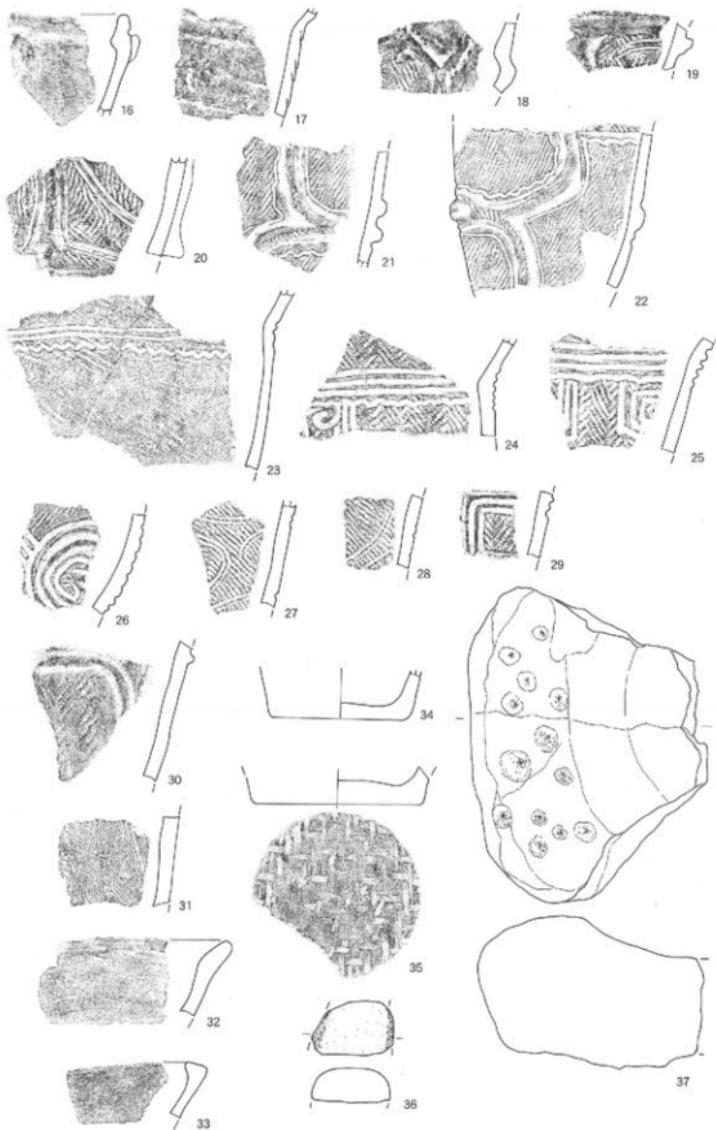


Fig.61 土坑SK52(1)出土遺物



て背割り状となり、さらに角押文による直状文や弧線文を充填する。5は肥厚する口唇部上に凹線による渦巻文をもつ。口唇端は刻みが巡り、胸部は羽状縞文が施されている。6は箱状把手で外面と左右側面からの窓状孔が開けられている。7は浅鉢。口唇部に隆帯による枠状文。胸部は単節RLを1回転単位施文されている。8の把手は隆帯に沿って2列の角押文が渦巻状に施文される。阿玉台Ⅲ式。9は扇状把手。頂部から隆帯を垂下させ、両側に平行沈線による三角形枠状文を施す。阿玉台Ⅳ式。15は波状口縁で、口縁部は隆帯と波状隆帯の区画文に添って、直状沈線と波状沈線の平行沈線文を施す。阿玉台Ⅳ式。20は波状口縁の把手破片。隆帯区画に沿って平行沈線文が施される。阿玉台Ⅳ式。21・22は縞文施文の隆帯に沿って沈線文が施文される。23~25は頸部下部に直状沈線と波状沈線による区画文。24・25・29は枠状文や懸垂文が垂下する。31は蛇行する櫛文。32・33は浅鉢。35の底部は網代痕。36は安山岩製の磨石。37は凝灰岩製の石皿。凹孔を伴う。

#### 土坑SK53 (Fig.63)

1は胸部がほぼ直線的に立ち上がり、口縁部で内湾する深鉢。1単位の突出する把手は内面からは眼鏡状、外側からは貫通孔を呈し、孔周縁は貼付隆帯による波状文。この把手隆帯に連結して口縁部隆帯が形成され、口縁部区画文となる。区画内は隆帯による波状文、渦状文、渦巻文、枠状文を配する。頭部は半截竹管状工具による平行沈線文を垂下させ、頭部で波状文を挟む直状文が区画文となり、胸部では直状文、蛇行文、弧線文を懸垂文として垂下する。大木8a式。2は口唇部が刻み目で、爪形文を施文する。3は背割り隆帯によるクランク文。5・6は縞文施文に平行沈線による区画文、枠状文、懸垂文を施す。7は口唇部が肥厚する波状口縁の浅鉢。

#### 土坑SK54 (Fig.63)

1は口縁部に平行して有筋沈線文が巡り、波状沈線文が2条平行する。2は口縁部が外反し、隆帯を区画文に半截竹管状工具による波状文を2条巡らし、頸部に隆帯区画内に平行沈線による枠状文を垂下させる。3は口縁部上端に縦方向の円形刺突文を施し、押圧隆帯に沿って爪形文が施される。4は隆帯区画内に3列の有筋沈線文を巡らす。5・6・8は縞文地文に沈線による区画文、枠状文を施す。9・10は浅鉢。

#### 土坑SK55 (Fig.63)

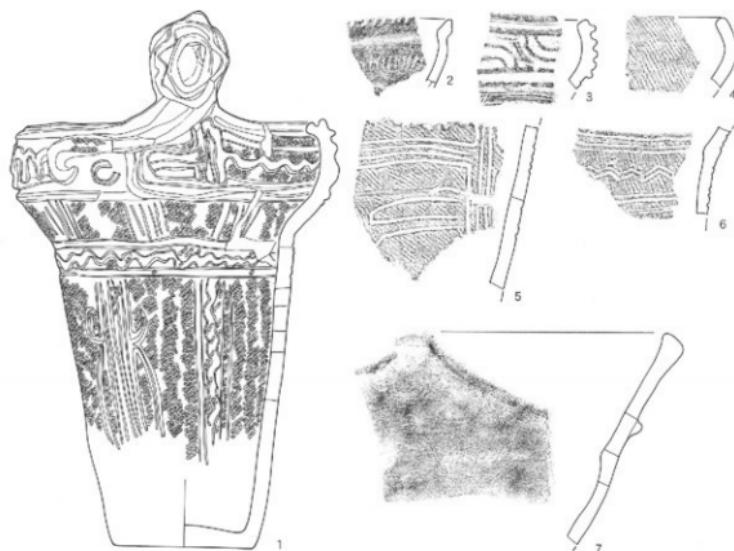
1は口縁部破片。沈線による波状文を横走させる。2は貼付隆帯による文様。3は3本単位の沈線懸垂文を垂下させる。

#### 土坑SK56 (Fig.64)

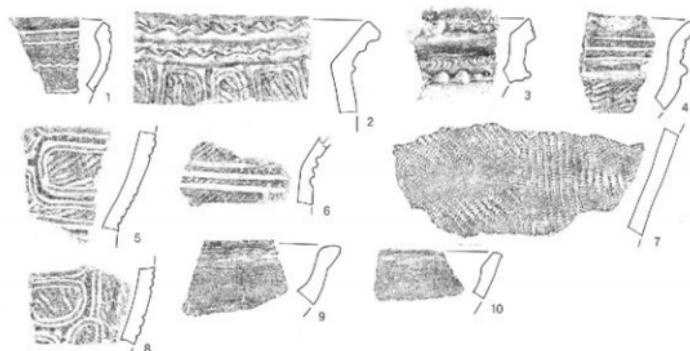
1は橋状把手を有し、橋状部および口縁部は角押文による渦巻文、枠状文を施す。2も橋状把手を有し、背割り隆帯による枠状区画文。波頂部には貼付隆帯による渦巻文を配する。3は口縁部にS字状文の背割り隆帯が貼付けられている。大木8a式。4は口縁部が内湾する。単節RL縞文が施文された枠状区画文内の隆帯に沿って2条の沈線が巡る。5は把手破片。円孔と隆帯内には角押文が施文される。6は波状による貼付隆帯。7は口唇部下位に押圧を加えた隆帯を巡らす。9・12は同一個体。断面三角形の2条並行隆帯による区画文と懸垂文。12の底部は網代痕。14は刻みが施された隆帯間に爪形文を巡らす。15の底部は網代痕。16は小型の櫛形打製石斧。17・18は磨石。19は凹孔を伴う台石。

#### 土坑SK57 (Fig.65)

1は胸部が直線的に立ち上がり、頭部で屈曲して内湾し、口縁部は外反する。単節LRを縦位施文する。大木8a式。2の波頂部は山形状を呈し、円形隆帯上は刻みを施し、隆帯に沿って2列の角押文を施文。3は把手で、波頂部は背割り隆帯によるC字状文。隆帯に沿って1列の角押文が伴う。4も山形突起。波部は眼鏡状の楕円形区画文をもち、口縁部に沿って1列の角押文が施文されている。5も波状口縁で、口縁部上端は3列の角押文を巡らす。6も波状口縁。口唇部に刻みのある隆帯を施文し、隆帯に沿って2列の角押文が施されている。8・10は低い隆帯による精円形区画文で、10は櫛齒状工具による波状文。9はY字状の隆帯を垂下させ、隆帯に沿って1列の角押文と胸部には爪形文。11は平行沈線による区画文間に波状文を横走させる。12は隆帯を垂下させる。隆帯の両側面はナデ調整が施されている。13は浅鉢の底部破片。14は石皿の破片である。



SK53



SK54



92

SK55

Fig.63 土坑SK53、54、55出土遗物

0 1 10cm

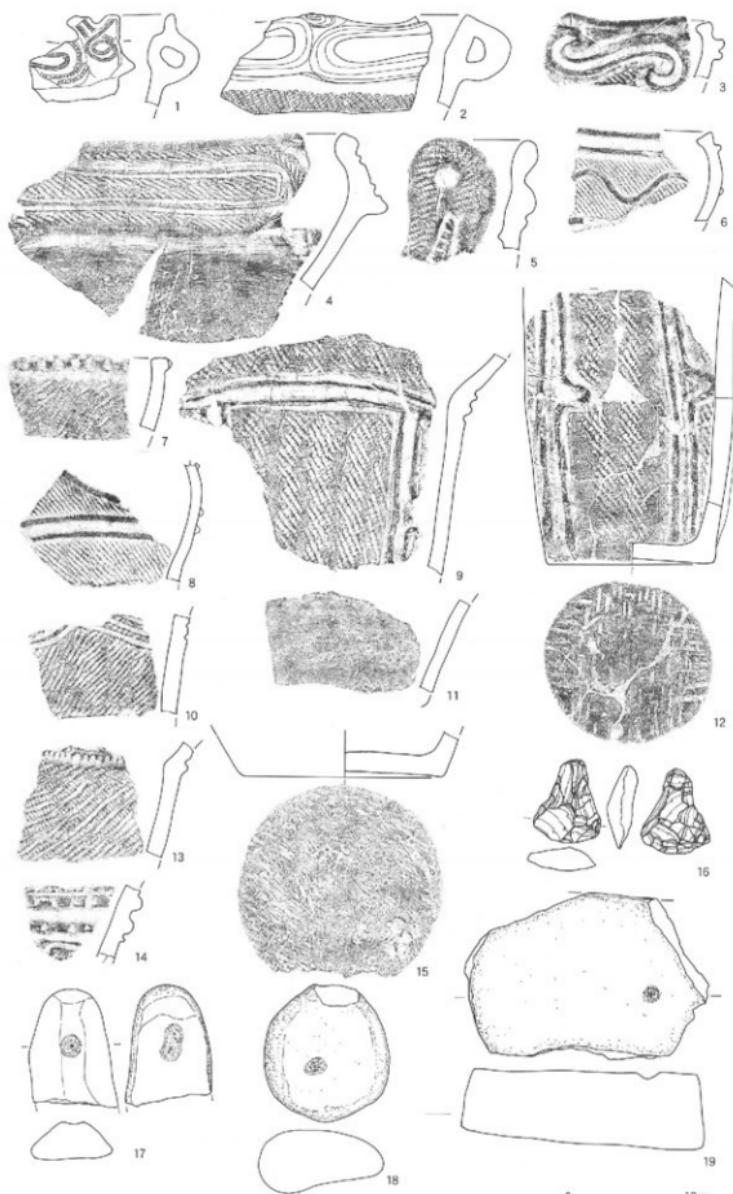


Fig.64 土坑SK56出土遺物

**土坑SK58 (Fig.65・66)**

10は4単位の波状口縁の深鉢。橋状把手を有する。口縁部に沈線による区画文を配し、縦位の弧状沈線を充填させる。阿玉台IV式。1・2は箱状把手をもつ。1の把手は左右からの貫通孔と垂直方向と正面からの孔があり、把手上には貼付隆帯による満巻文が施文されている。2は左右からの貫通孔があり、把手上には隆帯と沈線による満巻文を施す。3は橋状把手。4は隆帯による梢円形区画文に沿って円形刺突文を巡らし、縦位の貼付隆帯にも連続する円形刺突文を垂下させる。5は口唇部に刻みを入れ、口縁部上端に1列の角押文を巡らし、区画内は鋸齒状の間隔の開く結節沈線文を施す。6は波状口縁で、横走する波状隆帯に沿って1列の角押文を施す。7は背割隆帯の梢円形区画文内は角押文が施され、頂部に隆帯満巻文が付される。8は山形把手。純文施文の隆帯に沿って沈線区画を施し、区画内に沈線文を充填させる。9・11は背割り隆帯による梢円形区画文。頸部は多条の直状沈線文に波状沈線文を間走させる。なお、11の口唇部下部に角押文が巡る。12は隆帯間に角押文を施す。13は波状口縁、背割隆帯による区画文。14は口縁部下に交互刺突文に爪形文が並走する。15は貼付隆帯による波状文。16は貼付隆帯による満巻文と枠状文を配する。17は隆帯に沿って1列の角押文が施文されている。18は沈線による枠状区画文内に沈線を横走させる。19は刻みのある突起を縦位に貼り付ける。20は短く立ち上がる口縁部下部に2列の三角形刺突文が巡り、頭部に三叉文が配される。勝坂式新期。29は波状口縁の浅鉢。30は石皿。31は安山岩製の磨製石斧。32・33は磨石であるが、33は砥石として使用している。

**土坑SK59 (Fig.67)**

1・2は隆帯に沿って1列の角押文が施文されている。阿玉台Ia式。3は貼付隆帯による横位波状文。4は口縁部が無文で外反し、口縁下に交互刺突文が巡り、突出した満巻文を有する背割隆帯が区画文となり、区画内に縦位の沈線文を充填する。中軸タイプ。5・6は沈線の沿う隆帯による枠状区画文。5は区画内が縦位の沈線文。6は円形刺突文。7は磨消懸垂文を垂下させる。

**土坑SK60 (Fig.67・68)**

1は3山の双頭状を呈する山形把手をもつ。波頂部は隆帯による円形区画文を配し、隆帯区画に沿って沈線が巡り、区画内は波状文を施し、さらに直交するように直状文と蛇行文を垂下させる。波頂部から連結した隆帯は口縁部で三角状区画文を作出させ、区画内は沈線文で充填する。頸部は無文帯で、胴部は隆帯により区画され、胴部は沈線の沿う隆帯による満巻文を呈し、波状沈線文を施す。阿玉台IV式。2は4山の山形把手を持つ深鉢。波頂部から平行隆帯が垂下し、口縁部下部で垂直から貫通する橋状突起をもつ。口縁部下部は押圧隆帯が巡る。胴部は隆帯による蛇行垂線、地文は単節RL純文。3は平縁の深鉢で、4単位のV字状隆帯を貼り付ける。口唇部も肥厚する。阿玉台IV式。4は深鉢の胴部下半の破片。純文地文に平行沈線による枠状垂線。大木8b式。5は三角形状把手。波頂部は円孔を有し、ここから太隆帯が垂下する。6は中空の眼鏡状把手である。端部は沈線で縁取られ下位は沈線の沿う隆帯が区画文となる。8は波状口縁で、口縁部下では幅狭い隆帯による梢円形区画文。9は口縁部の背割隆帯上に粘土紐を鋸齒状に貼付する。10は口縁部に刻みのある小突起が縦位に貼付られている。11は垂直に穿孔された突起を有する。口唇部および口縁部に角押文が巡る。12は背割隆帯による区画文。13はキャリバー形の深鉢。沈線の沿う隆帯による満巻文と枠状区画文の連結。14は胸部破片。隆帯による梢円形区画文に沿って1列の角押文が施文されている。16は無文地に断面三角形の隆帯の区画文と懸垂文。17は浅鉢。口縁部下端は連続三角形刺突文が巡る。18は無節しを地文に3条の沈線文が巡る。19は単節RL純文を地文に平行沈線による幾何学文。20は横走する隆帯。21は条線文を垂下する。22は浅鉢の波状口縁。25は網代痕。26は凹孔が並列する磨石。27は輕石製品で、内面の凹部に擦痕がみられる。

**土坑SK61 (Fig.68・69)**

1は深鉢の山形把手。Y字状隆帯が垂下し、隆帯に沿って1列の爪形文が施文される。阿玉台III式。2は連続する三角形刺突文を区画文とし、区画内にも充填文させる。勝坂式。3は隆帯による梢円形区画文。隆帯に沿って1列の爪形文を施す。4・16は同一個体。4は口縁部で口唇部は肥厚し、内側に突出する。口縁部上位は半截竹管

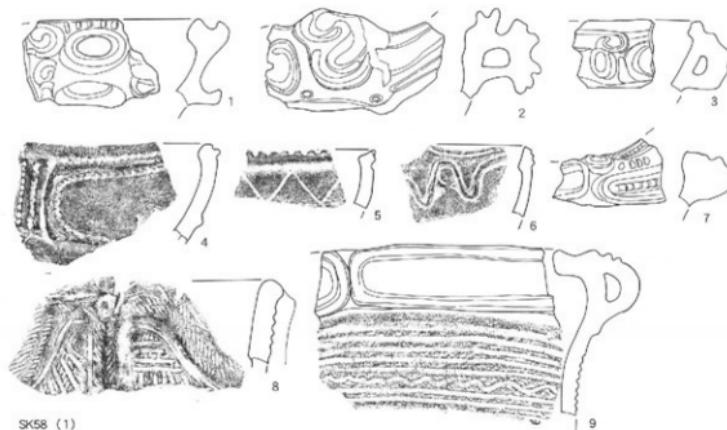
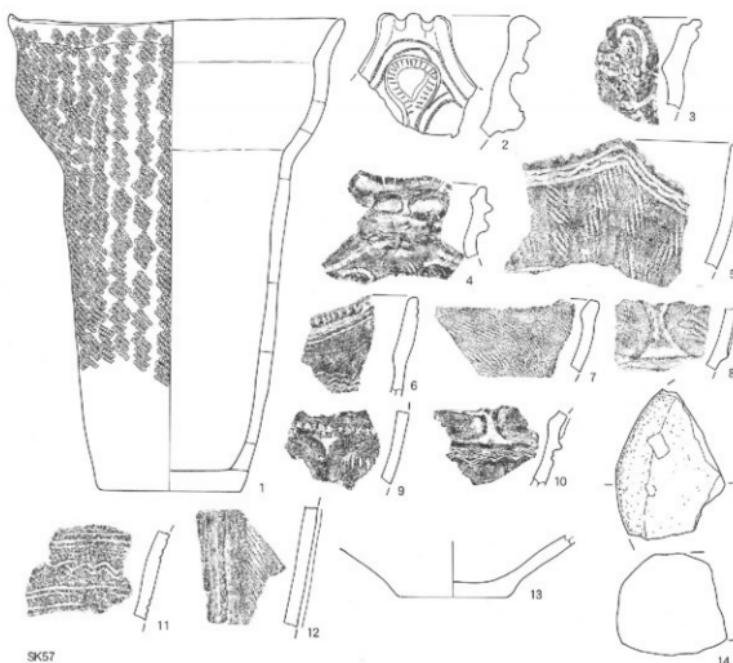
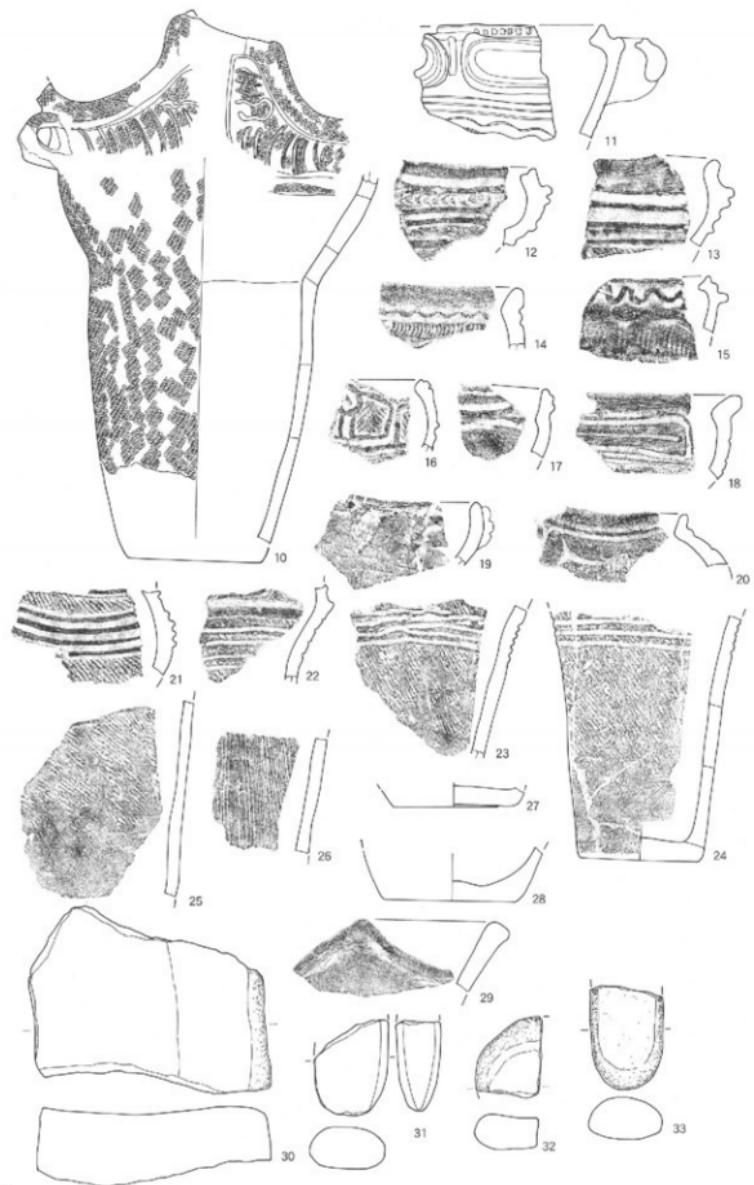


Fig.65 土坑SK57、58(1)出土遺物



による平行沈線を巡らし、縦位の3本の短沈線によって囲まれる。口縁部も平行沈線による文様構成されるが、円孔・三角孔を配する。16の胴部も平行沈線による幾何学文や満巻文を施し、円孔を伴う。胎土に石英・黒色粒子・長石を含む。火焔系土器である。5は楕状把手を有する深鉢。把手は背割貼付文を配し、隆帯による区画文は横沈線文が施されている。6・9は同一個体。波状口縁の深鉢で縄文施文の陰帯は楕状区画を呈し、隆帯に沿って1列の爪形文を施す。7は纏文隆帯を区画文とし、平行沈線が沿う。8は平行沈線によるモチーフ。10は楕円形突起と幅広の背割隆帯を巡らす。11・12は纏文地文に隆帯を区画文と懸垂文として垂下させる。13は波状口縁を呈する深鉢。三角形区画文の隆帯に沿って2列の角押文が施文されている。阿玉台II式。14は胴部破片。横走隆帯に沿って1列の角押文が施されている。15は隆帯区画に沿って平衡沈線を施文する。17の底部は網代痕。19は浅鉢の底部。21は安山岩製の磨石。塊状を呈している。

#### 土坑SK62 (Fig.69)

1は阿玉台式の円盤状を呈する把手。中央に円孔を施す。2は背割り状を呈する隆帯による区画文。加曾利E1式。3は縄文地文に沈線による懸垂文が垂下する。

#### 土坑SK63 (Fig.69・70)

1・3～9・11はキャリバー形の深鉢。1は口縁部は貼付隆帯による満巻文とクランク文を配する。2は波状口縁。波頭部は短沈線を施し、口縁部には隆帯に沿って1列の円形工具による連続刺突文を施文する。3・5は同一個体。背割れ隆帯による満巻文に剣先文が連結する。4・6は同一個体。背割れ隆帯によるクランク文。9の口縁部は上下端が背割れ隆帯で区画され、区画内は背割れ隆帯による剣先文と連結する満巻文やクランク文を配する。10はV字状隆帯が貼付される。12は2列平行する結節沈線文による満巻文。13は浅鉢。隆帯により弧線文が貼付される。赤彩が施されている。14は安山岩製の凹孔を伴う磨石。15は石棒。凹孔を伴う。16は磨痕と凹孔を伴う磨石。

#### 土坑SK64 (Fig.70・71)

1は結節沈線による区画文内に縦位の結節沈線文を充填する。2は円形隆帯に沿って角押文が施文される。3は口縁部上端がわざかに外反する縄文施文の深鉢。4～8はキャリバー形の深鉢。沈線の沿う隆帯による満巻文と連結する楕状区画文。8・9は縄文地文に沈線による懸垂文を垂下させる。10は浅鉢。11の底部は網代痕。

#### 土坑SK65 (Fig.71)

1は結節沈線による区画文。阿玉台III式。2は胴部破片。縄文地文に2本単位の沈線によるモチーフ。加曾利E1式。

#### 土坑SK66 (Fig.71)

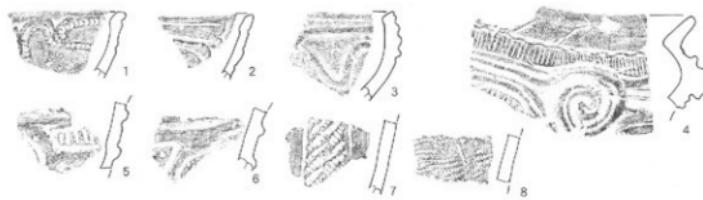
1は結節沈線による懸垂文。阿玉台III式。2は無文土器。

#### 土坑SK67 (Fig.71)

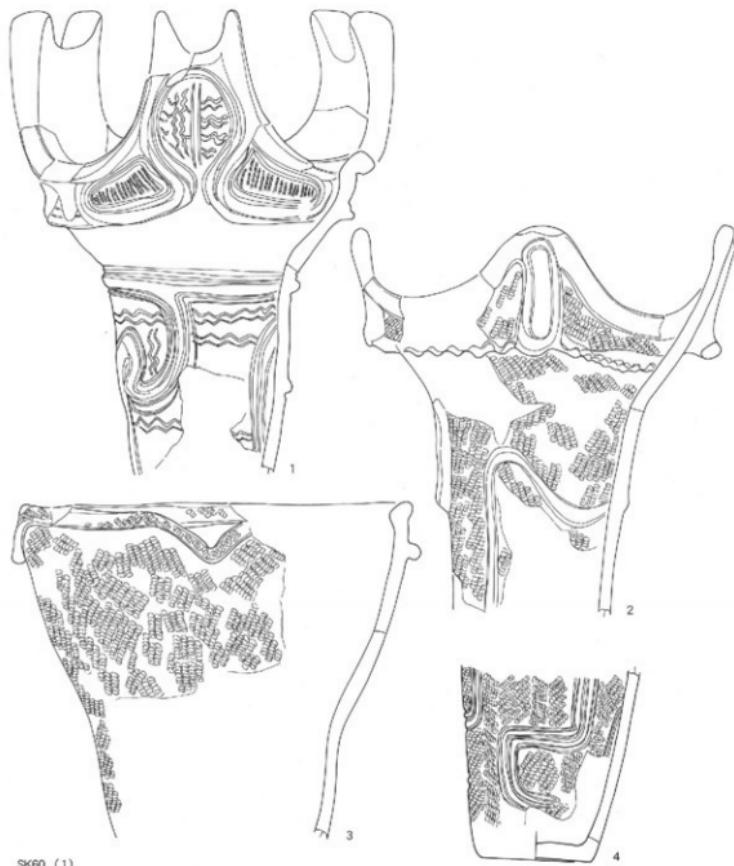
1は隆帯による満巻文に沿って角押文を施す。2は口縁上端で隆帯による波状文を巡らす。連続コの字文を巡らす。3は平行沈線による区画文と懸垂文。4は単節RL縄文。

#### 土坑SK69 (Fig.71・72)

1は頸部で括れ、口縁部は肥厚して外反する。口縁部は沈線による楕円形区画文と満巻文を配し、下部は押圧の加え被打状となる。頸部は無文帯とする。胴部は3条の沈線を区画文とし、沈線による横位の区画文に連結する満巻文を配する。地文は単節RL縄文。2～6・8・9・12・14～18は加曾利E1式のキャリバー形の深鉢。隆帯による区画文と波状文を施文する。2は口縁部が隆帯によって区画され、背割れ隆帯によるクランク文を施す。7は口縁部を無文とし、背割れ隆帯による満巻文に連結する区画文内は弧状沈線が充填する。頸部も無文。10はキャリバー形の深鉢頭部付近の破片。隆帯による区画文で、隆帯上は縄の側面圧痕を施し、胴部は縦位の条痕文。11は頸部付近の深鉢。背割れ隆帯による区画文に平行沈線による直状文と波状文を伴う。19・20は浅鉢。20の口唇部は内外面に突出する。22は刃部を欠損する磨製石斧。24は縄雲母片岩製の磨製石斧。研磨が十分ではない。23は肥厚する打製石斧。25・26は磨石。凹孔を伴う。27は安山岩製石皿の破片。凹孔を伴う。



SK59



SK60 (1)

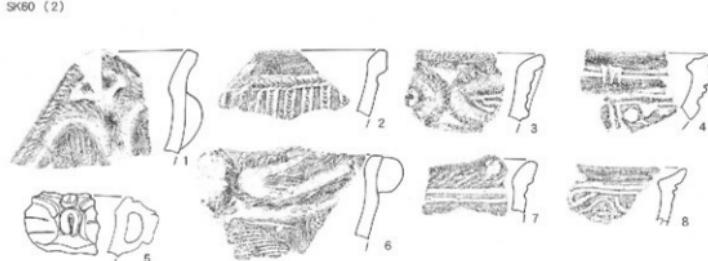
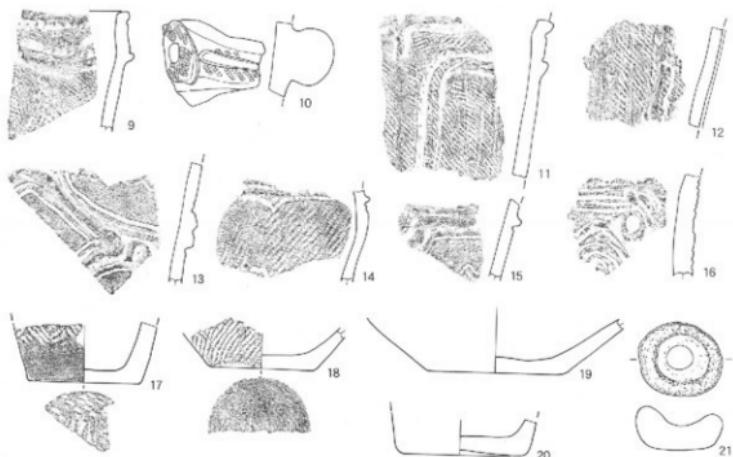
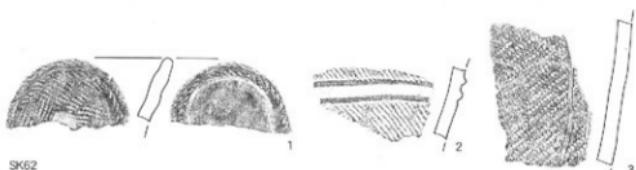


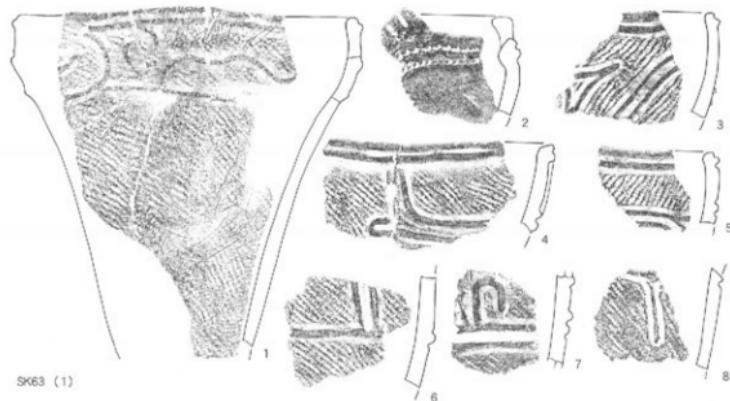
Fig.68 土坑SK60(2)、61(1)出土遺物



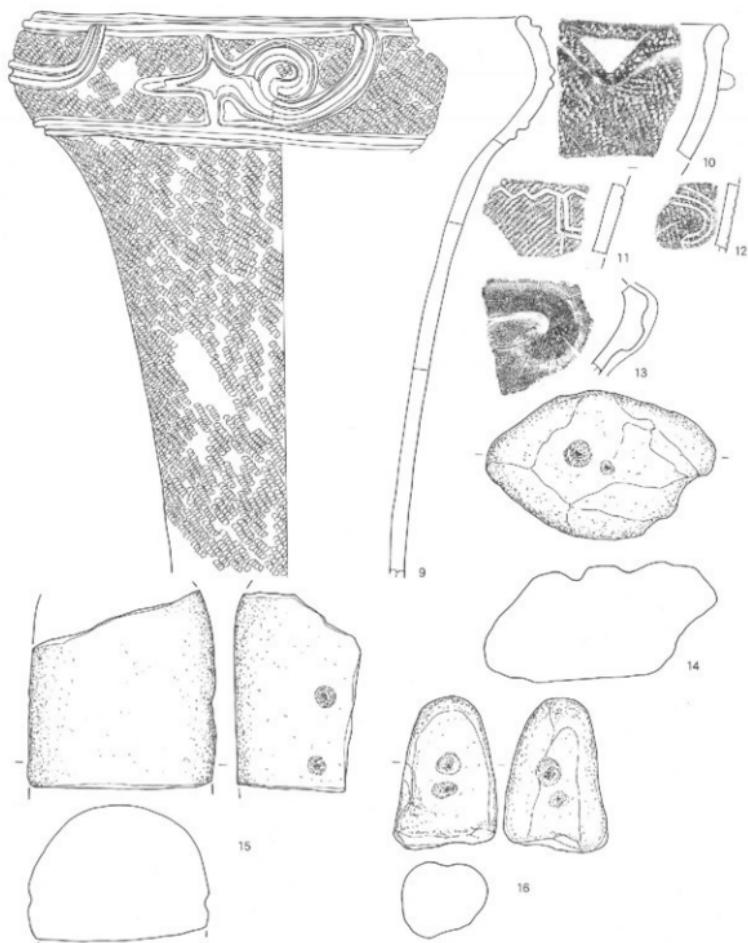
SK61 (2)



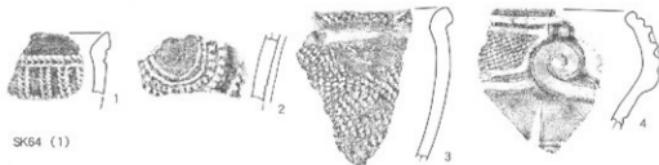
SK62



SK63 (1)

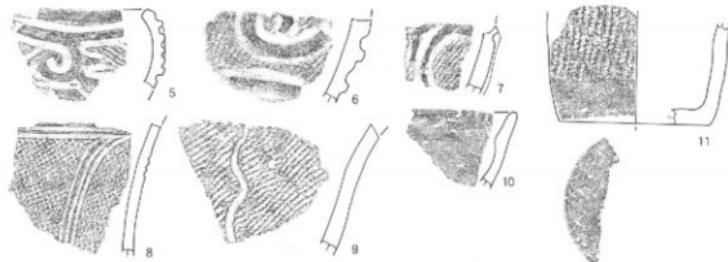


SK63 (2)



SK64 (1)

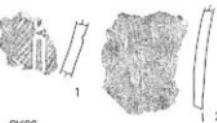
Fig.70 土坑SK63(2)、64(1)出土遺物



SK64 (2)



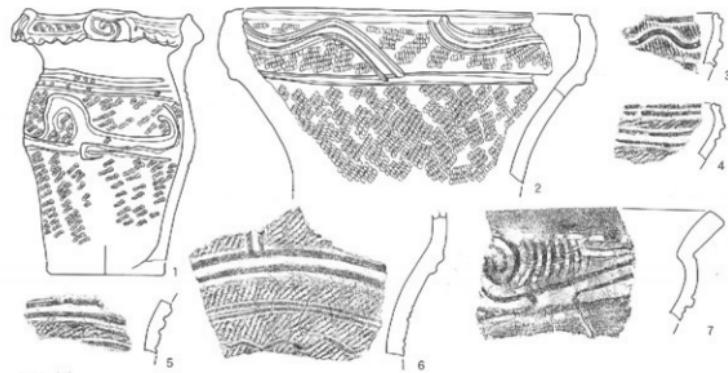
SK65



SK66



SK67



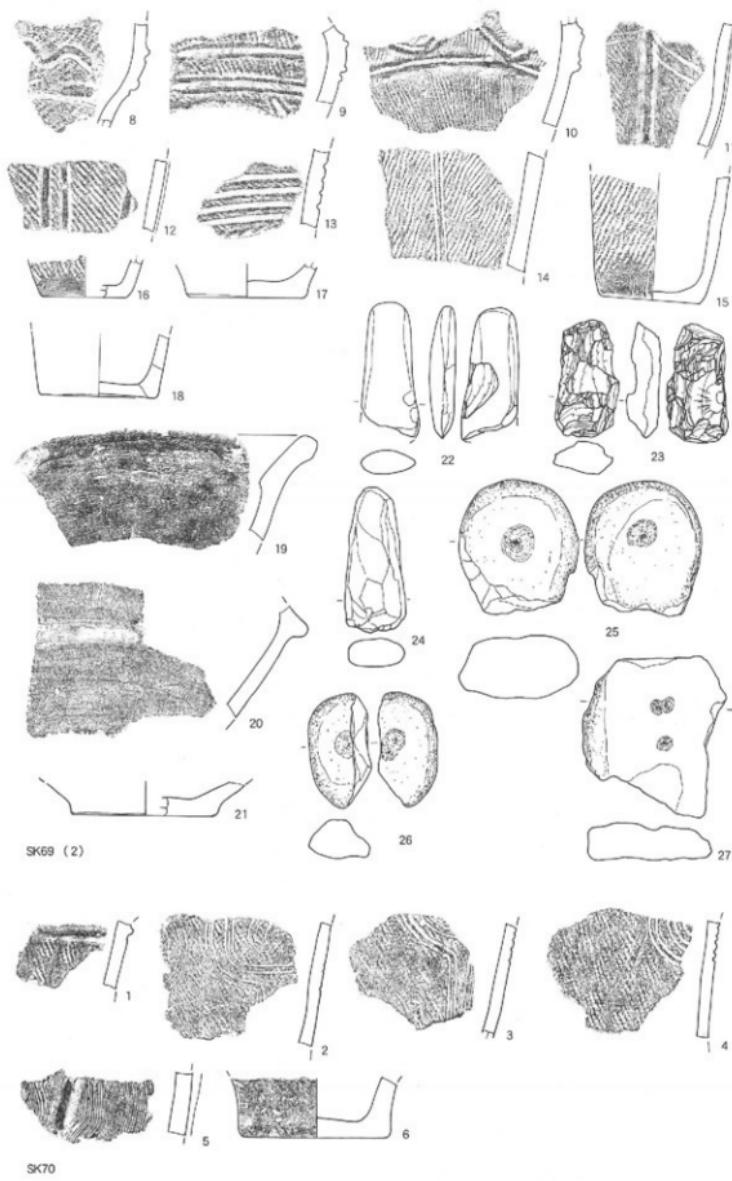


Fig.72 土坑SK69(2)、70出土遺物

**土坑SK70 (Fig.72)**

1は隆帯による区画文。2～4は同一個体。2本単位の沈線文によるモチーフ。5は条線文を垂下させる。加曾利E 1式。

**土坑SK71 (Fig.73)**

1はV字状隆帯の貼付。2は波状の把手破片。沈線による楕円形区画文に、波頂部は渦巻文を施文する。3は口縁部に隆帯による幅狭な区画文。地文は単節RL。4は縄文地文に貼付隆帯による区画文と区画内に波状文が施文され、下部には背割隆帯による区画文で渦巻文を伴う。5は貼付の背割隆帯区画文。6は口縁部を無文とし、交互刺突文を巡らす。8は隆帯に沿って2列の角押文を巡らす。9も隆帯に沿って2列の角押文を施す。11は角押文を垂下させる。

**土坑SK72 (Fig.73)**

1は大型の箱状把手で、沈線が沿う隆帯に縁取られた孔が外側と両側面には縦方向に2孔、頂部と内面には1孔開けられている。2・6は波状口縁の深鉢。2は口唇部下端が沈線による波頂部は渦巻文。口縁部上部区画は背割隆帯によって区画され、渦巻文を伴う。区画内は背割隆帯渦巻文と波状隆帯が連結する。6は背割隆帯と隆帯による区画文。3は波状口縁の深鉢。眼鏡状把手をもつ。把手は沈線により渦巻状に縁取られ、頂部と左右から孔が開く。4は波状口縁の深鉢で、眼鏡状把手が付く。把手は頂部、内面および左右方向から開けられている。口縁部は縄文地文に背割隆帯による区画文。

**土坑SK73 (Fig.73)**

1は撚糸文Lを地文に半截竹管状工具による平行沈線によるモチーフ。大木8 b式。2は底部破片。

**土坑SK74 (Fig.73)**

1は隆帯に沿って縄の側面圧痕が施されている。

**土坑SK75 (Fig.75)**

1は波状口縁の山形把手。隆帯に沿って沈線文を施す。区画内は縄文地文に沈線によるは縄文。阿玉台IV式。2・3は同一個体。隆帯による波状文を区画文とし、貼付隆帯による区画文と懸垂文を施す。大木8 a式。

**土坑SK77 (Fig.74)**

1は隆帯に沿って1条の角押文による楕円形区画文。2は2条の角押文が施されている。阿玉台II式。3は刻めのある隆帯を垂下させる。5は凹孔を伴う磨石。

**土坑SK78 (Fig.19・74)**

1は浅鉢で、隆帯による楕円形区画文内は単節LR縄文施文。2は貫通孔のある山形把手。口縁部に沿って角押文が施され、波頂部は渦巻文が配される。

**土坑SK79 (Fig.74)**

1は単節LR縄文施文の深鉢。

**土坑SK80 (Fig.75)**

1は三角形把手の破片。内面の左右から貫通し、波頂部に背割隆帯による渦巻文を配する。胴部は沈線による区画文。2は胴部破片。縄文地文に沈線文を施す。大木8 a式。

**土坑SK81 (Fig.74)**

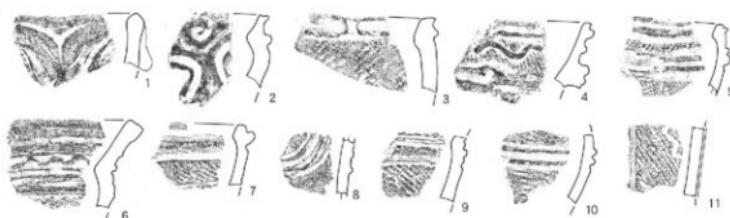
1は浅鉢の胴部破片。2は凝灰質砂岩製の多孔石。

**土坑SK82 (Fig.75)**

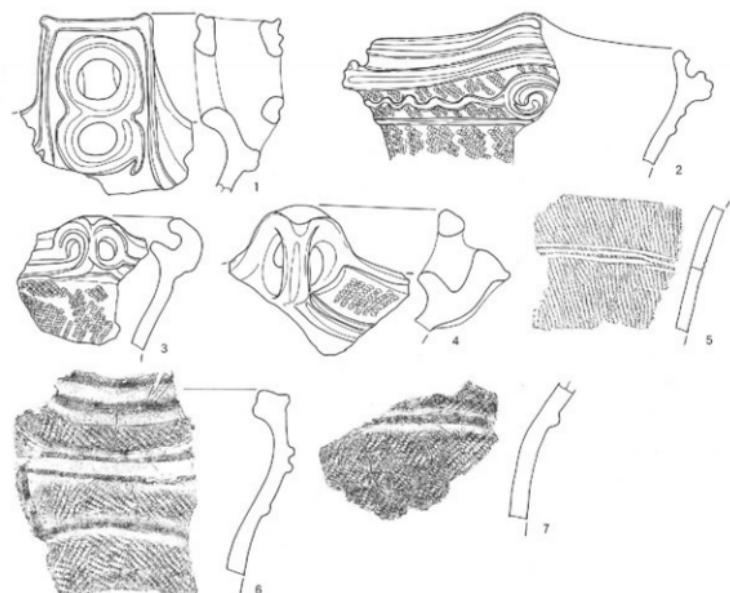
1・2はY字状隆帯を垂下させる。3は断面三角形隆帯の貼付。4は波状口縁で、結節線文による区画内に円形刺突文を充填する。5・6は爪形文を施す。

**土坑SK83 (Fig.75)**

1は無文の深鉢。口縁部が僅かに内傾する。底部は網代底。2～4は口縁部破片。隆帯区画内に結節沈線文によ



SK71



SK72

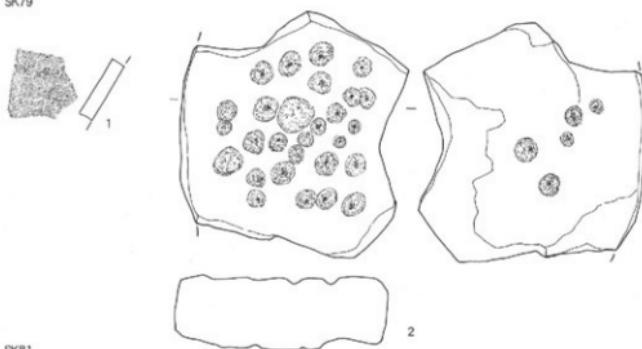
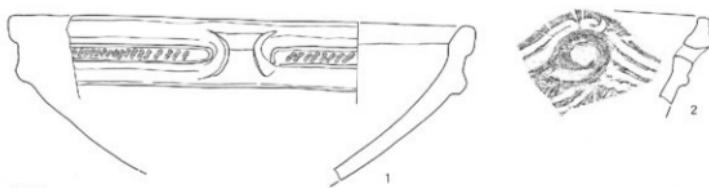
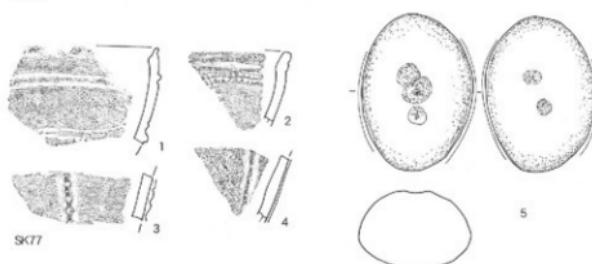


SK73



SK74

Fig.73 土坑SK71、72、73、74出土遺物



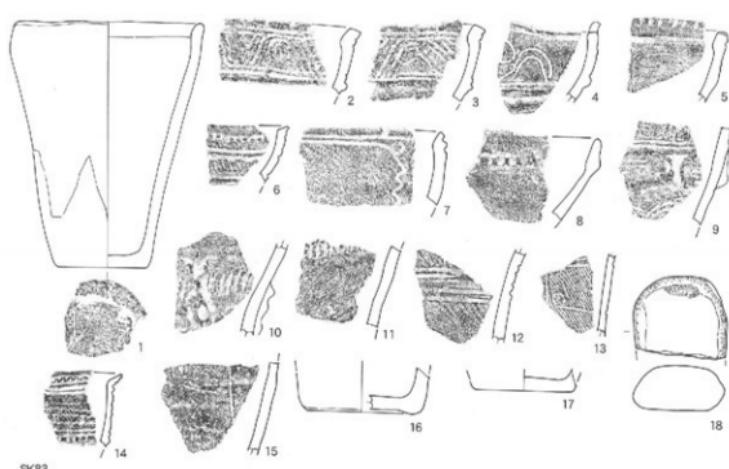
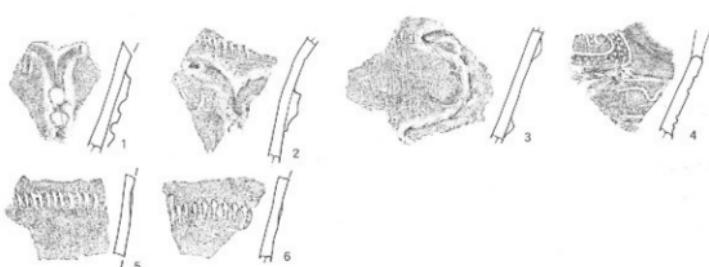
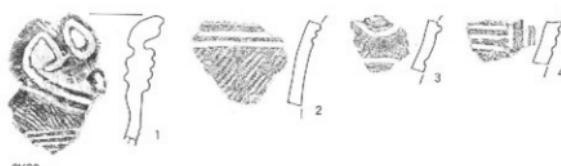


Fig.75 土坑SK80、82、83、85出土遺物

る波状文や曲線文を施す阿玉台Ⅲ式。5は口唇部に刻みを有し、半截竹管状工具による楕円懸垂文。6は口縁部上に下方からの刺突文を巡らし、平行沈線による区画文。7は縄文地文に沈線による区画文。蛇行沈線文を垂下させる。8は押圧を加えた隆帯を区画文とする。9は断面三角形隆帯による楕円形区画文。10・11は爪形文。14は口縁部に交互刺突文、胸部は縄の側面圧痕を施す大木7b式。15は有筋線文を1列垂下させる。18は敲打と磨痕を伴う安山岩製の磨石。

#### 土坑SK84 (Fig.76)

1は口縁部に無筋しが施文されている。2は波状口縁の深鉢。3は押圧を加えた隆帯が垂下する阿玉台式。4は敲打孔を伴う磨石。

#### 土坑SK85 (Fig.75)

1は磨消沈線が横走する。2は断面三角形隆帯が垂下する。

#### 土坑SK87 (Fig.76)

1は口縁部がわずかに外反する無文土器。2は単簡LR縄文。3は縄文地文に沈線区画文を施す。

#### 土坑SK88 (Fig.76)

1は口縁部が肥厚し、口唇部に角押文が巡る。2は波状口縁。口縁部に沿って1列の角押文。4も隆帯に沿って1列の角押文が施文される。阿玉台Ib式。3は縄文施文された隆帯に沿って沈線が施されている。5は押圧された隆帯が垂下し、爪形文が施文されている。

#### 土坑SK89 (Fig.86)

1は縄文地文に半截竹管状工具による平行曲線文。2は単筋RL縄文。

#### 土坑SK90 (Fig.86)

1は沈線の沿う隆帯区画文。加曾利E1式。

#### 土坑SK92 (Fig.76)

1は単簡LRを地文に平行沈線による曲線文。2は半截竹管状工具による平行沈線文。大木8b式。

#### 土坑SK94 (Fig.76・77)

1は波状口縁。隆帯に沿って2列の角押文を巡らす。2はY字状隆帯に沿って1列の角押文を施す。3も角押文。4・5は結節沈線による幾何学文、弧線文を施文する。6は小突起に隆帯による区画文に沿って角押文を巡らす。7は口縁部がくの字状に外反し、角押文による方形区画文。8は刻みのある小突起を縦位の区画文とし、棒状の隆帯区画内は結節沈線によるモチーフ。阿玉台Ib式。9は口縁部を無文とし、縄文施文の隆帯区画内は重疊する沈線文で充填する。10は隆帯区画内に角押文を巡らす。11は縄文地文にV字状隆帯を貼り付ける。12は刻目のある隆帯。13・15はひだ状の調整痕。17は石棒。現存の長さ21.36cm、亀頭の太さ13.76cmを測る。18は砂岩製の磨石。

#### 土坑SK95 (Fig.77)

1は縄文地文に断面三角形の隆帯が貼付られている。2は浅鉢の副部破片。

#### 土坑SK97 (Fig.23・77)

1は縄文地文に平行沈線による棒状文。2は隆帯が垂下する。

#### 土坑SK98 (Fig.77)

1～8・10～12は加曾利E1式のキャリバー形深鉢。1は口縁部に渦巻文。副部は平行沈線による区画文。2～8は沈線が沿う隆帯区画文。棒状文や渦巻文を施文する。9・13は浅鉢。9は沈線が沿う隆帯による区画文。10～12は縄文地文に沈線文が垂下する。

#### 土坑SK100 (Fig.77・78)

1は波状口縁の深鉢。隆帯による三角形区画に沿って爪形文が巡り、区画内は沈線区画に波状沈線が施文されている。阿玉台Ⅲ式。2は円形隆帯に沿って角押文が施される。3は隆帯に沿って爪形文が施文される区画文内に三

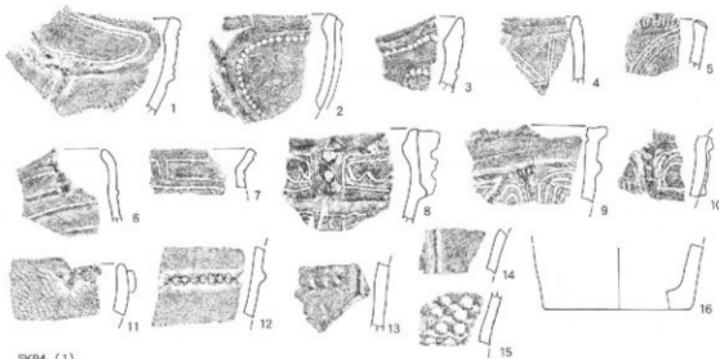
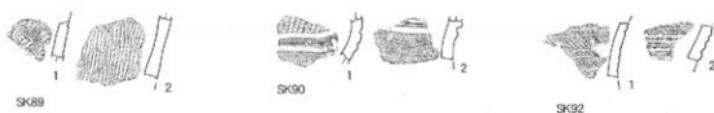
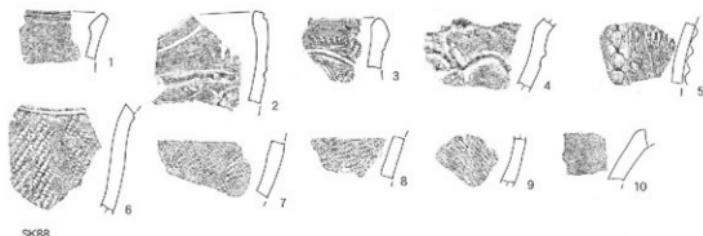
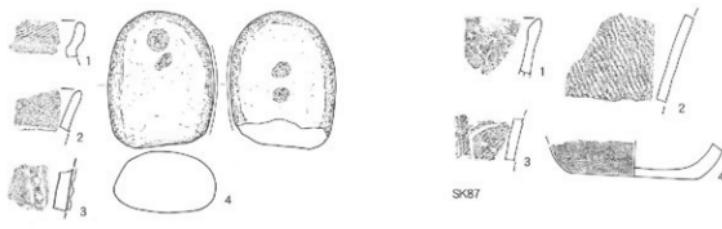
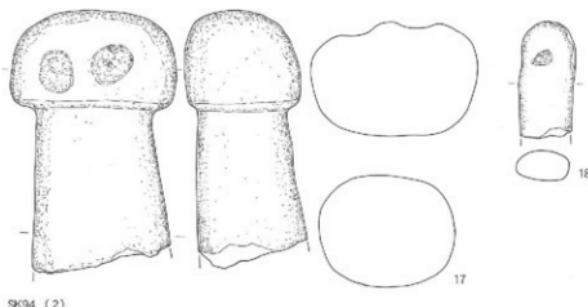


Fig.76 土坑SK84、87、88、89、90、92、94(1)出土遺物



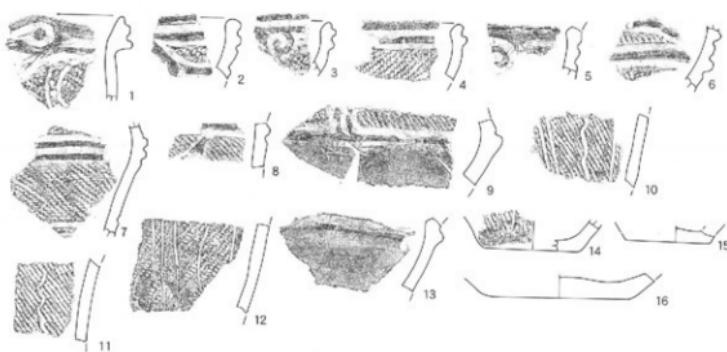
SK94 (2)



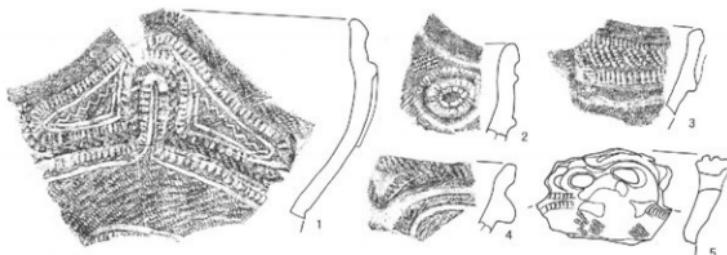
SK95



SK97



SK98



SK100 (1)

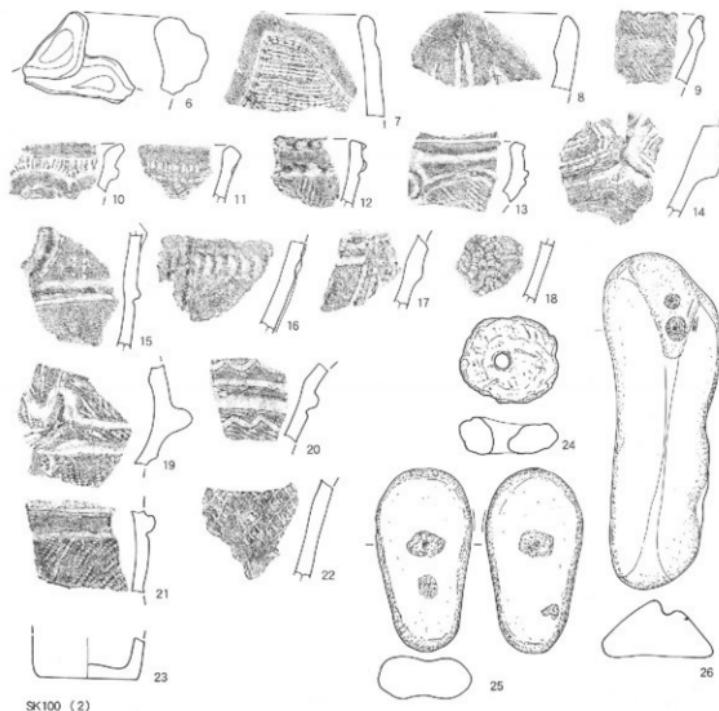


Fig.78 土坑SK100(2)、101、102、103出土遺物

角形刺突文が充填する。4はV字状貼付隆帯に、平行沈線による曲線文。5は眼鏡状に貫通孔のある把手。波頂部には貼付隆帯による楕円形文や波状文が施文されている。6は円盤状の把手。口縁部は角押文が巡る。7・8は山形把手。7は隆帯区画内に3列単位の角押文を充填する。8は2列の角押文を垂下させる。9は口縁部が肥厚し、口唇部に刻みを入れる。10は隆帯区画内が爪形文が充填する。11は口唇部が肥厚し、角押文による幾何学文。12は波状口縁。2列の隆帯上に押圧が加えられている。13は貼付隆帯による円形文と区画文。口縁部上部は無文帯。14は隆帯に沿って2列の角押文が巡る。15は隆帯に沿って1列の角押文。16は胸部破片で爪形文。17・18は2列の角押文によるモチーフ。19は太隆帯による区画文。20は胸部破片。隆帯区画の上下に波状沈線文。22は縄巻綱文しにLを左巻きにした原体による施文。の24は有孔軽石製品。中央に両側から穿孔されている。25・26は砂岩製の磨石で磨痕と凹孔が伴う。

#### 土坑SK101 (Fig.78)

1は口唇部に刻めがあり、角押文によるモチーフ。2～4は隆帯に沿って1列の角押文が施文される。5は縄文地文に弧状の平行沈線。6は隆帯による楕円形区画文内に結節沈線文を充填する。7は3列の角押文。8は押圧の加えた隆帯をもつ。

#### 土坑SK102 (Fig.78)

1は浅鉢胸部の小破片。ヘラナデ整形が施されている。

#### 土坑SK103 (Fig.78)

1は有節沈線文によるモチーフ。大木8a式。

#### 土坑SK104 (Fig.79)

1は隆帯による棒状区画文に沿って爪形文が施文される。阿玉台Ⅲ式。2・3は頸部破片。角押文による直状文で区画し、下位を角押文のモチーフをもつ。4は波状の条線を横走させ、下位に爪形文を重疊する。

#### 土坑SK105 (Fig.79)

1～3はキャリバー形の深鉢。1は波状口縁で、口縁部上端は太沈線による渦巻文。口縁部は背割隆帯による渦巻文。2・3は同一個体。背割隆帯による区画文に、渦巻文やクランク文が貼付られ、隆帯に沈線が沿う。8・9は磨石。8はは磨痕と敲打痕。9は磨痕と敲打痕が伴う。

#### 土坑SK106 (Fig.79)

1はキャリバー形の深鉢。4単位の波状口縁のうち山形状を呈する3山が欠損。1山のみ扁平の橋状把手。口縁部は橋状把手から背割隆帯による連結した渦巻文と横S字文に劍先文、縦位の区画文を施し、渦巻文下部に区画文を垂下させる。頸部は隆帯により区画される。大木8b式。2は背割隆帯による渦巻文に劍先文が付く。また渦巻文の下部に接続して縦位の区画文が貼付られている。3は浅鉢の頸部破片。沈線による文様が施文されている。4・5は背割隆帯による渦巻文、区画文。7は縄文地文に半截竹管状工具による平行沈線文のモチーフ、懸垂文。8は無文土器。粗いヘラケズリ調整。9は隆帯により区画され下部は無文部を有する。加曾利E1式。

#### 土坑SK107 (Fig.80)

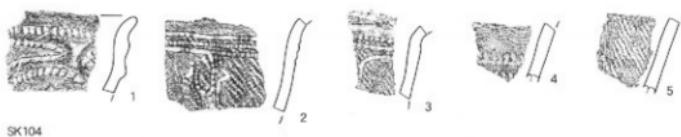
1～4・6はキャリバー形の深鉢。沈線が沿う隆帯による渦巻文に、2は劍先文が伴う。5は波状口縁で、口縁に沿って2条の沈線間に波状沈線文が巡り、波頂部は刻みが入る。8～10は磨消沈線文が垂下する。12～16は浅鉢。12は口縁部に隆帯による楕円形区画文が配され、隆帯に沿って2列の角押文と爪形文が巡り、2列の結節沈線による範圍状文が施される。阿玉台Ⅱ式。13・14は口縁部が内湾する。16の底部は網代痕。

#### 土坑SK108 (Fig.80)

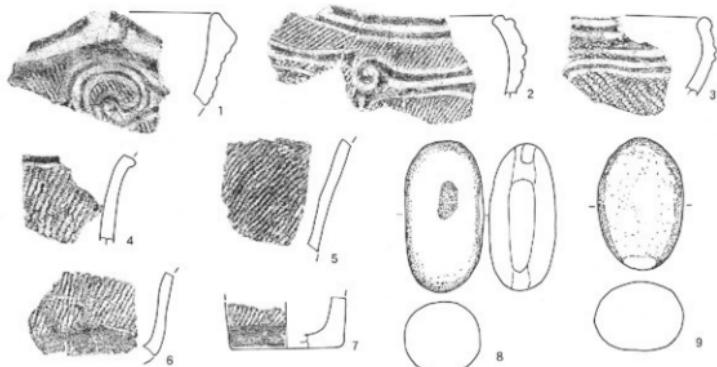
1は口唇部に刻みの入った低い扇状把手を有し、隆帯区画文に沿って角押文が施文され、口縁部隆帯上は円形刺突文が施されている。2はヒダ状の調整痕がみられる。3は安山岩製の磨石。

#### 土坑SK110 (Fig.81)

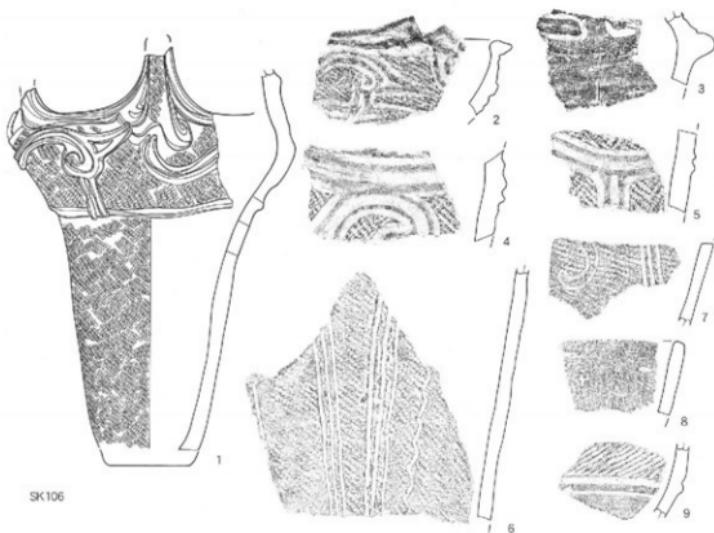
1は楕円形区画文の隆帯に沿って2列の角押文が施文されている。2は口唇部が肥厚し、無文土器。3は隆帯に



SK104

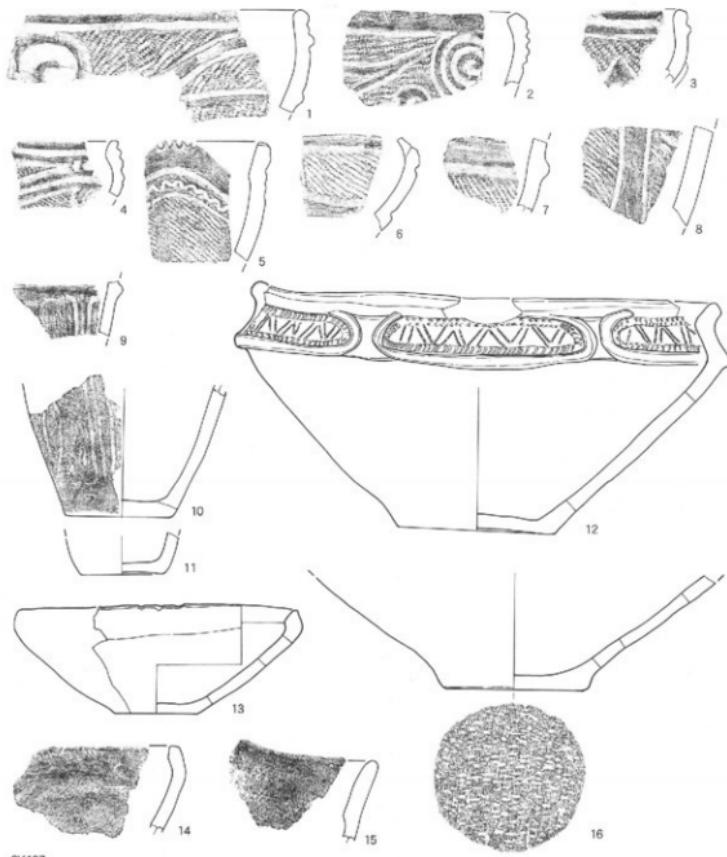


SK105



SK106

Fig.79 土坑SK104、105、106出土遺物



沿って角押文が施文される。4はV字状貼付文。5は結節沈線によるモチーフ。

#### 土坑SK111 (Fig.81)

1は隆帯上に縦文施文し、隆帯に沿って爪形文を巡らす阿玉台Ⅲ式。2・3は同一個体。波状口縁で口縁部が肥厚する。4は鉢形で、口縁部は折り返し口縁である。

#### 土坑SK112 (Fig.81)

1は細隆帯による円形文と区画文を施し、細縞帶に沿って沈線を施文する。口縁部上端は有節沈線文を巡らす。2は波状口縁で口唇部は刻みを有し、また刻みが施された梢円形区画文に沿って2列の有節沈線文を施す。3は口唇部に押圧痕を巡らし、口縁部は梢円形の隆帯区画内に沿って爪形文を施し、頭部は梢円形区画文を配する。4・5は無文土器。6は口縁部上端からV字状貼付文から蛇行隆帯が垂下する。7は頸部破片。連續コの字状文を巡らし、Y字状隆帯を垂下させる。9は爪形文。10は口縁部の区画文は隆帯を施文する。11は直状隆帯を垂下させ、底部は網代底。

#### 土坑SK113 (Fig.81)

1は肩状把手の波頂部から刻みのある小突起を貼付、口唇部および口縁部は角押文が巡る。2は縦文施文の隆帯による渦巻文。3は口唇部を押圧し波状とする。4は口縁部が肥厚する隆帯が巡り、3列の角押文が沿う。

#### 土坑SK114 (Fig.81)

1は隆帯による棒状区画文に沿って角押文を施文する。2は2列の結節沈線による弧線文。3は鉢形。口唇部は押圧による刻みを施し、口縁部下に1列の角押文を巡らす。

#### 土坑SK115 (Fig.81)

1は頸部付近の破片。隆帯下に2列の角押文を巡らす。2は浅鉢の胴部破片。

#### 土坑SK116 (Fig.82)

1はキャリバー形の深鉢。隆帯区画文に沈線が沿う。2は胴部破片。沈線による直状文が懸垂文として垂下する。

#### 土坑SK117 (Fig.82)

1は刻みの有する隆帯梢円形区画文に沿って2列の角押文が巡る。阿玉台Ⅱ式。2も隆帯区画文に沿って2列の角押文。阿玉台Ⅱ式。3は無文土器。4は口縁部に並行して2列の角押文が巡る。5は波状口縁が双頭状を呈し、背割り状の沈線が入った小突起が付く。7は有節沈線にヒダ状の調整痕。8は2列の角押文による渦巻文。9は断面三角形の隆帯を区画文とし、縄の側面圧痕を施す。12は角押文を巡らす。14は凝灰岩製の多孔石。

#### 土坑SK118 (Fig.82)

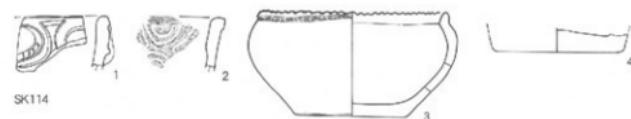
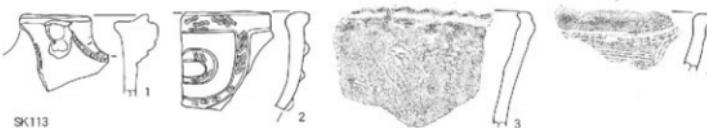
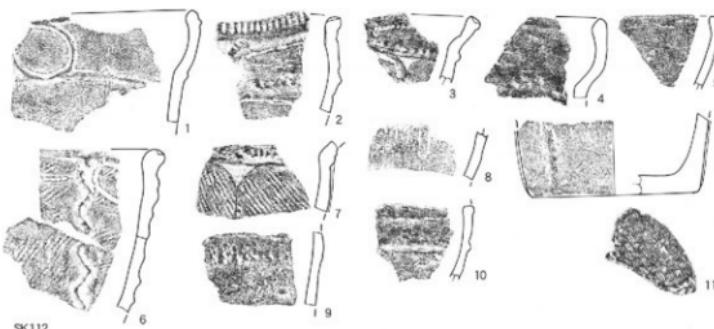
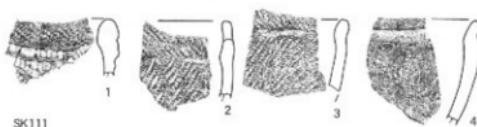
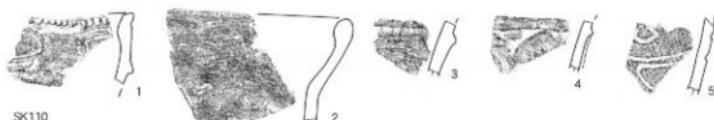
1～6はキャリバー形の深鉢。1は背割隆帯による区画文。3は貼付隆帯による劍先文が連結する。6は蛇行隆帯が垂下し、多条沈線による弧線文。7・8は浅鉢。8の口唇部は沈線による渦巻文。

#### 土坑SK119 (Fig.82・83)

1は双頭状の突起をもち、隆帯による梢円形区画内に2列の角押文。阿玉台Ⅱ式。2は波状口縁。波頂部に押圧を加えた突起が付く。3は口縁部に沈線の沿う隆帯が巡る。4は隆帯区画内に有節線文によるモチーフ。5は2と同様の突起を有する。7は口縁部上端に間隔の開く角押文が巡る。8は口縁部上下の区画文に角押文が巡り、区画内も角押文が充填する。12は口唇部に刻みを巡らし、口縁部は縦位の有節沈線を充填させ、爪形文で区画する。14はヒダ状調整痕。15は隆帯による梢円形区画文に沿って2列の角押文が巡る。18は隆帯に沿って角押文を施文する。20・21は浅鉢の破片。20は赤彩が施されている。21は山形状把手の口縁部が肥厚する。25は安山岩製の磨石。

#### 土坑SK120 (Fig.83)

1は口唇部が肥厚する。爪形文による区画文。2は波状口縁で、小突起を有する。1列の角押文によるモチーフ。3はY字状隆帯を垂下させ、爪形文が施文されている。5は口唇部に刻みを有し、3列の角押文が弧線状に施文されている。8は凹孔を伴う台石。9・10は磨石で凹孔を表裏面に伴う。



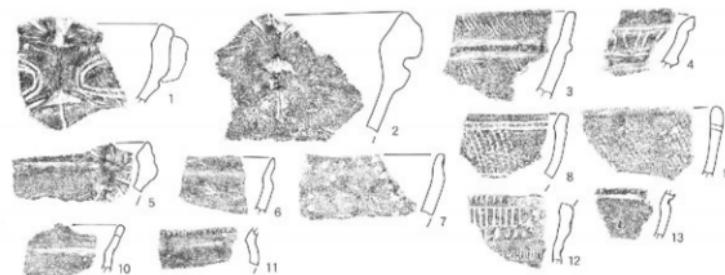
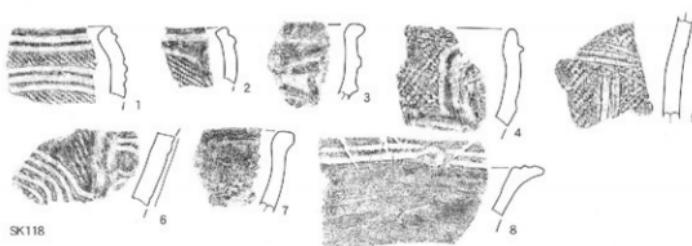
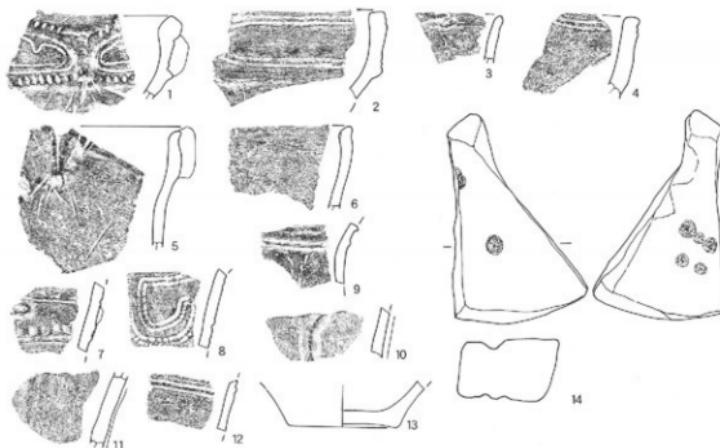
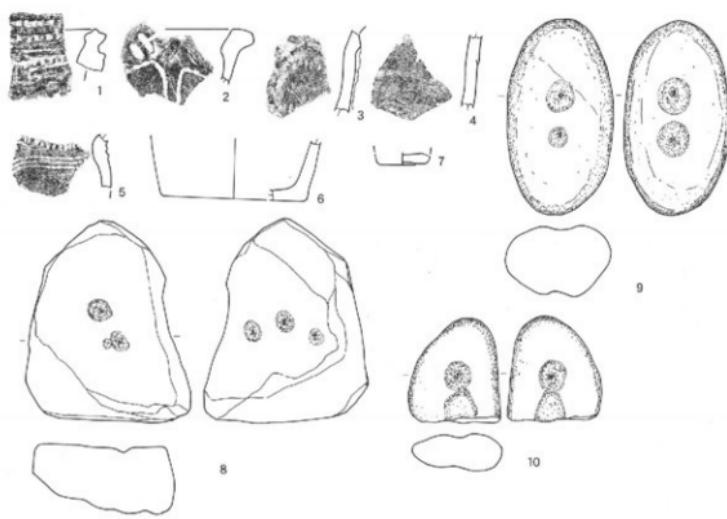
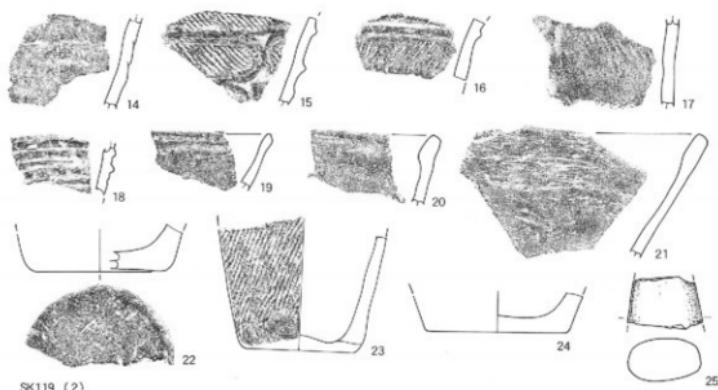


Fig.82 土坑SK116、117、118、119(1)出土遺物



**土坑SK121 (Fig.83)**

1は口唇部が肥厚する深鉢。平行沈線による区画文。2は赤彩の施された浅鉢。3は角押文が巡る。4も角押文による弧線文。

**土坑SK122 (Fig.84)**

1は無文の深鉢。2は背割隆帯による渦巻文。3の口唇部は内削状で、断面三角形の隆帯を貼り付ける。4は頸部付近の破片。3条の沈線文を巡らす。

**土坑SK123 (Fig.84)**

1は口縁部の突起。角押文が施文されている。3・4は単節LR繩文。

**土坑SK124 (Fig.84)**

1・2は同一個体。単節RL繩文。

**土坑SK125 (Fig.84)**

1は波状口縁のキャリバー形深鉢。口縁部の上下区画は背割り隆帯。区画内は隆帯による波状文。2・6は同一個体。背割り隆帯の渦巻文。3は隆帯渦巻文に沿って平行沈線文が重疊する。5は口縁部が無文帶で、爪形文による区画文。7は隆帯が押圧による刻み。8・9は繩文地文に沈線による懸垂文。11は撚糸文Lを地文に沈線懸垂文が垂下する。

**土坑SK126 (Fig.84)**

1は繩文地文に沈線が施文される。2・3は繩文施文。

**土坑SK127 (Fig.29・84)**

1は隆帯区画文に沈線文が施文されている。2は台形土器の脚部破片。丁寧なミガキが施されている。

**土坑SK128 (Fig.84)**

1は山形把手の破片。把手部全面単節RL繩文。口縁部は平行沈線による区画文。阿玉台IV式。2は口唇部に刻みをもち、単節LR繩文。3は貫通孔を有し、孔周縁は隆帯区画され、隆帯にそって平行沈線が巡る。4は2列の角押文。5は直線を地文とする。5は繩文地文に2条沈線文が垂下する。

**土坑SK130 (Fig.85)**

1はキャリバー形の深鉢。繩文地文に口縁部に沿って2列の隆帯が巡り、下位に波状の隆帯が貼付されている。2は小突起をもつ波状口縁の深鉢。口縁部は上部を角押文、下部を隆帯によって区画し、沈線による渦巻文と角押文による棒状文が配される。大木8b式。3は口縁部が内湾する。繩文地文に有節沈線文による棒状文を施文する。4は口唇部が肥厚する浅鉢。5・6は繩文地文に沈線による渦状文と直状文が垂下する。7は撚糸文Lを地文に平行沈線文と波状沈線文が重疊する。8は隆帯に沿って角押文が巡る。9は撚糸文Lを地文とする。11は口唇部が内湾する浅鉢。

**土坑SK131 (Fig.85)**

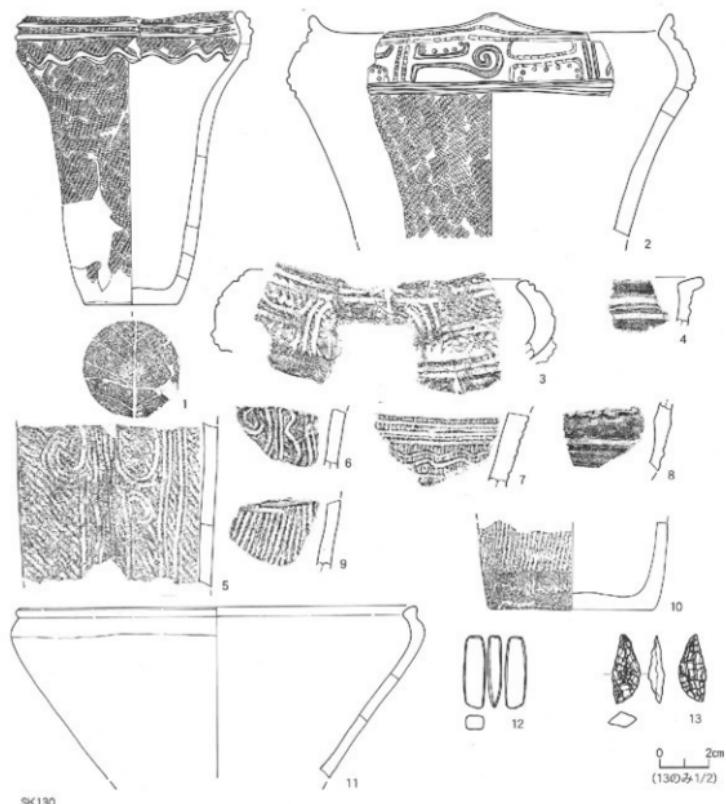
1はキャリバー形の深鉢。口縁部は隆帯によって区画され、区画内に隆帯による渦巻文、クランク状文が施されている。2も沈線が沿う隆帯による区画文。3は区画内に波状沈線文を横走させる。5・6は繩文地文に沈線文による区画文と懸垂文を施す。5は棒状文内に蛇行沈線文を垂下させる。

**土坑SK132 (Fig.86・87)**

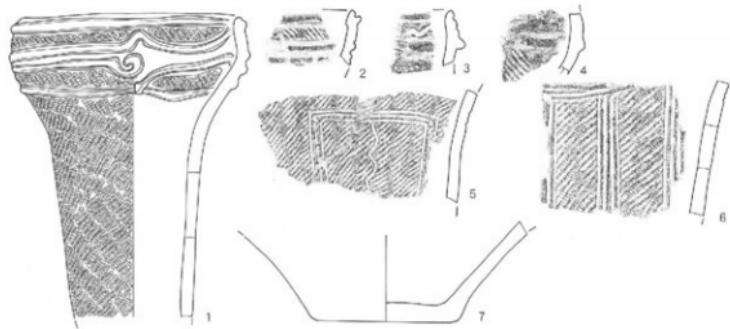
1は胸部が括れた波状口縁の深鉢。4単位の扇状把手を有し、波頂部には隆帯による円形区画文に2列の角押文を巡らし、さらに内側に波状沈線を伴う円形文を配する。頭部は2列の角押文と2条の波状沈線文を巡らし、地文は縦位の条線。副部は角押文が沿う隆帯による渦巻文と蛇行懸垂文を垂下させる。阿玉台II式。2も4単位の波状口縁の深鉢で、貫通孔を伴う扇状把手と横状把手が対峙するように一対有する。波頂部および口縁部は角押文が沿う隆帯によって区画され、頭部は1条の波状沈線を巡らし、副部は1列の角押文が沿う隆帯による懸垂文が垂下し、それに連絡するように蛇行沈線が垂下する。地文は条線文。阿玉台III式。3は胸部が直立気味に立ち上がり、口縫



Fig.84 土坑SK122、123、124、125、126、127、128出土遺物



SK130



SK131

Fig.85 土坑SK130、131出土遺物

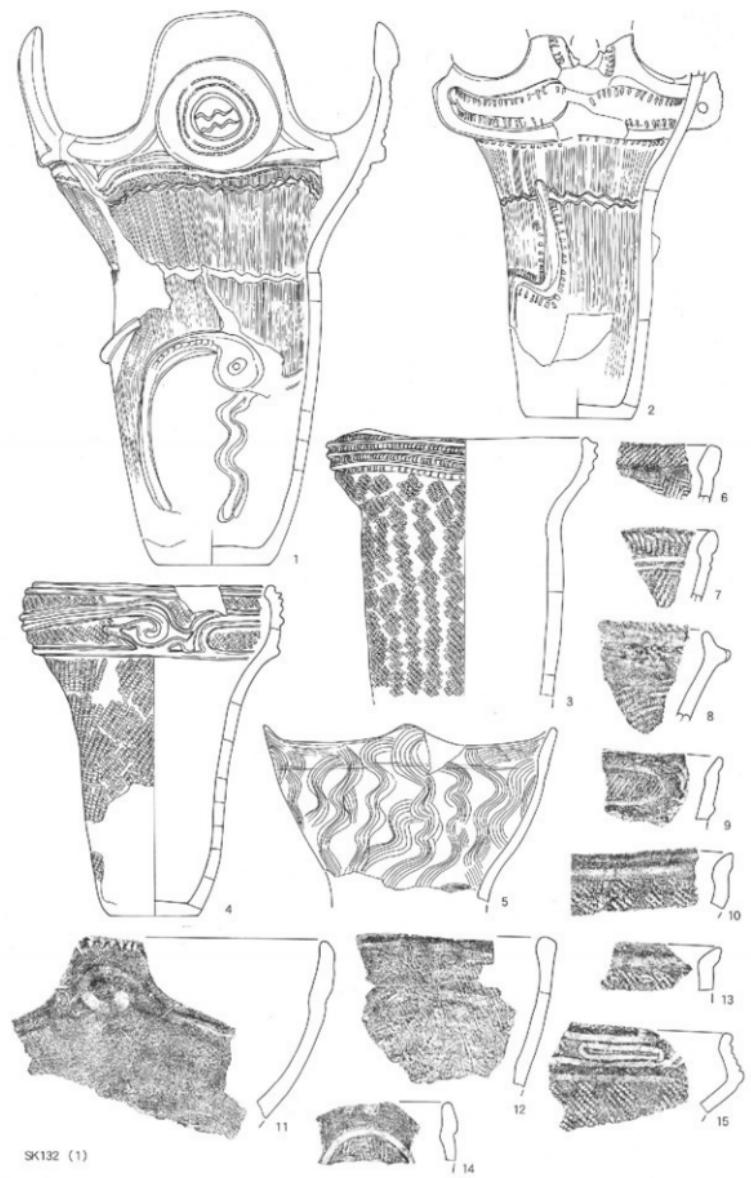


Fig.86 土坑SK132(1)出土遺物

0 1 10cm

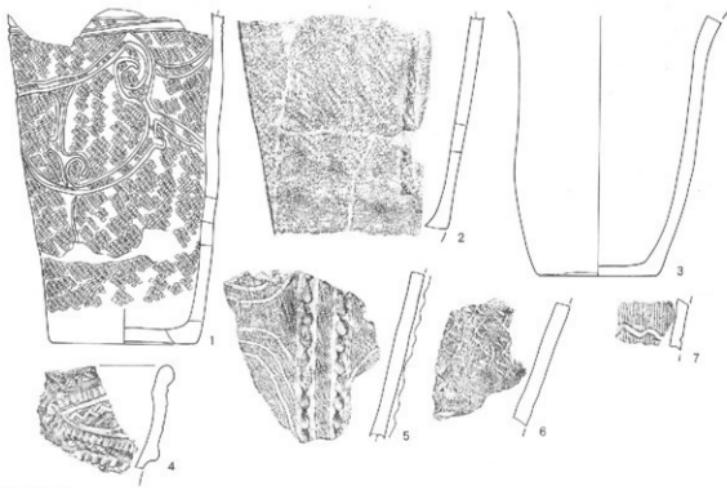
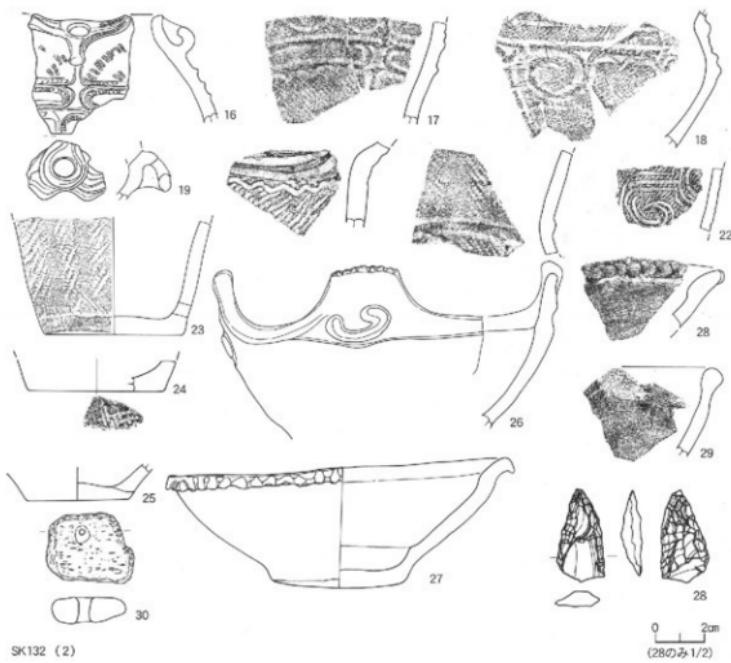


Fig.87 土坑SK132(2)、133(1)出土遺物

部は内湾する。口縁部は4列の角押文を巡らす。地文は単節LR縦文。4はキャリバー形の深鉢。口縁部に貼付隆帯による満巻文を配する。加曾利E1式。5は波状口縁。口縁部上端から5本単位の櫛齒状工具による蛇行条線を垂下させる。6・7は口唇部が肥厚し、縄文施文の隆帯となる。8は口縁部に押圧を加えた隆帯が巡る。11・26は波状口縁の浅鉢。山形把手の波頂部に刻みを施し、口縁部は凹帯文による満巻文。12は無節Lを施文する。14は山形把手、沈線による区画文が施される。15は浅鉢。口縁部は沈線区画文内に棒状文を配する。16・17は同一個体。口縁部は内傾し、垂直から開口した橋状把手が付く。胸部は隆帯棒状文に沿って角押文が巡る。18は角押文が沿う隆帯が棒状区画文および満巻文を施文する。大木8a式。19は正面、左右から貫通する橋状把手。赤彩が施されている。22は平行沈線による満状文。27も浅鉢。口縁部は外反し、口唇部に刻みを施す。大木8a式。28はチャート製の石縁。30は有孔軽石。

#### 土坑SK133 (Fig.87-88)

1は胸部破片の深鉢。縄文地文に2条単位の沈線による満巻文を伴う弧線文。大木8a式。2は直状隆帯を垂下させる。3は無文。4は三角状区画に沿って爪形文が施され、沈線区画内に沈線による櫛齒状文が施文される。阿玉台III式。5は押圧を加えた隆帯が2条平行して垂下し、有節沈線による弧線文が施文される。6は撚巻縦文LにLを左巻きにした原体による施文。7は条線文を地文に沈線による櫛齒状に施文される。8は4単位の波状口縁を有する浅鉢。

#### 土坑SK134 (Fig.88)

1は橋状把手が付く深鉢。把手は波打つ隆帯が貼付られている。この把手に連結して押圧の加わった隆帯が3条巡る。大木8a式。

#### 土坑SK135 (Fig.88)

1は4条の隆帯に沿って爪形文が巡り、下位は波状を呈する。大木8a式。2は隆帯に沿って角押文が施文される。3の口縁部は縄文施文の隆帯が巡り、2列の爪形文が施文されている。4は2列の角押文が垂下する。6は2条の隆帯による張状文に連結して区画文が施される。7は平行沈線文が蛇行状に垂下する。

#### 土坑SK136 (Fig.88・89)

1は口縁部が内湾気味立ち上がる。口縁部下と頸部に押圧を加えた隆帯が巡る。大木8a式。2はS字状文の突起を有し、口縁部は隆帯による棒状区画文内に綫長の刺突文を充填する。3は貫通孔の伴う把手で、孔周縁を背割り状隆帯による満巻状に施す。4は背割り状隆帯による満状文。5・8は口唇部が肥厚し、押圧の加えた隆帯が巡る。5のII唇部は隆帯による区画文に波状隆帯が施され、8は爪形状の刺突文が充填する。6は2列の角押文による三角状文。9の口唇部には斜行の刻みが入る。10は棒状区画の隆帯に沿って1列の角押文が施文される。11・12・14は縄文地文に2もしくは3本一組の沈線による満巻文や区画文が施される。13は縄文地文に2列の角押文による棒状文。16の底部は網代痕。18は板状の砂岩製による多孔石。

#### 土坑SK137 (Fig.89)

1はキャリバー形の深鉢。沈線の沿う隆帯によるクランク文。大木8b式。2～4は隆帯にそって角押文が施文されている。5は隆帯区画文に角押文によるモチーフ。6は直状文の隆帯が垂下する。

#### 土坑SK138 (Fig.89)

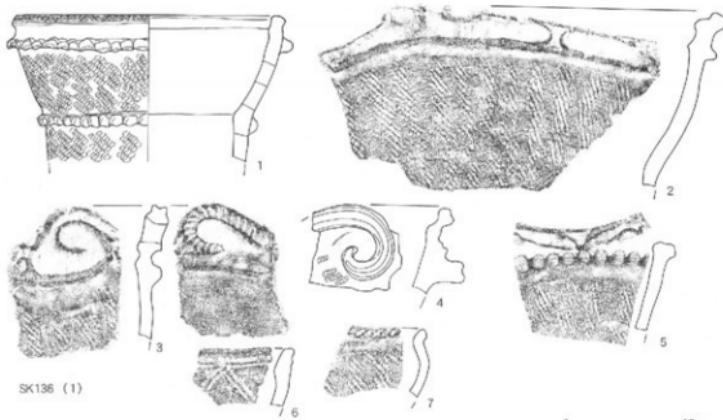
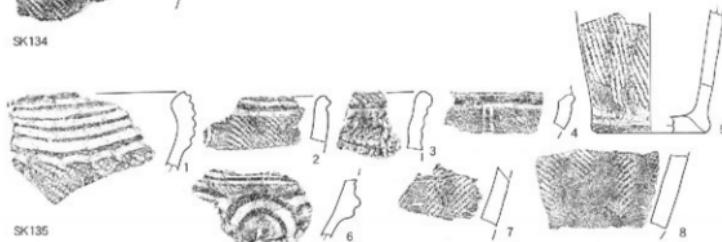
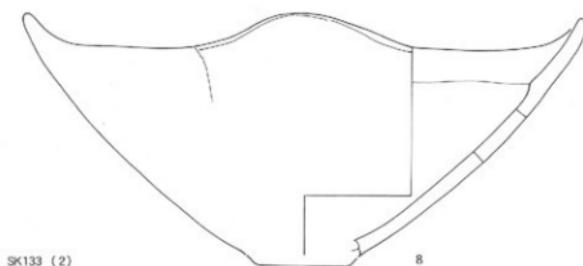
1は隆帯に沿って2列の角押文が施文されている。2はRL縦文。

#### 土坑SK139 (Fig.89)

1は胸部が内湾し、口縁部は短く内傾して立ち上がる有孔鉢土器。胸部は沈線による満状や三角状の連結した文様をもつ。2は区画内に円形刺突文を充填する。3は沈線の沿う隆帯区画内は無文。4・5は背割り状の隆帯による満巻文。大木9式。

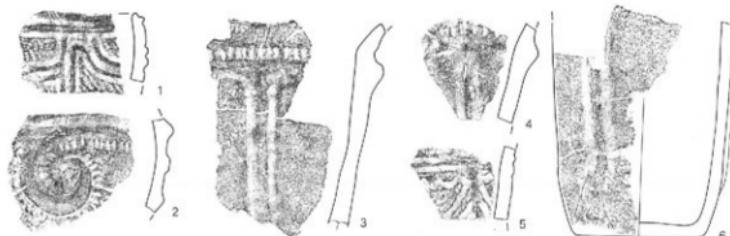
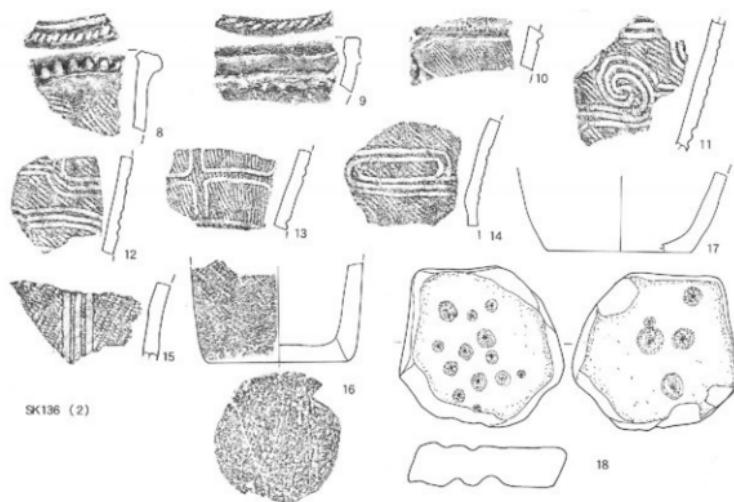
#### 土坑SK140 (Fig.90)

1は双頭状の山形把手。隆帶上には刻みをもち、平行沈線が沿う。阿玉台IV式。2は満状の隆帯が突起となる。

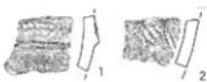


0 10cm

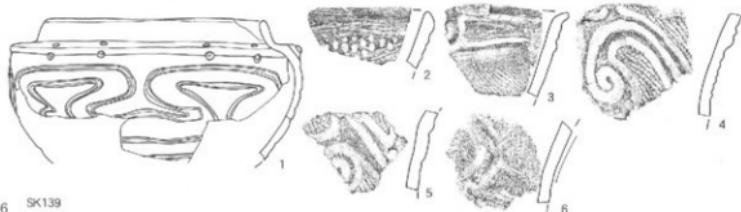
Fig.88 土坑SK133(2)、134、135、136(1)出土遺物



SK137



SK138



126 SK139

Fig.89 土坑SK132(2)、137、138、139出土遺物

0 10cm

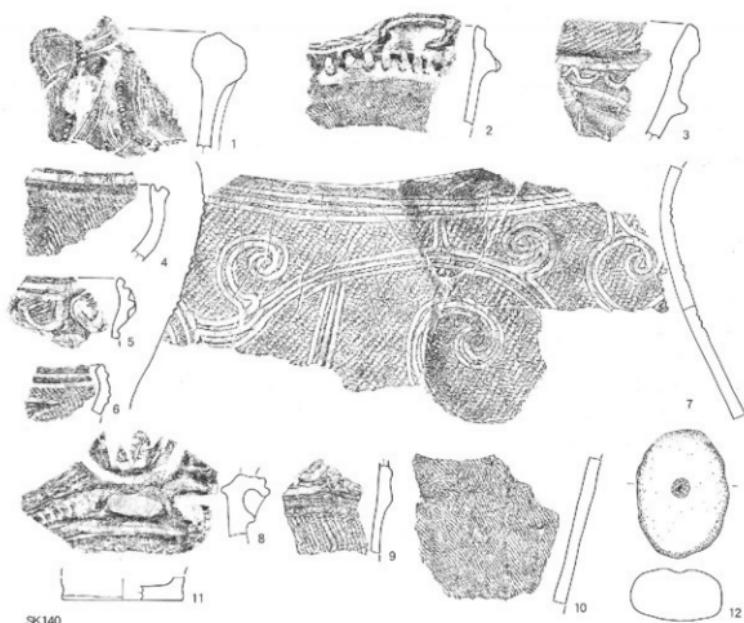


Fig.90 土坑SK140、142、143、144出土遺物

隆帯上は網の側面圧痕。口唇部は断面三角状の隆帯に刻みを施す。3は隆帯区画文に沿って1列の角押文が施され、沈線による波状文が横走する。4の口唇部は沈線が巡る。5は沈線が沿う隆帯による渦巻文と枠状文。6は隆帯による側先文。7は大型の深鉢の胴部破片。RL繩文を地文に沈線による渦巻文を描出す。大木8 b式。8は隆帯による楕円形文を突出させ、隆帯区画内に爪形文を充填させる。9は隆帯による区画文に蛇行する平行沈線を垂下させる。10は無筋Lの縦位施文。12は安山岩製の凹孔を伴う磨石。

#### 土坑SK142 (Fig.90)

1は波状口縁。波頂部は沈線による渦状文。口縁部も沈線文によるモチーフ。火焔系土器。2はヒダ状の調整痕。3は単節RL繩文。

#### 土坑SK143 (Fig.90)

1・2は同一固体。沈線が沿う隆帯による区画文。渦巻文や三角状隆帯を作り。4の口唇部は背割り状を呈する。地文は撚糸文L。5・6は網文地文に2もしくは3本一組の沈線懸垂文。

#### 土坑SK144 (Fig.90)

1は沈線の沿う隆帯区画文。2は貼付隆帯。3は網文地文に沈線による蛇行懸垂文。

#### 土坑SK145 (Fig.91)

1の口縁部は無文とし、区画文は渦状文を連結する背割り状の隆帯。下部は貼付隆帯による枠状文。2・3はキャリバー形の深鉢。2の口縁部は隆帯による渦巻文。頭部は平行沈線による区画文。4・6は網文地文に沈線による文様。8~10は浅鉢。8の口唇部は外面へ三角状に突出する。

#### 土坑SK147 (Fig.91)

1は隆帯に沿って1列の角押文。阿玉台I b式。

#### 土坑SK148 (Fig.91)

1~3はキャリバー形の深鉢。沈線の沿う隆帯区画文。加曾利E 1式。4は押圧を加えた隆帯を垂下させる。

#### 土坑SK149 (Fig.91・92)

1・2は同一個体。縦位の刻みのある瘤状小突起を付す。口縁部上端に1列、胴部に2列の爪形文を巡らす。3も瘤状の小突起を付す。口縁部上下部に爪形文を巡らす。4は無文。5は隆帯による楕円形区画文に沿って、有筋沈線文が巡り、区画内も斜行する有筋沈線文を充填する。6~9はキャリバー形の深鉢。沈線が沿う隆帯による区画文と渦巻文。11は押圧の加えた隆帯を垂下させる。12は小突起を付し、隆帯に沿って角押文を巡らす。16は縦長剥片の上部に摘みを作出した縦長石匙。安山岩製で、両側縁に刃部をもつ。17は敲打痕を伴う磨石。18は安山岩製の台石。

#### 土坑SK150 (Fig.92)

1は渦状の隆帯を作り把手を有し、頭状に突出した隆帯に爪形文が沿う。頭部は沈線による渦巻文と連結した弧線文。胴部区画文の楕円形隆帯内は爪形文。胴部下半部は網文地文に沈線による枠状文、渦巻文、波状文、直状文を施す。大木8 a式。2は波状の有筋沈線文。3は楕円形の隆帯区画文。

#### 土坑SK151 (Fig.92)

1~3はキャリバー形の深鉢。口縁部は沈線の沿う隆帯による渦巻文と枠状文を配し、胴部は2もしくは3本一組の沈線による蛇行、直状懸垂文を垂下させ、沈線間は磨消す。加曾利E 2式。4は連続コの字状文と有筋沈線文。

#### 土坑SK152 (Fig.93)

1・2・5~8はキャリバー形の深鉢。大木8 b式。1は背割り隆帯による渦巻文に連結した区画文。2は波頂部に突出した渦巻文を施す。3は隆帯区画された口縁部内は短沈線を充填する。4は蛇行隆帯に爪形文を付す。

#### 土坑SK153 (Fig.93)

1は波状口縁の深鉢。口唇部は凹線による渦巻文。胴部は5本単位の櫛齒状文を垂下せる。2は沈線の沿う隆帯による区画文。4の地文は撚糸文L。

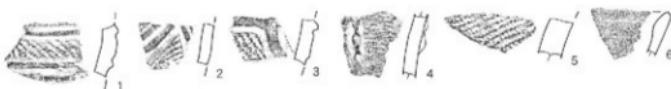
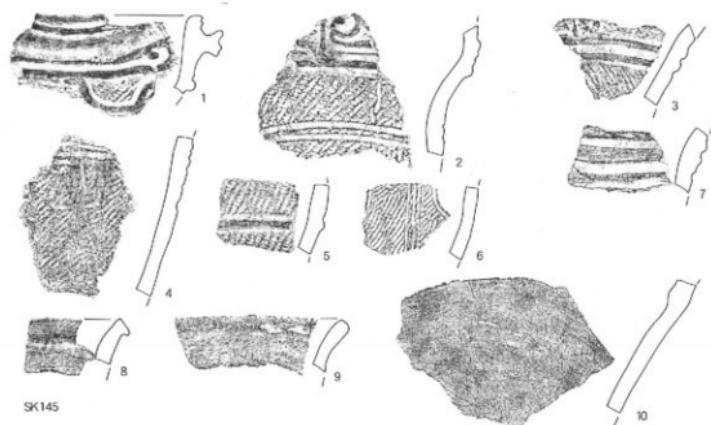
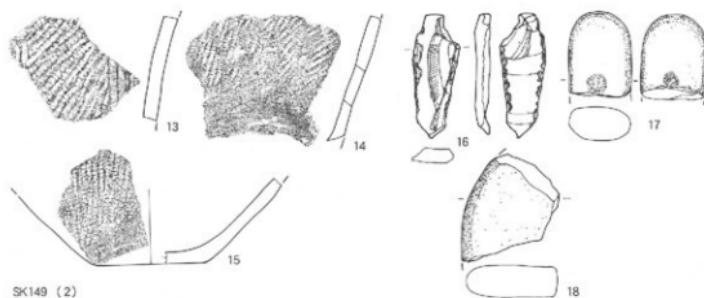
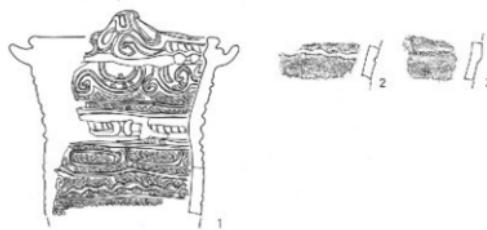


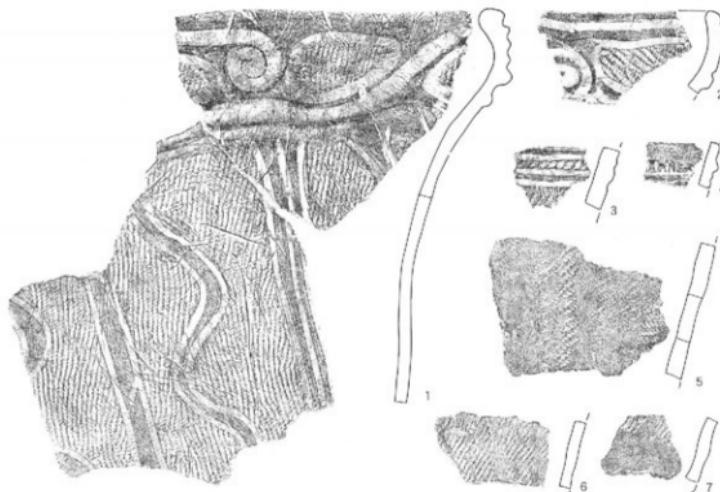
Fig.91 土坑SK145、147、148、149(1)出土遺物



SK149 (2)



SK150



SK151

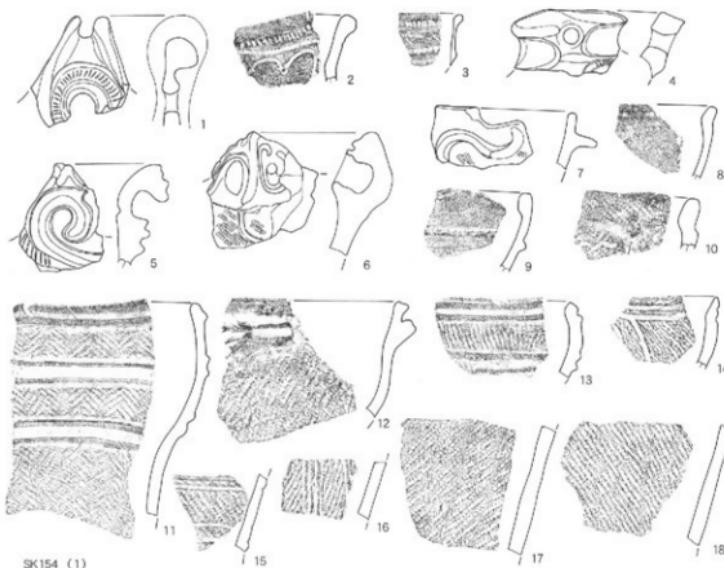
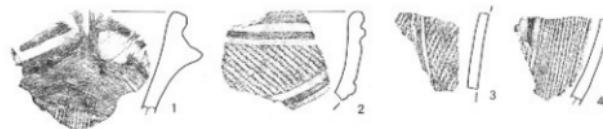
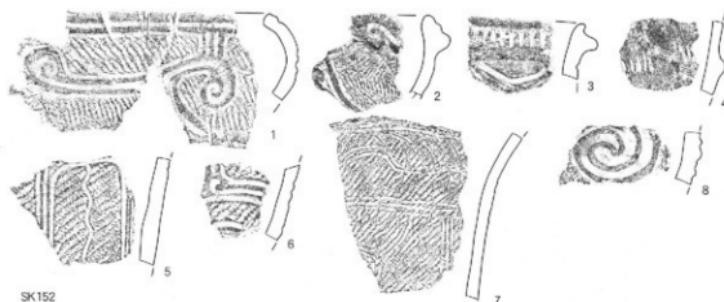
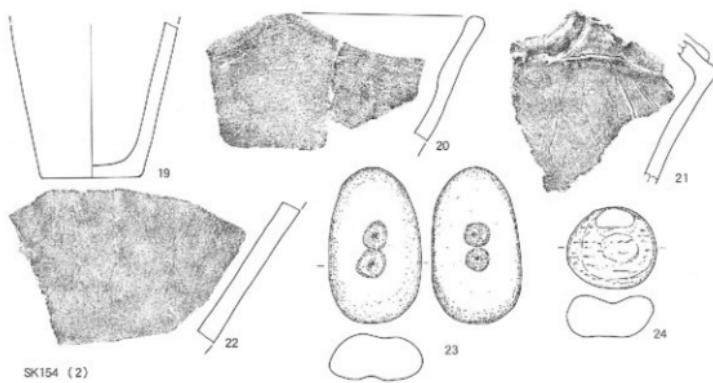
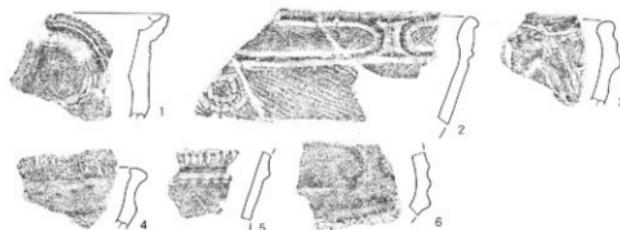


Fig.93 土坑SK152、153、154(1)出土遺物



SK154 (2)



SK155



SK156

**土坑SK154 (Fig.93・94)**

1は双頭状で貫通孔を伴う山形把手。また頂部は左右に貫通する構造を呈し、貫通孔に沿って爪形文が施文され、口唇部にも爪形文が施されている。阿玉台Ⅲ式。2・3は隆帯に沿って1列の角押文が施される阿玉台I b式。2の隆帶に刻みを有し、区画内にも角押文による弧状文。4は貫通孔を伴う把手。頂部はS字状文。隆帯に沿って角押文が施される。5は中空把手。背割り隆帯の満巻文と梢円形文が付される。6は内面から貫通する眼鏡状把手。貫通孔に沿って沈線が巡り、脣部は貼付隆帯の区画文。7は幅狭で器高の高いS字状隆帯を有する。8・9は1列の角押文を施す。10はV字状隆帯が垂下し、区画文に沿って爪形文が巡る。11～19はキャリバー形の深鉢。11は間隔幅の広い隆帯。12は背割り隆帯が正面で突起状に突出する。20～22は浅鉢。20は波状口縁。21は口縁部が隆帯に沿って1列の角押文が巡る。赤彩が認められる。23は安山岩製の磨石。凹孔を伴う。24は軽石製品。

**土坑SK155 (Fig.94)**

1は扇状把手。口唇部は刻み、把手周縁の隆帯上は2列の角押文。阿玉台II式。2は隆帯による梢円形区画文に沿って1列の角押文が巡る。阿玉台I a式。3は貼付隆帯が波状を呈する。4・6は同一個体。微隆帯による満巻文。5は断面三角状の隆帯に沿って角押文が巡る。

**土坑SK156 (Fig.94)**

1・2・5・6・9はキャリバー形の深鉢。背割り隆帯による満巻文をもつ。1は大木8 b式。波頂部に満巻文を有する。3は波状口縁で、断面三角状の隆帯に沿って1列の角押文が巡る。阿玉台I a式。4は円形把手。沈線区画文。7は口唇部が肥厚し、刻みをもち、隆帯に沿って2列の角押文が施文される。阿玉台II式。8は有節沈線による梢円形区画文。14は網代痕。

**土坑SK158 (Fig.95)**

1・3は隆帯に沿って2列の角押文が巡る。阿玉台II式。4は隆帯に沿って角押文が巡る。2・5は浅鉢。2は波状口縁。6は繩文地文に隆帯と蛇行沈線文、直状沈線文が垂下する。

**土坑SK159 (Fig.95)**

1は隆帯に有節線文が巡り。3は隆帯に沿って角押文が垂下する。2は小突起を付す。4は単節L Rを施文する。

**土坑SK160 (Fig.95)**

1は隆帯に沿って1列の角押文が施文される。2は1列の有節線文によるモチーフ。阿玉台I a式。

**土坑SK162 (Fig.95)**

1は隆帯に沿って角押文が施文されている。2は柳歛文。横位・縦位に施文する。3は小型の深鉢。底部破片。沈線文が垂下する。

**土坑SK163 (Fig.95)**

1は口縁部下が沈線による直状文と波状文が重疊し、脣部の満巻文と連結する。大木8 a式。2は無文土器。3は背割り状の隆帯区画。4は平行沈線によるモチーフ。5は隆帯に沿って平行沈線が垂下する。

**土坑SK164 (Fig.95)**

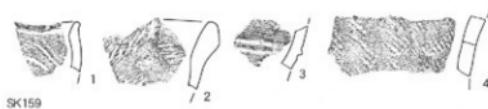
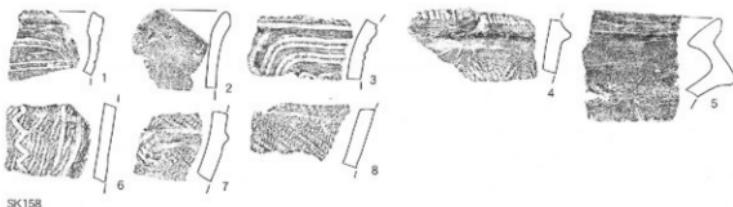
1は貫通孔の有する小突起。表裏面とも背割り状の隆帯が満状を呈する。2の口唇部は刻みを有する。3は瘤状小突起と隆帯に沿って1列の有節沈線を巡らし、区画内にも有節沈線を施す。6は浅鉢。

**土坑SK165 (Fig.95・96)**

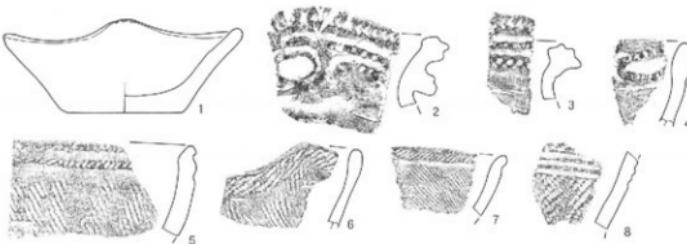
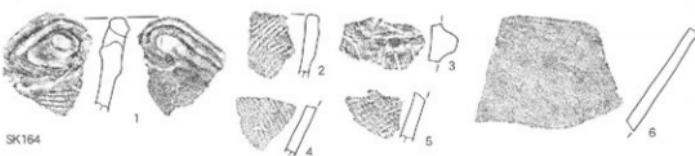
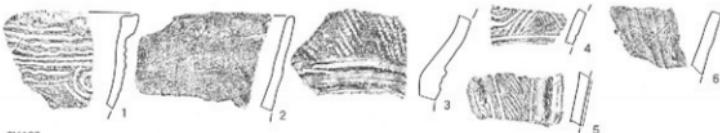
1は波状口縁をもつ小型の鉢。無文。2～4は隆帯上に刻みをもつ。2は口唇部隆帯上に爪形文が施文される。5は繩文施文の隆帯が2条巡る。6は波状口縁の深鉢。繩文施文。7は折り返し口縁。9は繩文地文に隆帯が垂下し、2もしくは3条の沈線による区画文。10は隆帯に沿って爪形文を巡らす。11は柳歛文。12・13は浅鉢。12は波状口縁をもつ。14は安山岩製の石皿の破片。

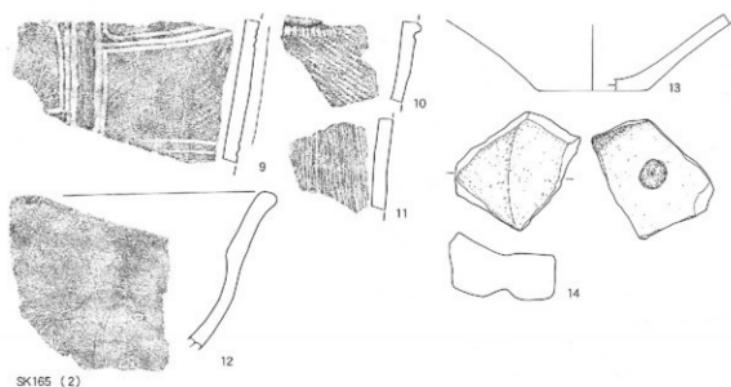
**土坑SK166 (Fig.96)**

1は山形把手の破片。繩文施文の隆帯に沿って沈線が巡り、区画内に沈線文を充填する。阿玉台IV式。2も繩文

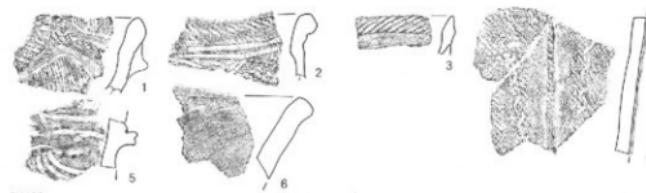


SK162





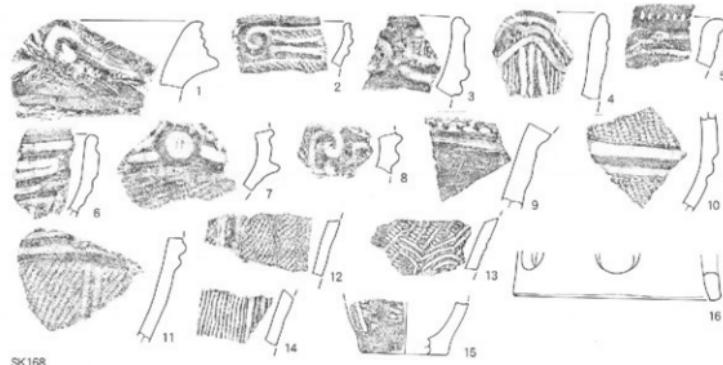
SK165 (2)



SK166



SK167



SK168

Fig.96 土坑SK165(2)、166、167、168出土遺物

施文の隆帯に2条の沈線が沿う。4は繩文施文の隆帯が懸垂文とし、結節文も垂下する。5は隆帶上に角押文が施文される。6は口唇部が肥厚する浅鉢。

#### **土坑SK167 (Fig.96)**

1は口唇部が肥厚し、口縁部に沿って有節沈線が巡る。2は沈線が沿う隆帯の区画文。6は櫛歯文。

#### **土坑SK168 (Fig.96)**

1は波状口縁の深鉢で、肥厚する。口唇部は四凹による満巻文。2・3・6～8・10～15はキャリバー形の深鉢。隆帯による満巻文。4は波状口縁。撚糸文Rを地文に、3本一組の沈線文が垂下する。5は隆帯に沿って角押文が巡る。16は台形土器の脚部破片。円孔が2ヶ所残存している。

#### **土坑SK169 (Fig.97)**

1は連弧文土器。2条の沈線による弧線文。地文は単節RL。2は磨消繩文による懸垂文。加曾利E 2式。

#### **土坑SK170 (Fig.97)**

1は爪形文を施文。2はヒダ状の調整痕。阿玉台式。

#### **土坑SK171 (Fig.97)**

1は隆帯による満巻文の小突起を有する。口縁部に連続コの字文を巡らす。2は口縁部が短く外反する深鉢。単節LR繩文。4は隆帯区画文に単節RL繩文を施文する。5は波状口縁の浅鉢。

#### **土坑SK172 (Fig.97)**

1は双頭状の把手で、1列の角押文が施文されている。阿玉台I a式。2・3は同一個体。繩文地文に平行沈線による区画文に弧線文。5は口唇部が肥厚する浅鉢。

#### **土坑SK173 (Fig.97)**

1・2はキャリバー形の深鉢。1の口縁部は隆帯に区画され、区画内は背割り隆帯の満巻文に連結する弧状文。2は波状口縁で沈線の沿う背割り隆帯による枠状区画文。3は撚文施文。大木8b式。4は台形土器。脚部に5孔の貫通孔を有し、台上面が若干窪み凹状を呈する。5は千枚岩製の打製石斧。

#### **土坑SK174 (Fig.98・99)**

1は体部が直線的に外傾し、口縁部は内湾する。口縁部に刻みのある縦長の小突起は4単位。隆帯による区画文に波状平行沈線文を施し、胴部上部は隆帯による横位の楕円形区画文内に横位の波状沈線文。下位は縱位の楕円状区画文内に縱位の波状平行沈線文を垂下させる。3は背割り隆帯の突起を有し、口唇部端部は刻みを入れる。頸部は多条沈線で区画し、胴部は沈線による満巻文と連結する直状文。4は波状口縁、口唇部は押圧の加えた隆帯。頸部は3条の直状文による区画文。胴部は3本一組の沈線文による満巻文に連結するクランク文、枠状文。5は扁状の突起を有する。口唇部は押圧による刻みがあり、胴部は平行沈線による枠状文と満状文を連結させる。6は波状口縁で、口唇部は隆帯貼付による満巻文を付す。端部は押圧による波打状文。頸部区画文に2列の角押文に波状沈線文を横走させる。7は口縁部に4単位の橋状把手を有し、波頂部に満巻文を付す。口縁部下部は押圧の加え波打状を呈する。頸部に多条沈線による区画文に3本の沈線による短い垂線がみられる。8は4山の波状口縁を呈する大型深鉢。口唇部は隆帯による満巻文と連結する波状文。口縁部は隆帯による楕円形区画文。頸部は沈線の枠状区画文。直状沈線と波状沈線による区画文をもつ。9は橋状把手上面に円孔文や隆帯貼付の波状文を複雑に施文する。口縁部隆帯による満巻文。10は橋状把手を並列させ双頭状とする。隆帯上は刻みを施す。11は背割り状隆帯による満巻文。12はS字状隆帯を呈する突起。貫通孔を伴う。口縁部は沈線文。13は深鉢の削下半部。沈線の沿う隆帯による組合せ三角状区画文に2条・3組単位の懸垂文を垂下させる。繩文地文。14は隆帯に沿って爪形文を巡らす。15は繩文施文の隆帯。16は体部が直線的に外傾する深鉢。口縁部上端は角押文を巡らし、口縁部にM字状の貼付隆帯上に角押文を施文する。17は2条の直状沈線と波状沈線を横走させる。18は繩文地文に貼付隆帯の枠状区画文。19は口縁部を無文とし、1列の角押文を区画文とする。20は口縁部下位から頸部付近の破片。口縁部は角押文による満巻文と枠状文。頸部は格子目状の隆帯を施し、胴部は沈線のモチーフ。21は無節Lを地文に沈線

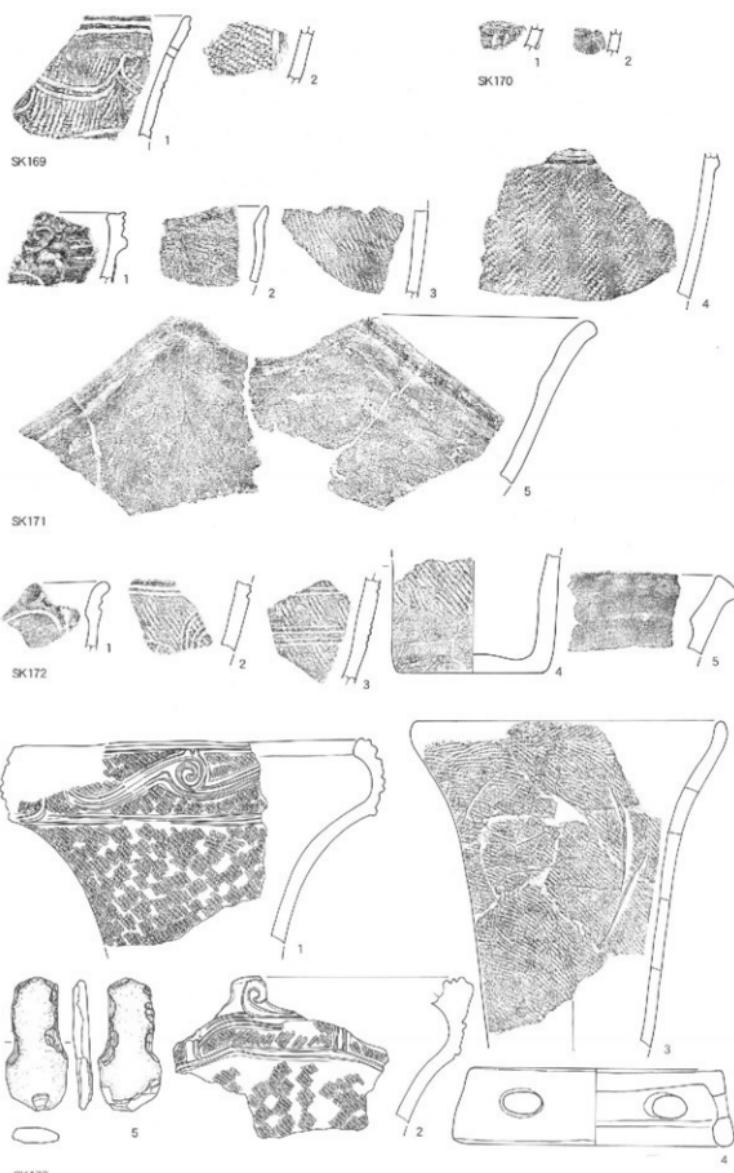


Fig.97 土坑SK169、170、171、172、173出土遺物

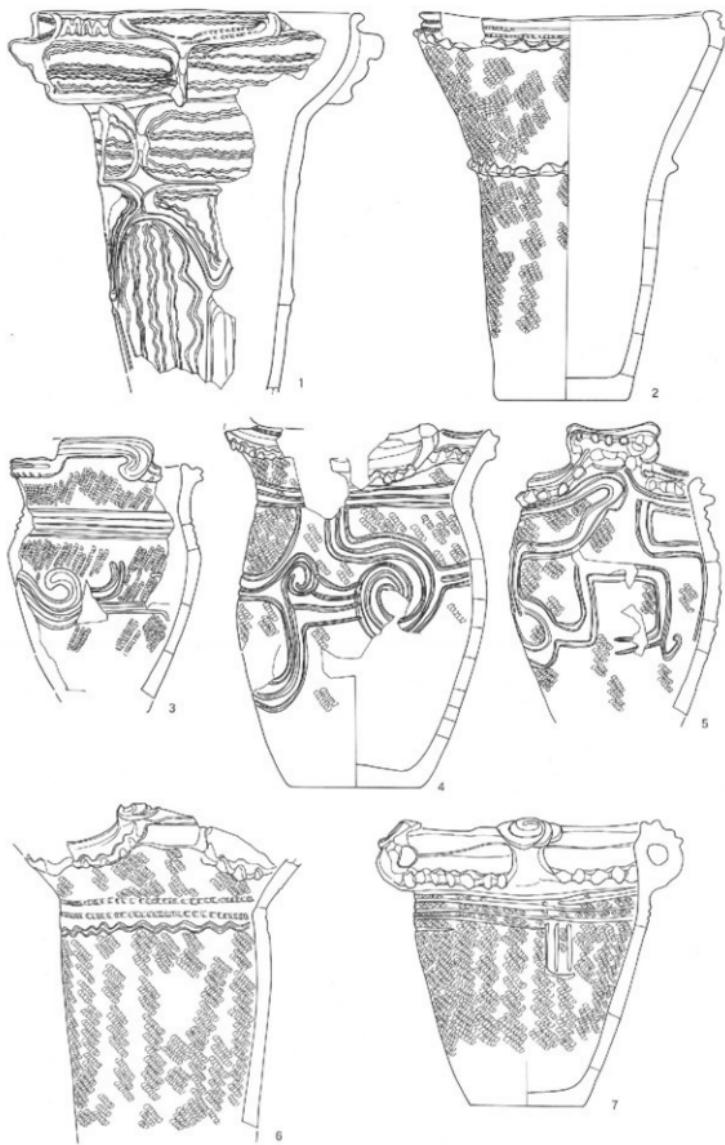




Fig.99 土坑SK174(2)出土遺物

によるモチーフ。22は縄文施文の隆帯。23・24は縄文地文に沈線文。27は安山岩製の石皿の破片。

#### **土坑SK175 (Fig.100)**

1は平行沈線による双頭満巻状文を施文する。2は有節沈線文を2条並行して施文する。4は刻みのある隆帯を垂下させ、2列の有節沈線による枠状文。5は角押文のモチーフ。

#### **土坑SK176 (Fig.100)**

1は波状口縁の深鉢。口唇部は沈線が施され、口縁部は凹帯による満巻文。2は単節RL縄文を施文した円形把手。3は貼付隆帯の区画文。4～8は浅鉢。5は口縁部が大きく内湾する。橋状把手は横8の字状を呈し、胴部に付く。鈎状の口唇部に、口縁部は有節沈線文による波状の区画文が施文される。内外面とも赤彩が施される。6の口縁部は沈線による枠状区画文。区画内には1条の横走沈線文。7は波状口縁。8の口縁部は肥厚する。9は砂岩製の打製石斧。

#### **土坑SK177 (Fig.100)**

1は浅鉢の胴部破片。

#### **土坑SK178 (Fig.100)**

1は無文の深鉢口縁部破片。2は浅鉢割部破片。赤彩が施されている。

#### **土坑SK179 (Fig.100～102)**

1は山形把手。隆帯に沿って平行沈線文を巡らす。阿玉台IV式。2～4・10・12～15・17・20は隆帯に沿つて角押文を施文する。2・3は波状口縁で、隆帯による三角状・楕円形状区画文に橋状把手を付す。10はY字状隆帯を垂下させる。阿玉台III式。5は口縁部にV字状隆帯を貼付、2段の爪形文を巡らす。6は双頭状の山形把手。縄文施文の隆帯による綫長枠状文、隆帯に沿つて角押文を施文する。7は角押文を縄文隆帯下に直状と波状沿つて巡らす。8は微隆帯による楕円形枠状文。9は口縁部に沿つて2列の角押文を巡らす。11は4山の波状口縁。16はY字状隆帯。19・21・22は沈線区画文。25の底部は木葉痕、26の底部は網代痕。31～33は浅鉢。31は補修孔を有する。34は磨製石斧の破片。35は敲打痕を伴う磨石。

#### **土坑SK180 (Fig.102・103)**

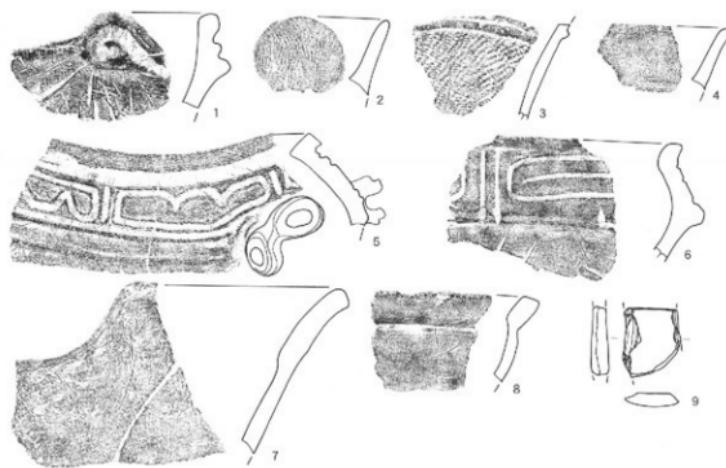
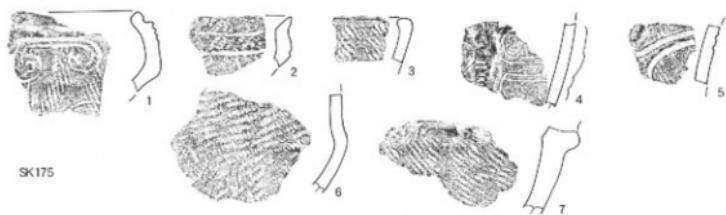
1はキャリバー形の深鉢。口唇部は凹帯による満巻文、口縁部は縄文地文に隆帯区画内に貼付による満巻文、クランク文を配する。胴部は沈線による直状文と波状文。大木8 b式。2は垂直から貫通する橋状把手。口唇部下に角押文を巡らし、把手に連結した隆帯は背割り状を呈し、押圧を加えられている。胴部に平行沈線による直状文、波状文、枠状文を重複する。3は山形把手。垂直から貫通する橋状突起を有し、隆帯に沿つて角押文を巡らす。阿玉台III式。4・6は背割り隆帯による横S字状文を施す。5は背割り状隆帯による区画文。7は口唇部が交互刺突文を巡らし、口縁部は3条単位の沈線による弧線文。8は隆帯間に並行沈線による波状文。9は把手が欠落している。隆帯上は刻みをもち、隆帯に沿つて角押文が巡る。赤彩が認められる。10・15・17は隆帯に沿つて角押文が巡る。阿玉台III式。11は背割り隆帯による満巻文が突出するキャリバー形の深鉢。12・13は貼付隆帯による波状文。16は隆帯に沿つて円形刺突文が施文される。14は隆帯による枠状文。18は口縁部上端が隆帯による楕円形区画文。19は隆帯による楕円形区画文。20は背割り状の隆帯。21は波状口縁で、口唇部は刻み、口縁部は沈線による波状文。22は口縁部が鈎状に突出する。角押文を充填する。23は隆帯に沿つて沈線を施文する。24～32は縄文地文に沈線文を施す。36は敲打痕を伴う磨石。37は砂岩製の石皿。磨面が表裏面で、表側は左側に偏っている。

#### **土坑SK181 (Fig.103)**

1は口縁部上端の隆帯上は角押文を巡らし、口縁部は爪形文を施す。2は有節沈線文を隆帯に沿つて施文する。3は櫛齒文を充填する。4は口唇部が肥厚し、隆帯による区画文。5は円形隆帯上に角押文による刻みをいれる。6・7とも爪形文施文。8は背割り隆帯によるモチーフ。

#### **土坑SK183 (Fig.103)**

1は内削状の口唇部は無文。浅鉢であろう。2は砂岩製の磨石。凹孔を両面に施されている。



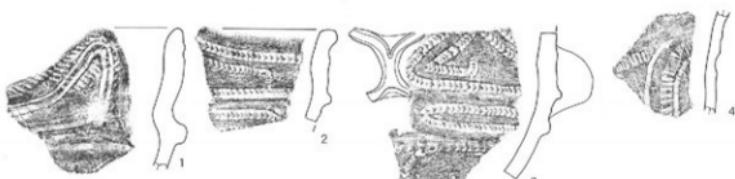
SK176



SK177

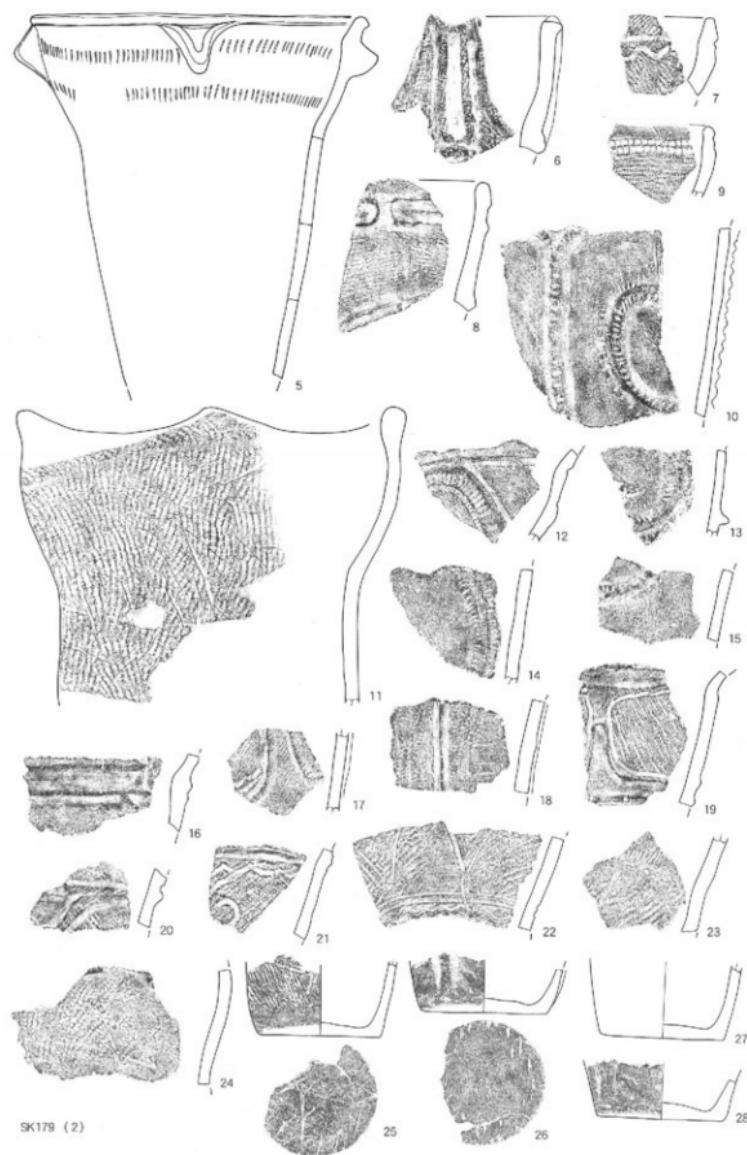


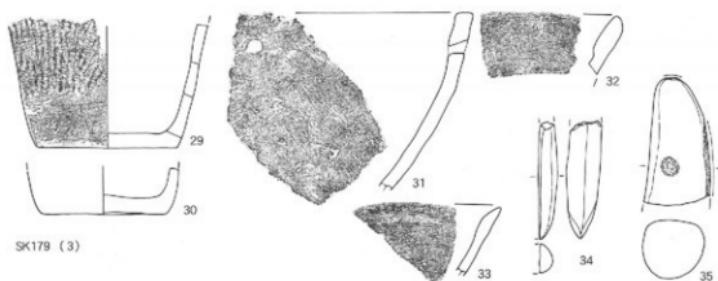
SK178



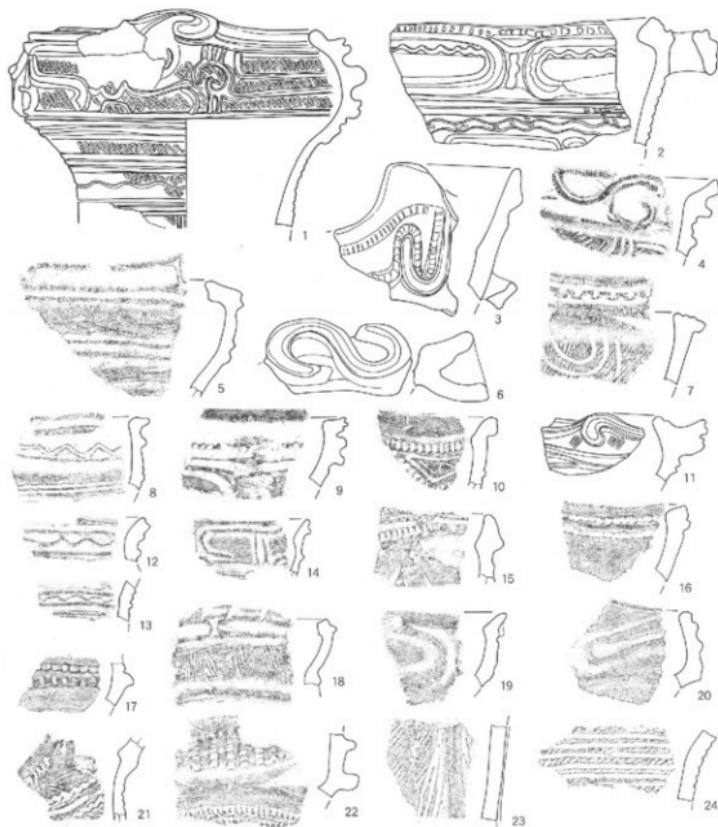
SK179 (1)

Fig.100 土坑SK175、176、177、178、179(1)出土遺物





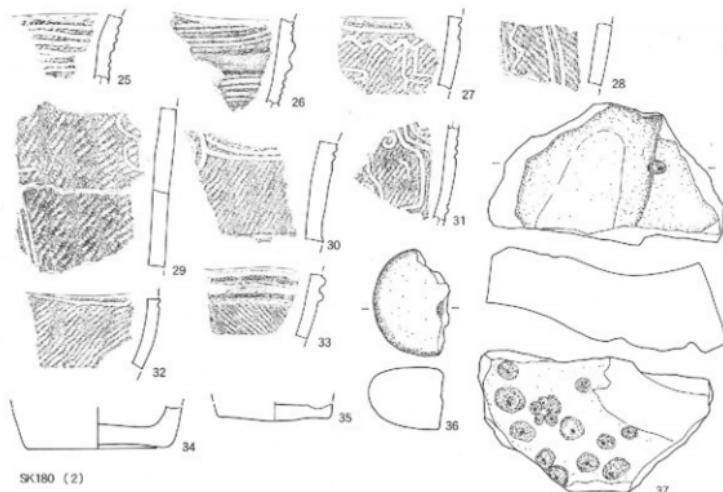
SK179 (3)



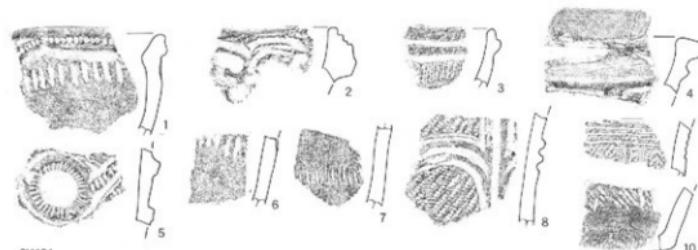
SK180 (1)

Fig.102 土坑SK179(3), 180(1)出土遺物

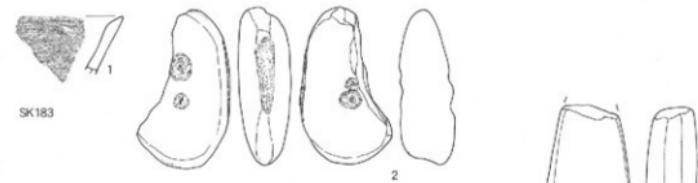
0 1 10cm



SK180 (2)



SK181



SK183



SK184

**土坑SK184 (Fig.103)**

1・2の隆帯上は縄文施文。4は磨製石斧。刃部の一部と端部は欠損する。

**土坑SK185 (Fig.104)**

1は口縁部上端に縦位の心棒上を横位の粘土紐を2本貼付け、小突起とする。2は刻みのある隆帯を垂下させる。8~10は隆帯に沿って角押文が施文される。9の隆帯上には縄文施文される。

**土坑SK186 (Fig.104)**

1~4はキャリバー形の深鉢。1の口縁部は沈線が沿う隆帯による渦巻文に連結した棹状区画文。胴部は2もしくは3本一組の沈線による懸垂文。4は櫛齒文を地文に波状沈線が横走する。5は安山岩製の磨石。凹孔を伴う。

**土坑SK187 (Fig.104)**

1は口縁部に隆帯による横S字状の突起を有し、口縁部は棹状把手に連結した梢円形棹状文を施文する。隆帯に沿って1列の角押文を巡らす。阿玉台I a式。2はキャリバー形の深鉢。断面三角形の隆帯による梢円形棹状文。区画内に無筋しを充填する。3は隆帯に刻みを入れ、1列の角押文によるモチーフを施文する。4は口唇部が肥厚し、単節LR縄文を施文する。6は隆帯による区画文と懸垂文。7は縄文施文の隆帯を垂下させ、区画文とし、2列の有筋沈線文に1列の波状沈線文を横走させ区画文とする。8は隆帯に沿って角押文が施される。9・10は沈線によるモチーフ。

**土坑SK188 (Fig.105)**

1は爪形文による梢円形モチーフ。2・3は隆帯による梢円形区画文。4は小橋状把手に連結した隆帯区画文。

**土坑SK189 (Fig.105)**

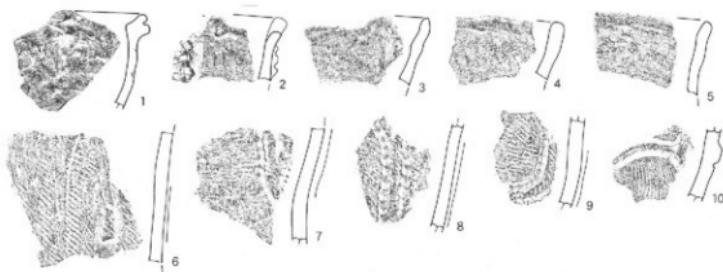
1は口唇部が頭状に突出し、2列の角押文が巡る。2~5・8~10はキャリバー形の深鉢。沈線が沿う隆帯による渦巻文、棹状文を配する。胴部は2もしくは3本一組の磨消沈線による懸垂文。加曾利E 2式。7は山形把手。隆帯による渦巻文。14は凹孔を伴う安山岩製の磨石。15は石皿の破片。

**土坑SK190 (Fig.105・106)**

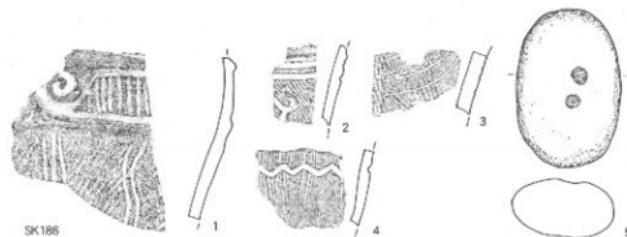
1は円筒形の深鉢。口縁部は隆帯による梢円形区画文。胴部は隆帯に沿う1列の角押文による渦巻文に連結した棹状文。地文は単節LR縄文。2は波状口縁を呈する。貫通孔のある山形把手に、橋状把手が付く。内面把手部は横S字状文を施す。3も波状口縁。2段の橋状把手が付く。4は山形把手。橋状把手が付く。5は双頭状の突起をもつ。6は隆帯による梢円形区画文。7は山形把手。縄文施文の隆帯に沿って2列の角押文が巡り、内面も隆帯渦巻文に沿って角押文が施されている。8は縄文施文の隆帯に沿って角押文が施される。9は1列の爪形文が沿う。口縁部の隆帯に沿って角押文が施され、蛇行の櫛齒文が垂下する。11は小型の深鉢。口縁部区画文にV字状文が貼付られ、隆帯に沿って2もしくは3列の角押文が巡る。12は背割り状横S字状文の突起で貫通孔を有する。13は口唇部が頭状に突出し、押圧による波打状の隆帯を区画文に5列の角押文が巡る。14は口唇部が突出し、口唇部にヘラ状工具による刺突穴が施される。16は山形把手。縄文施文の隆帯に2列の有筋沈線文が巡る。阿玉台II式。17は口縁部が無文。頭状に突出した隆帯上は刻みが施され、頭部は沈線による直状文と波状文。18・24~29は縄文地文に沈線文によるモチーフを施文する。19・20は隆帯に沿って有筋沈線文を施す。21は隆帯区画文。22は渦状隆帯に円形刺突文。36は木葉痕。37は網代痕。40は小型の深鉢。41は土器片鍾である。胴部打欠けで、長軸にV字状の糸掛け溝をもつ。長さ5.55cm、幅4.02cm、重さ31.8g。42は土器片円板。長さ2.48cm、幅2.36cm、重さ7.54g。43は砂岩製の球形磨石。中央に1条の紐掛け溝痕がみられる。

**土坑SK191 (Fig.107)**

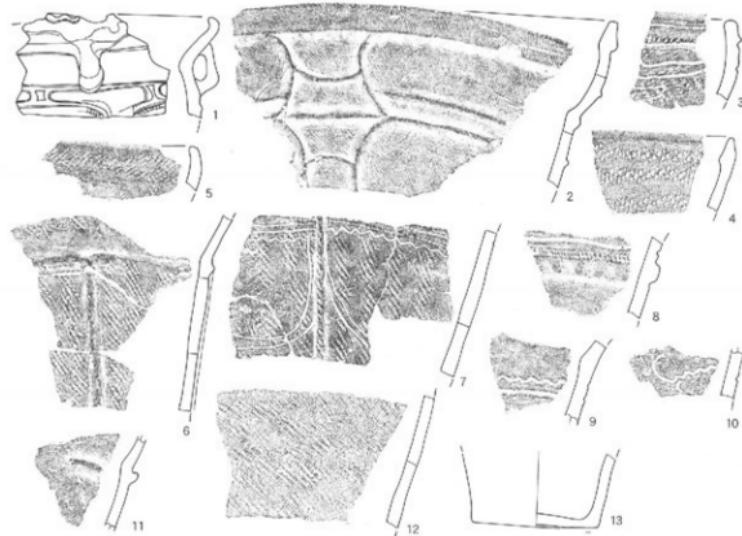
1~5はキャリバー形の深鉢。1の口縁部は隆帯区画に隆帯による波状文を横走させる。2は地文が単節LRに斜行する結節文が付され、口縁部は背割り隆帯による渦巻文に連結する弧線文。3は胴部下半部で、単節LR縄文施文に3条沈線による区画文に連結して2条単位の懸垂文、渦巻文に剣先文が付く。4は沈線が沿う隆帯渦巻文。7は口縁部が隆帯区画文に、胴部は平行沈線による直状文と波状文が重疊する。10は磨消懸垂文が垂下する。



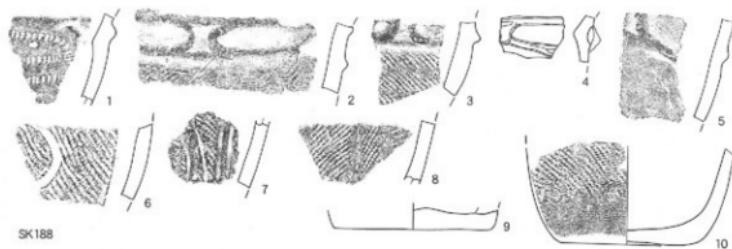
SK185



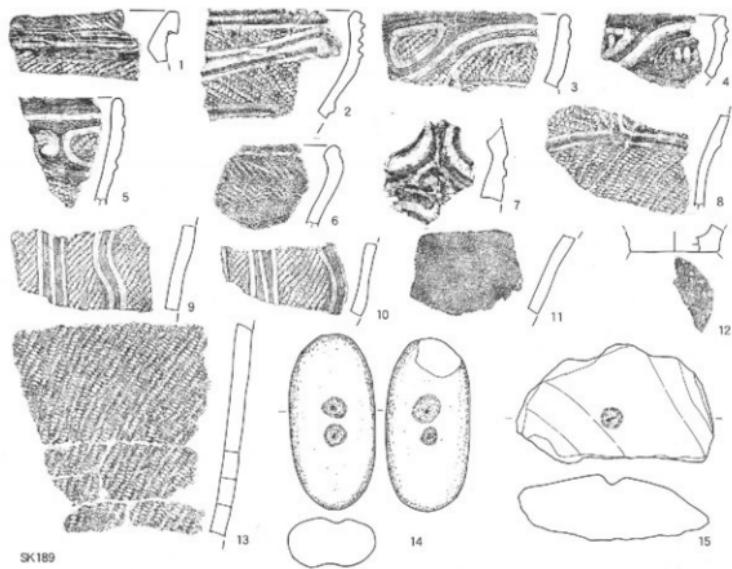
SK186



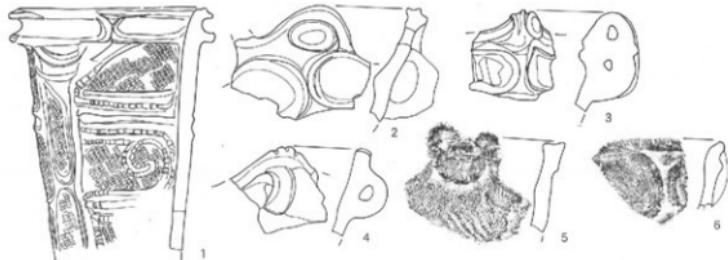
SK187



SK188

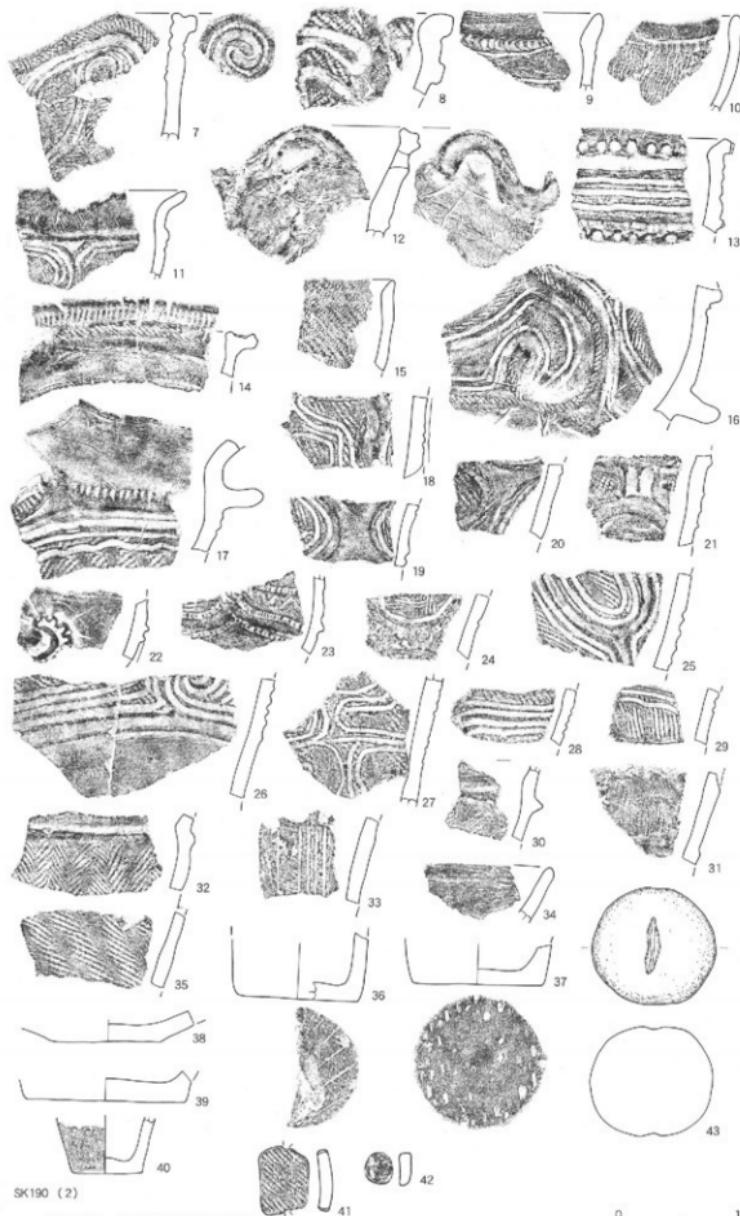


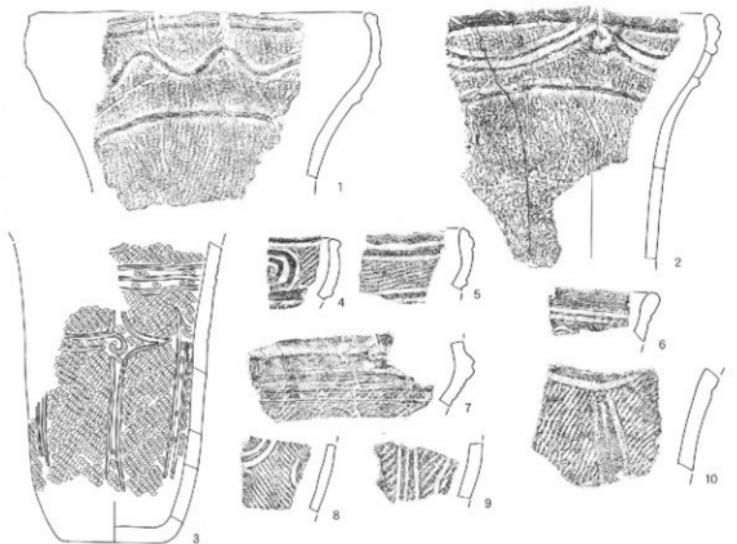
SK189



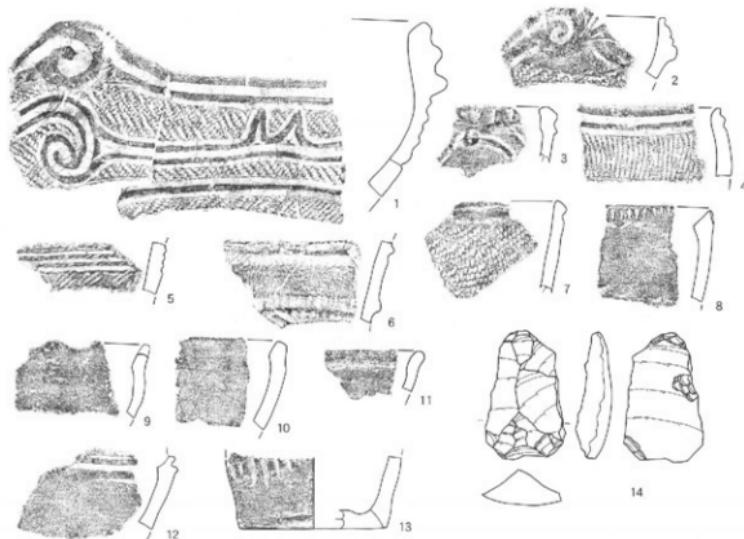
SK190 (1)

Fig.105 土坑SK188、189、190(1)出土遺物





SK191



SK192

Fig.107 土坑SK191、192出土遺物

**土坑SK192 (Fig.107)**

1・2は波状口縁のキャリバー形深鉢。いずれも波頂部に渦巻文を有する。1の口縁部は背割隆帯による渦巻文に連結して直状文と山形文を施文する。3は山形把手に角押文が施されている。6は隆帯に沿って角押文が巡る。9～12は浅鉢。9は双頭状の突起をもつ。14は調整加工の少ない打製石斧。

**土坑SK193 (Fig.108)**

1は波状口縁の深鉢。背割り状隆帯による梢円形区画文。2の口縁部は直状の隆帯による区画文。3は隆帯区画文に沿って2列の有節沈線文を巡らす。5は隆帯による渦巻文に連結した区画文内は縦位の条線を充填する。6は波状口縁の深鉢。

**土坑SK194 (Fig.108)**

1は隆帯による渦巻文と連結する区画文。2は平行沈線文を垂下させる。3は隆帯に沿って有節沈線文を施す。7はヒダ状の調整痕。

**土坑SK195 (Fig.108)**

1は山形把手をもつ深鉢。刻みのある隆帯に沿って角押文が施文される。波頂部は円形を呈した角押文。2は貼付隆帯による区画文。3の隆帯上は縄文施文。4は隆帯上に押圧が加えられる。6・7は隆帯施文。7は爪形文が施文される。10は貼付によるV字状隆帯に有節沈線文が施文される。11は押圧の加えた隆帯が垂下する。14は3本一組の沈線による懸垂文。16は網代痕。

**土坑SK196 (Fig.109)**

1～5はキャリバー形の深鉢。1は沈線による渦巻文に連結した棹状区画文。胴部は3本一組の沈線懸垂文と蛇行沈線文を垂下させる。2も沈線による渦巻文に連結した棹状文。頭部は無文。胴部は3、4本一組の沈線文が垂下する。地文は撚糸文R。3は縄文施文。4は背割隆帯によるクラシク文。

**土坑SK197 (Fig.109)**

1～3・5はキャリバー形の深鉢。1の口縁部は背割隆帯による渦巻文を連結させる。2は波状口縁。7は浅鉢。土坑SK198 (Fig.109)

1は隆帯に沿って沈線が巡る。2は隆帯区画文。3は2列の角押文に平行沈線文が蛇行垂下する。4も沈線区画文に蛇行沈線が垂下する。5は3列の角押文のモチーフ。6は有節沈線文。10は深鉢の底部で、1・3・4本組の沈線による懸垂文。

**土坑SK199 (Fig.110)**

1は口唇部端が波状隆帯となる。2～5・7～15・18はキャリバー形の深鉢。2は背割隆帯による棹状区画文。5は沈線による区画文。7は胴部破片。沈線による渦巻文。6は縄文施文。16・17は浅鉢。

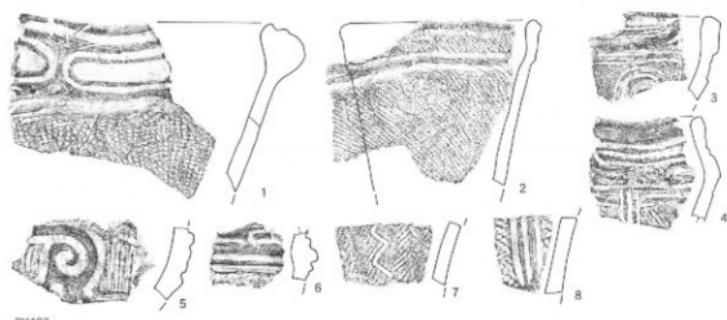
**土坑SK200 (Fig.110)**

1は楕状把手を有し、口縁部には爪形文が施文される。2は口唇部が梢円形区画文に沿って有節沈線文が施文され、口縁部は隆帯区画され、沈線文が横走する。3は隆帯による梢円形区画文。4は波状口縁で、隆帯に沿って沈線文が施文される。5の口唇部は外削状を呈し、端部が突出する。6は口縁部が外反し、無文帯をもち、3列の角押文が重複する。7・8は沈線文。10は外面が直状の沈線文。内面は囁のある連続この字状文。12は隆帯に沿って沈線文。以下櫛齒文が垂下する。11・14は縄文地文に沈線の懸垂文。13は断面三角形の隆帯。18は網代痕。19は砂岩製の台石。凹孔を伴う。

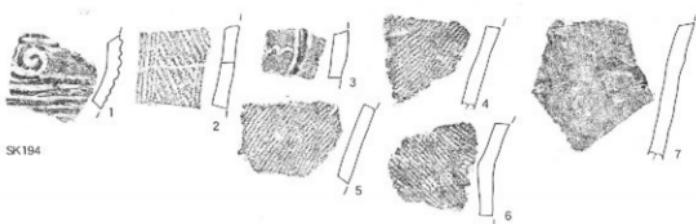
**土坑SK201 (Fig.111)**

1は扇状把手。波頂部は円形刺突文を2列施文し、口縁部も隆帯に沿って円形刺突文が有節沈線文となって施される。阿玉台I a式。2も口縁部に沿って角押文。3は角押文と沈線による波状文。4は隆帯に沿って有節沈線文。5はY字状隆帯を垂下させる。6は蛇行沈線文を垂下させる。8の底部は網代痕。9はチャート製の石縁。

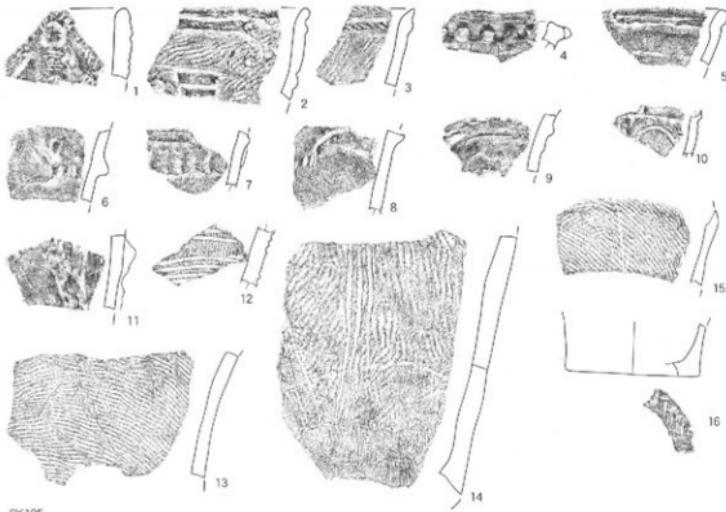
**土坑SK202 (Fig.111)**



SK193

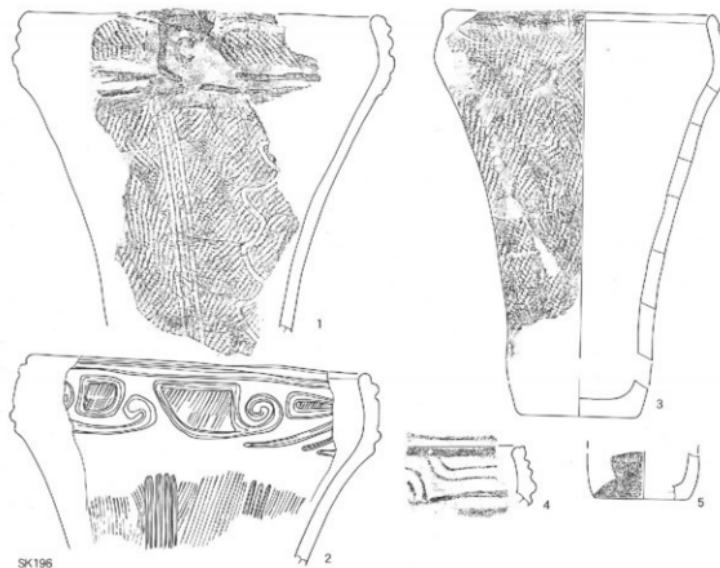


SK194

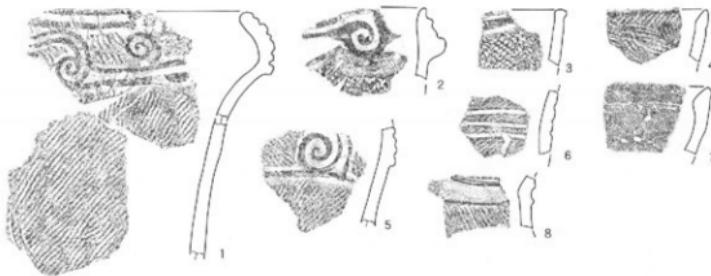


SK195

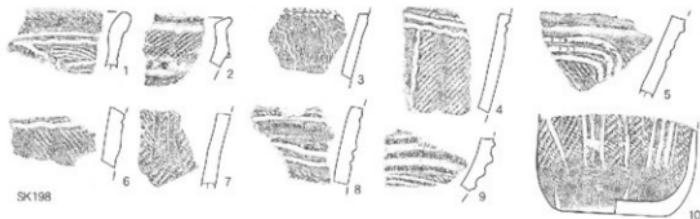
Fig.108 土坑SK193、194、195出土遺物



SK196



SK197



SK198

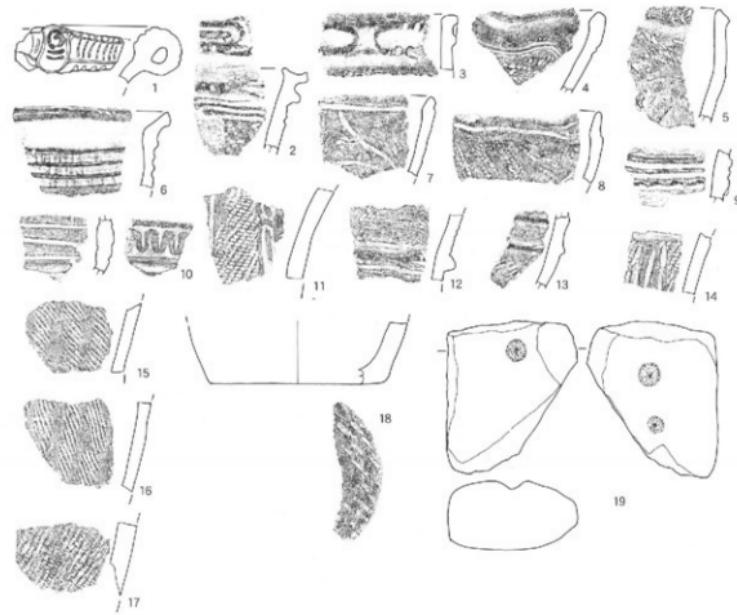
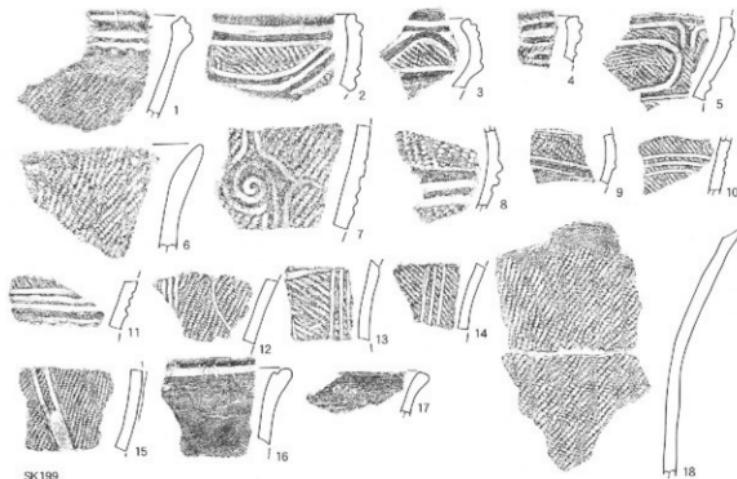


Fig.110 土坑SK199、200出土遺物

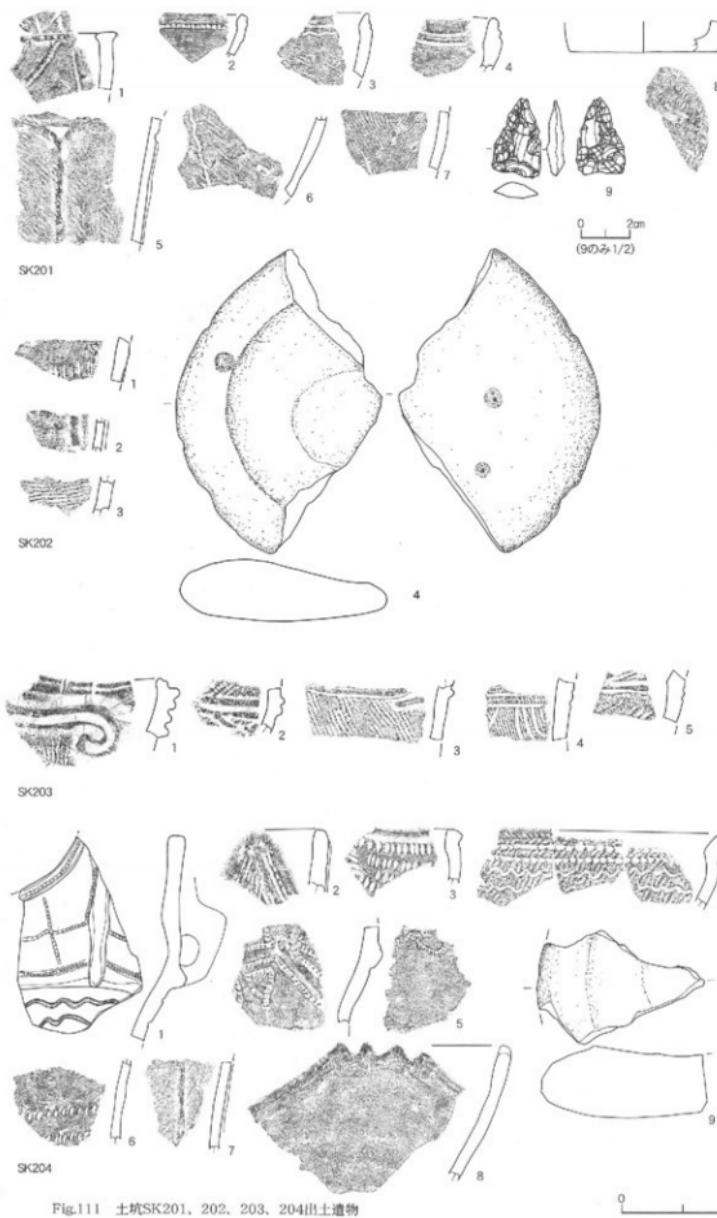


Fig.111 土坑SK201、202、203、204出土遺物

1は爪形文。2は隆帯を垂下させる。4は安山岩製の石皿。

#### **土坑SK203 (Fig.111)**

1は背割隆帯による渦巻文。2も背割隆帯による区画文。3は隆帯に沿って沈線が施文される。4は地文に燃系文L。

#### **土坑SK204 (Fig.111)**

1は山形状の波状口縁。波頂部から垂下する隆帯は横状把手をなす。口縁部および隆帯に沿って1列の角押文が巡り、さらに連結して十字状文に施文する。頭部は波状沈線文。2も山形把手。2列の角押文が施文される。3は口縁部に爪形文が充填する。4は口縁部に平行して2列の角押文が施文される。5は隆帯に沿って角押文が施され、内面波頂部にも施文する。6は爪形文と波状構衛文が横位に施される。8は浅鉢。波頂部に刻みのある山形状の波状口縁を呈する。9は安山岩製の石皿。

#### **土坑SK205 (Fig.112)**

1は胴部が僅かに外傾して立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。口唇部は2列のヘラ状工具による連続刺突文。口唇部は押圧の加えた隆帯が被打状となる。口縁部は沈線文と隆帯による区画。2は隆帯区画内に3列の爪形文が施文される。3・4は同一個体。口唇部に爪形文を施し、隆帯による渦巻文をもつ。口唇端部は押圧を加え被打突。5は口唇部が肥厚し、端部は刻みがあり、口縁部は沈線文が充填する。6は口唇部が肥厚し、2列の角押文が巡り、端部は押圧が加わり被打状を呈する。9は垂直方向からの貫通孔を伴う把手と横S字状の隆帯が貼付き、口縁部は2条隆帯の渦巻文に連結した弧状区画文。10は体部が内湾し、口縁部が垂直気味に立ち上がる。眼鏡状把手上部に貫通孔を有し、隆帯による波状文を貼り付ける。内面は横S字隆帯を呈する。口唇部はヘラ状工具による刺突文。口唇部下部は押圧の加えた隆帯が被打状となり、胴部は多条沈線に沿う刺突文の単位文による渦巻文に連結して懸垂文、区画文を施す。地文は単節RL繩文。11は刻みの隆帯による三角状区画文に爪形文が施文される。13は単節RL繩文に結節文がみられる。15の底部は木葉痕。16は浅鉢。口縁部は平行沈線による枠状文。大木8式。

#### **土坑SK206 (Fig.113)**

1・2は正面、側面実測図である。大型の山形把手を有する。口縁部に対峙する把手をもち、隆帯上に爪形文を巡らし、隆帯に沿って2列の角押文が施文される。頭部は無文帶で、胴部も隆帯に沿って2列の角押文が区画文となり、枠状文を4単位配する。3は4単位の山形把手、把手は渦巻隆帯と三角状隆帯を区画文に、区画内に波状沈線を施文する。胴部は隆帯区画文に連結した蛇行隆帯が垂下する。4は波状口縁の深鉢。波頂部から刻みのある隆帯が垂下し、口縁部に沿って2列の角押文が施され、隆帯による渦巻文が施文される。5は隆帯による楕円形区画文に沿って1列の有節沈線文が巡る。6は口縁部下に爪形文による区画文が施文され、区画内に沈線による波状文が施される。口縁部上端は繩文施文で、沈線による直状文と波状文が施文される。8は波頂部に刻みに入る山形把手。12は貫通孔のある把手で、孔に沿って角押文が巡り、端部は押圧が加わる被打状文を呈する。13は口縁部の円形隆帯上に有節沈線文が巡る。11は波状口縁。口唇部が外側へ折れる。11は繩文地文に沈線によるモチーフ。21は貫通孔のある軽石。

#### **土坑SK208 (Fig.114)**

1はキャリバー形の深鉢。沈線が沿う隆帯区画文。2は繩文地文に沈線の懸垂文が垂下する。

#### **土坑SK209 (Fig.114)**

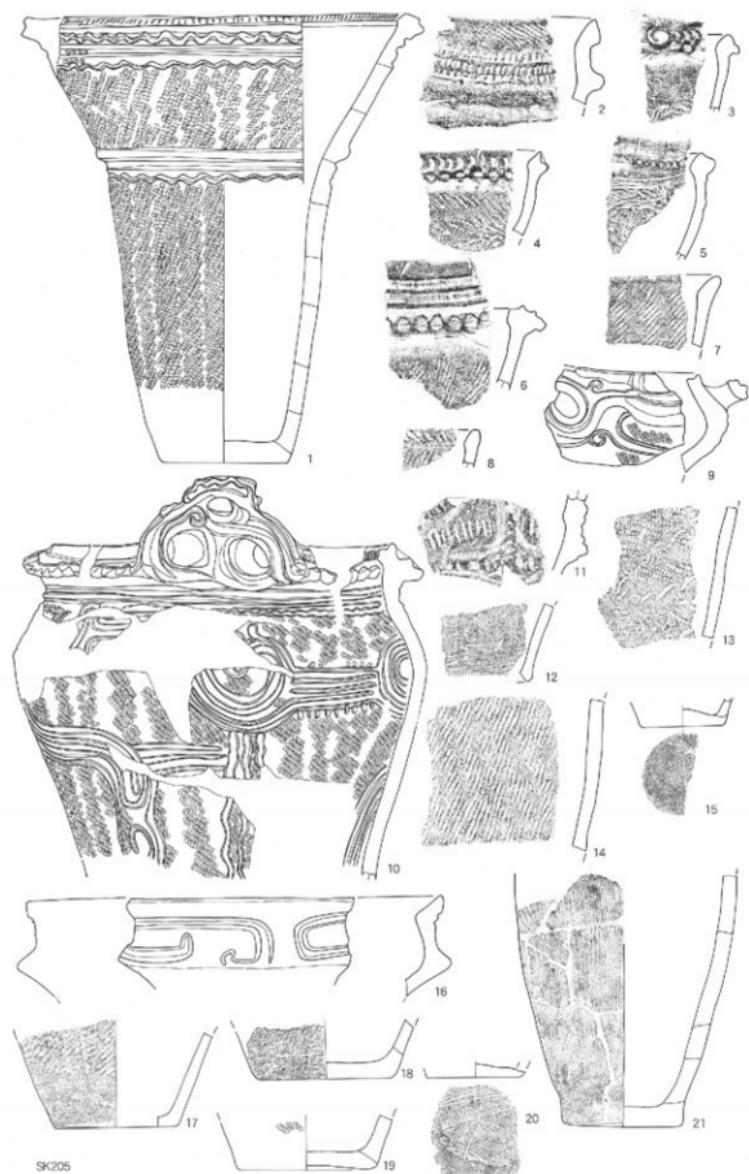
1は深鉢の底部破片。

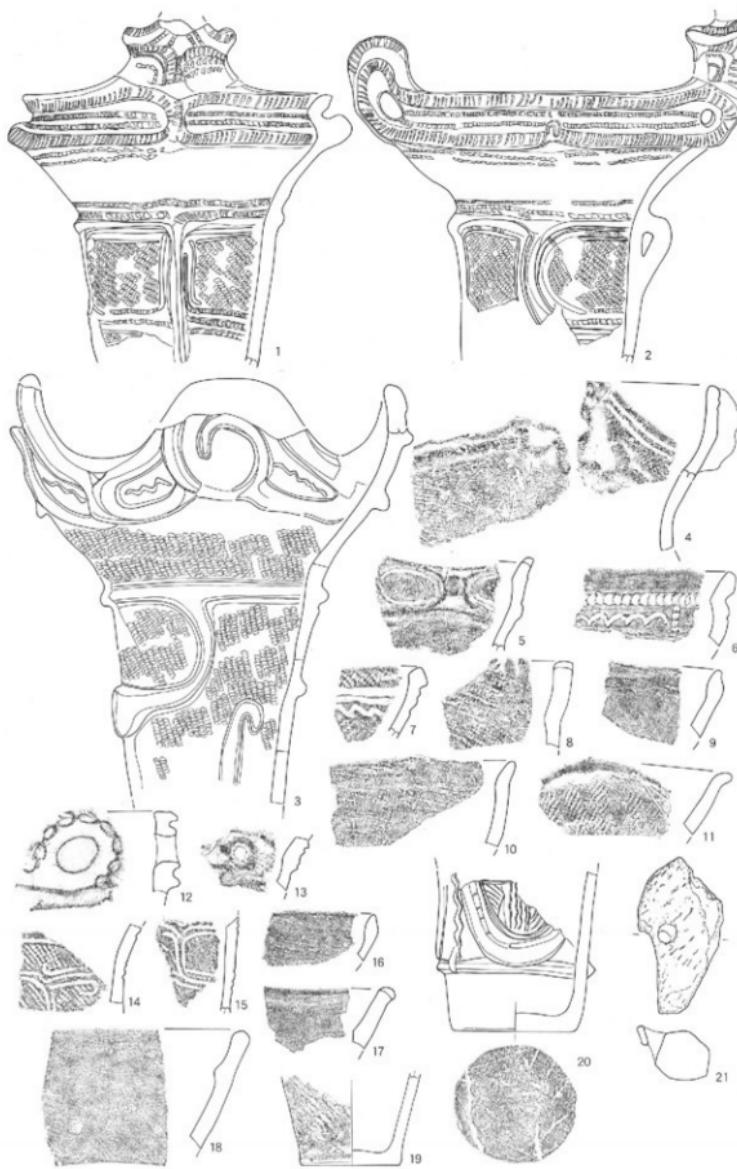
#### **土坑SK210 (Fig.114)**

1は刻みのある隆帯が枠状区画文を呈し、隆帯に沿って2列の有節沈線文を巡らす。2は山形把手。隆帯上は刻みを有し、爪形文を施す。

#### **土坑SK211 (Fig.114)**

1は山形把手の波頂部は粘土紐を貼付、3条の直状沈線文と1条の波状沈線文を巡らす。胴部は繩文施文に沈線





SK206

Fig.113 土坑SK206出土遺物



SK208



SK210



158

Fig.114 土坑SK208、209、210、211出土遺物

0 1 10cm

による満巻文。2は口縁に沿って1列の有節沈線文を巡らす。3は口唇部が刻みをもち、口縁部は隆帯区画文に角押文が沿う。4は刻みにある瘤状突起をもち、隆帯区画文内は斜行する有節沈線文が施文される。5・6は隆帯による楕円形区画文。7は口唇部が肥厚し、沈線文が施文されている。内外面とも赤彩が認められる。8は山形把手。繩文施文の隆帯に直状沈線と蛇行沈線文が沿う。9は鉗状に突出した隆帯上は刻みが入り、口縁部は繩文地文に沈線による直状文と波状文を施す、10も山形状の把手部分。波頂部には菱形隆帯上に角押文が施文され、隆帯が垂下する。11はヒダ状文が施文されている。12は口縁部上端で1列の角押文を施す。20は浅鉢、沈線による満巻文、区画文が施文されている。23はチャート製の石錐。24は磨製石斧の頭部のみ残存。25は凹孔を有する磨石である。

#### 土坑SK12 (Fig.115)

1～7は隆帯に沿って角押文が施文される。1・2・4は接合しないが同一個体と考えられる。大型の深鉢で、2の双頭状の山形把手を有する。また口縁部に橋状把手が付き、隆帯区画と満巻文を連結する。区画内は角押文による区画文に連結した波状文が施文される。5は円形隆帯が付く。8は口縁部に沿って縄の側面圧痕に、器面は直前段反燃し。10・11は押圧を加えた隆帯が垂下する。12は隆帯に沿って13は隆帯に沿って角押文が施文され、蛇行沈線が垂下する。25の底部は網代痕。

#### 土坑SK13 (Fig.115)

1は口唇部が肥厚し、直状沈線文と波状沈線文が巡り、櫛歯文が垂下する。2～4はキャリバー形の深鉢。沈線の沿う隆帯による区画文。5・6・9は沈線による懸垂文。

#### 土坑SK214 (Fig.115)

1・2はキャリバー形の深鉢。1は沈線の沿う隆帯による満巻文に連結した区画文。胴部はヘラケズリされ、無文である。2は底部付近。3本一組の直状沈線文と单一の蛇行沈線文を垂下させる。加曾利E 1式。

#### 土坑SK215 (Fig.116)

1は口縁部下端が押圧の加えた刻み、頸部は3条の沈線文が巡る。2・3とも口唇部にヘラ状工具による刺突文を巡らす。4は貼付の波状隆帯が施文される。5は有節沈線文が口縁部に多条施文される。

#### 土坑SK216 (Fig.116)

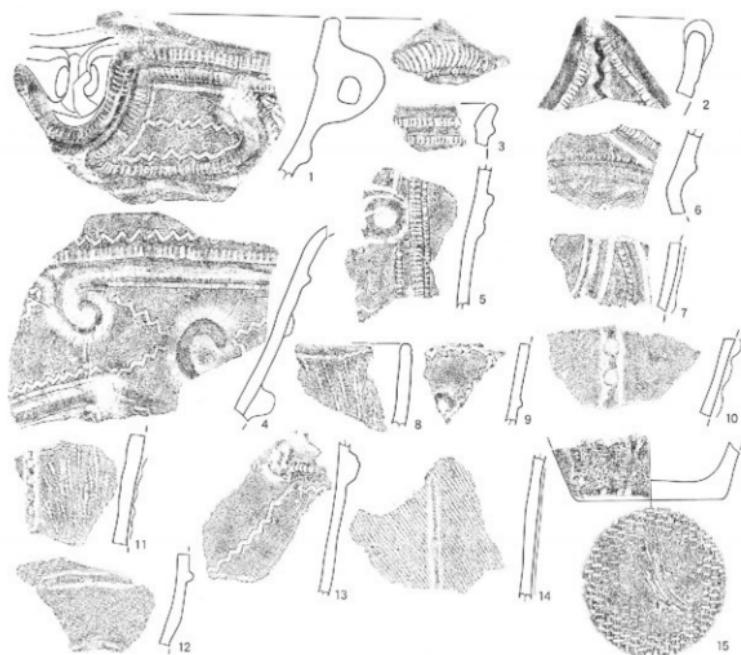
1は胴部が内湾し、口縁部で外反する。口唇部は肥厚し、隆帯による満巻文に連結する波状文。多条沈線で区画され、胴部は沈線による複雑な満状文を組み合わせる。底部は木葉痕。大木8a式。2は瘤状把手。区画文である隆帯上は繩文施文され、平行沈線文が沿い、沈線文が充填する。阿玉台IV式。3・12・14・15・20は区画文の隆帯に沿って2列の角押文が施文され、3・12は区画内に弧状文が施文され、14・15は爪形文が施されている。4・5は同一個体。隆帯による楕円形区画文を有する。6は突起部で円形隆帯上に2列の爪形文が施文される。7は口唇部が凹凸の区画文で肥厚し、頸部は隆帯による楕円形区画文を付した後、9本単位の櫛歯文を垂下させる。11はY字状隆帯を垂下させる。16・17は繩文地文に沈線文を施す。18は有節沈線文を施す。19はヒダ状の調整痕。21は隆帯に沿って1列の有節沈線文を巡らす。23は浅鉢で、口縁部で隆帯による楕円形区画文。24は磨製石斧、刃部の一一部を欠損する。25は千枚岩製の磨石。

#### 土坑SK217 (Fig.117)

1は隆帯に沿って2列の角押文を施す。2はヒダ状の調整痕。

#### 土坑SK218 (Fig.117)

1・12は隆帯に沿って沈線文を施す。1は山形把手。垂下する隆帯は高く肥厚し、円孔を伴う。区画内は沈線文を充填する。2・3・9・10は隆帯に沿って2列の角押文を巡らす。2は山形把手で波頂部は逆V字状の隆帯貼付。3も山形把手。区画内は単節RLを施文する。5・16は同一個体。隆帯による区画文。胴部は櫛歯文が垂下し、沈線文によって区画される。13・18は隆帯に沿って1列の角押文を施文する。7・17は同一個体。口唇部は沈線による撇手文。11縁部は繩文地文に3条の直状沈線と1条の波状沈線文。8は隆帯上に繩文施文。11はキャリバー形の深鉢。満巻文に連結した背割り状の隆帯が付く。14は背割隆帯上に刻みが入る。15は押圧の加わった



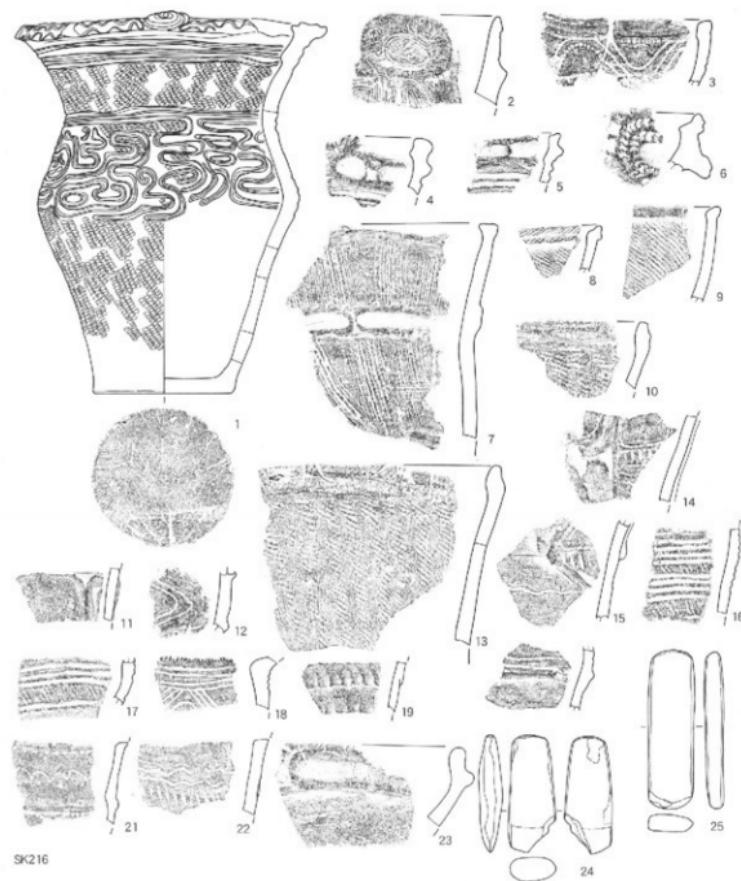
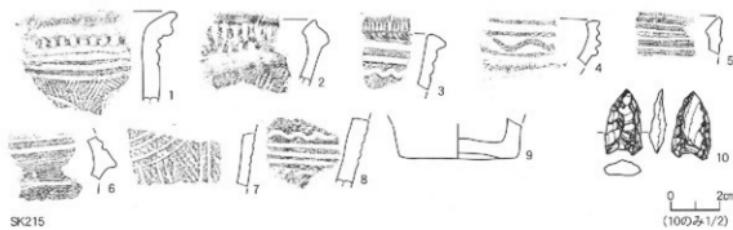


Fig.116 土坑SK215、216出土遺物

隆帯が垂下し、爪形文が施文される。19は櫛齒文。20は結節文が縦位と横位に入る。21・22は浅鉢。21は沈線による楕円形区画文。赤彩される。22は口縁部に沈線による楕円形区画文が施され、区画内にも沈線文を充填する。24は凝灰岩製の磨石の破片。

#### 土坑SK219 (Fig.117・118)

1は爪形文が施文された口唇部は肥厚し、隆帯に沿って平行沈線文が巡る。2は2列の有節沈線文が巡る。3の口唇部は押圧の加わった隆帯で突出する。4は双頭状の突起を有する。5は押圧の加わった隆帯が垂下する。6は山形把手を有する深鉢。波頂部は隆帯による三角状区画文をもち、2列の有節沈線文を巡らす。阿玉台II式。7・9はY字状の隆帯をもち、隆帯に沿って角押文を巡らす。11は半截竹管状工具によるコンパス文。13は沈線文を垂下させる。16・17の底部は網代底。

#### 土坑SK220 (Fig.118)

1は橋状把手に連結して隆帯区画文を有する。2は波状口縁の深鉢。単節RL繩文。4はキャリバー形の深鉢。沈線の沿う隆帯による楕円形区画文。7・8・10は角押文。6は沈線による三角状区画文内に波状沈線が横走する。8は隆帯に沿って2列の角押文。11・13は浅鉢。13内面は断面三角形の鉗状隆帯が巡る。14は砂岩製の磨石。

#### 土坑SK221 (Fig.118・119)

1は大型の山形把手。波頂部から繩文施文の隆帯による三角状区画文。下部で垂直から貫通する橋状把手を有する。隆帯に沿って平行沈線文が施文される。2は正面観鏡状の中空突起。突起上に隆帯による渦巻文や棒状文を施文する。3は背割り状の横S字状の隆帯に連結してヘラ状工具の刺突文。4は波状口縁の深鉢。刻みの有する隆帯による区画文。5は鏡眼状隆帯による突起。隆帯に沿って有節沈線文と沈線文が施文される。6は上向きの渦巻き突起に連結して渦巻文を伴う区画文。7は貫通孔の有する円形把手。口唇部に刻みをもち、隆帯に沿って沈線が巡る。8は波状口縁の深鉢。波頂部にV字状の貼付文下部から1列の角押文による渦巻文に連結して蛇行懸垂文と区画文を施文する。9は口縁部を無文とし、渦巻の隆帯に刻み文と連続三角状押文を巡らす。同じく頸部下部にも施す。10は波状口縁の深鉢。沈線の沿う隆帯渦巻文と区画文。11は口縁部に沿って柵の側面圧痕に、器面は直前段反燃L。12は貫通孔を有し、隆帯による楕円形区画文に、胴部は直状沈線文と波状沈線文を重疊する。13は山形把手。隆帯に沿って平行沈線文が巡る。14はY字状隆帯が垂下する。15は背割り状の隆帯による区画文。16は繩文地文に沈線によるモチーフ。17は沈線による渦巻文に区画文。18は隆帯に沿って沈線文が巡る。19は隆帯区画文。加曾利E2式。20・22は磨消済垂文が垂下する。23は浅鉢で、口縁部に2列の連続円形刺突文による楕円形区画文を施文する。25は砂岩製の石皿、凹孔が多数みられる。26は表裏面に凹孔を伴う磨石。

#### 土坑SK222 (Fig.120)

1は口縁部破片。隆帯区画文に沿って1列の有節沈線文を巡らし、さらに区画内には鋸齒状に施文する。2は突起。口脣部に刻みを入れ、有節沈線文を施す。3は山形把手。波頂部に瘤状突起を有し、1列の角押文を施文する。4は櫛齒状文を垂下させる。5は楕円形隆帯区画文に沿って角押文を巡らす。6は波状口縁の深鉢。隆帯に沿って角押文が施文される。7・11はヒダ状の調整痕。8・9は蛇行隆帯が垂下する。10は櫛齒状文。14は口縁部が背割り状の渦巻文。胴部は沈線による懸垂文。15は3条の横位直状沈線文。16は土器片円板。長さ4.03cm、幅3.52cm、重さ19.28g。16は砂岩製の磨石。

#### 土坑SK223 (Fig.120)

1はヒダ状の調整痕。2は隆帯施文の深鉢。

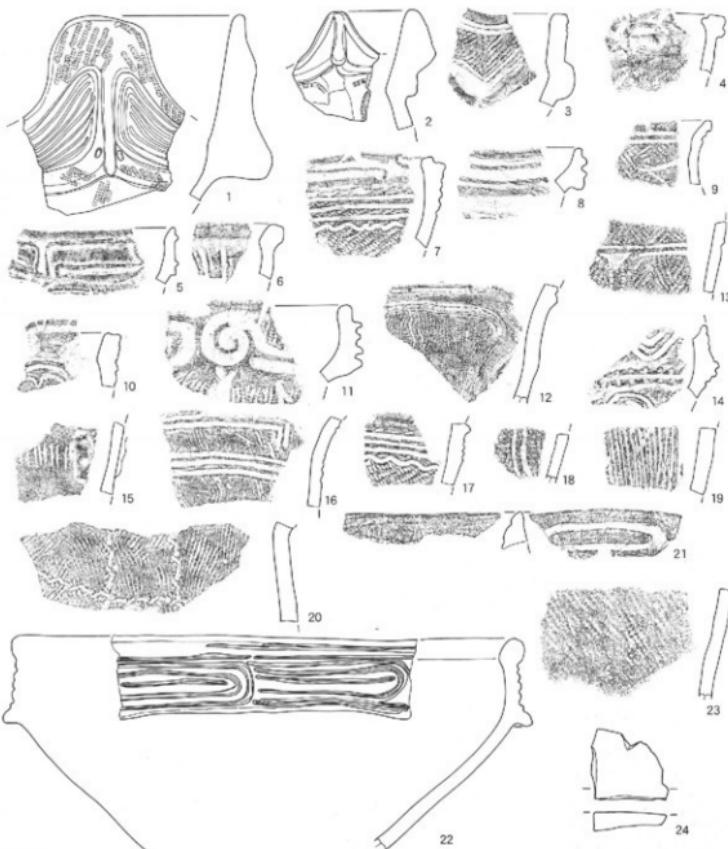
## 2) 平安時代の遺物

#### 住居跡SI01 (Fig.120)

1は土師器・壺の底部破片。口クロ成形で、底部は回転糸切り痕を残す。2は土師器・壺の口縁部破片。口縁部を短く外反させ、胴部は内湾する。口縁部ヨコナデ、胴部横位のヘラケズリ。内面ナデ整形。 (小川 和博)



SK217

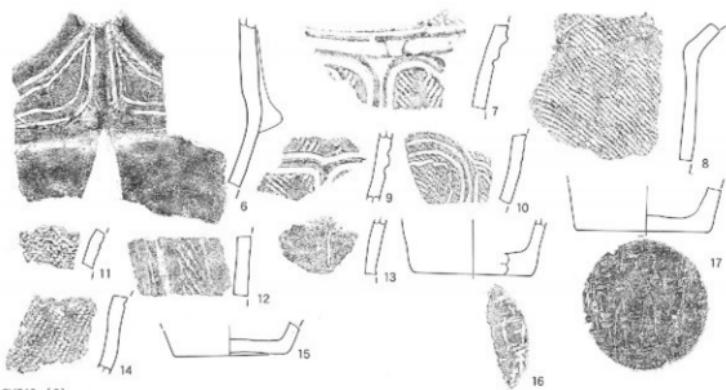


SK218

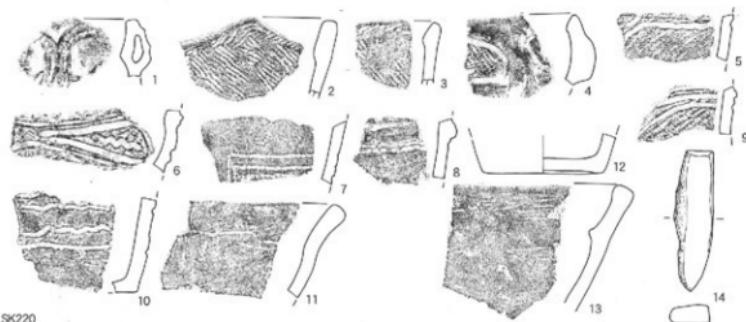


SK219 (1)

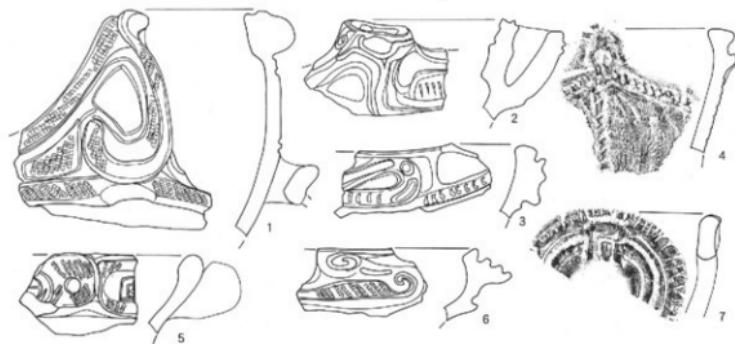
Fig. 117 土坑SK217、218、219(1)出土遺物



SK219 (2)



SK220



SK221 (1)

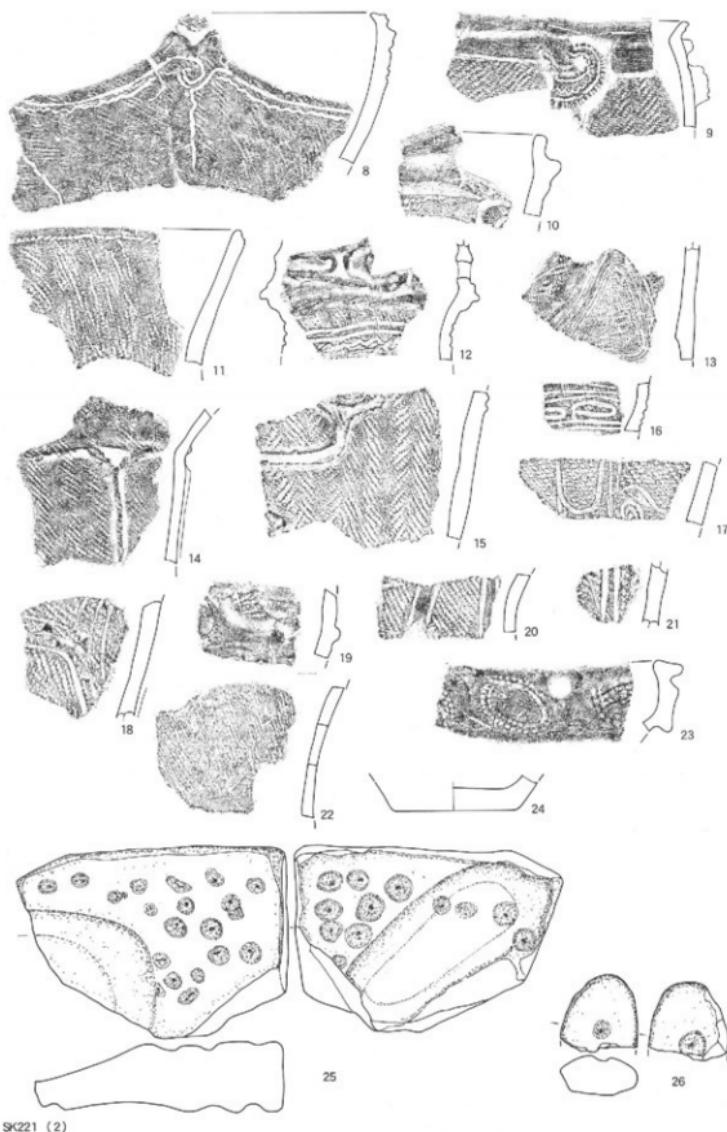
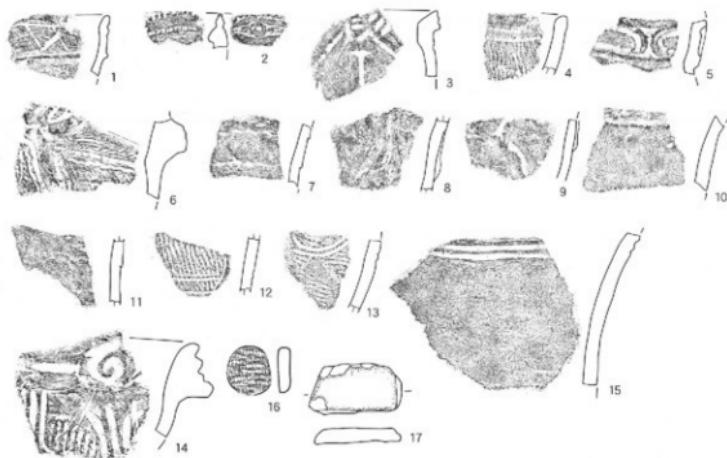


Fig.119 土坑SK221(2)出土遺物



SK222



SK223



SI01

Fig.120 土坑SK222、223、住居跡SI01出土遺物

0 10cm

## 第三章　まとめ

高ノ倉遺跡における今回の調査では縄文時代中期中葉から後葉にかけて土坑224基が検出された。これはいままで市内における発掘調査遺跡である梶原遺跡、諏訪台遺跡、坪井上遺跡等に比べてもその検出数は見劣りしない。ここ那珂川下流域や久慈川下流域における当該期の資料の少なさについては、鈴木素行氏が既に指摘している（鈴木2001）とおりであるが、いまここに高ノ倉遺跡例を追加することによって、多少なりとも空白を埋めることができるものと考えられる。

今回検出されたこれら土坑の多くは、その形態からみても当該時期における周辺地域（東北・関東を中心とした地域）の土坑とまったく同じである。円形を呈し、横断面形の底面が開口部よりも大きく広がる袋状もしくはプラスコ状である。なお、これら本報文における土坑形態の基準については坂口隆氏によるプラスコ状は『頸部が細くくびれ、断面は底径が口径よりもはるかに大きくなるもの』、袋状は『底径が口径をやや上回るもの』、さらに円筒状は『口径と底径がほぼ同じ大きさのもの』（坂口2003）を基本としたものの、曖昧なものが多いため、底径係数（口径÷底径×100）を求め、底径が口径よりも大きくなる係数90以下をプラスコ状、91～99を袋状、100以上を円筒状として分類した。しかし、最終的にはとにかくプラスコ状の基準となる頸部の「括れ部」部分が曖昧なことから「見た目」の判断によるものも結果的に多くなってしまったという反省材料のみが残った。しかも確認面の段階で本来プラスコ状を呈していたものが崩落あるいは土坑同士の切り合いによる壁の崩れ、さらに掘り過ぎという失態などの原因によりその形態が原状の形を保てておらず、崩れたままの状態で計測したものもあり、その基準は正確なものではない。また構築時の季節や時期においても形態差がみられるものと推定されるなど、設定基準についてはまだ十分な検討が必要とされる。因みに検出された土坑224基の横断面形態の割合については、プラスコ状45基（20%）、袋状58基（25%）、円筒状118基（52%）、その他3基となつた。

さて、検出された224基の土坑はすべて縄文時代中期中葉から後葉に所属する。そしてその大半に縄文土器が包含されている。土器の出土状況あるいは遺存状態について報文中では詳述していないが、ここで土器の廃棄と遺棄という全く異なる行為に画一的な解釈のみで分けることが可能であるかどうかを検証する意味で、ここにまとめとして土器の出土状況図を示し、結果としての廃棄行為の多様性と遺棄行為という異なる事象を表現できるかについての検討材料を提示したい。

まず廃棄行為、遺棄行為を実証できる事象として、土坑内のいわゆる覆土とされる埋没土のあり方が重要である。本遺跡では大半の土坑を自然埋没土とした。逆に埋葬施設のような明確な人為的な埋土を観察できなかったからである。そのなかでもとくに土坑最下層に堆積している第一次埋没土を基層とした。すなわち出土土器がこの第一次埋没土中、もしくは上面で検出されるかによって遺棄あるいは廃棄行為を大きく分離できるものと推定したからである。（Fig.121・122）

a 類：土器の遺棄行為が行われたと推定される土坑　土坑底面上もしくは第一次埋没土下層中に完形土器の出土が認められるもの。（土坑SK106・174）

b 類：土器の廃棄行為が行われたと推定される土坑　土坑底面上に第一次埋没土が検出され、その上面に土器の出土が認められるもの。なお、埋没土より土器の出土状況のあり方で、大きく4種類の分類した。

b-1類：第一次埋没土の堆積状態が土坑中央部において高く、壁際周縁部付近が低く底面に接し、ちょうど土層横断面形が山形状を呈し、そこに完形土器を含む、多量の土器と土器破片が検出される。しかも廃棄位置の偏りが顕著で、一方に集中する。（土坑SK12・52・58・107・130・132・149・179・206・221）

b-2類：b-1類と同様の第一次埋没土に、完形土器もしくは大型の破片が1～2個体を中心に、少量の土器破片が検出される。やはり上坑中央部から壁際にかけて検出され、土器の少なさから出土位置の偏りは顕著である。（土坑SK15・83・114・122・131・133・137・173・216）

b-3類：第一次埋没土が山形状にならず、埋没土がほぼ平坦を呈し、そこに完形土器を含む多量の土器片が出土する。これは土坑廃絶後、時間を空けないで廃棄行為が行われた結果と推定されるが、ここに土坑の二次使用（再利用）も考慮されるものの、第一次埋没土上に踏み固められた硬化面や貼床面は確認できない。（土坑SK01・48・50・51・60・69・139・174）

b-4類：b-3類と同様平坦な第一次埋没土上に完形土器もしくは大型の土器破片が1～2個体とわずかな土器破片が検出される。（土坑SK03・53・165・180・191）

今回実施された「高ノ倉遺跡」における土坑群は重複が激しく、土器を初めとする遺物の拡散が懸念された。とくに土坑の構築時期を決定する根拠を困難にしているだけではなく、調査時における上面で取り上げた遺物について、明確な覆土の違いを見出せないものは、その所属を誤せる原因となっている。これはすでに当事者（縄文人）が隣接あるいは重複して構築する段階においても古い土坑の土器は確実に移動させているものと推定される。さらにこれらの土器は新たな土坑内に流れ込み、あるいは廃棄されている可能性が高いのである。調査中においても、明らかに異なる時期の遺物が混入しているのはそのためであろう。しかし、ここでいくつか明らかにされたものもある。それは上記のb-1・2類で提示した第一次埋没土の状況、つまり土坑廃絶後の自然堆積土は、土坑中央が高く、壁際周縁では低くなる山形状堆積を示していることである（Fig.121）。そこに土器の廃棄行為を行うと、土器はばらつきながら中央部では高い位置に、壁際周縁では底面近くに検出される。しかも、土器はまとまり、一方に向かって出土していることである。これは一土坑に対して継続して廃棄行為が繰り返されるのではなく、廃棄土器の数量はともかくとして明らかに一回性的な括廃棄行為であることを示唆している。それは下層である第一次埋没土中に土器破片の混入が極端に少ないこと、さらに覆土上層においても完形もしくは完形に近い土器が殆んど検出できること等が傍証となろう。

ここで廃棄土器群を挟んで、下層の第一次埋没土と上層の第二次埋没土の形成過程が異なっていることが指摘される。第一次埋没土の多くは山形状堆積を示す自然埋没土であるのに対し、第二次埋没土は土器廃棄を伴う人為的な埋土行為が実施されていたと推定される。それは高ノ倉集落内の居住区域と離れた、本来凹地となって当然の土坑掘削区域に繰り返し掘削行為を続けることが可能であった裏には、常に機能終了済み土坑の早い段階の埋め戻し作業の必要性があったと考えられるからである。土坑用途の問題は大きな考古学テーマのひとつであるが、使用できなくなってしまったあるいは機能しなくなった土坑の後処理問題についても、個々の土坑ごとの状況把握から詳しく検討していくかねばならないということを十分に反省している。

#### 参考文献

- 阿久津久他1995「大宮の考古遺物」常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館
- 坂口 隆2003「縄文時代貯蔵穴の研究」『未完成考古学叢書5』
- 鈴木素行1999「越の旅人 望郷編 一坪井上遺跡B区地区第182号土坑の土器についてー』『茨城県考古学協会誌』第11号 茨城県考古学協会
- 鈴木素行2001「坪井上遺跡の伝言ー久慈川下流域における縄文時代中期中葉の土器群ー」『婆良岐考古第23号所収暨良岐考古同人会

（小川和博）

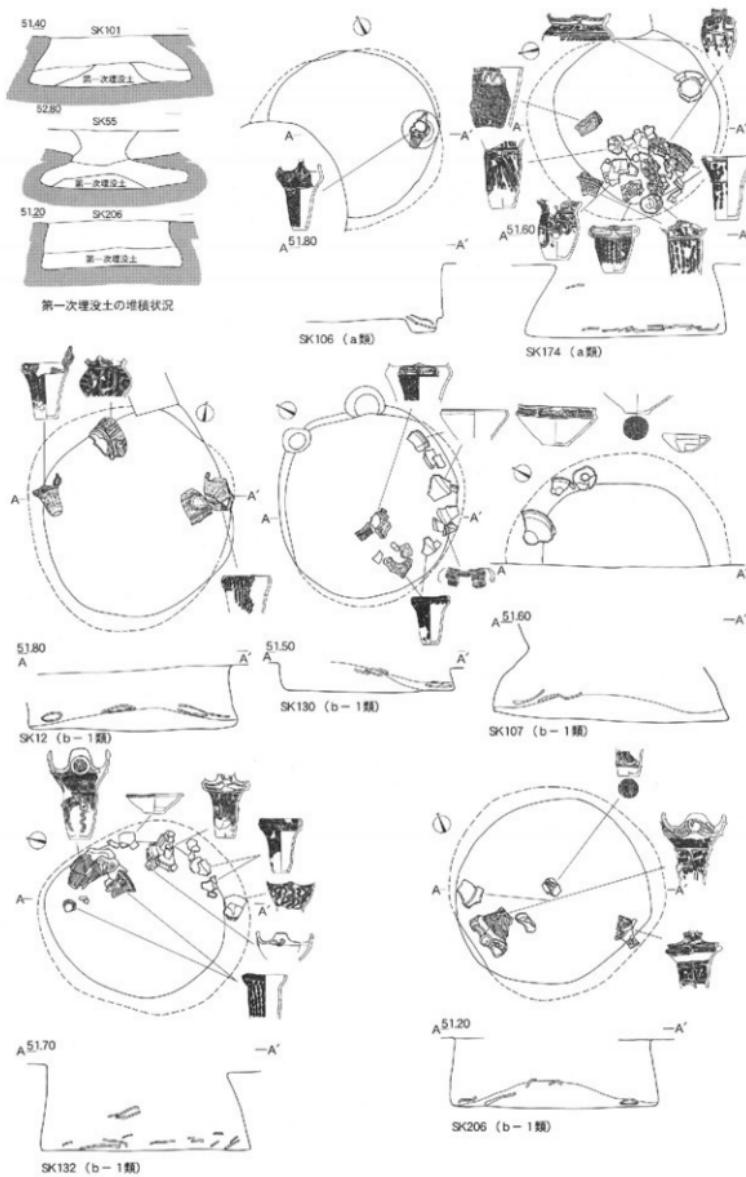


Fig.121 土坑土器出土状況図 (1)

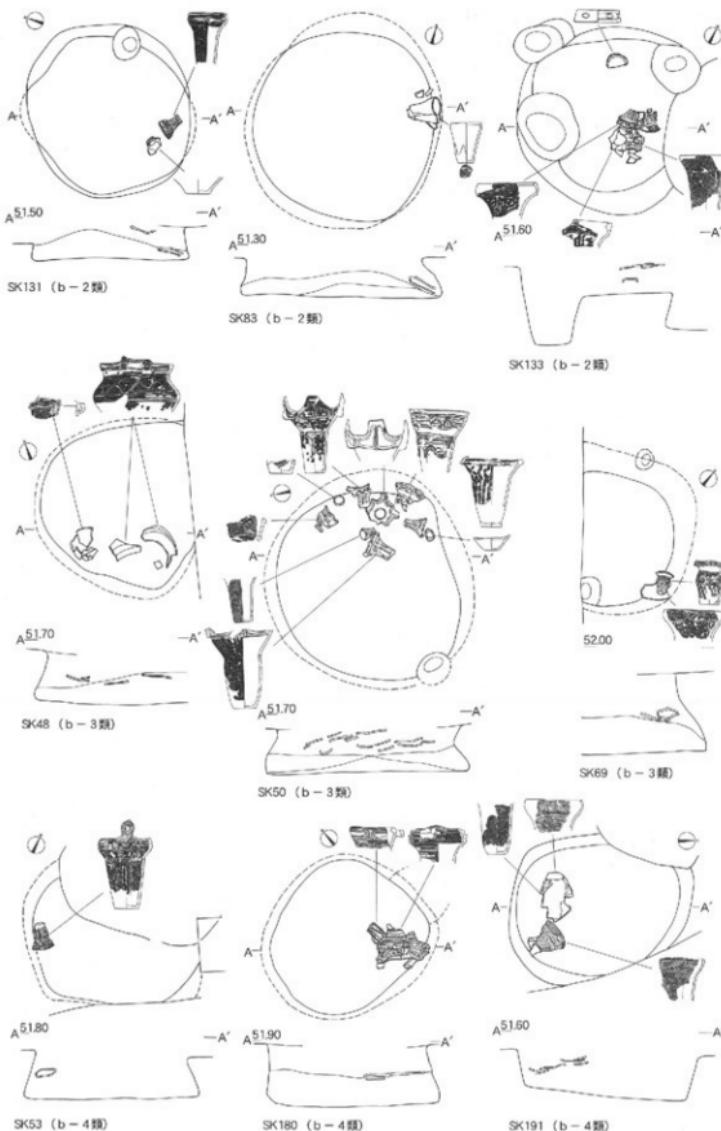


Fig.122 土坑土器出土状況図 (2)

# 別 表

Tab.1 土坑一覧表

土坑番号	位置	平面図	断面図・壁面	上面規格		底面規格		深さ (cm)	長軸方向	付帯施設	備考
				長径(cm)	短径(cm)	長径(cm)	短径(cm)				
SK01	1次A区	楕円形	円筒形・外傾	332.0	269.0	290.0	193.0	99.0	N-8.2° - E	ピット1	直角
SK02	1次A区	楕円形	円筒形・外傾	260.0	229.0	228.0	182.0	41.0	N-83° W	ピット2	直角
SK03	1次A区	円形	円筒形・外傾	246.0	240.0	211.0	204.0	43.0			直角
SK04	1次A区	円形	円筒形・外傾	220.0	210.0	207.0	188.0	19.5			直角
SK05	1次A区	楕円形	円筒形・外傾	195.0	122.0	184.0	89.0	13.0	N-3.4° - W		直角
SK06	1次A区	楕円形	円筒形・外傾	160.0	(155.0)	120.0	(150.0)	13.0	N-30° - W		直角
SK07	1次A区	円形	円筒形・外傾	(105.0)	96.0	97.0	(86.0)	30.0			直角
SK08	1次A区	楕円形	円筒形・外傾	(254.0)	(212.0)	(235.0)	(183.0)	15.0	N-58° - E		直角
SK09	1次A区	円形	円筒形・外傾	(123.0)	(68.0)	(100.0)	(56.0)	44.0			直角
SK10	1次A区	円形	円筒形・外傾	213.0	170.0	204.0	104.0	27.0			直角
SK11	1次A区	円形	筒状・内傾	214.0	181.0	191.0	167.0	24.0			直角
SK12	1次A区	円形	フラスコ・内傾	231.0	230.0	265.0	265.0	81.0			直角
SK13	1次A区	円形	筒状・内傾	225.0	204.0	204.0	172.0	58.5			直角
SK14	1次A区	円形	円筒形・外傾	250.0	(95.0)	195.0	(80.0)	19.0			直角
SK15	1次A区	円形	袋状・内傾	179.0	147.0	147.0	110.0	24.0			直角
SK16	1次A区	楕円形	袋状・内傾	248.0	139.0	237.0	213.0	40.0	N-44° - W	ピット1	-地調査
SK17	1次A区	円形	袋状・内傾	222.0	91.0	214.0	214.0	45.0		ピット2	1/2m調査
SK18	1次A区	円筒形・内傾	円筒形・外傾	(147.0)	(146.0)	(206.0)	(201.0)	22.0	N-21° - W	ピット2	1/2m調査
SK19	1次A区	円形	円筒形・外傾	155.0	(98.0)	122.0	(86.0)	47.0			
SK20	1次A区	円形	楕円形・外傾	250.0	212.0	230.0	189.0	64.0			
SK21	1次A区	円形	袋状・外傾	(235.0)	(103.0)	(200.0)	(108.0)	74.0			
SK22	1次A区	円形	袋状・外傾	255.0	256.0	223.0	223.0	58.0			
SK23	1次A区	円形	フラスコ・内傾	210.0	119.0	(197.0)	135.0	65.0			
SK24	1次A区	円形	筒状・内傾	218.0	223.0	202.0	59.0	76.0			
SK25A	1次A区	円形	袋状・内傾	155.0	(130.0)	123.0	(102.0)	68.0			
SK25B	1次A区	円形	円筒形・外傾	(120.0)	(106.0)	(107.0)	(88.0)	48.0			
SK26	1次A区	円形	袋状・内傾	265.0	243.0	230.0	250.0	88.0			
SK27	1次A区	楕円形	円筒形・外傾	175.0	173.0	160.0	141.0	55.0	N-14° - E	ピット3	
SK28	1次A区	円形	円筒形・外傾	(181.0)	(70.0)	(155.0)	(59.0)	52.0		ピット2	
SK29	1次A区	楕円形	円筒形・外傾	230.0	183.0	210.0	160.0	56.0	N-54° - E	ピット2	
SK30	1次A区	円形	袋状・内傾	(300.0)	(180.0)	(280.0)	(170.0)	30.0			
SK31	1次A区	円形	フラスコ・内傾	178.0	(100.0)	185.0	(120.0)	64.0			
SK32	1次A区	円形	円筒形・内傾	(126.0)	(52.0)	(80.0)	(56.0)	84.0			
SK33	1次A区	円形	袋状・内傾	(66.0)	(60.0)	(54.0)	(47.0)	41.0			
SK34	1次A区	円形	円筒形・外傾	173.0	(92.0)	130.0	(71.0)	25.0			
SK35	1次A区	円形	円筒形・外傾	160.0	150.0	105.0	105.0	39.0			
SK36	1次B区	円形	円筒形・外傾	192.0	(130.0)	125.0	(103.0)	45.0			
SK37	1次B区	円形	円筒形・外傾	(156.0)	144.0	(146.0)	112.0	29.0			
SK38	1次B区	円形	袋状・内傾	123.0	(53.0)	0	0	24.0			
SK39	1次B区	円形	フラスコ・内傾	235.0	(206.0)	228.0	(224.0)	74.0			
SK40	1次B区	円形	フラスコ・内傾	(30.0)	0	82.0	0	12.0			
SK41	1次B区	円形	フラスコ・内傾	296.0	236.0	236.0	266.0	127.0			
SK42	1次B区	円形	フラスコ・内傾	232.0	227.0	237.0	254.0	73.0			
SK43	1次B区	円形	圓筒形・内傾	189.0	(69.0)	190.0	(56.0)	73.0			
SK44	1次B区	円形	圓筒形・内傾	320.0	242.0	295.0	295.0	77.0			
SK45	1次B区	楕円形	円筒形・外傾	223.0	141.0	137.0	71.0	44.0		ピット5	
SK46	1次B区	円形	袋状・外傾	184.0	180.0	198.0	193.0	57.0		ピット1	
SK47	1次B区	円形	袋状・内傾	224.0	206.0	215.0	213.0	66.0			
SK48	1次B区	円形	袋状・外傾	205.0	200.0	214.0	214.0	63.0			
SK49	1次B区	円形	袋状・内傾	244.0	216.0	235.0	197.0	82.5			
SK50	1次B区	円形	フラスコ・内傾	238.0	215.0	275.0	260.0	55.0			
SK51	1次B区	円形	袋状・内傾	265.0	218.0	265.0	235.0	82.0			
SK52	1次B区	円形	フラスコ・内傾	235.0	220.0	249.0	222.0	81.0			
SK53	1次B区	円形	袋状・内傾	223.0	(105.0)	228.0	(100.0)	42.0			
SK54	1次B区	円形	袋状・内傾	278.0	263.0	275.0	281.0	56.0			
SK55	1次B区	円形	円筒形・外傾	189.0	(200.0)	167.0	(146.0)	34.0			
SK56	1次B区	円形	袋状・内傾	234.0	(185.0)	225.0	(194.0)	95.0			
SK57	1次B区	円形	フラスコ・内傾	287.0	215.0	310.0	278.0	110.0			
SK58	1次B区	円形	袋状・内傾	267.0	207.0	267.0	267.0	0			
SK59	1次C区	円形	円筒形・外傾	300.0	(185.0)	234.0	(157.0)	52.0			
SK60	1次C区	円形	袋状・外傾	272.0	226.0	256.0	247.0	109.0			
SK61	1次C区	円形	フラスコ・内傾	236.0	(233.0)	280.0	(270.0)	119.0			
SK62	1次C区	円形	円筒形・外傾	(133.0)	(80.0)	(112.0)	(57.0)	72.0			
SK63	1次C区	楕円形	円筒形・外傾	335.0	265.0	260.0	223.0	63.0	N-87° - W	ピット1	
SK64	1次C区	円形	円筒形・外傾	199.0	192.0	175.0	172.0	86.5			
SK65	1次C区	円形	袋状・内傾	217.0	(52.0)	198.0	(47.0)	56.0			
SK66	1次C区	円形	袋状・内傾	184.0	(154.0)	166.0	(145.0)	57.0			
SK67	1次C区	円形	円筒形・外傾	239.0	(184.0)	195.0	(154.0)	46.0			
SK68	1次C区	円形	袋状・内傾	230.0	164.0	239.0	(16.0)	79.5			
SK69	1次C区	円形	フラスコ・内傾	164.0	(112.0)	202.0	(136.0)	114.0			
SK70	1次C区	円形	円筒形・外傾	192.0	(55.0)	124.0	(54.0)	13.0			
SK71	1次C区	円形	袋状・外傾	213.0	(101.0)	133.0	(102.0)	10.0			
SK72	1次C区	円形	袋状・内傾	220.0	(76.0)	211.0	(76.0)	66.0			
SK73	2次A区	円形	袋状・内傾	197.0	186.0	190.0	175.0	55.0			
SK74	2次A区	円形	円筒形・外傾	205.0	190.0	188.0	180.0	35.0			
SK75	2次A区	円形	円筒形・外傾	173.0	159.0	155.0	131.0	20.0			
SK76	2次A区	楕円形	円筒形・外傾	232.0	196.0	176.0	215.0	12.0	N-67° - E	ピット1	
SK77	2次A区	円形	フラスコ・内傾	(132.0)	(95.0)	(128.0)	(94.0)	35.0			1/4のみ調査
SK78	2次A区	円形	袋状・内傾	267.0	(225.0)	250.0	(240.0)	51.0			
SK79	2次A区	円形	円筒形・外傾	206.0	0	156.0	0	15.0			
SK80	2次A区	円形	袋状・内傾	216.0	211.0	208.0	193.0	17.0			
SK81	2次A区	円形	円筒形・外傾	250.0	(200.0)	219.0	(183.0)	24.0			

土壌番号	位置	平面形	断面形・標面	上面規格		下面規格		高さ (ca)	長軸方向	付帯施設	備考
				長径(cm)	短径(cm)	長径(cm)	短径(cm)				
SK82	2次A区	円形	円筒形・外傾	222.0	196.0	205.0	178.0	36.0			
SK83	2次A区	円形	フラスコ・内傾	265.0	236.0	255.0	234.0	56.0			
SK84	2次A区	円形	袋状・内傾	250.0	217.0	198.0	196.0	22.0			
SK85	2次A区	円形	袋形・外傾	75.0	60.0	65.0	52.0	5.0			
SK86	2次A区	円形	円筒形・外傾	130.0	121.0	110.0	109.0	23.0			
SK87	2次A区	円形	円筒形・外傾	210.0	205.0	190.0	182.0	26.0			
SK88	2次A区	円形	袋状・外傾	175.0	(166.0)	157.0	(97.0)	42.0			
SK89	2次A区	円形	円筒形・外傾	112.0	95.0	90.0	78.0	63.0			
SK90	2次A区	円形	円筒形・外傾	102.0	100.0	94.0	75.0	78.0			
SK91	2次A区	円形	円筒形・外傾	175.0	124.0	155.0	103.0	10.0	N-59° -E	ビット1	
SK92	2次A区	円形	袋状・内傾	190.0	(147.0)	170.0	(130.0)	13.0		ビット2	
SK93	2次A区	円形	袋状・内傾	177.0	189.0	(170.0)	176.0	12.0		ビット	
SK94	2次A区	円形	フラスコ・内傾	264.0	256.0	274.0	271.0	52.0			
SK95	2次A区	円形	円筒形・外傾	224.0	(200.0)	207.0	180.0	23.0			
SK96	2次C区	円形	円筒形・外傾	226.0	224.0	205.0	186.0	33.0			
SK97	2次C区	円形	円筒形・外傾	197.0	(136.0)	182.0	(130.0)	19.0			
SK98	2次C区	円形	円筒形・外傾	256.0	237.0	238.0	216.0	35.0			
SK99	2次C区	円形	円筒形・外傾	(163.0)	(150.0)	(150.0)	(98.0)	22.0			
SK100	2次C区	円形	フランコ・内傾	21.0	19.0	25.0	25.0	8.0			
SK101	2次C区	円形	フランコ・内傾	21.0	17.0	31.0	31.0	10.0			
SK102	2次C区	円形	円筒形・外傾	95.0	80.0	69.0	55.0	22.0			
SK103	2次C区	円形	円筒形・外傾	166.0	120.0	148.0	100.0	21.0			
SK104	2次C区	円形	袋状・内傾	193.0	(160.0)	194.0	(152.0)	26.0			
SK105	2次C区	円形	袋状・内傾	285.0	(188.0)	300.0	(173.0)	32.0			
SK106	2次C区	円形	フランコ・内傾	21.0	(150.0)	267.0	(140.0)	58.0			
SK107	2次C区	円形	フランコ・内傾	20.0	(105.0)	272.0	(142.0)	112.0			
SK108	2次C区	円形	袋状・内傾	222.0	(81.0)	200.0	(72.0)	2.0			
SK109	2次C区	円形	円筒形・外傾	90.0	86.0	81.0	63.0	19.0			
SK110	2次C区	円形	フランコ・内傾	250.0	217.0	268.0	259.0	66.0			
SK111	2次C区	円形	袋状・内傾	244.0	(227.0)	249.0	(232.0)	40.0			
SK112	2次C区	円形	袋状・内傾	200.0	184.0	230.0	206.0	40.0			
SK113	2次C区	円形	袋状・内傾	230.0	225.0	225.0	206.0	39.0			
SK114	2次C区	円形	袋状・内傾	210.0	195.0	200.0	187.0	51.0			
SK115	2次C区	円形	袋状・内傾	104.0	(42.0)	98.0	(38.0)	12.0			
SK116	2次C区	円形	袋状・内傾	(22.0)	(134.0)	(207.0)	0	62.0			
SK117	2次C区	円形	袋状・内傾	201.0	178.0	218.0	179.0	71.0			
SK118	2次B区	円形	円筒形・外傾	157.0	151.0	130.0	123.0	31.0			
SK119	2次B区	円形	フランコ・内傾	204.0	195.0	231.0	245.0	63.0			
SK120	2次B区	円形	袋状・内傾	21.0	20.0	19.0	21.0	57.0			
SK121	2次B区	円形	円筒形・外傾	158.0	(96.0)	138.0	(91.0)	35.0			
SK122	2次B区	円形	円筒形・外傾	23.0	20.0	21.0	18.0	61.0	N-78° -E		
SK123	2次B区	円形	袋状・内傾	22.0	20.0	21.0	21.0	35.0			
SK124	2次B区	円形	円筒形・外傾	21.0	19.0	19.0	17.0	43.0			
SK125	2次B区	圓丸形	外傾	297.0	(270.0)	274.0	(247.0)	53.0	N-25° -W	ビット1	
SK126	2次B区	圓丸形	外傾	17.0	(10.0)	(10.0)	(10.0)	10.0	N-70° -E	ビット	
SK127	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	16.0	65.0	147.0	(55.0)	42.0	N-75° -E	ビット	
SK128	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	22.0	17.0	20.0	16.0	31.0	N-3° -E	ビット	
SK129	2次B区	圓丸形	袋状・外傾	19.0	66.0	169.0	(50.0)	32.0			
SK130	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	21.0	23.0	23.0	22.0	35.0			
SK131	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	21.0	20.0	21.0	19.0	51.0			
SK132	2次B区	圓丸形	フランコ・内傾	22.0	19.0	26.0	23.0	16.0			
SK133	2次B区	圓丸形	フランコ・内傾	152.0	(90.0)	195.0	(160.0)	52.0	N-5° -E	ビット1	
SK134	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	18.0	17.0	15.0	13.0	49.0			
SK135	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	(20.0)	17.0	(10.0)	(10.0)	10.0			
SK136	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	21.0	21.0	19.0	17.0	39.0			
SK137	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	(12.0)	16.0	(11.0)	14.0	49.0	N-50° -E	ビット2	
SK138	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	20.0	18.0	14.0	14.0	14.0			
SK139	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	17.0	15.0	15.0	14.0	9.0			
SK140	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	5.0	6.0	2.0	2.0	6.0			
SK141	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	12.0	(4.0)	10.0	(4.0)	18.0			
SK142	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	18.0	15.0	14.0	13.0	57.0			
SK143	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	28.0	0	26.0	(11.0)	25.0			
SK144	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	16.0	(11.0)	13.0	(10.0)	40.0			
SK145	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	23.0	(20.0)	23.0	(21.0)	50.0			
SK146	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	30.0	28.0	25.0	26.0	50.0			
SK147	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	26.0	22.0	24.0	20.0	46.0			
SK148	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	19.0	(7.0)	17.0	(6.0)	32.0			
SK149	2次B区	圓丸形	フランコ・内傾	19.0	18.0	23.0	22.0	42.0			
SK150	2次B区	圓丸形	袋状・外傾	25.0	25.0	24.0	23.0	29.0	N-68° -W	ビット	
SK151	2次B区	圓丸形	袋状・外傾	19.0	15.0	15.0	14.0	21.0			
SK152	2次B区	圓丸形	袋状・外傾	23.0	23.0	20.0	20.0	24.0			
SK153	2次B区	圓丸形	袋状・外傾	24.0	22.0	21.0	20.0	20.0			
SK154	2次B区	圓丸形	フランコ・内傾	23.0	21.0	26.0	23.0	48.0			
SK155	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	15.0	14.0	12.0	12.0	12.0			
SK156	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	18.0	(10.0)	16.0	(8.0)	19.0			
SK157	2次B区	圓丸形	袋状・内傾	20.0	19.0	18.0	17.0	12.0	N-10° -W	ビット2	
SK158	2次C区	椭円形	袋状・外傾	22.0	18.0	21.0	16.0	37.0	N-68° -E		
SK159	2次C区	円形	袋状・外傾	25.0	23.0	22.0	21.0	34.0			
SK160	2次C区	円形	袋状・外傾	18.0	(10.0)	16.0	(8.0)	19.0			
SK161	2次C区	円形	袋状・内傾	20.0	19.0	18.0	17.0	12.0			
SK162	2次C区	椭円形	袋状・内傾	19.0	(10.0)	17.0	(9.0)	33.0			
SK163	2次C区	円形	袋状・内傾	26.0	24.0	23.0	20.0	22.0			

土地番号	位番	平面形	断面形・壁面	上面規格		底面規格		深さ (cm)	長軸方向	付帯施設	備考
				長径(cm)	短径(cm)	長径(cm)	短径(cm)				
SK164	2次C区	円形	袋状・内傾	223.0	195.0	250.0	175.0	31.0			ピット1
SK165	2次C区	円形	袋状・外傾	215.0	190.0	250.0	190.0	31.0			
SK167	2次C区	円形	フラスコ・内傾	230.0	60.0	251.0	116.0	65.0			
SK168	2次C区	円形	円筒形・外傾	159.0	74.0	139.0	64.0	50.0			ピット1
SK169	2次C区	円形	円筒形・外傾	241.0	232.0	185.0	174.0	56.0			ピット3
SK170	2次C区	円形	円筒形・外傾	186.0	182.0	150.0	125.0	38.0			
SK171	2次C区	円形	円筒形・外傾	203.0	0	168.0	0	21.0	N-55°-W		
SK172	2次C区	椭円形	円筒形・外傾	225.0	(180.0)	255.0	(175.0)	26.0			ピット1
SK173	2次C区	円形	円筒形・外傾	162.0	146.0	142.0	115.0	40.0			
SK174	2次C区	円形	フラスコ・内傾	233.0	(189.0)	189.0	(186.0)	37.0			ピット2
SK175	2次C区	円形	円筒形・外傾	265.0	240.0	226.0	215.0	29.0			
SK176	2次C区	円形	円筒形・外傾	223.0	205.0	181.0	150.0	40.0			ピット1
SK177	2次C区	円形	円筒形・外傾	247.0	(80.0)	220.0	(60.0)	15.0			ピット1
SK178	2次C区	円形	円筒形・外傾	161.0	(74.0)	148.0	(61.0)	35.0			
SK179	2次C区	円形	フラスコ・内傾	191.0	171.0	202.0	182.0	60.0			
SK180	2次C区	円形	フラスコ・内傾	183.0	172.0	209.0	190.0	84.0	N-1°-W		
SK181	2次C区	円形	円筒形・外傾	197.0	189.0	193.0	191.0	45.0	N-78°-E		
SK182	2次C区	椭円形	円筒形・外傾	(125.0)	104.0	(82.0)	92.0	11.0			
SK183	2次C区	椭円形	円筒形・外傾	197.0	168.0	175.0	139.0	44.0	N-0°		
SK184	2次C区	円形	円筒形・外傾	246.0	(163.0)	290.0	(92.0)	34.0			
SK185	2次C区	椭円形	円筒形・外傾	141.0	(125.0)	119.0	(105.0)	25.0	N-52°-E		
SK186	2次C区	円形	円筒形・外傾	220.0	183.0	162.0	150.0	66.0			
SK187	2次C区	椭円形	フラスコ・内傾	300.0	(166.0)	220.0	(112.0)	83.0	N-13°-E		
SK188	2次C区	円形	円筒形・外傾	235.0	(204.0)	160.0	(146.0)	119.0			
SK189	2次C区	椭円形	円筒形・外傾	245.0	198.0	238.0	165.0	41.0	N-28°-W		
SK191	2次C区	円形	フラスコ・内傾	171.0	145.0	196.0	179.0	120.0	N-54°-W		
SK192	2次C区	椭円形	円筒形・外傾	234.0	181.0	204.0	158.0	28.0			
SK193	2次C区	円形	円筒形・外傾	(121.0)	101.0	(101.0)	164.0	67.0	N-37°-W		
SK198	2次C区	円形	円筒形・外傾	245.0	222.0	222.0	20.0	40.0			
SK194	2次C区	椭円形	円筒形・外傾	266.0	166.0	231.0	174.0	26.0			
SK195	2次C区	円形	フラスコ・内傾	295.0	276.0	305.0	238.0	111.0	N-63°-W		
SK196	2次C区	円形	円筒形・外傾	(204.0)	(105.0)	(164.0)	90.0	23.0			
SK197	2次C区	椭円形	円筒形・外傾	230.0	(140.0)	216.0	(132.0)	19.0			
SK198	2次C区	円形	円筒形・外傾	254.0	(205.0)	234.0	(185.0)	20.0	N-49°-W		
SK199	2次C区	円形	円筒形・外傾	270.0	263.0	225.0	222.0	41.0			ピット3
SK200	2次C区	椭円形	円筒形・外傾	(131.0)	125.0	(116.0)	98.0	31.0	N-24°-E		
SK201	2次C区	円形	円筒形・外傾	269.0	290.0	249.0	174.0	54.0			
SK202	2次C区	長方形	外傾	165.0	80.0	110.0	50.0	53.0			
SK203	2次C区	円形	円筒形・外傾	10.0	(49.0)	84.0	(44.0)	22.0			
SK204	2次C区	円形	フラスコ・内傾	253.0	230.0	297.0	275.0	91.0			
SK205	2次C区	円形	フラスコ・内傾	205.0	(188.0)	243.0	(196.0)	65.0	N-31°-E		ピット1
SK207	2次C区	椭円形	フラスコ・内傾	240.0	250.0	250.0	260.0	80.0			
SK207	2次C区	円形	円筒形・外傾	181.0	165.0	165.0	141.0	41.0			
SK208	2次C区	円形	円筒形・外傾	115.0	(110.0)	96.0	(89.0)	19.0			ピット3
SK209	2次C区	円形	円筒形・外傾	235.0	205.0	209.0	177.0	35.0			
SK210	2次C区	円形	円筒形・外傾	120.0	110.0	93.0	100.0	36.0			
SK211	2次C区	円形	フラスコ・内傾	(224.0)	190.0	(202.0)	204.0	72.0			
SK212	2次C区	円形	フラスコ・内傾	(122.0)	(64.0)	(164.0)	(47.0)	77.0			
SK213	2次C区	円形	円筒形・外傾	21.0	(139.0)	179.0	(126.0)	41.0			
SK214	2次C区	円形	外傾	(81.0)	(80.0)	(70.0)	(71.0)	60.0			
SK215	2次C区	円形	フラスコ・内傾	191.0	(25.0)	175.0	(58.0)	75.0			
SK216	2次C区	円形	フラスコ・内傾	239.0	207.0	267.0	222.0	84.0			
SK217	2次C区	円形	袋状・内傾	172.0	(87.0)	141.0	(71.0)	47.0			
SK218	2次C区	円形	フラスコ・内傾	188.0	(114.0)	214.0	(146.0)	89.0			
SK219	2次C区	円形	袋状・内傾	142.0	(79.0)	176.0	(97.0)	73.0			
SK220	2次C区	円形	フラスコ・内傾	176.0	20.0	21.0	215.0	97.0			
SK221	2次C区	円形	袋状・内傾	232.0	(126.0)	212.0	(118.0)	34.0			
SK222	2次C区	円形	円筒形・外傾	(275.0)	240.0	(213.0)	200.0	81.0			
SK223	2次C区	円形	円筒形・外傾	(45.0)	0	(46.0)	(34.0)	44.0			

Tab.2 石器一覧表

土堆番号	同族番号	器種	測定値(cm)(g)				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
SK01	Fig.45-14	磨石	11.19	9.91	4.46	439.0	安山岩	磨痕+凹孔
SK03	Fig.46-1	打製石斧	7.72	5.36	1.31	63.0	ホルンフェルス	凹孔
SK12	Fig.48-27	石器	8.3	12.26	4.25	445.0	凝灰質砂岩	凹孔
SK13	Fig.49-12	磨石	6.14	5.11	4.3	43.0	安山岩	敲打+磨痕
SK14	Fig.49-7	打製石斧	10.66	6.97	3.16	301.0	砂岩	磨痕
SK15	Fig.49-7	磨石	7.82	5.92	6.11	401.0	安山岩	磨痕
SK15	Fig.49-8	磨石	14.35	6.55	4.66	625.0	砂岩	磨痕+凹孔
SK15	Fig.49-9	磨石	13.92	7.43	6.15	875.0	砂岩	敲打+磨痕
SK15	Fig.49-10	打製石器	10.31	8.79	1.71	278.0	ホルンフェルス	磨痕+凹孔
SK16	Fig.50-14	磨石	9.08	6.24	4.2	408.0	砂岩	敲打+磨痕
SK16	Fig.50-15	磨石	7.89	9.33	5.68	511.0	砂岩	敲打+磨痕
SK20	Fig.51-9	磨石	10.61	7.98	5.07	592.0	砂岩	磨痕
SK20	Fig.51-10	磨石	8.19	7.58	3.95	265.0	砂岩	磨痕
SK21	Fig.52-4	磨石	8.61	7.5	3.07	265.0	軟質砂岩	磨痕+凹孔
SK26	Fig.53-8	磨製石斧	5.38	2.97	1.52	32.0	石英斑岩	磨痕+凹孔
SK27	Fig.54-5	石器	9.96	10.76	4.05	549.0	安山岩	凹孔
SK27	Fig.54-6	磨石	9.88	8.85	4.88	401.0	安山岩	磨痕
SK29	Fig.54-9	磨石	7.21	5.46	4.05	348.0	安山岩	磨痕
SK35	Fig.54-13	磨石	13.78	9.41	5.87	851.0	安山岩	磨痕+敲打孔
SK43	Fig.55-6	磨石	6.57	4.91	4.49	148.0	軟質砂岩	磨痕
SK46	Fig.56-6	台石	10.56	11.3	4.36	818.0	凝灰質砂岩	凹孔
SK46	Fig.56-7	磨石	14.83	6.75	4.87	768.0	砂岩	磨痕+凹孔
SK46	Fig.56-8	磨石	8.81	10.05	5.99	651.0	凝灰岩	磨痕+凹孔
SK46	Fig.56-9	磨石	5.03	6.02	3.82	109.0	安山岩	磨痕
SK45	Fig.57-17	打製石器	8.32	3.19	1.09	385.0	砂岩	磨痕
SK48	Fig.57-18	磨石	6.78	10.5	3.04	228.0	砂岩	磨痕
SK49	Fig.57-7	磨石	4.35	8.76	3.29	142.0	安山岩	磨痕
SK49	Fig.57-8	磨石	11.84	10.22	5.63	869.0	安山岩	磨痕+敲打孔
SK50	Fig.59-23	石器	9.58	9.24	2.82	277.0	安山岩	磨痕+凹孔
SK51	Fig.60-1	磨石	8.25	7.58	3.85	295.0	安山岩	磨痕+凹孔
SK51	Fig.60-2	磨石	11.17	6.51	4.91	317.0	凝灰質砂岩	磨痕+凹孔
SK52	Fig.62-36	磨石	3.98	6.76	3.81	114.0	安山岩	磨痕
SK52	Fig.62-37	石器	26.31	11.78	4.581.0	颗粒岩	磨痕	
SK56	Fig.64-16	打製石斧	6.97	5.66	2.12	71.0	板岩	磨痕
SK56	Fig.64-17	磨石	9.48	6.71	3.07	293.0	砂岩	磨痕
SK56	Fig.64-18	磨石	11.29	10.44	4.65	602.0	安山岩	磨痕+磨打孔
SK59	Fig.65-19	台石	13.85	19.8	5.91	2550.0	石英斑岩	凹孔
SK57	Fig.65-14	石器	12.02	9.63	7.78	579.0	凝灰岩	磨痕
SK55	Fig.66-30	石器	14.53	20.8	5.84	1820.0	ホルンフェルス	磨痕
SK58	Fig.66-31	磨製石斧	7.93	6.18	3.72	286.0	安山岩	磨痕
SK58	Fig.66-32	磨石	6.85	5.31	2.82	148.0	砂岩	磨痕
SK58	Fig.66-33	磨石	8.65	6.03	3.32	259.0	砂岩	磨痕
SK69	Fig.68-26	磨石	11.75	15.84	5.24	1056.0	砂岩	磨痕
SK69	Fig.68-27	磨石	9.53	11.46	4.86	490.0	砂岩	磨痕+凹孔
SK61	Fig.71-21	石器	6.01	7.25	3.17	61.0	安山岩	磨痕+磨石
SK63	Fig.70-14	磨石	12.55	10.26	0.6	2310.0	安山岩	凹孔
SK63	Fig.70-15	石器	15.93	15.06	11.29	3480.0	凝灰岩	凹孔
SK63	Fig.70-16	磨石	12.49	8.22	7.33	421.0	凝灰岩	磨痕+凹孔
SK69	Fig.72-22	打製石斧	11.32	4.52	2.1	148.0	ホルンフェルス	磨痕+凹孔
SK69	Fig.72-23	打製石斧	9.62	4.96	2.65	147.0	ホルンフェルス	磨痕+凹孔
SK69	Fig.72-24	打製石斧	11.96	4.93	2.19	176.0	磨痕片岩	磨痕+凹孔
SK69	Fig.72-25	磨石	11.65	10.02	5.34	771.0	軟質砂岩	磨痕+凹孔
SK69	Fig.72-26	磨石	9.5	4.75	3.21	181.0	砂岩	磨痕+凹孔
SK69	Fig.72-27	石器	12.69	11.2	3.32	328.0	安山岩	磨痕+凹孔
SK77	Fig.75-5	磨石	13.04	9.23	6.39	1042.0	石英斑岩	磨痕+凹孔
SK81	Fig.74-2	多孔石	19.79	17.96	5.53	2515.0	凝灰質砂岩	磨痕+凹孔
SK83	Fig.75-18	磨石	6.71	7.68	3.78	321.0	安山岩	磨痕
SK84	Fig.76-4	磨石	11.34	8.07	5.1	512.0	安山岩	磨痕
SK94	Fig.77-17	石器	21.35	(重)	3650.0	角閃安山岩	磨痕+凹孔	
SK94	Fig.77-18	磨石	9.66	4.44	2.32	182.0	砂岩	敲打+磨痕
SK100	Fig.78-24	多孔石	7.22	7.99	2.95	325.0	軽石	磨痕
SK100	Fig.78-25	磨石	15.24	7.83	3.58	630.0	砂岩	磨痕+凹孔
SK100	Fig.78-26	磨石	27.65	9.25	5.52	1438.0	砂岩	磨痕+敲打孔
SK105	Fig.79-8	磨石	12.39	6.5	5.81	703.0	安山岩	磨痕+磨打孔
SK105	Fig.79-9	磨石	10.81	7.47	5.9	669.0	安山岩	磨痕
SK108	Fig.80-3	磨石	7.63	6.31	2.54	172.0	安山岩	磨痕
SK117	Fig.82-14	多孔石	17.29	10.7	4.96	569.0	凝灰岩	磨痕+凹孔
SK119	Fig.83-25	磨石	4.14	6.15	3.77	152.0	安山岩	磨痕
SK120	Fig.83-8	台石	16.54	12.95	5.04	13810.0	花崗質砂岩	磨痕+凹孔
SK120	Fig.83-9	磨石	14.3	8.83	6.0	790.0	安山岩	磨痕+凹孔
SK120	Fig.83-10	磨石	8.81	7.61	3.62	302.0	軟質砂岩	磨痕+凹孔
SK120	Fig.83-12	磨石	6.01	1.76	1.14	24.4	軟質砂岩	磨痕
SK130	Fig.85-13	石器	2.78	1.08	0.65	16	チート	磨痕
SK132	Fig.87-30	有孔軽石	5.53	7.14	2.26	21.0	軽石	磨痕+敲打孔
SK132	Fig.87-31	石器	3.76	1.94	0.68	4.6	チート	磨痕
SK136	Fig.88-19	多孔石	13.05	12.45	3.11	652.0	花崗質砂岩	磨痕+凹孔
SK140	Fig.90-12	石器	10.47	7.32	4.19	393.0	安山岩	磨痕+凹孔
SK149	Fig.92-16	石器	10.23	3.68	1.03	42.1	安山岩	磨痕+敲打孔
SK149	Fig.92-17	磨石	6.89	5.16	2.88	145.0	緑色凝灰岩	磨痕+敲打孔
SK149	Fig.92-18	台石	9.56	7.22	2.75	251.0	安山岩	磨痕
SK154	Fig.94-23	磨石	12.91	7.6	3.7	529.0	安山岩	磨痕+凹孔

上坑番号	図版番号	種 種	計測値(cm) (g)				石 質	備 考
			長さ	幅	厚さ	重量		
SK154	Fig.94-24	軽石質品	6.61	7.17	3.3	29.0	軽石	
SK186	Fig.96-1-4	石墨	9.23	8.75	4.05	37.0	安山岩	
SK173	Fig.97-5	打裂石斧	11.09	4.91	1.13	98.0	千枚岩	
SK174	Fig.99-27	石鏡	11.14	11.69	8.36	389.0	安山岩	
SK176	Fig.100-9	打裂石斧	5.65	4.7	1.53	59.0	砂岩	
SK179	Fig.102-34	磨製石斧	9.68	1.28	2.49	59.0	角閃片岩	
SK177	Fig.102-34	磨製石斧	10.49	5.03	4.52	388.0	安山岩	
SK180	Fig.103-35	磨石	9.03	6.66	4.89	319.0	安山岩	
SK180	Fig.103-37	石皿	11.33	19.41	0.76	1,721.0	安山岩	
SK183	Fig.103-2	磨石	130.17	7.52	4.55	489.0	砂岩	
SK184	Fig.103-4	磨製石斧	13.73	7.39	4.41	665.0	石英閃綠岩	
SK186	Fig.104-6	磨石	13.34	8.75	4.69	818.0	安山岩	
SK189	Fig.105-14	磨石	14.42	7.23	3.99	479.0	角閃岩	
SK189	Fig.105-15	磨石	16.14	9.51	5.31	729.0	砂岩	
SK190	Fig.106-41	石皿	9.42	10.0	-	943.0	砂岩	
SK192	Fig.107-14	打裂石斧	15.93	6.51	2.53	1,129.0	カルファエルス 砂岩	
SK209	Fig.110-10	石斧	11.95	10.14	5.38	798.0	砂岩	
SK201	Fig.111-9	石鏡	3.19	2.03	0.71	4.0	チャート	
SK202	Fig.111-14	石皿	25.04	16.69	6.96	2,098.0	安山岩	
SK204	Fig.111-9	石皿	13.74	9.1	5.41	721.0	砂岩	
SK206	Fig.113-21	有孔輕石	13.03	7.33	3.7	52.0	磨石	
SK211	Fig.114-24	磨製石斧	4.32	5.17	3.76	122.0	砂岩	
SK211	Fig.114-25	磨石	11.35	9.76	5.66	489.0	安山岩	
SK211	Fig.114-23	石錐	4.34	1.17	0.53	2.9	チャート	
SK215	Fig.116-10	石錐	2.8	1.56	0.75	2.8	安山岩	
SK216	Fig.116-24	磨製石斧	9.8	3.91	2.02	118.0	輝綠斑岩	
SK216	Fig.116-25	磨石	13.01	3.67	1.39	127.0	千枚岩	
SK216	Fig.116-24	磨石	5.59	6.29	1.76	59.0	輝灰岩	
SK220	Fig.119-24	磨石	11.46	3.63	1.48	83.0	砂岩	
SK221	Fig.119-25	石皿	15.52	21.77	5.49	2,250.0	砂岩	
SK221	Fig.119-26	磨石	6.41	6.39	3.21	61.0	輝灰岩	
SK222	Fig.119-26	磨石	3.87	7.52	1.08	59.0	砂岩	

# 写 真 図 版



遠景



近景（第1次調査）



近景（第2次調査）



PL.2

A区全景（第1次調査）



B区全景（第1次調査）



C区全景（第1次調査）



C区全景（第1次調査）



全景（第2次調査）



全景（第2次調査）



全景（第2次調査）



全景（第2次調査）



土坑SK01·07



土坑SK02·06



土坑SK02·03·04·06



土坑SK03



土坑SK08·09



土坑SK10



土坑SK10·87



土坑SK11·16

PL.4



土坑SK12



土坑SK12



土坑SK13·14·22



土坑SK15·34



土坑SK16·17



土坑SK17·79



土坑SK18



土坑SK19·20



土坑SK20



土坑SK21



土坑SK23



土坑SK24·28



土坑SK25·26·32·33



土坑SK27·30·31



土坑SK31



土坑SK27



土坑SK29



土坑SK29



土坑SK36·37



住居跡S01、土坑SK36·42·218·219·220



土坑SK38·39



土坑SK44



土坑SK47·48



土坑SK48



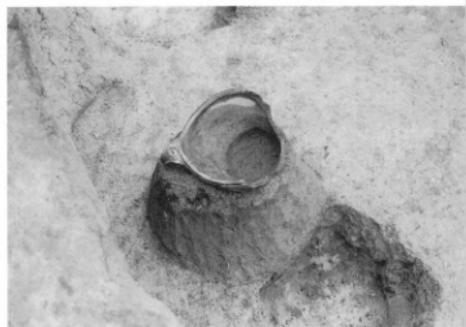
土坑SK49



土坑SK50



土坑SK51



土坑SK51



土坑SK52



土坑SK52



土坑SK53 · 57



土坑SK53 · 57



土坑SK54·55





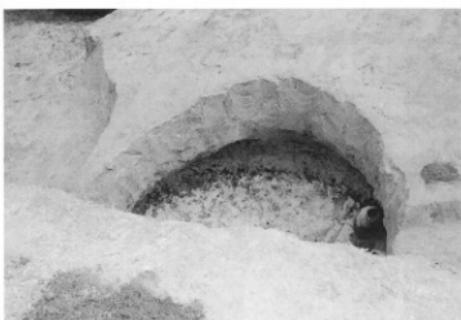
土坑SK64·66



土坑SK65



土坑SK67·68



土坑SK69



土坑SK69·70



土坑SK71



土坑SK73·74



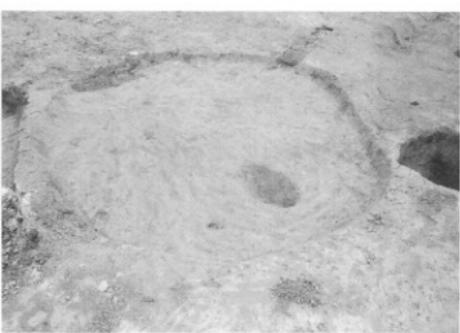
土坑SK75·76



土坑SK77



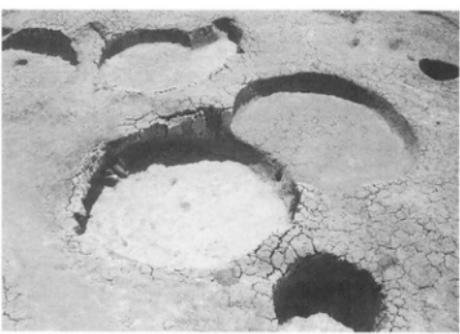
土坑SK78



土坑SK80



土坑SK81



土坑SK82・83



土坑SK83



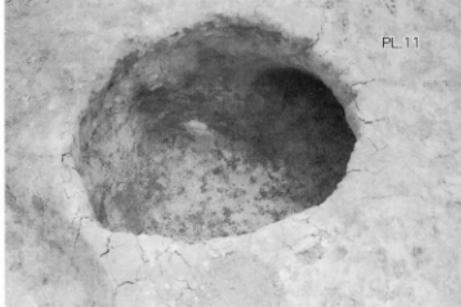
土坑SK83



土坑SK84



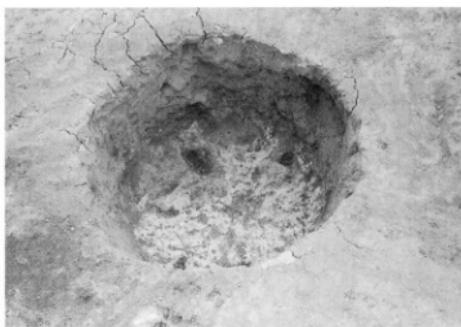
土坑SK84



土坑SK85



土坑SK86



土坑SK89



土坑SK90·91



土坑SK93



土坑SK94



土坑SK94



土坑SK94·114·115·117



土坑SK95·96



土坑SK97·98·99·100



土坑SK101·102·103·104·105



土坑SK106·116



土坑SK107



土坑SK107



土坑SK108



土坑SK109·110·111·112·120



土坑SK113



土坑SK114



土坑SK119



土坑SK121·122



土坑SK127



土坑SK130



土坑SK130



土坑SK131



土坑SK131



土坑SK132



土坑SK132



土坑SK133



土坑SK133



土坑SK135



土坑SK135



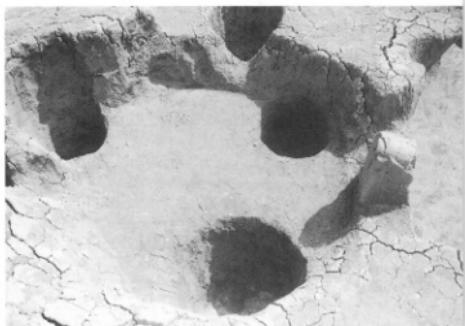
土坑SK136



土坑SK136



土坑SK137



土坑SK142



土坑SK149



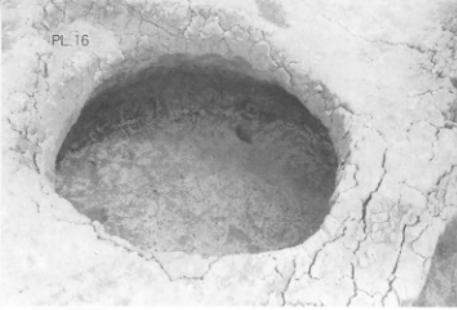
土坑SK149



土坑SK154



土坑SK154



土坑SK155



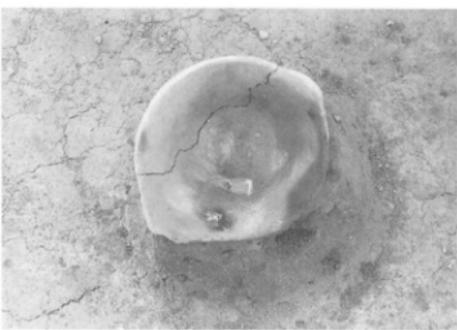
土坑SK156·173·174·175



土坑SK159



土坑SK165



土坑SK165



土坑SK196



土坑SK196



土坑SK173



土坑SK173



土坑SK174



土坑SK174



土坑SK175·180·181·190·191



土坑SK178



土坑SK178



土坑SK179



土坑SK179

PL 18



土坑SK180



土坑SK180



土坑SK189



土坑SK189



土坑SK191



土坑SK191



土坑SK195



土坑SK202



土坑SK205



土坑SK205



土坑SK206



土坑SK206



土坑SK216



土坑SK216



土坑SK221



土坑SK221



土坑SK88·129·137·139·140·142·143·146·150·151·153



土坑SK118·147·148·149·154·155·157·158



土坑SK123·124·125·128·129·130·131·132·133·135



土坑SK141·142·144·152



土坑SK160·161·163·164·165·166·168·169·170·171·  
172·176·177·178·179·182·185·189·207·208



土坑SK167·183·184·186·187·188·194·195·202·203·204·205·209·215



住居跡SI01



住居跡SI01



1

2



3



4



5

1 · 2 SK12    3 SK48    4 · 5 SK50



1



2



3



4



5



6



7



1



2



3



4



5



6

1 · 2 SK52

3 SK53

4 SK56

5 SK57

6 SK58



1



2



3



4



5



6



1



2



3



4



5



6

1 SK69

2 SK106

3 SK107

4 SK114

5 SK130

6 SK131



1



2



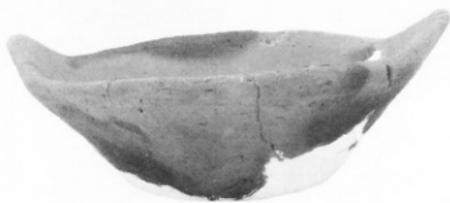
3



4



5



6



1



4



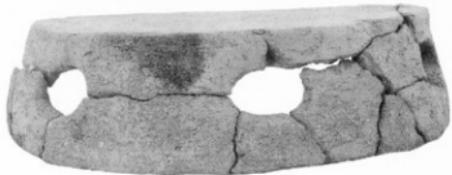
3



6



5

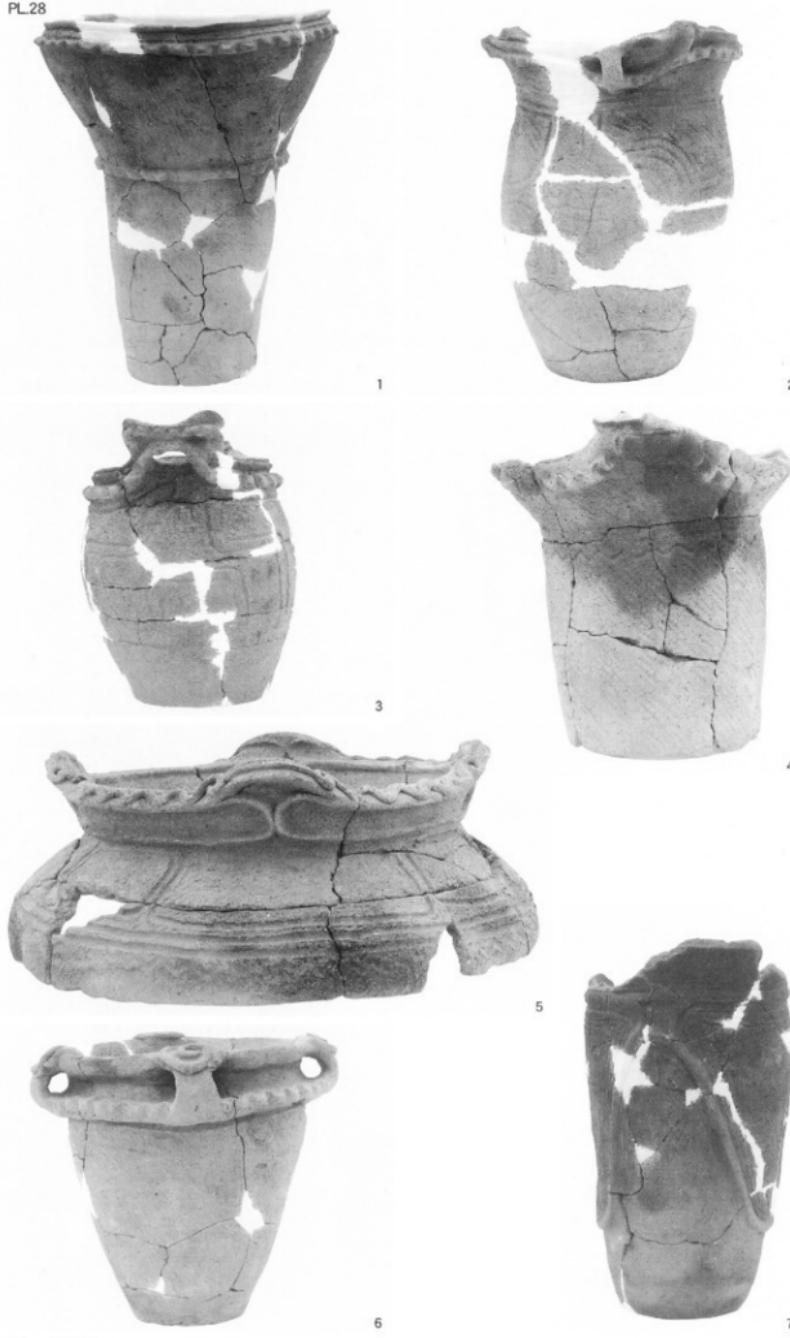


7



8

1 · 2 SK133    3 SK136    4 SK139    5 SK150    6 SK165    7 SK173    8 SK174





1



2



3



4



5



6

1 SK180

2 SK191

3 SK179

4 SK205

5 SK196

6 SK205



1



2



3



4



5

a. 火焰系土器  
1·2 SK48  
3·4 SK61

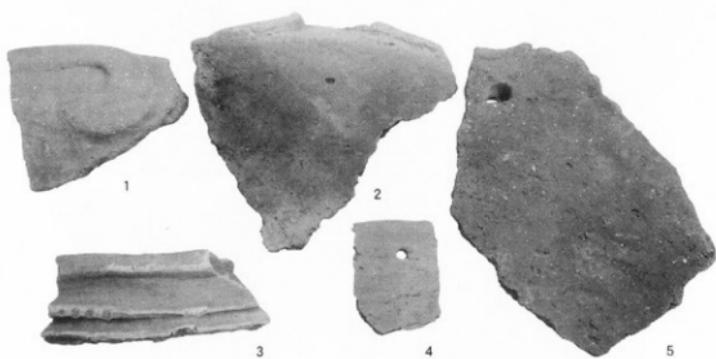
PL.31



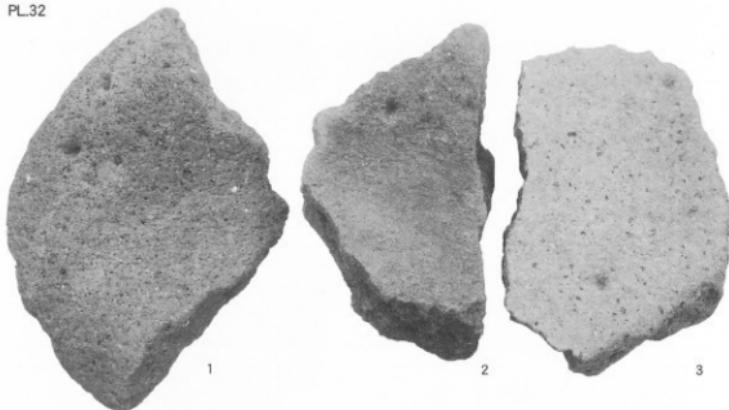
b. 赤彩土器(1)  
1 SK176  
2 SK40  
3·4 SK132



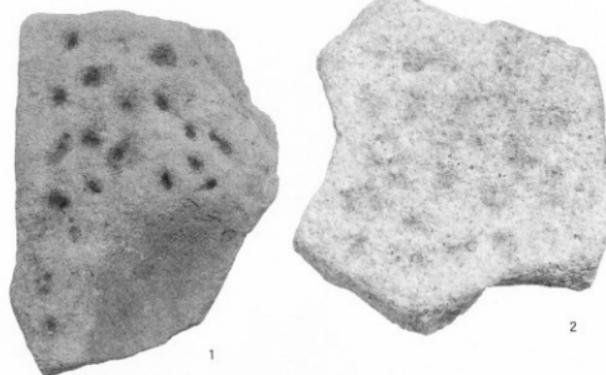
c. 赤彩土器(2)  
1 SK63  
2 SK154  
3 SK211  
4 SK44  
5 SK179



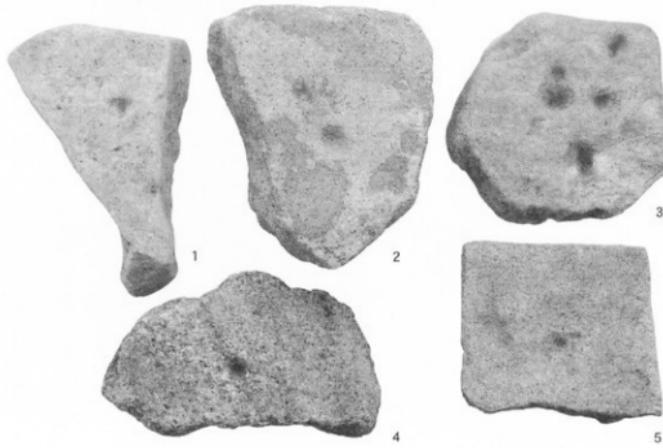
a. 石皿  
 1 SK202  
 2 SK180  
 3 SK156



b. 多孔石(1)  
 1 SK221  
 2 SK81

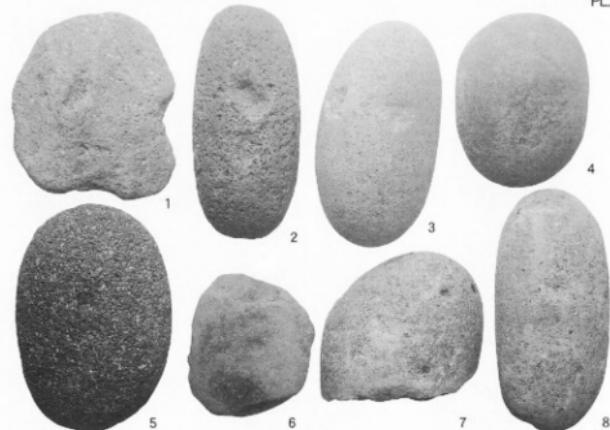


c. 多孔石(2)  
 1 SK117  
 2 SK120  
 3 SK136  
 4 SK189  
 5 SK46



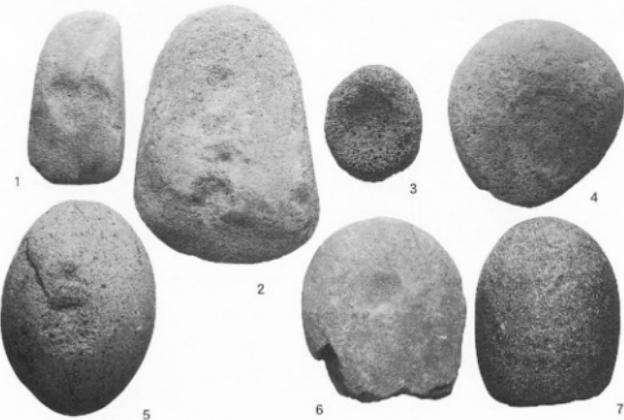
## a. 磨石類(1)

- 1 SK01
- 2・3 SK15
- 4 SK20
- 5 SK35
- 6 SK21
- 7・8 SK46



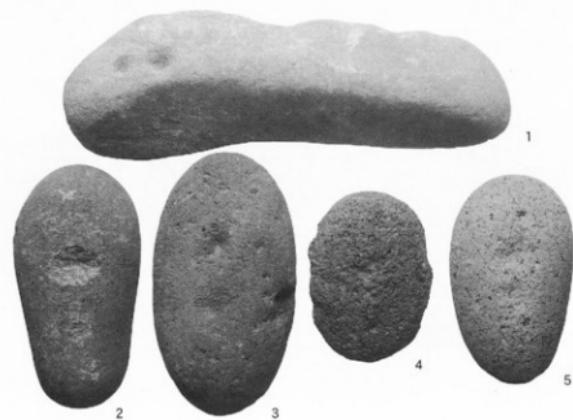
## b. 磨石類(2)

- 1 SK16
- 2 SK60
- 3 SK61
- 4 SK56
- 5 SK77
- 6 SK69
- 7 SK84



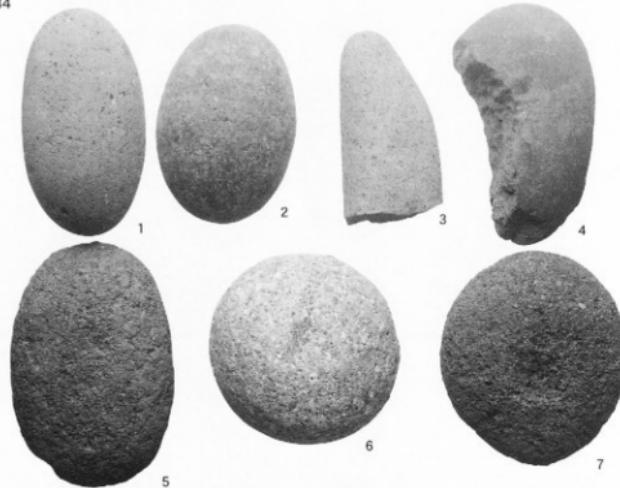
## c. 磨石類(3)

- 1・2 SK
- 3 SK120
- 4 SK140
- 5 SK154



## a. 磨石類(4)

- 1 SK105
- 2 SK179
- 3 SK183
- 4 SK186
- 5 SK190
- 6 SK192
- 7 SK211



## b. 石鏃類

- 1 SK130
- 2 SK132
- 3 SK201
- 4 SK215
- 5 SK211
- 6 SK149

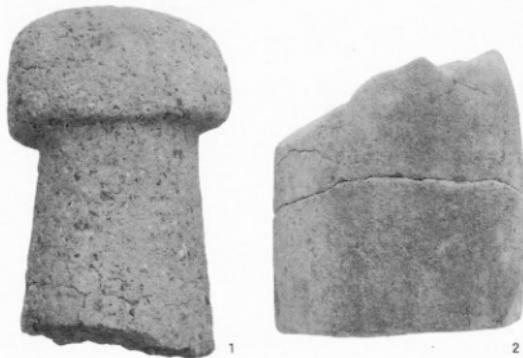


## c. 輕石

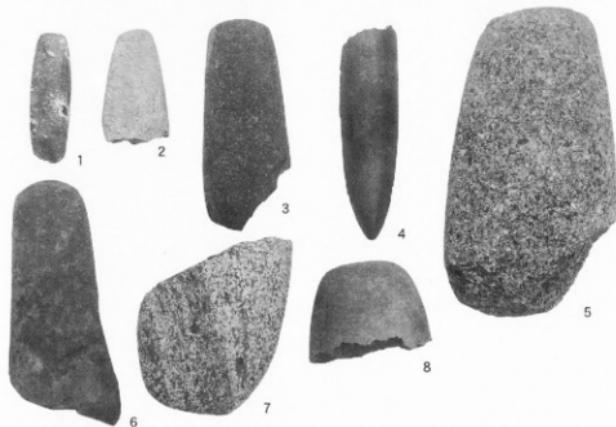
- 1 SK60
- 2 SK206
- 3 SK132



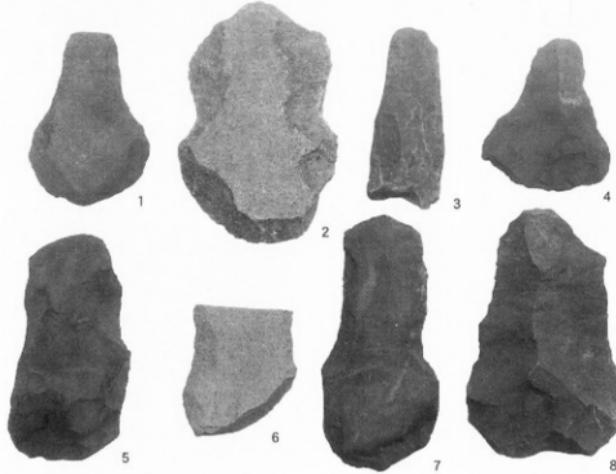
a. 石棒  
 1 SK94  
 2 SK63



b. 磨製石斧  
 1 SK130  
 2 SK26  
 3 SK216  
 4 SK179  
 5 SK184  
 6 SK69  
 7 SK58  
 8 SK211



c. 打製石斧  
 1 SK03  
 2 SK14  
 3 SK48  
 4 SK56  
 5 SK69  
 6 SK176  
 7 SK173  
 8 SK192



## 報告書抄録

ふりがな	たかのくらいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	高ノ倉遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
編著者名	小川和博・大庭淳志							
編集機関	有限会社 日考研茨城 〒300-0508 茨城県稲敷市佐倉3321-1 TEL.029-892-1112							
発行機関	常陸大宮市教育委員会							
所在地	〒319-2215 茨城県常陸大宮市中富町3135-6 TEL.0295-52-1111 (代)							
発行年月日	2005年3月20日							
レジダム 収蔵遺跡	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかのくらいせき 高ノ倉遺跡	ひたちおおみやし 常陸大宮市小野 宇南高倉2167 他	344	006	36度 31分 17秒	140度 22分 50秒	2004.06.28 ~ 2004.08.08	1,539m <sup>2</sup>	老人ホーム建設に伴 う事前調査
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
高ノ倉遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代	縄文時代(土坑223基) 平安時代(堅穴住居跡1軒)	縄文土器(中期) 土器・石器(石核・ 石棒・石皿・多孔石・ 台石・磨製石斧・打製 石斧・磨石)			住居跡は検出できなかったが、 縄文時代中期中葉から後葉にかけての大規模集落である。	